ENFOCUS



PITSTOP PRO 2022

リファレンス ガイド

04 - 2022

目次

1. PitStop Pro文書の概要 **14**

2. PitStop Pro の概要 **16**

2.1. PitStop Pro について 16
2.2. アクションリストについて 16
2.2.1. アクションリストダイアログボックスを開く手順 17
2.2.2. アクション リストを定義する手順 17
2.2.3. アクション リストを実行する手順 17
2.2.4. アクションリストを取りこむ手順 18
2.2.5. アクションリストを書き出す手順 18
2.3. プリフライトプロファイルについて 18
2.3.1. [プリフライトプロファイル] ダイアログ ボックスを開く手順 18
2.3.2. プリフライトプロファイルを定義する手順 19
2.3.3. プリフライトプロファイルを実行する手順 19
2.3.4. プリフライトプロファイルを取り込む手順 20
2.3.5. プリフライトプロファイルを書き出す手順 20
2.4. グローバル変更について 20
2.4.1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開く手順 21
2.4.2. グローバル変更を定義する手順 21
2.4.3. グローバル変更を実行する手順 21
2.4.4. グローバル変更を取り込む手順 22
2.4.5. グローバル変更を書き出す手順 22
2.5. QuickRun について 22
2.5.1. [QuickRuns] ダイアログ ボックスを開く手順 23
2.5.2. QuickRun を定義する手順 23
2.5.3. QuickRun を実行する手順 23
2.5.4. QuickRun のお気に入りを実行する手順 23
2.5.5. QuickRunsを取り込む手順 24
2.5.6. QuickRunsを書き出す手順 24
2.6. メニューバー：概要 25
2.7. ツールペイン：概要 29
2.7.1. ツールペインへのPitStop Proパネルの追加 36
2.8. ダイアログボックス: 概要 37
2.9. Enfocus インスペクタダイアログボックス: 概要 38
2.10. PitStop Proショートカット：概要 43
2.11. PitStop 編集ツール：修飾キー 45

3. PitStop Pro 環境設定の設定 **48**

3.1. PitStop Pro とStatusCheck 環境設定 48
3.2. 環境設定の共有 48
3.3. PitStop Proの環境設定を表示する手順 48
3.4. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [一般] 48
3.4.1. 処理中 48
3.4.2. 文書を保存 49
3.4.3. トリムボックスの余白 50
3.5. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [編集] 50
3.5.1. 取り消しの回数 50
3.5.2. テキストのワイヤフレーム表示 50
3.5.3. オブジェクト選択時に中央ハンドル表示 50
3.5.4. オブジェクト上でマウス ポインタを変更する 51
3.5.5. 選択対象をドラッグしてオブジェクトを移動 51
3.5.6. 修飾キー 51
3.5.7. 選択領域のドラッグ時には Alt キーを長押し 52
3.5.8. コピーしたオブジェクトを貼り付け 52
3.5.9. 新規オブジェクトの既定のスタイル 53
3.6. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [カラー] 54
3.6.1. カラーの変更 54
3.7. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [言語] 56
3.7.1. PitStop Pro ユーザーインターフェイスの言語の変更 56
3.8. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [フォント] 57
3.9. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [カラー マネージメント] 57
3.9.1. カラーマネージメントとは 57
3.9.2. カラー変換に ICC カラープロファイルを使用する 57
3.9.3. カラーマネージメントを使用する 58
3.9.4. カラー マネージメント プリセット エディターを使用する 58
3.10. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus PitStop Pro 環境設定（Enfocus PitStop Pro Preferences）] > [変数セット（Variable Sets）] 59
3.10.1. 変数セットの概要 59
3.11. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [単位 & ガイド] 60
3.11.1. 単位 & ガイド 60
3.12. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット] 61
3.12.1. ショートカットセットの作成 62
3.12.2. ショートカットセットを書き出す 64
3.12.3. ショートカットセットを取り込む 65
3.12.4. ショートカットセットを適用する 65
3.12.5. ショートカットセットを保存および印刷する手順 66
3.13. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ウィンドウ] 66
3.13.1. Windows 66
3.14. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [警告] 67

3.14.1. 警告メッセージ 67
3.15. [環境設定（Preferences）] > [EnfocusPitStop Pro環境設定] > [Preset Databases] 67
3.15.1. データベースフォルダの追加 67
3.16. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus PitStop Pro 環境設定（Enfocus PitStop Pro Preferences）] > [ライセンス（Licensing）] 68
3.17. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [更新] 69
3.17.1. PitStop Proの更新についての通知 69
3.18. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [一般（General）] 69
3.18.1. プライマリおよびセカンダリ ハイライト カラー 69
3.19. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [言語（Language）] 70
3.20. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [パーソナル情報（Personal Info）] 71
3.20.1. 氏名および連絡先 71
3.21. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [データベース（Databases）] 71
3.21.1. プリフライトプロファイル比較データベース 71
3.21.2. プリフライトプロファイル比較パネルへのフォルダの追加 71
3.22. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [自動化（Automation）] 72

4. PitStop Pro の作業領域 **73**
4.1. PitStop Pro メニューがある場所 73
4.2. PitStop Pro インターフェイスの言語の指定 73
4.3. PitStop 表示設定 74
4.3.1. ワイヤフレーム ビューでの PDF 文書の表示 74
4.3.2. 注釈の表示と非表示の切り替え 75
4.3.3. 代替画像を使用した画像の表示速度向上 76
4.4. Enfocus プリセット マネージャ 77
4.4.1. プリセット データベース 77
4.4.2. プリセットの管理 79
4.5. ワークスペース 82
4.5.1. Enfocus ワークスペース パネルを開く 82
4.5.2. デフォルトのワークスペース 83
4.5.3. ワークスペースの使用 84

5. PDF 文書の操作 **93**
5.1. オブジェクト属性のコピーと貼り付け 93
5.1.1. オブジェクト属性のコピーについて 93
5.1.2. オブジェクトの属性をコピーして貼り付ける手順 93
5.2. アクションの取り消しとやり直し 94

5.2.1. アクションの取り消しとやり直しについて 94
5.2.2. アクションの取り消し/やり直しの手順 94
5.2.3. 取り消しと反対のアクションの実行 95
5.3. 2 点間の距離の測定 95
5.3.1. オブジェクトを置換する手順 96
5.4. オブジェクトの属性の表示 96
5.4.1. [スポイト] ツールを使用したオブジェクトの属性の表示 96
5.4.2. Enfocus インスペクタの使用 97
5.5. デザインレイアウト 99
5.5.1. PitStop ページボックス パネル 99
5.5.2. Enfocusデザインレイアウトパネルを開く 101
5.5.3. デフォルトのデザインレイアウト 101
5.5.4. デザインレイアウトの使用 101
5.5.5. ページボックス 107
5.5.6. ガイド 117
5.5.7. ゾーン 118
5.6. レイヤーの操作 121
5.6.1. レイヤーについて 121
5.6.2. Enfocus インスペクタ内でのレイヤーの設定の変更 121

6. PDF 文書のプリフライトとチェック 123
6.1. プリフライトとは 123
6.1.1. プリフライトの定義 123
6.1.2. プリフライトプロファイル 123
6.1.3. でのプリフライト PitStop Pro 124
6.2. プリフライト チェックの実行 125
6.2.1. プリフライトプロファイルの管理 125
6.2.2. プリフライトプロファイルを実行する手順 125
6.2.3. Certified プリフライト チェックと通常のプリフライト チェックの相違点 126
6.3. 問題のレポート 127
6.3.1. 問題の重大度レベルの定義 127
6.3.2. 問題の重大度レベル: 例 128
6.4. でのプリフライトプロファイルの場所 PitStop Pro 128
6.4.1. プリフライトプロファイルダイアログ 128
6.4.2. Enfocus プリフライトプロファイル エディタ 130
6.5. プリフライトプロファイルを作成および編集する方法 132
6.5.1. プリフライトプロファイルを編集または作成する 132
6.5.2. プリフライトプロファイルをパスワードでロックする 148
6.6. Enfocus ナビゲータ の使用 149
6.6.1. エラー、警告、修復、および失敗の参照 149
6.6.2. Enfocus ナビゲータを使用する手順 150
6.7. レポートの表示と解釈 153

6.7.1. レポートの内容 153
6.7.2. レポートを表示して解釈する手順 154
6.8. 注釈付きレポート 155
6.8.1. 注釈付きレポートについて 155
6.8.2. 注釈付きレポートの作成 155
6.8.3. 注釈付きレポートを表示して解釈する手順 155
6.8.4. レポート情報の削除 156
6.9. プリフライトの自動化 156
6.9.1. Enfocus PitStop Server 156
6.9.2. Enfocus Switch 156
6.10. スマートプリフライト 157
6.10.1. スマートプリフライトについて 157
6.10.2. スマートプリフライトの使用の開始 158
6.10.3. スマートプリフライトの設定 159
6.10.4. アクションリストでのスマートプリフライト変数の使用 171
6.10.5. スマートプリフライトのトラブルシューティング 172

7. Certified PDF 文書の操作 176
7.1. Certified PDF について 176
7.1.1. PDF ワークフローの概念 176
7.1.2. 従来方式の PDF ワークフロー 178
7.1.3. Certified PDF ワークフロー 178
7.1.4. Enfocus Certified PDF 文書とは 180
7.2. でのCertified PDF機能の場所 PitStop Pro 180
7.3. Certified PDFワークフローの開始 181
7.3.1. 個人情報の設定 181
7.3.2. PDF 文書の Certified PDF ワークフローの開始 182
7.4. セッション コメントの追加 186
7.5. Certified PDF 状態のチェック 186
7.5.1. PDF 文書の Certified PDF 状況の確認 186
7.5.2. ソースファイルの検証 188
7.5.3. Certified PDF情報の表示 189
7.5.4. Certified PDF プリフライトプロファイルの比較 190
7.5.5. Certified PDF 2 文書の証明書の表示 194
7.5.6. 編集ログの表示 195
7.5.7. 文書の履歴の表示 195

8. オブジェクトの編集 201
8.1. 線画とピクセル画像について 201
8.1.1. コンピュータ グラフィックのカテゴリ 201
8.1.2. 線画 201
8.1.3. ピクセル画像 202

8.2. パス、アンカー ポイント、および方向ポイントについて....203
8.2.1. 線画の要素....203
8.2.2. パス....203
8.2.3. アンカー ポイント....204
8.2.4. 方向ポイント....204
8.3. オブジェクトの選択....205
8.3.1. オブジェクトの選択ツール....205
8.3.2. 1つまたは複数のオブジェクトを選択する....206
8.3.3. 類似オブジェクトを選択する....207
8.3.4. オブジェクトブラウザを使いオブジェクトを選択....208
8.4. グループ化とグループ解除....212
8.4.1. グループ化とグループ解除について....212
8.4.2. オブジェクトのグループ化....213
8.4.3. オブジェクトをグループ解除する手順....213
8.5. 整列と分散....213
8.5.1. 整列と分散について....213
8.5.2. オブジェクトを整列または分散する手順....214
8.5.3. オブジェクトの整列と分散: ボタン....215
8.6. 選択したオブジェクトの非表示と表示の切り替え....216
8.6.1. オブジェクトを非表示にする理由....216
8.6.2. 選択したオブジェクトを非表示にする手順....216
8.6.3. 非表示オブジェクトを表示する手順....216
8.7. オブジェクトの並び順の変更....216
8.7.1. 重なり合ったオブジェクト....216
8.7.2. オブジェクトの並び順を変更する手順....217
8.8. オブジェクトの置換....217
8.8.1. オブジェクトの置換について....217
8.8.2. オブジェクトを置換する手順....218
8.9. オブジェクトの OPI 情報の変更または削除....218
8.9.1. OPI について....218
8.9.2. オブジェクトのOPI情報を変更または削除する手順....218
8.10. オブジェクトの透過性の変更....219
8.10.1. オブジェクトの透過性を変更する手順....219
8.10.2. 透過を解除する手順....220
8.11. 透明グループのプロパティの表示と変更....220
8.11.1. 透明グループのプロパティの表示....220
8.11.2. 透明グループのプロパティの変更....221
8.11.3. 透明グループのプロパティ....221
8.12. テキストまたは線画オブジェクトのカラーの変更....222
8.12.1. Enfocus インスペクタを使用してカラーを変更する....222
8.12.2. Enfocusカラー変換パネルを使用して色を変換する....228

8.13. テキストまたは線画オブジェクトへのグラデーションの適用 229
8.13.1. グラデーションについて 229
8.13.2. グラデーションを適用する手順 230
8.13.3. グラデーション: コントロールバー 231
8.13.4. グラデーション: オプションとボタン 232
8.13.5. 例：線形グラデーションをラインアートオブジェクトに適用する 233
8.13.6. 例：線形グラデーションをテキストに適用する手順 234
8.13.7. 例：放射状グラデーションをラインアートオブジェクトに適用する 235
8.14. カラーデータベースの操作 237
8.14.1. カラー リポジトリの使用 237
8.14.2. ローカル カラー データベースにカラーを追加する手順 237
8.14.3. カラー データベースのカラーをテキストまたはオブジェクトに適用する手順 237
8.14.4. カラー データベースへのインポートおよびエクスポート 238
8.15. オブジェクトの回転 239
8.15.1. 回転の原点 239
8.15.2. 選択ハンドルを使いオブジェクトを回転する 239
8.15.3. 選択対象の回転ツールを使いオブジェクトを回転する 241
8.15.4. 回転角度を指定してオブジェクトを回転させる手順 243
8.16. オブジェクトのスケーリング 243
8.16.1. 選択ハンドルを使いオブジェクトをスケーリングする 243
8.16.2. 選択対象のスケールツールを使いオブジェクトをスケーリングする 245
8.17. オブジェクトの移動 247
8.17.1. ドラッグしてオブジェクトまたはコピーを移動する 248
8.18. オブジェクトのシアー 250
8.18.1. シアーについて 250
8.18.2. 選択対象のシアーツールを使いオブジェクトをシアーする手順 251
8.18.3. 選択ハンドルを使い選択対象をシアーする 252
8.19. 正確な値を指定したオブジェクトの変形 254
8.19.1. 正確な値を指定してオブジェクトを変形する手順 254
8.20. オブジェクトの形状の組み合わせと分割 256
8.20.1. 複数のオブジェクトの形状を組み合わせる 256
8.20.2. 形状を複数の部分に分割する 257
8.20.3. 形状を組み合わせ/分割：例 257
8.21. 新しい形状の作成 258
8.21.1. 楕円形と矩形の描画 258
8.21.2. 新しい形状を作成する手順 259
8.22. 新しいパスの作成 259
8.22.1. 新しいパスを作成する手順 259
8.23. パスの編集 260
8.24. オフセットパスの作成 264
8.24.1. オフセットパスの作成 264

8.24.2. オフセットパス：例 265
8.25. ストロークを塗りに変換 266
8.25.1. ストロークを塗りに変換 266
8.26. 線画をクロップ 267
8.26.1. 線画をクロップ 267
8.26.2. クリップにクロップ：例 268
8.27. オブジェクトをトレース 270
8.27.1. オブジェクトをトレース 270
8.27.2. オブジェクトをトレース：例 271
8.28. アンカー ポイントの追加または削除 273
8.28.1. アンカー ポイントを追加または削除する理由 273
8.28.2. アンカー ポイントを追加する手順 274
8.28.3. アンカー ポイントを削除する手順 274
8.29. オブジェクトのマスク 275
8.29.1. でのマスクについて PitStop Pro 275
8.29.2. オブジェクトをマスクする手順 275
8.29.3. マスクの解除 276
8.30. ソフトマスクの検査 276
8.30.1. ソフトマスクの検査 276
8.30.2. ソフトマスクの種類 277
8.30.3. 画像マスク解像度 277
8.30.4. マスク表示モード 278
8.31. ピクセル画像のプロパティの表示 279
8.31.1. ピクセル画像プロパティ 279
8.31.2. ピクセル画像のプロパティを表示する手順 279
8.32. ピクセル画像の明るさとコントラストの調整 279
8.32.1. 明るさとコントラストの変更について 279
8.32.2. 例：明るさとコントラストを簡易調整する 280
8.32.3. 例：明るさとコントラストを詳細調整する（曲線編集） 281
8.32.4. 曲線編集: オプションとボタン 282
8.33. ピクセル画像を鮮明にする 283
8.33.1. ピクセル画像を鮮明にする 283
8.33.2. 例：ピクセル画像を鮮明にする手順 283
8.33.3. 不鮮明なマスクフィルタ: オプション 284
8.34. ピクセル画像のリサンプリング 284
8.34.1. リサンプリングについて 284
8.34.2. 画像をダウンサンプリングする目的 285
8.34.3. 補間方式 285
8.34.4. 平均リサンプリング 285
8.34.5. サブサンプリング (ニアレストネイバー法) 285
8.34.6. リサンプリング(バイキュービック法) 286

8.34.7. リサンプリング (バイリニア法)....286
8.34.8. リサンプリング (バイキュービック B-Spline 法)....286
8.34.9. 単一の画像をリサンプルする手順....286
8.34.10. 複数の画像をリサンプルする手順....287
8.35. ピクセル画像の圧縮....287
8.35.1. 圧縮について....287
8.35.2. 圧縮方式....287
8.35.3. ASCII フィルタ....288
8.35.4. 単一の画像を圧縮する手順....289
8.36. 選択したオブジェクトの統計データの表示....289
8.36.1. 統計について....289
8.36.2. 選択したオブジェクトの統計を表示する手順....289
8.37. オブジェクトのブラックポイント補正設定を表示および変更する手順....290
8.37.1. ブラックポイント補正について....290
8.37.2. オブジェクトのブラックポイント補正を表示する手順....291
8.37.3. オブジェクトのブラックポイント補正値を変更する手順....292
8.38. オブジェクトのハーフトーン情報を表示および変更する手順....292
8.38.1. ハーフトーン情報について....292
8.38.2. オブジェクトのハーフトーン情報を表示する手順....293
8.38.3. オブジェクトのハーフトーン原点を変更する手順....293
8.39. Enfocus テキストの検索と置換....294
8.39.1. テキストを検索および置換するには....294
8.40. テキストの選択....294
8.40.1. テキストまたはテキストセグメント....295
8.40.2. 単一のテキストセグメントを選択する....295
8.40.3. 隣り合っている複数のテキストセグメントを選択する....296
8.40.4. 離れている複数のテキスト セグメントを選択する....296
8.40.5. プロパティが類似しているテキスト セグメントを選択する....297
8.40.6. 1 行のテキスト行でテキストを選択する....297
8.40.7. 段落中の複数行のテキストを選択する....298
8.41. 1 行のテキスト行の編集....298
8.41.1. 1 行のテキスト行を編集する手順....298
8.42. テキスト段落の編集....299
8.42.1. 論理的なテキスト要素としての段落....299
8.42.2. 段落を編集する手順....299
8.43. 縦書きテキストの編集....300
8.43.1. 縦書きテキストについて....300
8.43.2. 縦書きテキスト行を編集する手順....301
8.44. テキストのフォント プロパティの変更....301
8.44.1. フォント プロパティとは....301
8.44.2. テキストのフォント プロパティを変更する手順....301

8.45. テキストのアウトラインへの変更 302
8.45.1. テキストのアウトラインへの変更について 302
8.45.2. テキストをアウトラインに変更する理由 302
8.45.3. アウトラインに変換後のテキストの特性 303
8.45.4. テキストをアウトラインに変更する手順 304
8.46. テキストセグメントを分割および結合する 304
8.46.1. テキストセグメントを単語または文字に分割および結合する 304
8.46.2. テキスト セグメントを分割または結合する手順 305
8.47. フォントのタイプとその使用方法 305
8.47.1. フォントのタイプ 305
8.47.2. 標準の 14 フォント 306
8.47.3. PostScript Type 1 フォント 306
8.47.4. PostScript Type 3 フォント 307
8.47.5. TrueType フォント 307
8.47.6. Multiple Master フォント 308
8.47.7. OpenType フォント 309
8.47.8. コンポジット フォント 310
8.48. PDF フォントの置換 310
8.48.1. フォントの利用形態 310
8.48.2. PostScript フォント名を検索する手順 311
8.49. フォントの埋め込みとサブセット 311
8.49.1. フォントの埋め込み 311
8.49.2. フォントのサブセット 312
8.49.3. 正確なフォント名の確認 312
8.50. PDF 文書の中に PDF 文書を配置 312
8.50.1. PDF 文書の中に PDF 文書を配置することについて 312
8.50.2. PDF 文書を PDF 文書の中に配置する手順 313
8.51. フォームの編集 313
8.51.1. フォームについて 313
8.51.2. フォームを編集する手順 314
8.51.3. フォームの中にある個別のオブジェクトを編集する手順 314
8.51.4. フォーム自体またはフォームの中にある内容全体を編集する手順 314
8.52. 選択をラスタライズ 316
8.52.1. 画像のラスタライズについて 316
8.52.2. 選択をラスタライズするには 316

9. アクションリスト、グローバル変更、および**QuickRun**による作業の自動化 **319**
9.1. アクションリストによる作業の自動化 319
9.1.1. アクションとアクションリストの概要 319
9.1.2. アクションとアクションリストの検索方法 321
9.1.3. アクションリストでの作業 327
9.1.4. アクションリストの管理 349

9.1.5. アクションリスト Visualizer を使用したアクションリストのトラブルシューティング.....351
9.1.6. 実際のアクションリスト：使用例.....358
9.2. グローバル変更の使用.....360
9.2.1. グローバル変更について.....360
9.2.2. グローバル変更の場所.....362
9.2.3. グローバル変更での作業.....367
9.2.4. グローバル変更の結果の確認.....372
9.3. QuickRun の使用.....377
9.3.1. QuickRun について.....377
9.3.2. でのQuickRunsの場所 PitStop Pro.....378
9.3.3. QuickRunsの操作.....383
9.4. より高度な自動化機能。.....388
9.4.1. Enfocus PitStop Server.....388
9.4.2. Enfocus Switch.....389

10. カラーの管理.....390
10.1. カラー マネージメントについて.....390
10.2. カラー モデル.....390
10.2.1. RGB カラーモデル.....390
10.2.2. CMYK カラーモデル.....390
10.2.3. グレースケール モデル.....391
10.3. 色域とカラースペース.....391
10.3.1. 色域: カラー光線のデバイス依存サブセット.....391
10.3.2. 装置依存色.....392
10.3.3. 装置非依存色.....392
10.4. レンダリング インテント.....392
10.4.1. カラーをリマッピングするレンダリング インテント.....392
10.4.2. 知覚的リマッピング.....393
10.4.3. 彩度リマッピング.....393
10.4.4. 相対的な色域を維持するリマッピング.....394
10.4.5. 絶対的な色域を維持するリマッピング.....394
10.4.6. 画像のレンダリング インテントの変更.....395
10.5. 特色の使用.....396
10.5.1. 特色の使用.....396
10.5.2. 作成する特色.....396
10.5.3. 特色の適用.....397
10.5.4. 特色の編集.....397
10.5.5. リマッピング特色.....398
10.5.6. 特色の複製.....398
10.6. ICC プロファイルの使用方法.....399
10.6.1. ICC プロファイルについて.....399
10.6.2. 複数のインスタンスで ICC プロファイルを使用する方法.....399

10.6.3. ICC プロファイルのあるテキストまたは線画のタグ付けまたはタグ付け解除 400
10.6.4. 画像を ICC プロファイルでタグ付けまたはタグを解除する手順 400
10.7. 出力インテント パネルの使用 401
10.7.1. 出力インテントを適用 401
10.7.2. 出力インテント テンプレートを編集する手順 401
10.7.3. 新しい出力インテントを作成する手順 402
10.7.4. どの出力インテントが現在適用されているかの確認 402
10.7.5. 出力インテントを削除する 402
10.7.6. ICC プロファイルを抽出する 403
10.8. カラー変換 404
10.8.1. カラースペースを変換 404
10.8.2. カラーをリマッピング 405
10.8.3. Enfocus インスペクタを用いたカラー変換 407

11. オーバープリント **409**
11.1. オーバープリントとノック アウトの概要 409
11.1.1. 基本的な規則 409
11.1.2. 理論上の簡単な例 409
11.1.3. 異なるカラー、共通するインク 410
11.2. オーバープリントとノック アウトの細部に存在する難題 412
11.2.1. 決定要因 412
11.2.2. カラースペース 412
11.2.3. オーバープリント モードとオブジェクト タイプ 414
11.3. オーバープリントの動作によくある問題 415
11.3.1. 例 1: 標準のオーバープリント モードで特色背景上にレンダリングされる CMYK オブジェクト 416
11.3.2. 例 2: ICC タグ付き CMYK 背景上にオーバープリントでレンダリングされるダブルトーン オブジェクト 416
11.3.3. 例 3: CMYK テキスト:CMYK 背景上 417
11.3.4. 例 4: CMYK 背景上のグレー オブジェクト 419
11.3.5. 例 5: カラー スペースの効果 420
11.4. オブジェクトのオーバープリント設定を変更する 422
11.4.1. 墨文字をオーバープリントする 422
11.4.2. 白抜き文字をノック アウトする 423
11.4.3. オブジェクトのオーバープリント設定を変更する手順 423
11.4.4. すべての分版にオーバープリントを強制 424

12. サードパーティのライセンス情報 **426**

13. 著作権 **439**

1. PitStop Pro文書の概要

完全な PitStop Pro ドキュメントは複数のマニュアルから構成されています。

構成	説明／場所
クイック スタート ガイド	PitStop Pro のインストールとアクティベーションの方法について説明し、PitStop Proの機能について簡潔に紹介します。 *http://www.enfocus.com/manuals/QuickStartGuide/PP/22/enUS/home.html*
リファレンス ガイド	PitStop Pro の機能を詳細に説明します。 *http://www.enfocus.com/manuals/ReferenceGuide/PP/22/enUS/home.html*
アクションリストライブラリ アクションマニュアル	アクションリストがダウンロード可能なライブラリ： *http://www.enfocus.com/en/support/downloads/pitstop-action-lists* 使用可能なすべてのアクションの概要が表示されます。 *http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Actions/22/home.html*
グローバル変更マニュアル	使用可能なすべてのグローバル変更の概要が表示されます。 *http://www.enfocus.com/manuals/Extra/GlobalChanges/22/home.html*
プリフライトプロファイルライブラリ	プリフライトプロファイルがダウンロード可能なライブラリ： *http://www.enfocus.com/en/support/downloads/pitstop-preflight-profiles*
プリフライトチェック	プリフライトプロファイルで使用可能なチェックの概要。 *http://www.enfocus.com/manuals/Extra/PreflightChecks/22/home.html*
レポートテンプレートのカスタマイズ	会社ロゴの追加、レポートで使用されるヘッダーまたは色の変更など、プリフライトレポートをカスタマイズする方法について説明します。

構成	説明／場所
	http://www.enfocus.com/manuals/Extra/CustomReportTemplate/22/home.html
プリフライトレポート ヘルプ	プリフライトレポートにあるメッセージの意味を説明し、問題の解決方法を示します。 *http://www.enfocus.com/manuals/Extra/PreflightReportHelp/22/home.html*
インタラクティブな e ラーニング コース、プロダクトムービー、ウェビナー、レコーディングされたワークショップなどのトレーニング資料。	Enfocus Web サイトの「学習」セクションに移動して、PitStop コースを検索します。レベル（初心者、中級、上級）と受講するコースのタイプ（e ラーニング、映画、ウェビナー、ワークショップ）を指定できます。 *https://www.enfocus.com/learn/pitstop/all*
解決策の記事	*https://www.enfocus.com/en/support/known-issues-and-solutions*

2. PitStop Pro の概要

2.1. PitStop Pro について

PitStop Pro は、PDF 文書の編集、変更記録を行う Adobe Acrobat Standard Pro および DC のプラグインです。

注: Adobe Acrobat Reader DC はサポートされていません。詳細およびバージョン情報については、*Enfocus* の*Web* サイトに掲載されているシステム要件を参照してください。

PitStop Pro	その他の情報
オブジェクトの編集	オブジェクトの編集 201 ページの
アクションリスト	• アクションリストについて 16 ページの（クイック リファレンス） • アクションリスト、グローバル変更、および*QuickRun*による作業の自動化 319 ページの
プリフライトプロファイル	• プリフライトプロファイルについて 18 ページの（クイック リファレンス） • *PDF* 文書のプリフライトとチェック 123 ページの
グローバル変更	• グローバル変更について 20 ページの（クイック リファレンス） • グローバル変更の使用 360 ページの
QuickRuns	• *QuickRun* について 22 ページの（クイック リファレンス） • *QuickRun* の使用 377 ページの
Certified PDF 文書とログの編集	*Certified PDF* 文書の操作 176 ページの

2.2. アクションリストについて

アクション リストは、PitStop Proが PDF 文書で実行する必要がある連続処理のリストです。

以下のことを実行できます。

- アクションリストを定義します。
- アクションリストの取り込みと書き出し (.eal ファイル) を行います。
- アクションリストを実行します。

このセクションでは、簡単な概要のみを説明します。詳細については、アクションリストによる作業の自動化 319 ページのの章を参照してください。

2.2.1. アクションリストダイアログボックスを開く手順

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**[PitStop Pro]** > [アクションリストの実行]をクリックします。 • [ツール] で、**[PitStop** プロセス] >  [アクションリスト]の順に選択します。
Windows ショートカット	Alt+Ctrl+Aを押します。
Mac ショートカット	⌥⌘A キーを押します。



注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

2.2.2. アクション リストを定義する手順

1. [アクションリスト] ダイアログボックスを開きます。
2. アクション リストを選択します。
3.  > [編集] をクリックします。

2.2.3. アクション リストを実行する手順

1. [アクションリスト] ダイアログボックスを開きます。
2. アクション リストを選択します。
3. 必要に応じて、次のオプションを変更します。
   - 実行日
   - 結果の表示

4.  をクリックします。

2.2.4. アクションリストを取りこむ手順

1. [アクションリスト] ダイアログボックスを開きます。
2.  > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - 取り込み
   - グループをインポート

2.2.5. アクションリストを書き出す手順

1. [アクションリスト] ダイアログボックスを開きます。
2. 次のいずれか 1 つ以上を選択します。
   - アクション リスト。
   - アクションリストのグループ。例: [ローカル（**Local**）]。
3.  > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - 書き出し
   - グループを書き出し

2.3. プリフライトプロファイルについて

プリフライトプロファイルとは、PitStop Pro が PDF 文書で実行する必要があるチェックと修正をグループ化したものです。

以下のことを実行できます。

- プリフライトプロファイルの定義。
- プリフライトプロファイルの取り込みと書き出し (.ppp ファイル)。
- プリフライトプロファイルの実行。

2.3.1. [プリフライトプロファイル] ダイアログ ボックスを開く手順

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**[PitStop Pro]** > [プリフライト]をクリックします。

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
	• [ツール]ペインで、[**PitStop** プロセス] > [プリフライトプロファイル]の順に選択します。
Windows ショートカット	Alt+Ctrl+Pを押します。
Mac ショートカット	P キーを押します。

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

2.3.2. プリフライトプロファイルを定義する手順

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログボックスを開きます。
2. プリフライトプロファイルを選択します。
3. > [編集] をクリックします。

2.3.3. プリフライトプロファイルを実行する手順

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログボックスを開きます。
2. プリフライトプロファイルを選択します。
3. 必要に応じて、次のオプションを変更します。
   - **Certified PDF** プリフライト: プリフライトをCertified PDFワークフローの一部にする場合は、このチェックボックスを選択します。*Certified* プリフライト チェックと通常のプリフライト チェックの相違点 126 ページの も参照してください。

     注: Certified PDF プリフライトは常に文書全体に対して実行されます。このため、[Certified PDF プリフライト] を選択すると、（[実行対象:]の下にある）ページの選択オプション使用できなくなります。

   - 実行対象: プリフライトプロファイルを実行するページ範囲を設定します。
   - 修正を許可: 修復を適用するかどうかを指定します。プリフライトプロファイルによって修復が許可されていない場合、このオプションは無効になります。
4. をクリックします。

完了すると、Enfocusナビゲータに全てのエラーが表示され、プリフライトを再起動したり、エラーの解決方法を参照したりできます。*Enfocus* ナビゲータ の使用 149 ページのを参照してください。

2.3.4. プリフライトプロファイルを取り込む手順

ファイル名の拡張子が.ppp（Enfocusプリフライトプロファイル）のプリフライトプロファイルを取り込むことができます。

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログボックスを開きます。
2.  > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - [取り込み]では、1つ以上のプリフライトファイルを取り込みます。
   - [グループの取り込み]では、1つ以上のプリフライトファイルが入ったフォルダを取り込みます。フォルダ全体がグループとして取り込まれます。

2.3.5. プリフライトプロファイルを書き出す手順

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログボックスを開きます。
2. 次のいずれか 1 つ以上を選択します。
   - プリフライトプロファイル。
   - プリフライトプロファイルのグループ。以下は例です。**Local**。
3.  > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - [書き出し]は、選択したプリフライトプロファイルを.pppファイルとして書き出します。
   - [グループ書き出し]は、選択したグループ（つまりフォルダ）に属するすべてのプリフライトプロファイルを.pppファイルとして書き出します。
   - [プレーンテキストとして書き出し]は、選択したプリフライトプロファイルをテキストバージョンで書き出します。このオプションはグループを選択した場合には使用できません。

   .pppファイル（Enfocusプリフライトプロファイル）は、必要に応じて再度、ほかのPitStop Proに取り込むことができます。
4. 保存先を選択して[保存]をクリックします。

2.4. グローバル変更について

グローバル変更は、PitStop Proが PDF 文書で実行する必要がある変更です。

以下のことを実行できます。

- グローバル変更の定義。
- グローバル変更の取り込みと書き出し (.egc ファイル)。
- グローバル変更の実行。

このセクションでは、簡単な概要のみを説明します。詳細については、グローバル変更の使用 360 ページのの章を参照してください。

2.4.1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開く手順

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobatで	• メニューバーで、**[PitStop Pro]** > [グローバル変更]をクリックします。 • [ツール]で、**[PitStop** プロセス] >  [グローバル変更] の順に選択します。
Windows ショートカット	Alt+Ctrl+Gを押します。
Mac ショートカット	⌥ ⌘ G キーを押します。



注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

2.4.2. グローバル変更を定義する手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。
2. グローバル変更を選択します。
3.  > [編集] をクリックします。

2.4.3. グローバル変更を実行する手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。
2. グローバル変更を選択します。
3. 必要に応じて、次のオプションを変更します。
   - 実行日
   - 結果の表示

4.  をクリックします。

2.4.4. グローバル変更を取り込む手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。
2.  > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - 取り込み
   - グループをインポート

2.4.5. グローバル変更を書き出す手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。
2. 次のいずれか 1 つ以上を選択します。
   - グローバル変更。
   - グローバル変更のグループ。例: [ローカル（**Local**）]。
3.  > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - 書き出し
   - グループを書き出し

2.5. QuickRun について

QuickRun とは、PitStop Pro が PDF 文書で実行する必要がある一連のアクションリスト、グローバル変更およびプリフライトプロファイルを単一のコマンドとしてグループ化したものです。

以下のことを実行できます。

- QuickRuns の定義。
- QuickRunsの取り込みと書き出し (.eqr ファイル)。
- QuickRun を実行。

このセクションでは、簡単な概要のみを説明します。詳細については、*QuickRun の使用* 377 ページのの章を参照してください。

2.5.1. [QuickRuns] ダイアログ ボックスを開く手順

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**[PitStop Pro]** > **[QuickRun]**をクリックします。 • [ツール] で、**[PitStop** プロセス] >  **[QuickRun]**の順に選択します。



注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

2.5.2. QuickRun を定義する手順

1. **[QuickRun]** ダイアログ ボックスを開きます。
2. QuickRunsを選択します。
3.  > [編集] をクリックします。

2.5.3. QuickRun を実行する手順

1. **[QuickRun]** ダイアログ ボックスを開きます。
2. QuickRunsを選択します。
3.  をクリックします。

2.5.4. QuickRun のお気に入りを実行する手順

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**[PitStop Pro]** > **[QuickRun**お気に入り**]**をクリックし、QuickRunを選択します。 • [ツール] で、**[PitStop** プロセス] >  **[QuickRun**お気に入り**]**の順にクリックし、QuickRunを選択します。

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Windows	QuickRunお気に入りのショートカットを使用します。 例: • お気に入り 1: Alt+Shift+Ctrl+A • お気に入り 2: Alt+Shift+Ctrl+B
Mac	QuickRunお気に入りのショートカットを使用します。 例: • お気に入り 1: ⌥⇧⌘A • お気に入り 2: ⌥⇧⌘B

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

2.5.5. QuickRunsを取り込む手順

1. **[QuickRun]** ダイアログ ボックスを開きます。
2. > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - 取り込み
   - グループをインポート

2.5.6. QuickRunsを書き出す手順

1. **[QuickRun]** ダイアログ ボックスを開きます。
2. 次のいずれか 1 つ以上を選択します。
   - QuickRun。
   - QuickRunsのグループ。例: [ローカル（**Local**）]。
3. > [読み込み／書き出し] をクリックして、次のいずれかを実行します。
   - 書き出し
   - グループを書き出し

2.6. メニューバー：概要

注: 一部のエントリは Windows と Mac 間で異なります。

Acrobat* メニュー *(Mac)

エントリ	その他の情報
[サードパーティのプラグインについて] > **[Enfocus PitStop Pro** バージョン情報**]**	クイック スタート ガイドを参照してください。
[サードパーティのプラグインについて] > **[Enfocus StatusCheck** バージョン情報**]**	—
[環境設定] > **[PitStop Pro** 環境設定**]**	*PitStop Pro* 環境設定の設定 48 ページの
[環境設定] > **[Enfocus StatusCheck]**	

[ファイル] メニュー

エントリ	その他の情報
Enfocus 新規文書	—
Enfocus 署名して保存	*Certified PDF* 文書の操作 176 ページの
• **Enfocus** 名前を付けて署名して保存 (Windows) • 名前を付けて保存 > **Enfocus** 名前を付けて署名して保存 (Mac)	*PDF* 文書の *Certified PDF* ワークフローの開始 182 ページの
Enfocus レポート情報の削除	レポート情報の削除 156 ページの

[編集] メニュー

エントリ	その他の情報
Enfocus 取り消し	アクションの取り消しとやり直し 94 ページの
Enfocus やり直し	
[環境設定] > **[PitStop Pro** 環境設定**]** (Windows)	*PitStop Pro* 環境設定の設定 48 ページの
[環境設定] > **[Enfocus StatusCheck]** (Windows)	

表示メニュー

エントリ	その他の情報
ツール > • **PitStop** プロセス • **Certified PDF** • **PitStop** 検査 • **PitStop** 編集 • **PitStop** 表示 • **PitStop** カラー • **PitStop** ページボックス	[ツール] ペインに対応するパネルが開きます。「ツールペイン：概要 29 ページの」を参照してください。

Certified PDFメニュー

エントリ	その他の情報
Certified PDF	*Certified PDF* 文書の操作 176 ページの
• 編集ログを開始または • **Certified PDF** データの削除	
編集ログ	
履歴	

PitStop Pro メニュー

エントリ	その他の情報
オブジェクト	以下を参照してください。
プリフライト	• プリフライトプロファイルについて 18 ページの • *PDF* 文書のプリフライトとチェック 123 ページの
グローバル変更	• グローバル変更について 20 ページの • グローバル変更の使用 360 ページの
アクションリスト	• アクションリストについて 16 ページの • アクションリスト、グローバル変更、および*QuickRun*による作業の自動化 319 ページの
QuickRuns	• *QuickRun* について 22 ページの

エントリ	その他の情報
QuickRun お気に入り	• *QuickRun* の使用 377 ページの
ナビゲータ	*Enfocus* ナビゲータ の使用 149 ページの
オブジェクトブラウザ	オブジェクトブラウザを使いオブジェクトを選択 208 ページの
変数セット	• *[環境設定（Preferences）] > [Enfocus PitStop Pro 環境設定（Enfocus PitStop Pro Preferences）] > [変数セット（Variable Sets）]* 59 ページの • スマートプリフライト 157 ページの

PitStop Pro オブジェクトメニュー

エントリ	その他の情報
単語への分割	テキストセグメントを分割および結合する 304 ページの
文字への分割	
アウトラインに変換	
テキスト行にマージ	
語句にマージ	
マスクの作成	オブジェクトのマスク 275 ページの
マスクの解除	
Enfocus 置換	オブジェクトを置換する手順 96 ページの
Enfocus テキストの検索と置換	*Enfocus* テキストの検索と置換 294 ページの
ラインポイントを設定	パス、アンカー ポイント、および方向ポイントについて 203 ページの パスの編集 260 ページの
カーブポイントを設定	
アンカーポイントのスムーズ化	
パスを開く	
パスを閉じる	
パスの逆順	
複合パスを作成	
複合パスを解除	
前面に移動	オブジェクトの並び順の変更 216 ページの
背面に移動	
最前面に移動	
最背面に移動	
マスクの作成	オブジェクトのマスク 275 ページの

エントリ	その他の情報
マスクの解除	
すべてを表示	選択したオブジェクトの非表示と表示の切り替え 216 ページの
選択範囲を非表示	
グループ	グループ化とグループ解除 212 ページの
グループ解除	
位置揃えと分散	整列と分散 213 ページの
形状を組み合わせ/分割	オブジェクトの形状の組み合わせと分割 256 ページの
トリムボックスの設定	トリムボックスの余白 50 ページの
光沢	—
ICC プロファイルを抽出	*ICC* プロファイルを抽出する 403 ページの
選択をラスタライズ	選択をラスタライズ 316 ページの

PitStop Pro ダッシュボードメニュー

エントリ	その他の情報
マイ **PitStop Pro** ダッシュボード	これは、Enfocus Web サイトの PitStop Pro ダッシュボードへの直接リンクです。オプトインすると、PitStop Pro の使用に関する情報、プリフライトされたファイルの数、失敗した回数、成功した回数などが表示されます。データは Enfocus ID にリンクされています。これは、PitStop Proダッシュボードにオプトインするために使用された Enfocus IDです。
オプトイン/オプトアウト	いつでもオプトアウトできます。必要に応じて、後で使用できるようにデータを保存することができます。 **注:** PitStop Pro の試用版を実行しているときは、ダッシュボードは必須です。そのため、試用期間中はこのメニューオプションはグレー表示になります。

[ヘルプ] メニュー

エントリ	その他の情報
プラグイン ヘルプ > **Enfocus PitStop Pro**ヘルプ > • ライセンス • **Enfocus** ホームページ • 購入申し込み • アップデートの確認	-

エントリ	その他の情報
• **PitStop Pro** ヘルプ（**HTML**） • プリフライトレポートヘルプ（**HTML**） • お読みください **(PDF)** • 使用許諾契約 **(PDF)** • オンラインドキュメント提供 • 製品ムービー • プリフライトプロファイル ライブラリ • アクションリストライブラリ • 解決策の記事 • サポートに問い合わせ	
[サードパーティのプラグインについて] > **[Enfocus PitStop Pro** バージョン情報**]**(Windows)	クイックスタートガイドを参照（Enfocus Webサイト）
[サードパーティのプラグインについて] > **[Enfocus StatusCheck** バージョン情報**]** (Windows)	*StatusCheck*文書を参照（Enfocus Web サイト）

2.7. ツールペイン：概要

Adobe Acrobatのツールペイン

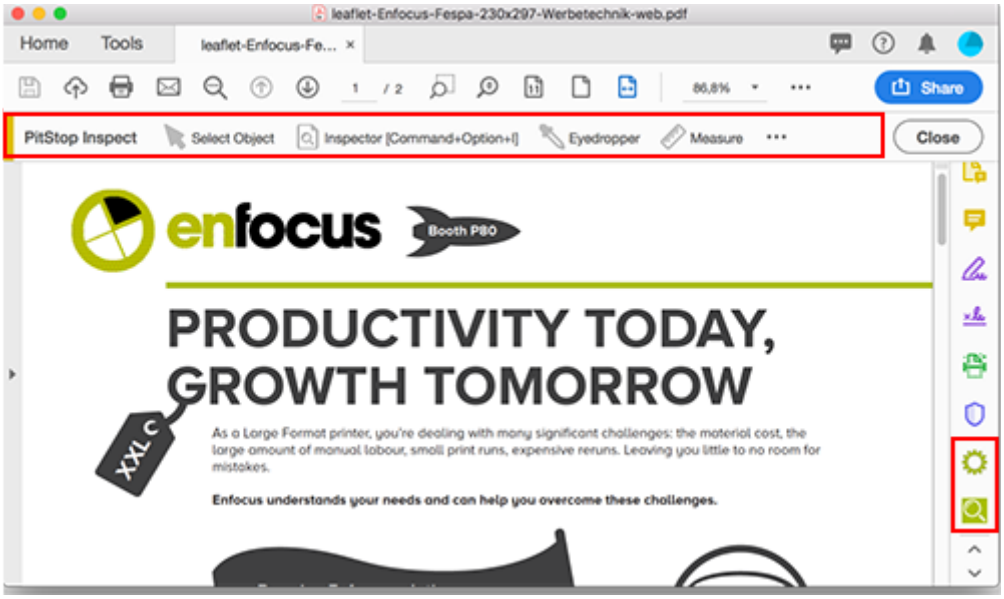
Acrobatでは、Enfocus PitStop パネルがデフォルトでツールペインに表示されます。PitStop Proを使用する前に、これらを手動で追加する必要があります。ただし、使用可能になったら、前のAcrobatバージョンと同じ方法で使用できます。

ツールペインへの*PitStop Pro*パネルの追加 36 ページのを参照してください。

次の図は、PitStop Proパネルの場所を示します。特定のパネルに含まれるツールはパネルの横に表示されます。次の例では、PitStop 検査パネルが選択され、[オブジェクトを選択]、[グインスペクタ]、[スポイトツール]および[測定]を使用できます。•••をクリックすると、このパネルに属する他のツールにアクセスできます。



注**:** 右側の[ツール]ペインは、上記のように手動で追加されたPitStopパネルにアクセスできます。



ヒント: ラベル（アイコンの横）を非表示にするには、ツールバーを右クリックし、（選択された）すべてのラベルを表示オプションを選択します。

PitStop プロセス パネル

ツール	その他の情報
プリフライトプロファイル	• プリフライトプロファイルについて 18 ページの • *PDF* 文書のプリフライトとチェック 123 ページの
グローバル変更	• グローバル変更について 20 ページの • グローバル変更の使用 360 ページの
アクションリスト	• アクションリストについて 16 ページの • アクションリスト、グローバル変更、および*QuickRun*による作業の自動化 319 ページの
QuickRuns	• *QuickRun* について 22 ページの • *QuickRun* の使用 377 ページの
QuickRun お気に入り	
	Enfocus ナビゲータ の使用 149 ページの

ツール	その他の情報
ナビゲータ	
 実行中の変数セットなし  アクティブな変数セット	• *[環境設定（Preferences）] > [Enfocus PitStop Pro 環境設定（Enfocus PitStop Pro Preferences）] > [変数セット（Variable Sets）]* 59 ページの • スマートプリフライト 157 ページの

Certified PDF パネル

ツール	その他の情報
 **Certified PDF**	*Certified PDF* 文書の操作 176 ページの
 署名して保存	• *Certified PDF* 文書の操作 176 ページの • *PDF* 文書の *Certified PDF* ワークフローの開始 182 ページの

PitStop 検査 パネル

ツール	その他の情報
 オブジェクトを選択	オブジェクトの選択 205 ページの
 インスペクタ	*Enfocus* インスペクタの使用 97 ページの
 スポイトツール	*[スポイト]* ツールを使用したオブジェクトの属性の表示 96 ページの
 測定	*2* 点間の距離の測定 95 ページの
 オブジェクトブラウザを表示	オブジェクトブラウザを使いオブジェクトを選択 208 ページの

PitStop 編集 パネル

ツール	その他の情報
 オブジェクトを選択	オブジェクトの選択 205 ページの
 類似オブジェクトを選択	
 グループ	グループ化とグループ解除 212 ページの
 グループ解除	
 属性のコピーと貼り付け	オブジェクト属性のコピーと貼り付け 93 ページの
 移動	オブジェクトの移動 247 ページの
 回転	オブジェクトの回転 239 ページの
 シアー	オブジェクトのシアー 250 ページの
 拡大縮小	オブジェクトのスケーリング 243 ページの
 矩形を追加	新しい形状の作成 258 ページの
 楕円形を追加	

ツール	その他の情報
 シェーディングを編集	テキストまたは線画オブジェクトへのグラデーションの適用 229 ページの
 パスを追加	• パス、アンカー ポイント、および方向ポイントについて 203 ページの • 新しいパスの作成 259 ページの • パスの編集 260 ページの • アンカー ポイントの追加または削除 273 ページの
 パスを編集	
 アンカーポイントを追加	
 アンカーポイントを削除	
 テキスト行を編集	• *1* 行のテキスト行の編集 298 ページの • テキスト段落の編集 299 ページの • 縦書きテキストの編集 300 ページの • *Enfocus* テキストの検索と置換 294 ページの
 段落を編集	
 縦書きテキスト行を編集	
 テキストの検索と置換	
 フォームを編集	フォームの編集 313 ページの
 **PDF** ファイルを配置	*PDF* 文書の中に *PDF* 文書を配置 312 ページの

ツール	その他の情報
 元に戻す	アクションの取り消しとやり直し 94 ページの
 選択の取り消し	
 やり直し	
 選択のやり直し	
 領域を選択	
 選択をラスタライズ	選択をラスタライズするには 316 ページの

PitStop 表示 パネル

ツール	その他の情報
 ページボックスを表示	ページボックス 107 ページの *PDF*文書の断ち落としとブリードを表示する 108 ページの
 ページボックスの外側のオブジェクトを表示する	クロップボックスの外側にあるオブジェクトの表示 116 ページの
 注釈を隠す	注釈の表示と非表示の切り替え 75 ページの
 すべてのレイヤーを表示	レイヤーの操作 121 ページの

ツール	その他の情報
 ワイヤフレームを表示する	ワイヤフレーム ビューでの *PDF* 文書の表示 74 ページの
 画像の表示速度の向上	代替画像を使用した画像の表示速度向上 76 ページの
 ワークスペース	ワークスペース 82 ページの

PitStop カラー パネル

ツール	その他の情報
 カラーマネージメントオフ  有効なカラーマネージメントプリセット	カラーの管理 390 ページの
 カラー変換	*Enfocus*カラー変換パネルを使用して色を変換する 228 ページの
 出力インテントを適用	レンダリング インテント 392 ページの
 イメージマッチング	*ICC* プロファイルの使用方法 399 ページの
 カラーピッカー	カラーピッカーへのショートカットにより、カラーライブラリの管理と確認が可能です。

PitStop ページボックス パネル

ツール	その他の情報
 デザインレイアウトを編集	デザインレイアウト 99 ページの
 デザインレイアウトは未実行  [デザインレイアウトがアクティブで適用されていない]  [デザインレイアウト適用]	
 ページボックスを編集	
 ページボックスを表示	

注:

- すべてのアイコンは、2 つの色で示されます。灰色はツールが無効な場合に使用され、緑色はツールが有効な場合に使用されます。

2.7.1. ツールペインへのPitStop Proパネルの追加

Enfocus PitStop Proパネルはデフォルトで表示されません。PitStop Proツールを試用するには、手動でツールペインを追加する必要があります。

PitStop Proパネルを追加する

1. Adobe Acrobatを開きます。
2. 左上端のメニューバーの下で、[ツール]タブをクリックします。
3. 次の検索フィールドでPitStopと入力し、検索アイコン  をクリックします。
   PitStop Proパネルが一覧表示されます。
4. PitStop Proパネルの下のリストから、ツールペインに追加して、追加を選択します。

追加されたPitStop Proパネルはツールペイン (右) に表示されます。

5. すべてのPitStop Proパネルでこれを実行します。

   Certified PDFパネルも追加するには、検索フィールド（手順3）で`Certified PDF`と入力し、検索結果の下のリストで追加をクリックします。

6. PitStop Proパネルに含まれるツールにアクセスするには、次のいずれかを実行します。

   - 該当するPitStop Proパネルの名前をクリックします。
   - 該当するPitStop Proパネルの名前を右クリックし、開くをクリックします。
   - Acrobatメニューバーで、表示 > ツール > **<PitStop Pro**パネルの名前**>** > 開くをクリックします。

   文書の上または右にツールが表示されます (PitStop 編集パネル)。

   注: すべてのツールを表示するスペースがない場合は、•••が表示されます。このアイコンをクリックすると、その他のツールが表示されます。

2.8. ダイアログボックス: 概要

ダイアログボックス	その他の情報
Enfocus インスペクタ	*Enfocus* インスペクタの使用 97 ページの
Enfocus PitStop Pro について	クイック スタート ガイドを参照してください。
Enfocus ナビゲータ	*Enfocus* ナビゲータ の使用 149 ページの
Enfocus Certified PDF パネル	*Certified PDF* 文書の操作 176 ページの
Enfocus PitStop Pro 環境設定	*PitStop Pro* 環境設定の設定 48 ページの
Enfocus StatusCheck 環境設定	
スポイトツール	*[スポイト]* ツールを使用したオブジェクトの属性の表示 96 ページの
Enfocus 測定	*2* 点間の距離の測定 95 ページの
Enfocus コピーと張り付け属性	オブジェクト属性のコピーと貼り付け 93 ページの
テキストの検索と置換	*Enfocus* テキストの検索と置換 294 ページの
Enfocus PDF の配置	*PDF* 文書の中に *PDF* 文書を配置 312 ページの
カラーマネージメントプリセットエディタ	カラーの管理 390 ページの
Enfocus カラー変換パネル	*Enfocus*カラー変換パネルを使用して色を変換する 228 ページの
Enfocus 出力インテントパネル	レンダリング インテント 392 ページの
Enfocus イメージマッチングパネル	*ICC* プロファイルの使用方法 399 ページの

ダイアログボックス	その他の情報
プリフライトプロファイル	• プリフライトプロファイルについて 18 ページの • *PDF* 文書のプリフライトとチェック 123 ページの
グローバル変更	• グローバル変更について 20 ページの • グローバル変更の使用 360 ページの
アクションリスト	• アクションリストについて 16 ページの • アクションリスト、グローバル変更、および*QuickRun*による作業の自動化 319 ページの
QuickRuns	• *QuickRun* について 22 ページの • *QuickRun* の使用 377 ページの
Enfocus デザインレイアウトパネル	デザインレイアウト 99 ページの
Enfocus ワークスペースパネル	ワークスペース 82 ページの
Certified PDF > 編集ログ	編集ログの表示 195 ページの

2.9. Enfocus インスペクタダイアログボックス: 概要

カテゴリ	サブカテゴリ	その他の情報
 塗り/線	 塗り	• テキストまたは線画オブジェクトのカラーの変更 222 ページの • テキストまたは線画オブジェクトへのグラデーションの適用 229 ページの
	 線	
	 線の詳細	
	 オーバープリント	オーバープリント 409 ページの

カテゴリ	サブカテゴリ	その他の情報
 線画の編集	 形状を組み合わせ/分割	オブジェクトの形状の組み合わせと分割 256 ページの
	 形状をオフセット	オフセットパスの作成 264 ページの
	 線を塗りに変換	ストロークを塗りに変換 266 ページの
	 線画をクリップにクロップ	線画をクロップ 267 ページの
	 オブジェクトをトレース	オブジェクトをトレース 270 ページの
 テキスト	 テキスト	• 1行のテキスト行の編集 298 ページの • テキスト段落の編集 299 ページの • 縦書きテキストの編集 300 ページの
 画像	 プロパティ	—
	 曲線編集	ピクセル画像の明るさとコントラストの調整 279 ページの
	 リサンプル	ピクセル画像のリサンプリング 284 ページの
		ピクセル画像の圧縮 287 ページの

カテゴリ	サブカテゴリ	その他の情報
	圧縮	
	 明るさとコントラスト	ピクセル画像の明るさとコントラストの調整 279 ページの
	 不鮮明マスクを鮮明にする	ピクセル画像を鮮明にする 283 ページの
 透明	 全般	オブジェクトの透過性の変更 219 ページの
	 透明グループ	透明グループのプロパティを変更 透明グループのプロパティ 221 ページの
	 透明グループの親	透明グループのプロパティを表示
	 マスキング	ソフトマスクの検査 276 ページの
 プリプレス	 全般	オブジェクトのブラックポイント補正設定を表示および変更する手順 290 ページの
	 ハーフトーン	オブジェクトのハーフトーン情報を表示および変更する手順 292 ページの
	 **OPI**	オブジェクトの *OPI* 情報の変更または削除 218 ページの
	 レイヤー	レイヤーの操作 121 ページの

カテゴリ	サブカテゴリ	その他の情報
	 出力インテント	レンダリング インテント 392 ページの
 分版	 変換前	—
	 光沢	—
 位置	 位置	正確な値を指定したオブジェクトの変形 254 ページの
	 位置揃えと分散	整列と分散 213 ページの
	 ページボックス概要	ページボックス 107 ページの
	 ページボックスを編集	
 要約	 要約	選択したオブジェクトの統計データの表示 289 ページの  、  、、  またはをクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 類似オブジェクトを選択	 類似オブジェクトを選択	類似オブジェクトを選択する 207 ページの  をクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
		オブジェクトの移動 247 ページの をクリックする場合にのみ使用できます。

カテゴリ	サブカテゴリ	その他の情報
移動	数値フィードバック	（ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 回転	 回転	オブジェクトの回転 239 ページの  をクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 シアー	 数値フィードバック	オブジェクトのシアー 250 ページの  をクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 拡大縮小	 数値フィードバック	オブジェクトのスケーリング 243 ページの  をクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 矩形	 バウンディングボックス	新しい形状の作成 258 ページの  をクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 楕円形	 バウンディングボックス	新しい形状の作成 258 ページの  をクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）
 線画	 パスの編集	• パス、アンカー ポイント、および方向ポイントについて 203 ページの • 新しいパスの作成 259 ページの • パスの編集 260 ページの • アンカー ポイントの追加または削除 273 ページの  、  、  、  またはをクリックする場合にのみ使用できます。 （ツールペイン > **PitStop** 編集パネル）

2.10. PitStop Proショートカット：概要

PitStop Proには、定義済みショートカットのセットがあります。次に一覧で示します。



注: これらのキーボードショートカットをカスタマイズするか、独自のショートカットセットを作成できます。詳細については、*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページのを参照してください。

全般

Windows	Mac	説明
Alt+Ctrl+N	⌥⌘N	新規PDF文書を作成します。
Alt+Ctrl+Z	⌥⌘Z	最後のアクションを元に戻します。
Alt+Ctrl+Y	⌥⌘Y	最後に取り消した操作をやり直します。
Alt+Ctrl+R	⌥⌘R	次のダイアログボックスから最後に使用したものを開きます。 • プリフライトプロファイル • グローバル変更 • アクションリスト • **QuickRuns**
Alt+Ctrl+P	⌥⌘P	[プリフライトプロファイル] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+G	⌥⌘G	[グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+A	⌥⌘A	[アクションリスト] ダイアログボックスを開きます。
Alt+Ctrl+Q	⌥⌘Q	**[QuickRun]** ダイアログ ボックスを開きます。
• Alt+Shift+Ctrl+A • Alt+Shift+Ctrl+B	• ⌥⇧⌘A • ⌥⇧⌘B	実行： • QuickRun のお気に入り 1 • QuickRun のお気に入り 2
Alt+Ctrl+I	⌥⌘I	**[Enfocus** インスペクタ] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+C	⌥⌘C	**[Enfocus** カラー変換パネル] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+O	⌥⌘O	**[Enfocus** 出力インテント パネル] ダイアログ ボックスを開きます。

Windows	Mac	説明
Alt+Ctrl+U	⌥⌘U	[**Enfocus** ワークスペースパネル] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+E	⌥⌘E	[**Enfocus** デザインレイアウトパネル] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+K	⌥⌘K	[**Enfocus PitStop Pro** 環境設定] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+J	⌥⌘J	[**Enfocus PitStop Pro** バージョン情報] ダイアログ ボックスを開きます。
Alt+Ctrl+L	⌥⌘L	[**EnfocusPDF** の配置] ダイアログ ボックスを開きます。

オブジェクトの編集時

Windows	Mac	説明
Alt+Ctrl+F	⌥⌘F	選択したオブジェクトを前面にします。
Alt+Ctrl+B	⌥⌘B	選択したオブジェクトを背面にします。
Alt+è	⌥7	選択したオブジェクトからマスクを作成します。 注: 1つ以上のオブジェクトと1つのラインアートまたはテキストオブジェクトを選択する必要があります。
Alt+Ctrl+è	⌥⌘7	マスクを解除します。
Alt+Ctrl+S	⌥⌘S	すべてのオブジェクトが表示されます。
Alt+Ctrl+H	⌥⌘H	選択したオブジェクトを非表示にします。
Alt+Ctrl+T	⌥⌘T	Enfocus トリム ボックスを設定します。
Alt+Ctrl+V	⌥⌘V	選択したオブジェクトに光沢を作成します。

デザインレイアウトが有効で、*[デザインレイアウトを編集]* ツールを選択したとき

デザインレイアウト 99 ページの も参照してください。

Windows	Mac	説明
入力	入力	現在のページにデザインレイアウトを適用します。
Shift+Enter	⇧Enter	文書全体にデザインレイアウトを適用します。
Ctrl	⌘	このキーを押したままにすると [選択] ツールに切り替わります。キーを離すと [デザインレイアウトを編集] ツールに戻ります。
V	V	ページの中央に垂直ガイドを追加します。

Windows	Mac	説明
H	H	ページの中央に水平ガイドを追加します。
+	+	新しいガイドを追加します。
-	-	選択したガイドを削除します。
Esc	Esc	デザインレイアウトをアクティブ解除します。
G	G	ガイドを表示または非表示にします。
C	C	デザインレイアウトを中央に揃えます。
S	S	現在のデザインレイアウトを保存します。
R	R	保存しているデザインレイアウトのバージョンに復元します。
D	D	現在のデザインレイアウトを複製します。
Shift	⇧	ドラッグしているガイドを複製します。
矢印キー	矢印キー	デザインレイアウト全体を移動します。
Shift+矢印キー	⇧矢印キー	より大きな距離でデザインレイアウト全体を移動します。

2.11. PitStop 編集ツール：修飾キー

PitStop 編集ツールを切り替える***2***つの方法

PitStop 編集パネルでツールを使用する場合は、これらを頻繁に切り替える必要があります。たとえば、オブジェクトを拡大/縮小する場合は、まずスケールツールをアクティベートしてからオブジェクトを選択し、ドラッグしてオブジェクトの大きさに比例するようにし、そのコピーを作成することもできます。

これを行うには、さまざまなツールをツールペインでクリックするか、または修飾キー（CTRL/CMD、SHIFT、ALT/Option）を使用して切り替えることができます。この最後のオプションがより効率的であることは明らかです。

例

オブジェクトの大きさに比例してコピーするには、次の手順を実行します。

修飾キーを使用する（*4* つの手順）：

1. PitStop 編集スケールツール をアクティベートします（アイコンが緑色に変わります）。
2. CTRL/CMD + を押して、スケーリングするオブジェクトを選択します。
3. SHIFT キーを押しながらドラッグすると、オブジェクトに比例してスケーリングします。
4. ALT/Option キーを押しながらドラッグすると、選択したオブジェクトのスケーリングしたコピーが作成されます。

修飾キーなし（*8*つの手順）：

1. PitStop オブジェクト選択ツール をアクティベートします（アイコンが緑色に変わります）。
2. スケーリングするオブジェクトをクリックします。
3. PitStop 編集スケールツール をクリックします（アイコンが緑色に変わります）。
4. 選択ハンドルの 1 つ（コーナーにある）を原点の中心に向かって、または中心から離してドラッグします。
5. PitStop オブジェクト選択ツール をクリックします（アイコンが緑色に変わります）。
6. スケーリングするスケーリングしたオブジェクトをクリックします。
7. 右クリックしてコンテキストメニューを開き、[コピー]をクリックします。
8. 右クリックしてコンテキストメニューを開き、[貼り付け]をクリックします。

概要

全般に：

- **CTRL**（Windows）または **CMD**（Mac）は、アクティブな PitStop 編集ツールと PitStop オブジェクト選択ツールを切り替えるために使用されます。
- 複数のオブジェクトを選択したり、PitStop 編集や PitStop オブジェクト選択ツールを制約するには、**SHIFT** を使用します。
- **ALT**（Windows）または **Option**（Mac）を使用して、アクティブな選択のコピーを作成します。

正確な機能については、以下の概要を参照してください。

アクティブツール	**CTRL** を使用する（**Win**） **CMD** を使用する（**Mac**）	**SHIFT** を使用する	**ALT** を使用する（**Windows**） オプションを使用する（**Mac**）
	選択範囲を移動させる	一度に複数のオブジェクトを選択する	選択矩形内に部分的または完全に囲まれたオブジェクトを選択する（PitStop Pro設定 - 編集カテゴリを参照）
	選択する手順	選択された水平軸または垂直軸に沿って選択範囲を移動する	新しい場所に選択項目のコピーを作成する
	選択する手順	選択範囲を固定角度で回転させる	選択範囲の回転させたコピーを作成する
	選択する手順	シアーを固定の角度に制限する	選択範囲のシアーさせたコピーを作成する
	選択する手順	オブジェクトに比例してスケーリングする	選択範囲のスケーリングさせたコピーを作成する
	選択する手順	正方形を描画する	辺ではなく中心点から長方形を描画する

アクティブツール	**CTRL** を使用する（**Win**） **CMD** を使用する（**Mac**）	**SHIFT** を使用する	**ALT** を使用する（**Windows**） オプションを使用する（**Mac**）
	選択する手順	円を描画する	辺ではなく中心点から楕円形を描画する
	属性をコピーします。これは Enfocus インスペクタにも記載されています。	-	-
	-	アンカーポイントを選択する（選択後）	-
	フォームと内容を選択する	（他の修飾キーと組み合わせて）複数のフォームや内容を選択する	内容は選択されるが、フォーム自体は選択されない
	-	隣り合っている単語を選択する	-

詳細については、オブジェクトの編集に関するトピックまたはツールペインの概要（すべての関連トピックへのリンクを参照）を参照してください。

修飾キーの環境設定

PitStop 2018 では、CTRL/CMD と SHIFT の修飾キーの機能を変更できる新しい環境設定が導入されました。つまり、上表の 3 番目の列に記載されている機能にはCTRL/CMDを、2 番目の列には SHIFT を使用できます。

これは、Adobe Output Preview ダイアログを使用しているユーザーにとっての回避策です。このダイアログがアクティブな場合、PitStop 編集ツールがアクティブな状態で SHIFT を使用すると、正しく機能しません。代わりに、アイコンを挿入します。PitStop の修飾キーを切り替えることで、通常 SHIFT に関連付けられている機能が CTRL/CMD で使用できるようになります。

この環境設定は、[出力プレビュー]ダイアログがアクティブでない場合にも有効になります。

この環境設定は、デザインレイアウトツールにも適用されます。デフォルトの動作は次のとおりです。

アクティブツール	**CTRL** を使用する（**Win**） **CMD** を使用する（**Mac**）	**SHIFT** を使用する
	選択する手順	ドラッグしているガイドを複製する

3. PitStop Pro 環境設定の設定

3.1. PitStop Pro とStatusCheck 環境設定

PitStop Pro にはStatusCheckという Certified PDFプラグインが付属します。Certified PDF は PitStop Pro をインストールする際に自動的にインストールされ、両方の環境設定も設定できます。

3.2. 環境設定の共有

環境設定は共有できます。つまり、いったん環境設定を指定すれば、他の Enfocus 製品と共有することができます。たとえば、PitStop ProとStatusCheckの両方で同じ言語を使用できます。

3.3. PitStop Proの環境設定を表示する手順

[**Enfocus PitStop Pro**環境設定]を表示するには、以下の手順に従います。

[編集] > [環境設定] (Windows) または **[Acrobat]** > [環境設定] (Mac) の順に選択し、以下のいずれかを選択します。

- **Enfocus PitStop Pro**環境設定
- **Enfocus StatusCheck** 環境設定 (Certified PDFプラグインの環境設定)



注: サンプルの PDF 文書を開いて、環境設定を対話形式でテストすることもできます。環境設定を選択して適用し、PDF 文書にどのように反映されたかを確認します。

3.4. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [一般]

3.4.1. 処理中

アクション リストまたはプリフライトプロファイルを実行するときに、そのアクションまたはプリフライト チェックの結果を表示する必要がある場合があります。これらの結果の参照方法を以下の中から選択できます。

- **Enfocus** ナビゲータ で参照

- プリフライト レポートで参照

[レポートのスタイル（**Report Style**）] ドロップダウン メニューで、プリフライト レポートで結果を表示するときに使用するレポートのレイアウト スタイルを選択できます。

Enfocus ナビゲータ を使用する場合は、PDF 文書でチェック、修正または変更したオブジェクトを参照できますが、レポートのレイアウトを最初に選択し、[レポートの表示] ボタンをクリックすることでも参照できます。

3.4.2. 文書を保存

PDF 文書で使用される PDF 規格のバージョン番号と、PDF 文書が互換性を持つ Adobe Acrobat のバージョン番号は異なります。「PDF 規格のバージョン」を「PDF バージョン」と略して呼ぶ場合もあります。

PDF バージョン	対応する **Acrobat** のバージョン
PDF 1.3	Adobe Acrobat 4.x 以上
PDF 1.4	Adobe Acrobat 5.x 以上
PDF 1.5	Adobe Acrobat 6.x 以上
PDF 1.6	Adobe Acrobat 7.x 以上
PDF 1.7	Adobe Acrobat 8.x 以上

Adobe Acrobat のバージョンとは対応するバージョンが異なる PDF 文書を編集する場合、文書の PDF バージョンが変更されてしまうことに気付かない場合があります。たとえば、前回 Adobe Acrobat 5.x で保存した PDF 文書があるとします。この文書の PDF バージョンは 1.4 です。この PDF 文書を Adobe Acrobat 7.x で開き、変更してから保存します。通常、この文書の PDF バージョンは 1.6 に変わります。これを防ぐために、[**PDF** のバージョンの自動増加を防止] オプションを選択することができます。

注:

- PDF 1.7 (Acrobat 8) 文書を Adobe Acrobat 7 で開くことはできますが、この場合には、文書を正しく開いたり表示したりできない場合があるという警告が表示されます。これらの文書は Adobe Acrobat 7 で編集および保存でき、かつ PDF のバージョンを 1.7 に保つことができます。

- 例外として（「名前を付けて保存」を使用して署名済みPDFを編集および保存しようとしたときなど）、保存時に **PDF** バージョンが自動的に変更することを防ぐが有効な場合でも、Acrobatはバージョン番号を上げます。

3.4.3. トリムボックスの余白

[水平] および [垂直] テキストボックスに値を入力します。これらの値は、選択内容に相対的にトリムボックスを定義するときに余白を設定するために使用されます。

3.4.3.1. 選択に対するトリムボックスを設定する

選択に対するトリムボックスを設定する手順

1. [PitStopオブジェクト選択]ツールを使用して、デザインを1つまたは複数選択します。
2. **PitStop Pro** > [オブジェクト] > [トリムボックスの設定]を選択します。
   [トリムボックスの余白環境設定]で指定されたマージンでトリムボックスが設定されます。

3.5. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [編集]

3.5.1. 取り消しの回数

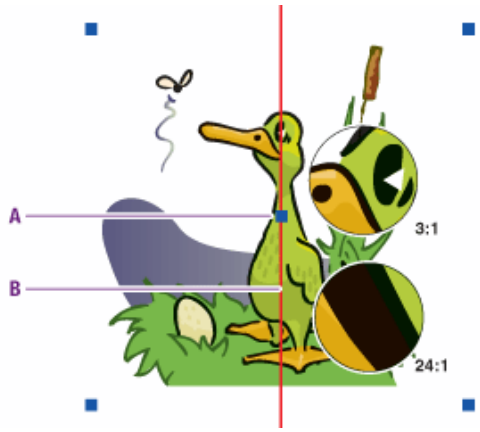
取り消しの回数を指定します。取り消しの回数を多くすると、より多くのメモリが必要となることに注意してください。

3.5.2. テキストのワイヤフレーム表示

ワイヤフレームのテキストを表示する方法を決定します。別のオプションについては、ワイヤフレーム ビューとは 74 ページのを参照してください。

3.5.3. オブジェクト選択時に中央ハンドル表示

選択対象の中心点を表示するかどうかを選択できます。たとえば、多数のオブジェクトの中心を揃える場合など、選択対象の中心点を表示すると便利な場合があります。ガイドを使用し、選択対象の中央ハンドルをガイド上で正確に位置決めできます。



ガイド (**B**) 上にある選択対象の中央ハンドル (**A**)

3.5.4. オブジェクト上でマウス ポインタを変更する

オブジェクト上にポインタを移動する際、ポインタが から に変わるよう選択することができます。これにより、いつオブジェクトをクリックして選択すればよいかがわかります。ただし、オブジェクトが多数存在する複雑な PDF 文書では、性能に悪い影響が出るため、行わない方がよいことがあります。

3.5.5. 選択対象をドラッグしてオブジェクトを移動

このオプションを選択すると、オブジェクトを選択した直後にドラッグして移動することができます。選択しない場合、**CONTROL** (**CTRL**) キー (Windows の場合) または **Command** ( ) キー (Macintosh の場合) を押しながら選択したオブジェクトを移動します。

3.5.6. 修飾キー

PitStop Pro で使用する修飾キーを選択します。

一方は CTRL（Windows の場合）と CMD（Mac の場合）、もう一方の場合は SHIFT のいずれかを選択できます。両方の機能に同じ修飾キーを使用することはできません。

デフォルトの組み合わせは次のとおりです。

- 有効な編集ツールと選択ツールを切り替える優先キー：CTRL (Windows) または CMD (Mac)
- 複数のオブジェクトを選択し、編集ツールと選択ツールを維持する優先キー：SHIFT

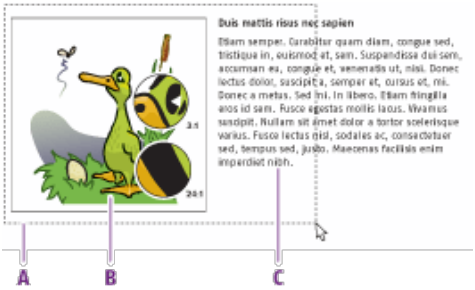
これは、Adobe Output Preview ダイアログを使用しているユーザーにとっては回避策ですが、SHIFT キーと組み合わせた PitStop 編集ツールをサポートしていません。したがって、複数のオブジェクトを選択する機能を使用し、編集ツールと選択ツールを制約するには、このプリファレンスを（SHIFT ではなく）CTRL/CMD に設定する必要があります。

詳細については、*PitStop* 編集ツール：修飾キー 45 ページのを参照してください。

3.5.7. 選択領域のドラッグ時には **Alt** キーを長押し

Alt キーを押しながらドラッグしてオブジェクトを選択するときの動作を以下の中から選択することができます。

- 選択対象とオーバーラップしているバウンディング アウトライン (点線の矩形でマーキーとも呼ばれる) も同時に選択。
- バウンディング アウトラインの内側にあるオブジェクトのみを選択。

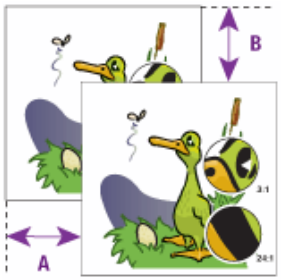


A. 選択対象のバウンディング アウトライン *(マーキーとも呼ばれる点線の矩形)*
B. バウンディング アウトラインの内側にあるオブジェクト
C. バウンディング アウトラインと重なり合ったオブジェクト

3.5.8. コピーしたオブジェクトを貼り付け

オブジェクトをコピーし、オフセットとともに貼り付ける場合に、このオプションを使用します。オブジェクトは、ここの [水平オフセット（**Horizontal Offset**）] および [垂直オフセット（**Vertical Offset**）] テキストボックスで入力した座標のオフセットとともに貼り付けられます。

例: [水平オフセット（**Horizontal Offset**）] および [垂直オフセット（**Vertical Offset**）] テキストボックスに 5 ポイントを入力すると、元のオブジェクトに比べ、5 ポイント右下に配置されます。



例：水平オフセット (右) (**A**) と垂直オフセット (下) (**B**)

3.5.9. 新規オブジェクトの既定のスタイル

PitStop Proで新規のテキスト オブジェクトおよび線画オブジェクトに設定されたデフォルト設定を変更する場合に役に立ちます。

PitStop Proでの新規テキスト オブジェクトのデフォルト設定は Arial 12 ポイントです。この設定を変更するには、目的のフォント/サイズのテキスト オブジェクトを選択し、[テキスト スタイルを選択（**Grab Text Style**）] ボタンをクリックします。

PitStop Proでの新規線画オブジェクトのデフォルト設定は線要素です。この設定を変更するには、目的の属性を持つ線画オブジェクトを選択し、[線画スタイルを選択（**Grab Line-art Style**）] ボタンをクリックします。

3.5.9.1. テキストおよび線画のデフォルトの属性を新規オブジェクトに使用する

PitStop Pro ツールの 1 つを使用して新規オブジェクトを作成する場合、これらのオブジェクトに特定のデフォルトの属性を適用できます。たとえば、[テキスト行の編集] または[段落の編集]ツール を使用してPDF文書内で新規テキストを入力する際に、対象テキストのフォントとして10ptのHelveticaのフォントを使用したい場合があります。また、新規の長方形や楕円形を作成する場合、これらのオブジェクトがデフォルトで特定の塗りや線のカラーになるようにしたい場合があります。

次の手順に従います。

1. 属性を使用するオブジェクトを含む PDF 文書を開きます。
2. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、PDF 文書のテキストまたは線画を選択します。
3. 必要に応じて、Enfocus インスペクタを表示し、選択したオブジェクトの属性 (フォント、カラーなど) を確認したり変更したりします。

   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
4. [編集] > [環境設定] > [**Enfocus PitStop Pro**環境設定]を選択し、[編集]カテゴリを選択します。
5. [テキスト スタイルを選択] ボタンまたは[線画スタイルを選択] ボタンをクリックして、新規オブジェクトの作成時に選択したオブジェクトの属性を使用します。

   注: [**Enfocus PitStop Pro**環境設定]パネルを開いたままにして、テキストや線画を選択し、それぞれの環境設定を設定することができます。

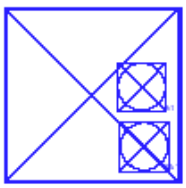
3.6. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [カラー]

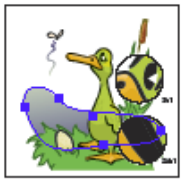
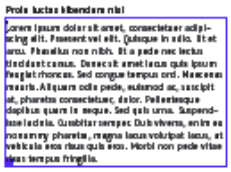
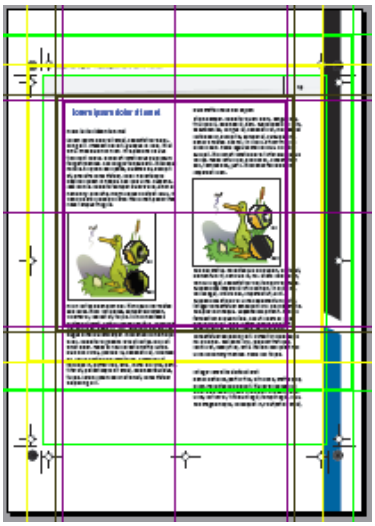
3.6.1. カラーの変更

カラーを変更する手順

1. カラーパッチをダブルクリックします。
2. カラー ホイール内の任意の場所をクリックします。
3. 必要に応じて、カラー ホイールの右側にあるスライダをドラッグし、カラーの [色相]、[彩度] または [明るさ] を変更します。
4. 必要なカラーを定義し、**[OK]** をクリックします。

   以下のカラーを定義することができます。

カラー	例
ワイヤフレーム オブジェクト	
選択したオブジェクト	
選択したフォーム オブジェクト	

カラー	例
選択したクリッピング マスク カラー	
編集中の段落	
ページボックス	
ナビゲータ陰影カラー	

カラー	例
	

3.7. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [言語]

3.7.1. PitStop Pro ユーザーインターフェイスの言語の変更

のユーザー インターフェイスの言語を変更する手順

1. 環境設定ダイアログを開き、言語カテゴリに切り替えます。
2. 必要に応じて、**StatusCheck**と言語を共有チェックボックスをオンまたはオフにします。

   このチェックボックスはデフォルトでオンです。Enfocus PitStop ProとStatusCheck（同じコンピュータに存在し、同じバージョンのソフトウェアに対応）が同じ言語環境設定を使用できます。
3. PitStop Pro のユーザー インターフェイスに使用する言語を選択し、**[Acrobat**と同じ**]** をクリックします。

   サポート対象の言語：

   - 英語
   - フランス語
   - ドイツ語
   - オランダ語
   - イタリア語
   - スペイン語
   - ポーランド語
   - ブラジルポルトガル語
   - 中国語

- 日本語

プリセット（アクションリスト、プリフライトプロファイルなど）は英語および日本語でのみ使用できます。PitStop Pro インターフェイスの言語が日本語に設定されている場合は、日本語で使用できます。その他のすべての言語では、プリセットは英語で使用できます。

4. **[OK]** をクリックします。
5. Adobe Acrobat を再起動します。

3.8. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [フォント]

一部のフォントのライセンスは印刷と表示にのみ供与されている場合があります。そのため、（アウトラインへの変換などの）特定のフォント操作を実行する前に、PitStop Proはフォントプロバイダによって許可されているかどうかを確認します。

ただし、フォント提供者と契約している場合やライセンス条件を確認している場合には、希望する操作が許可されていることを確認してください。この場合、**[**フォントライセンスの確認を省略する**]**チェックボックスをオンにして、フォントライセンス制限を無効にしてください。ダイアログが表示されます。よくお読みいただき、ご同意のうえ、**[Yes]**をクリックしてください。フォントライセンス制限を遵守する責任があります。

3.9. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [カラー マネージメント]

3.9.1. カラーマネージメントとは

カラー マネージメント システム (CMS) は、入力デバイス (スキャナ、デジタル カメラ等) と出力デバイス (プリンタ、印刷機等) のそれぞれ異なるカラー適正を調整し、作成、表示および印刷の各プロセス全体を通して一貫したカラーが得られるよう設計されています。これにより、最終出力のカラーを正確にモニター上で再現できるようになります。また異なるアプリケーション、モニター、オペレーティング システムでも、一貫して同じカラーが表示されるようになります。

3.9.2. カラー変換に ICC カラープロファイルを使用する

プリフライト中および修正中に変換が行われる場合は、デバイス間にあるカラーの違いを解消する、あるいは最小限に抑えるために、ICC (International Color Consortium) カラープロファイルを使用できます。

ICC カラー プロファイルは、特定のデバイスで使用されるカラー スペースを厳密に記述したものです。テキスト、グラフィックおよび画像など PDF 文書中のすべてのオブジェクトは、指定されたカラースペース (グレースケール、RGB または CMYK) を含む ICC プロファイルに関連付けまたは「タグ付け」することができます。

PitStop Pro の環境設定では、カラー スペースごとに ICC プロファイルを選択できます。画像とその他のオブジェクトに異なる設定を使用する場合は、[画像にはその他のオブジェクトとは異なる設定を使用する] をオンにします。すると、下にあるペインが画像用のとその他のオブジェクト用の 2 つのタブを表示します。

ただし場合によっては、使用するプリフライトプロファイルまたはアクションリストでも ICC プロファイルが指定されていることがあります。その場合、各プリフライトプロファイルおよびアクションリスト内の ICC プロファイルは、PitStop Pro環境設定で選択したものよりも優先されます。

3.9.3. カラーマネージメントを使用する

カラーマネージメント設定はプリセットとして扱われ、次の 2 つの方法でアクセス可能です。

- [編集] > [環境設定] > **[Enfocus PitStop Pro**環境設定]を選択し、[カラーマネージメント]カテゴリを選択します。［カラーマネージメントの設定］は、［プリセットマネージャ］を使用して表示されます。*Enfocus* プリセット マネージャ 77 ページのを参照してください。

  このプリセットマネージャを使用すると、事前定義のセットを選択して［適用］ボタンをクリックしてそれを使用したり、［カラーマネージメントプリセットエディタ］で独自のカラーマネージメントプリセットを作成することが可能になります。カラー マネージメント プリセット エディターを使用する 58 ページの を参照してください。

  プリセットマネージャの下には、［現在適用されているカラーマネージメント環境設定］の概要が表示されます。

- ツールバーのカラーマネージメントを使用すると、カラーマネージメントのプリセットを選択して［カラーマネージメントの環境設定］を開いたり［カラーマネージメントプリセットエディタ］を開くことができます。

3.9.4. カラー マネージメント プリセット エディターを使用する

1. 名前と説明の定義
2. プリセット内でアクティブな設定を使用する場合は、[アクション] メニューから [現在のカラー マネージメント環境設定を選択] を選択します。これらの設定はすべて自動的に入力されます。
3. プリセット内で Acrobat 環境設定を使用する場合は、[アクション] メニューから [現在 **Acrobat** 環境設定を選択] を選択します。
4. [全般] タブで全般的なカラーマネージメント設定を編集します。
5. [画像] タブで、[全般的なカラー設定を適用] チェックボックスを選択して画像に対しても全般設定を適用したり、[カラーマネージメントを有効にする] チェックボックスを選択して全般カラー設定を無効にして画像に対する個別の設定を編集できます。

6. 各カラー スペースについて、デフォルトのソースおよびターゲットの ICCプロファイルを選択します。**[Acrobat** と同期**]** を選択すると、Acrobat 環境設定で定義された対応する ICC プロファイルが使用されます。
7. 使用する **[CMM** エンジン**]** を選択し、必要に応じて [ブラック ポイント補正を使用] チェックボックスを選択します。
8. [保存] ボタンをクリックして単に設定を保存するか、[保存して適用] ボタンをクリックして設定を保存するだけでなく適用も行います。

3.10. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus PitStop Pro 環境設定（Enfocus PitStop Pro Preferences）] > [変数セット（Variable Sets）]

変数と変数セットについて

変数は、動的な値によって置換される認識性の高い特殊な文字列です。変数データは、プロパティの値を提供するために使用できます。

PitStop Pro で変数セットを使用すると、プリフライトチェックおよびアクションリストのパラメータをランタイムに変更できます。手動入力などのソースからのデータを使用できます。

PitStop Proには多数の変数セットが付属しています。変数セットをそのまま使用したり、変数を使い変数セットを拡張することができます。

変数セットの適用

アクションリストおよび/またはプリフライトプロファイルで変数を使いたい場合は、変数が定義されている変数セットをアクティベートするか「適用」します。その場合、関係する変数セットを選択して、[適用]ボタンをクリックします。

変数セットおよびスマートプリフライトの設定についての詳しい情報は、スマートプリフライトの章を参照してください。

3.10.1. 変数セットの概要

以下の変数セットはPitStop Proに付属しています。

変数セット	説明
スマートプリフライト 変数セット - PitStop Pro - v1.1	この変数セットは、スマートプリフライト-PitStop Pro - v1.1 プリフライトプロファイルで使用するために設定されました。PitStop Proの古いバージョンと使うことができます。
スマートプリフライト 変数セット - PitStop Pro - v1.2	これは、PitStop 2017で提供される既定のアクションリストのいくつかで使用するための変数を含むバージョン1.1スマートプリフライト変数セットの拡張です。

変数セット	説明
スマートプリフライト 変数セット - PitStop Pro - v1.3	これは、PitStop 2018で提供される既定のアクションリストのいくつかと使用するための追加の変数を含むバージョン1.2スマートプリフライト変数セットの拡張です（バーコード生成、オフセットパス、カラー値）。
スマートプリフライト 変数セット - PitStop Pro - v1.4	これは、デジタルカットシートおよびデジタル大判用のGWGプリフライトプロファイルと使用するための追加の変数を含むバージョン1.3スマートプリフライト変数セットの拡張です。これには、PitStop 2019以降でのみサポートされる多くの計算変数が含まれます。
GWG_Digital_Cutsheet_2015_CMYK + RGB	これは、デジタルカットシート用のGWGプリフライトプロファイルに必要となる変数を含む変数セットです。
GWG_Digital_Large_Format_2015 CMYK + RGB	これは、デジタル大判用のGWGプリフライトプロファイルに必要となる変数を含む変数セットです。

ヒント: スマートプリフライト 変数セット - PitStop Pro - v1.4を適用すると、PitStop Proに付属するすべてのスタンダードプリフライトプロファイルを実行できます。

3.11. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [単位 & ガイド]

3.11.1. 単位 & ガイド

PitStop Pro の各ダイアログ ボックス内の設定値の後ろに表示される測定単位およびガイドを選択することができます。

測定値
[単位] ドロップダウン メニューで、PitStop Pro ツール、プリフライトプロファイルおよびアクションリストで使用する測定単位を選択します。

たとえば、2 点間の距離を測定したり、オブジェクトの位置を決めるときには、その距離をミリメートル単位かインチ単位で表示することになります。特定のプロパティは常に共通の測定単位を使用します。たとえば、フォントサイズはつねにポイント (pt.) で、単語または文字の間隔については、em 幅で指定されます。

RGB カラー要素の値を 0 ～ 255 の範囲ではなく、パーセントとして表示する場合は、[パーセント値を表示（**Show percentages**）] チェックボックスを選択します。

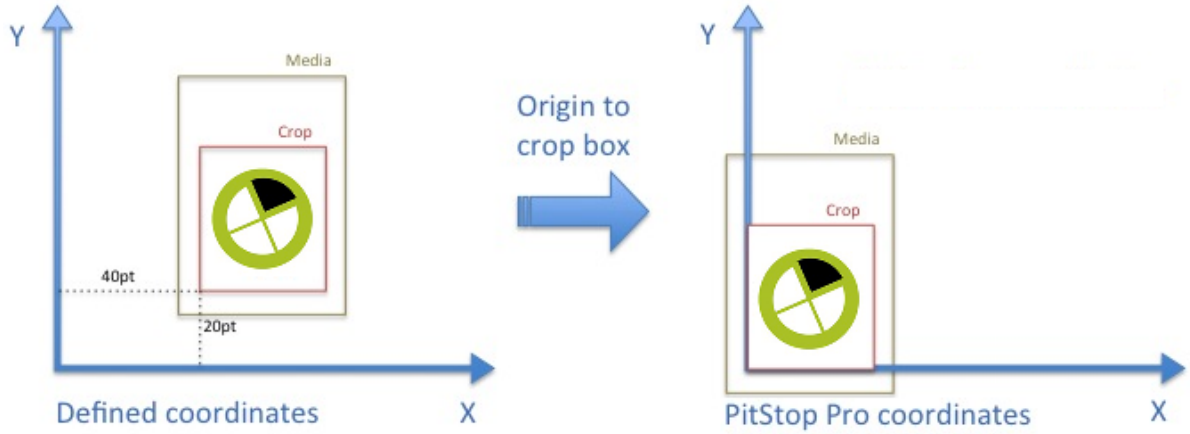
ページ座標

[x-y 軸を回転（**Rotate x-y axis**）] チェックボックスを選択すると、PitStop パネルの絶対座標では、ユーザーが表示を回転させた場合の座標の変更など、Acrobat の表示回転設定が考慮されます。

[x-y 軸を回転（**Rotate x-y axis**）] チェックボックスを選択しない場合、PitStop パネルの絶対座標では、ユーザーが表示を回転させた場合の座標の変更など、Acrobat の表示回転設定が無視されます。

いずれの場合でも、PDF ページに保存された回転キーは適切に尊重されます。

原点リストでは、ページ座標の原点をページボックスのいずれか（メディア、クロップ、トリム、アートボックス）と一致させることができます。つまり、PitStop Proは、チェックボックスの左下に相対的にすべてのXおよびY座標を表示します。



ガイド
マグネット領域に移動したオブジェクトをガイドにスナップさせるには、[ガイドにスナップ（**Snap to guides**）] チェックボックスを選択します。

[スナッピング許容範囲（**Snapping Tolerance**）] テキストボックスに、マグネット領域を入力します。たとえば、5 pt を入力すると、オブジェクトをガイドから 5 pt 以内の範囲に移動すると、オブジェクトがガイドにスナップします。

3.12. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]

注: 他のPresetsとは異なり、ショートカットは環境設定でのみ構成できます。

Enfocus PitStop Proショートカット

Enfocus PitStop Proには、ツールにアクセスするための様々な定義済みキーボードショートカットがあります。

以下にその例を挙げます。

- [プリフライトプロファイル]ダイアログを開くには、**Alt+Ctrl+P**（Windows）または⇧+⌘+**P**（Mac）を押します。
- [グローバル変更]ダイアログを開くには、**Alt+Ctrl+G**（Windows）または⇧+⌘+**G**（Mac）を押します。

これらのキーはそのまま使用するか、独自のショートカットを使用できます。

完全な一覧については、*PitStop Proショートカット：概要* 43 ページのを参照してください。

カスタマイズされたショートカット

独自のショートカットを使用する場合は、新しいショートカットセットを作成し、適用します。1つまたは2つのショートカットを変更する場合にもこのことが該当します。独自にショートカットを変更することはできません。



注: PitStop Proメニューのショートカットだけを設定できます。Adobe Acrobatまたは他社製のプラグインメニューオプションのショートカットは変更できません。

システムにはさまざまなショートカットセットを用意できます。これは同じコンピュータを複数のオペレーターが使用している場合に便利です。各オペレーターが独自のショートカットセットを使用できます。1つのセットだけを適用できます。

すべての使用可能なセットはショートカットペインの上部に表示されます。現在適用されているセットは下部に表示されます。

ショートカットセットの管理

ショートカットペインでは、ショートカットセットを管理できます。例：

- 新しいショートカットセットを作成します。
- 既存のショートカットセットを表示します。
- 既存のショートカットセットをエクスポートまたはインポートします。
- セットの名前を変更します。
- セットを削除します。
- セットを印刷します。
- セットをフォルダにグループ化します。

 をクリックするか、ショートカットセットを右クリックして、使用可能なオプションを表示します。

3.12.1. ショートカットセットの作成

事前に定義されたPitStop Proショートカットを使用しない場合、または追加のショートカットを設定する場合、独自のセットを作成できます。

ショートカットセットを作成する手順

1. [編集] > [環境設定]（Windows）または**[Acrobat]** > [環境設定]（Mac）を開き、**[EnfocusPitStop Pro**環境設定]を選択します。
2. [カテゴリ]フィールドで、[ショートカット]をクリックします。

[ショートカット]ペインに、すべての使用可能なショートカットセットが表示されます。アクティブなショートカットセットは[現在適用されている]セクションに表示されます。

3. ペインの右部分で、（必要に応じて）フォルダを選択し、  をクリックします。

   フォルダを選択しない場合、新しいショートカットセットは[####]に保存されます。後から必要に応じて、ショートカットセットを移動することができるます。

4. 新しいショートカットセットを作成するには、以下のいずれかを実行します。

   - PitStopで使用可能な既存のショートカットセットから作成を開始する場合は、[新規] > [既存から新規作成]を選択し、関係するショートカットセットを選択します。
   - コンピュータに保存された書き出されたショートカットセットから作成を開始する場合は、[新規] > [ファイルから新規作成]を選択し、関係するショートカットセットを選択します。

     ショートカットセットは拡張子が.escのファイルです。
   - 現在適用されているショートカットセットから作成を開始する場合は、[新規]をクリックします。

   ショートカットプリセットエディタが表示されます。すべてのPitStop Proメニューコマンドとそれに対応するショートカットが、現在適用されているショートカットセットで定義されているとおりに表示されます。

5. ショートカットセットの名前と説明を入力します。

6. 必要に応じてショートカットを修正します。

調整	手順
既存のショートカットを修正または新規に追加する手順	1.ペイン上部でメニューコマンドを選択します。 2.[ショートカットを編集]セクションで、新規ショートカットを設定します。 • Windows: 必要に応じて**[Alt+]**、**[Shift+]**、および/または**[Ctrl+]**ボタンをクリックします。選択されたボタンが青でハイライトされます。 ショートカットから修正キーを削除するには、**[Alt+]**、**[Shift+]**、および/または**[Ctrl+]**を再度クリックし、ハイライトを取り消します。 Mac の場合: 必要に応じて[⌥⌘+]、[⇧+]、および/または[⌘+]ボタンをクリックします。選択されたボタンが青でハイライトされます。 ショートカットから修正キーを削除するには、⌥⌘[+]、⇧[+]、および/または⌘[+]を再度クリックし、ハイライトを取り消します。

調整	手順
	• 最後のフィールドに文字を入力します。大文字のみが使用できます。 新しいショートカットの組み合わせがリストに表示されます。
既存のショートカットを削除する手順	1.ペイン上部でメニューコマンドを選択します。 2.[ショートカットの削除]ボタンをクリックします。
デフォルトEnfocusPitStop Proショートカットを復元する手順	1.[すべてのショートカットをリセット]ボタンをクリックします。 デフォルトのショートカットがリストに表示されます。



注: 既に使用中の組み合わせや、使用できない組み合わせを選択した場合、エラーが表示されます。

7. 次のいずれかを実行します。
   - 新しいショートカットセットを保存、適用し、すぐに使用開始するには、[保存して適用]をクリックします。
   - 新しいショートカットセットを適用せずに保存する場合は、[保存]をクリックします。

   ショートカットプリセットエディタが終了します。新しいセットが画面の上部に表示されます。

3.12.2. ショートカットセットを書き出す

他のPitStopユーザと共有したり、他のコンピュータで使用するためにショートカットセットを書き出すことができます。

ショートカットセットを書き出すための手順

1. [編集] > [環境設定]（Windows）または**[Acrobat] > [環境設定]**（Mac）を開き、**[EnfocusPitStop Pro環境設定]**を選択します。
2. [カテゴリ]フィールドで、[ショートカット]をクリックします。
   [ショートカット]ペインに、すべての使用可能なショートカットセットが表示されます。アクティブなショートカットセットは[現在適用されている]セクションに表示されます。
3. 次のいずれかを実行します。
   - 1つのショートカットセットを書き出す手順
     1. 書き出しするショートカットセットを選択します。
     2. [読み込み／書き出し] > [書き出し]を選択します。
     3. 書き出されたショートカットセットの保存先を選択し、[保存]をクリックします。
   - 複数のグループ化されたショートカットセットを書き出す手順
     1. 書き出しするフォルダを選択します。

2. [読み込み／書き出し] > [グループの書き出し]を選択します。
3. 書き出されたフォルダの保存先を選択し、[保存]をクリックします。

ショートカットセットがEnfocusショートカットセットとして、拡張子が.escのファイルで保存されます。

3.12.3. ショートカットセットを取り込む

PitStopから以前に.escファイルとして書き出されたショートカットセットを取り込むことができます。



注: 異なるオペレーションシステムや、異なるバージョンのAcrobatからショートカットセットを取り込まないで下さい。

ショートカットセットを取り込むための手順

1. [編集] > [環境設定]（Windows）または[**Acrobat**] > [環境設定]（Mac）を開き、[**EnfocusPitStop Pro**環境設定]を選択します。
2. [カテゴリ]フィールドで、[ショートカット]をクリックします。
   [ショートカット]ペインに、すべての使用可能なショートカットセットが表示されます。アクティブなショートカットセットは[現在適用されている]セクションに表示されます。
3.  をクリックします。
4. 次のいずれかを実行します。
   - 1つのショートカットセットを取り込むための手順
     1. [読み込み／書き出し] > [取り込み]を選択します。
     2. 取り込みするショートカットセットを選択します。
     3. [開く] をクリックします。
   - 複数のグループ化されたショートカットセットを取り込む手順
     1. [読み込み／書き出し] > [グループの取り込み]を選択します。
     2. 1つ以上のショートカットセットを含むフォルダを選択します。
     3. [フォルダを選択]をクリックします。

   選択されたショートカットセットまたはショートカットセットを含むフォルダが、ペイン上部に表示されます。

3.12.4. ショートカットセットを適用する

特定のセットで定義されたショートカットを使用する前に、ショートカットセットを適用する必要があります。

ショートカットセットを適用する手順

1. [編集] > [環境設定]（Windows）または[**Acrobat**] > [環境設定]（Mac）を開き、[**EnfocusPitStop Pro**環境設定]を選択します。
2. [カテゴリ]フィールドで、[ショートカット]をクリックします。

[ショートカット]ペインに、すべての使用可能なショートカットセットが表示されます。アクティブなショートカットセットは[現在適用されている]セクションに表示されます。

3. アプリケーションで使用するショートカットセットを選択します。
4. [適用] をクリックします。
   選択したショートカットセットが[現在適用されている]セクションに表示されます。新しいセットで定義されたショートカットはすぐに使用できます。ショートカットがメニューにも表示されます。

3.12.5. ショートカットセットを保存および印刷する手順

PitStop Proで使用可能なショートカットすべての一覧を、PDFファイルとともに保存、および印刷できます。2つのリストが使用できます。

- ショートカットが定義されたメニューコマンドの概要。
- すべてのメニューコマンドの全概要。

ショートカットセットを保存および印刷する手順

1. [編集] > [環境設定]（Windows）または**[Acrobat]** > [環境設定]（Mac）を開き、**[EnfocusPitStop Pro**環境設定]を選択します。
2. [カテゴリ]フィールドで、[ショートカット]をクリックします。
   [ショートカット]ペインに、すべての使用可能なショートカットセットが表示されます。アクティブなショートカットセットは[現在適用されている]セクションに表示されます。
3. 保存および印刷するショートカットセットを選択します。
4.  をクリック（またはファイルを右クリック）し、適当なオプションを選択します。
   - メニューコマンドの全概要を保存するには、[ショートカット要約**(**完全一覧**)**を保存]をクリックします。
   - ショートカットを定義したメニューコマンドの一覧を保存するには、[ショートカット要約**(**簡易一覧**)**を保存]をクリックします。
5. ファイルの保存先を選択し、[保存]をクリックします。
6. PDF ファイルを印刷します。

3.13. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ウィンドウ]

3.13.1. Windows

PitStop 編集ツールを Enfocus インスペクタと組み合わせて使用すると便利な場合があります。たとえば、オブジェクトを選択する場合、Enfocus インスペクタにそのオブジェクトのカラー

の情報を表示すると便利なことがあります。テキストを選択する場合には、そのテキストのフォント情報の表示が必要なことがあります。また、Enfocus インスペクタを使用して 2 点間の距離の測定が必要なこともあります。

リストされている PitStop 編集ツールのいずれかを使用すると同時に Enfocus インスペクタが自動的に表示されるようにする場合は、チェックボックスを選択する必要があります。

3.14. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [警告]

3.14.1. 警告メッセージ

警告ダイアログの下部にある「今後、この警告メッセージを表示しない」を使用して、各警告メッセージの表示を個別に無効化することができます。[すべての警告をリセット] ボタンを押すことで、すべての警告を再び表示可能になります。

3.15. [環境設定（Preferences）] > [EnfocusPitStop Pro環境設定] > [Preset Databases]

データベースは、プリフライトプロファイル、アクション リスト、またはその他の設定をユーザー定義の場所から取得するために使用できます。定義されたフォルダ内の適切なファイルを、プリフライトプロファイルを選択する際などの選択対象として使用することができます。

3.15.1. データベースフォルダの追加

データベースフォルダを追加する

1. [編集] > [環境設定] > [**Enfocus PitStop Pro**環境設定] > [**Preset**データベース] の順に選択します。
2. フォルダを追加するカテゴリを選択します。
3. [+] ボタンをクリックして、フォルダを追加します。
4. フォルダを削除するには、[-] ボタンをクリックします。
5. Acrobat を再起動します。

3.16. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus PitStop Pro 環境設定（Enfocus PitStop Pro Preferences）] > [ライセンス（Licensing）]

注: この環境設定は、Workgroup Managerからフローティングライセンス（[バージョン情報]パネルからアクティベートされる従来の製品ライセンスやサブスクリプションではない）を使用する場合にだけ適用されます。詳細については、Workgroup Managerマニュアルを参照してください。

次の手順に従います。

1. Enfocus PitStop Workgroup Manager を実行しているコンピュータのアドレスを入力します。
   - サーバーの選択をクリックして、検出されたWorkgroup Managerのいずれかを選択するか、
   - IPアドレスまたはサーバー名を入力します。

   注: ライセンスサーバーのIPアドレスは、Workgroup Managerのステータスバーにあります。選択すると、サーバーアドレステキストボックスにコピーして貼り付けることができます。
2. コンピュータがデフォルトポート以外のポートからアクセスされる場合は、デフォルトポートを使用を無効にし、ライセンスサーバー（PitStop Proライセンスを検証するサービス）とWorkgroup Manager（Presetsで配布されるサービス）の両方で使用されるポート番号を入力します。Workgroup ManagerのポートはWorkgroup Managerのステータスバーにあります。PitStop Workgroup Managerのポートは、[サーバーの選択]（前の手順を参照）を使用してサーバーアドレスを入力したときに、自動的に入力されます。
3. PitStop Pro プリセットを Workgroup Manager のワークグループのすべてのユーザに配布しない場合は、[プリセット同期を有効化] チェックボックスをオフにします。これは、PitStop Pro と Workgroup Manager 間の接続に問題がある場合にも有効な回避策です。
4. **[OK]** をクリックします。

   Workgroup Managerからフローティングライセンスを使用してPitStop Proを使用できます。

3.17. [環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [更新]

3.17.1. PitStop Proの更新についての通知

1. PitStop Proがインターネットに接続してアプリケーションの更新を確認する頻度を定義します。[アップデートの確認]ドロップダウンメニューで、[起動時]、[毎日]、[毎週]、[毎月]または[手動]を選択できます。
2. PitStop Proが、アプリケーションの更新が可能であることを通知する頻度を定義します。使用できるオプションには、起動時、**1**日に**1**回、**1**週間に**1**回および**1**ヵ月に**1**回があります。

3.18. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [一般（General）]

3.18.1. プライマリおよびセカンダリ ハイライト カラー

Certified PDF 文書の [編集ログ] を使用し、Certified PDF 文書の変更箇所をハイライトして表示することができます。

- アクティブな編集セッションで行う特定の変更は、プライマリ ハイライト カラーで表示されます。
- ページ上の他の変更箇所は、セカンダリ ハイライト カラーで表示されます。



A. アクティブな編集セッションで行う変更はプライマリ ハイライト カラーで表示

B. その他の変更はセカンダリ ハイライト カラーで表示

以下の手順に従って、プライマリまたはセカンダリ ハイライト カラーを変更します。

1. StatusCheck環境設定を開き、全般をクリックします。
   「*PitStop Proの環境設定を表示する手順* 48 ページの」を参照してください。
2. カラーパッチをダブルクリックします。
3. カラー ホイール内の任意の場所をクリックします。
4. 必要に応じて、カラー ホイールの右側にあるスライダをドラッグし、カラーの [色相] 、[彩度] または [明るさ] を変更します。
5. 必要なカラーを定義し、**[OK]** をクリックします。

3.19. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [言語（Language）]

このカテゴリでは、Certified PDF ユーザー インタフェースに使用する任意の言語を選択できます。

インストールされているすべての Enfocus 製品で言語の環境設定を共有する場合は、**[Enfocus 言語の環境設定の共有（Share Enfocus language preferences）]** チェックボックスを選択します。

3.20. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [パーソナル情報（Personal Info）]

3.20.1. 氏名および連絡先

環境設定 - パーソナル情報カテゴリでは、Certified PDF文書に追加するパーソナル情報を決定できます。

パーソナル情報には、ユーザーの名前、会社の連絡先、また必要に応じて簡単な説明を入力できます。ここで設定するパーソナル情報は、今後作成する Certified PDF 文書にも保存されるため、可能な限り詳しく入力する必要があります。詳細を登録しておくと、問題が発生したときに Certified PDF 文書の受信者が問い合わせることができます。

*Certified PDF*文書のパーソナル情報の表示も参照してください。

3.21. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [データベース（Databases）]

3.21.1. プリフライトプロファイル比較データベース

この環境設定では、設定ファイル（*.pcc）を含むフォルダをEnfocusプリフライトプロファイル比較パネルに追加できます。

これらの設定ファイルを使用すると、プリフライトプロファイルを比較できます（PDFに埋め込まれたプリフライトプロファイルが設定ファイルのプリフライトプロファイルと比較されるなど）。詳細については、*Certified PDF* プリフライトプロファイルの比較 190 ページのを参照してください。

3.21.2. プリフライトプロファイル比較パネルへのフォルダの追加

ローカルコンピュータのプリフライトプロファイル設定ファイル(*.ppc ファイル)を、プリフライトプロファイル比較パネルに簡単に取り込めます。

手順

1. *.pccファイルをコンピュータの1つ以上のフォルダ（必要な場合はサブフォルダ）に配置します。
2. 編集 > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** 環境設定 (Windows) または **Acrobat** > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** 環境設定 (Mac)を選択します。
3. まず、データベースカテゴリをクリックし、プリフライトプロファイル比較をクリックします。
4.  をクリックします。
5. 設定ファイルを含むフォルダを選択します。
6. [フォルダを選択]をクリックします。
   コンピュータの取り込まれたフォルダとパスの名前は、Enfocus StatusCheck 環境設定ダイアログに表示されます。
7. ユーザーがプリフライトプロファイル比較パネルから取り込まれたフォルダを変更できないようにするには、読み取り専用チェックボックスを選択します。
8. **[OK]** をクリックします。
   フォルダはプリフライトプロファイル比較パネルの最上位に追加されます。これは、このパネル内から取り込まれたフォルダとは異なります（  > 取り込み/書き出し > グループの取り込みオプションを使用）。これはローカルフォルダのサブフォルダとして取り込まれます。

3.22. [環境設定（Preferences）] > [Enfocus StatusCheck 環境設定（Enfocus StatusCheck Preferences）] > [自動化（Automation）]

StatusCheck ユーザー インタフェースを設定して、次の項目を行うことができます。

- Certified PDF を保存するたびに表示されるセッション コメントを求めるダイアログ ボックスを表示しないように設定できます。その場合は、**[保存時に GUI を表示しない（Do not show GUI on save）]** チェックボックスを選択します。
- 代わりに使用される **[常にこのセッション コメントを使用（Always use this session comment）]** テキスト ボックスに事前定義のセッション コメントを入力します。

4. PitStop Pro の作業領域

4.1. PitStop Pro メニューがある場所

	説明
メニュー	メニューバー：概要 25 ページの を参照してください。
ツール	ツールペイン：概要 29 ページの を参照してください。
コンテキスト メニュー	[オブジェクトの選択] ツール がアクティブの場合、Ctrl キーを押しながらクリックまたは右クリックによってアクセスできるコンテキスト メニューが PitStop Pro の現在の選択に関連するオプションおよびアクションを表示します。 たとえば、テキスト オブジェクトが選択された場合、コンテキスト メニューから「テキスト」 > 「アウトラインに変換」が選択できます。

4.2. PitStop Pro インターフェイスの言語の指定

Adobe Acrobat の多言語バージョンと同様に、PitStop Pro のユーザー インターフェイスの言語を指定できます。PitStop Pro の全てのメニューとダイアログ ボックスは、ユーザーの指定した言語で表示されます。

PitStop Pro のユーザー インターフェイスの言語を指定する手順

1. 環境設定ダイアログを開き、言語カテゴリに切り替えます。
2. 任意の言語を選択します。
   詳細については、*PitStop Pro* ユーザーインターフェイスの言語の変更 56 ページのを参照してください。
3. 新しく選択された言語を適用するには、Adobe Acrobatを再起動します。

4.3. PitStop 表示設定

この部分では、PitStop 表示パネルについて説明します。

4.3.1. ワイヤフレーム ビューでの PDF 文書の表示

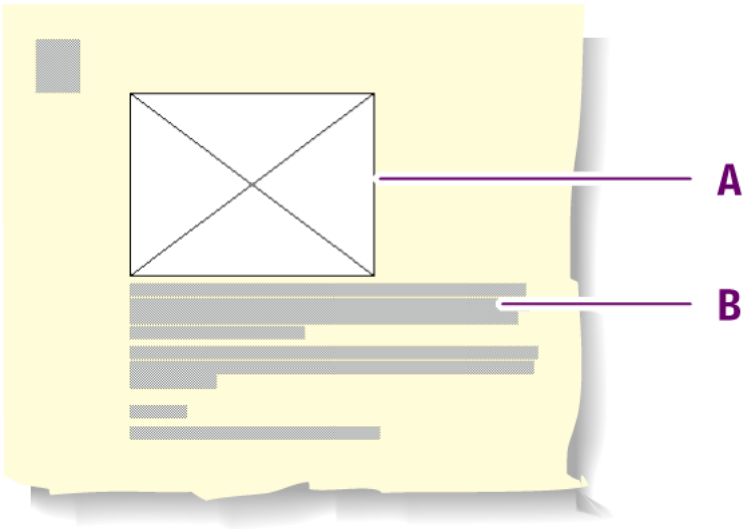
4.3.1.1. ワイヤフレーム ビューとは

PDF 文書は、以下のモードのいずれかで表示できます。

- プレビュー モード。これは、PDF 文書を Adobe Acrobat で表示するときの通常の方法です。PDF 文書内のページ、オブジェクト、およびテキストが、印刷されるときと同じように表示されます。
- ワイヤフレーム ビュー モード

PDF 文書をワイヤフレーム ビュー モードで表示する場合は、文書は以下のように表示されます。

- オブジェクトはアウトライン形式で表示されます。
- テキストを「グリーキング」することができます。この場合、個別の文字は表示されず、一連の文字が灰色の棒として表示されます。**[Enfocus PitStop** 環境設定**]**の編集カテゴリで、このオプションを選択できます。



例：PDF 文書のワイヤフレーム ビュー: オブジェクトはアウトライン表示され **(A)**、テキストはグリーキングされる **(B)**

4.3.1.2. ワイヤフレーム ビューを使用するケース

以下の操作を行うときに、ワイヤフレーム ビューで PDF 文書を表示させたい場合があります。

- 他のオブジェクトによって (部分的に) 覆い隠されているオブジェクトの表示と選択を行うとき。オブジェクトの並び順の変更 216 ページの も参照してください。
- マスクの表示と編集を行うとき。オブジェクトのマスク 275 ページの も参照してください。
- ページに多数または大きなピクセル画像が存在している場合に、ページの表示速度を上げたいとき。

4.3.1.3. プレビューとワイヤフレームビューモードの切り替え

プレビューモードとワイヤフレームビューモードを切り替えるには

1. PDF 文書を開きます。
2. PitStop 表示パネルで、[ワイヤフレームの表示]をクリックします。

4.3.2. 注釈の表示と非表示の切り替え

PDF 文書には、注釈が付いていることがあります。これは、Adobe Acrobat またはサードパーティのプラグインを使用して作成できます。PDF 文書を表示するときに、注釈を表示するかどうかを選択できます。

文書内にある全ての注釈の表示と非表示を切り替える手順

1. Adobe Acrobat の [手のひら] ツール を使用して、どの注釈も選択されていないことを確認します。
2. 注釈を表示または非表示にするには、PitStop 表示パネルで、[注釈の非表示/表示]ボタンをクリックします。

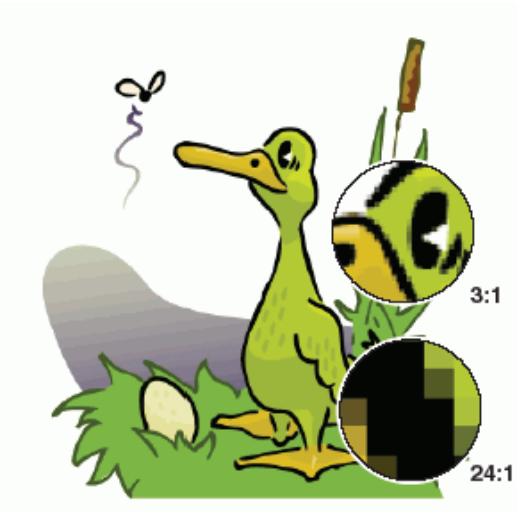
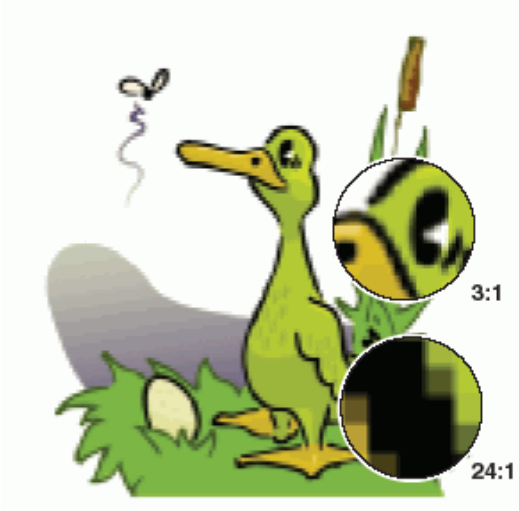
PDF 文書を表示するときに注釈を表示または非表示にする例



4.3.3. 代替画像を使用した画像の表示速度向上

4.3.3.1. 低解像度の代替画像の表示

高解像度の画像を含む PDF 文書で作業する際に、Adobe Acrobat の画像表示を早くすることができます。その PDF 文書の中に、低解像度の代替画像がある場合は、**[PitStop** 表示] ボタン をクリックすると、表示が速くなります。代替画像がない場合、アクション リストを使用して簡単に追加できます。

[画像の表示速度の向上] がオフ: 高解像度の画像を表示	[画像の表示速度の向上] がオン: 低解像度のプレビュー画像を表示。
	

4.3.3.2. PDF 文書の代替画像の作成

アクションリストを使用して、代替画像を作成できます。

PDF 文書の代替画像を作成する手順

1. 高解像度の画像を保持している PDF 文書を開きます。
2. **PitStop Pro** > [アクションリスト]を選択します。
3.  > [新規]をクリックします。
4. アクションリストの [全般情報] を入力します。
5. パネルの左で、代替画像の追加アクションを検索します。
6. 代替画像の追加アクションをアクションリストに追加するには、ダブルクリックします。

7. [Enfocus アクション リスト エディタ] で、このアクションについて以下の属性を指定します。
   - 代替画像の解像度。
   - 代替画像に RGB カラーが使用されているかどうか。
8. **[OK]** をクリックします。
9. アクションリストパネルで、文書全体で実行オプションを選択し、実行をクリックします。

4.4. Enfocus プリセット マネージャ

PitStop Pro の設定を保存、作成、管理、または選択する際は、[プリセット マネージャ] を使用します。

ワークスペース、デザインレイアウト、アクション リスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルのプリセットがあります。対応するパネルで、プリセット マネージャを使用します。ここでは、これら全てを「プリセット」と略して呼びます。

4.4.1. プリセット データベース

[お気に入り]、[最近]、[標準]、および[ローカル]の 4 つのデータベースを表示できます。

カテゴリおよびデータベースは、Enfocus PitStop Pro の環境設定で追加したり、[プリセット マネージャ] で直接追加したりできます。詳細についてはデータベースの作成 78 ページのを参照してください。

データベース	説明
[お気に入り]	このデータベースには、お気に入りに追加した [標準] または [ローカル] データベースのプリセットへのショートカットが格納されています。 お気に入りにプリセットを追加する手順については、お気に入りへのプリセットの追加 79 ページのを参照してください。
[最近]	このデータベースには、最後に使用した 10 のプリセットが自動的に表示されます。
[標準]	このデータベースには、PitStop Pro 共にインストールされたデフォルトのプリセットが格納されています。 このプリセットは編集できますが、編集したプリセットを [標準] データベースに保存することはできません。 編集したプリセットを保存するには、[標準] データベースから [ローカル] データベースにプリセットを複製してから、プリセットを編集します。

データベース	説明
[ローカル]	このデータベースには、ユーザーが編集または作成したプリセットが格納され、ユーザのみがアクセスできます。 必要に応じて、プリセットを編集したり名前を変更したりできます。プリセットをグループに分類することもできます (プリセットの並べ替えとグループ化 79 ページのを参照)。

4.4.1.1. データベースの作成

ハード ディスク上または共有フォルダの既存のフォルダを [プリセット マネージャ] のデータベースとして取り込むことができます。取り込みは、PitStop Pro の環境設定で行うか、[プリセット マネージャ] から直接行います。

1. [プリセット マネージャ] の中で右クリックし、[新規] > [新規データベース] を選択します。
2. 表示されたブラウザのダイアログ ボックスで、データベースとして取り込むフォルダを選択し、**[OK]** をクリックします。

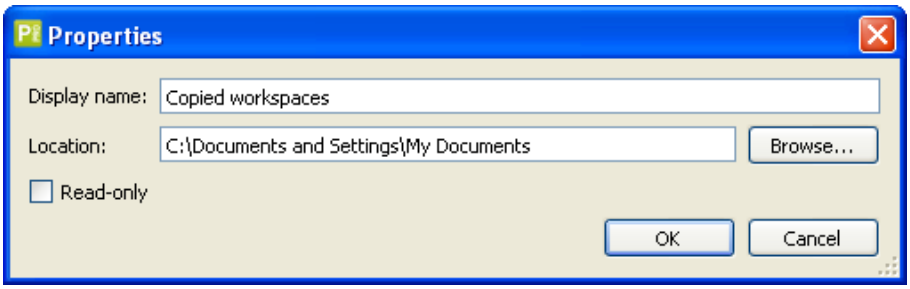
取り込んだフォルダがデータベースとして [プリセット マネージャ] に表示されます。

取り込んだフォルダにサブフォルダが含まれている場合、[プリセット マネージャ] にグループとして表示することもできます。

4.4.1.2. 取り込んだデータベースのプロパティの表示

1. 取り込んだデータベースを [プリセット マネージャ] で右クリックし、[プロパティの表示] を選択します。

   [プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



2. 必要に応じて、[プロパティ] ダイアログ ボックスで次の操作を行います。
   - データベースの表示名 (パネル内での名前) を変更する。
   - データベースとして使用する別のフォルダを参照する。
   - データベースを読み取り専用に設定したり、再び編集可能に設定する。

3. **[OK]** をクリックして変更内容を保存します。

4.4.1.3. パネルの表示の更新

[プリセット マネージャ] パネルの表示は自動的に更新されます。ただし、特定の場合に手動での更新が必要になることもあります (Enfocus のサポートから手動更新を指示された場合など)。

- アクション ボタン をクリックして [更新] を選択します。

4.4.2. プリセットの管理

4.4.2.1. 新しいプリセットの作成

新しいプリセットを作成するには、をクリックして、次のいずれかをクリックします。

エントリ	説明
新規	新しいプリセットの作成
既存から新規作成...	既存のプリセットを基にした新規プリセットを作成します。 既存のプリセットのリストが表示され、新しいプリセットの開始点として使用するプリセットを選択できます。
選択して新規作成	選択したプリセットを基にした新規プリセットを作成します
ファイルから新規作成	ディスクのプリセットファイルを基にした新規プリセットを作成します。

4.4.2.2. お気に入りへのプリセットの追加

お気に入りにプリセットを追加するには、次の操作を実行します。

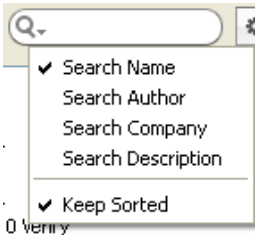
- [お気に入り] データベースにプリセットをドラッグします。
- プリセットを右クリックして [お気に入りに追加] を選択します。
- プリセットを選択してこのボタン をクリックし、[お気に入りに追加] を選択します。

4.4.2.3. プリセットの並べ替えとグループ化

[お気に入り] および [ローカル] のプリセットのみを並べ替えることができます。[標準] のプリセットの順序は固定されています。

- ツリー構造でプリセットを上または下に移動するには、次のいずれかの操作を実行します。
  - プリセットを上また下にドラッグします。
  - プリセットを選択し、アクション ボタン をクリックして [上に移動] または [下に移動] を選択します。

- プリセットを常に名前順に並べ替えるには、フィルタ矢印をクリックして [常に並べ替え] を選択します。



- グループを作成するには、次の手順を実行します。
  1. グループを作成するデータベース (またはグループ) を選択します。
  2. アクション ボタン をクリックして [新規グループ] を選択します。
  3. グループに名前を付けます。

4.4.2.4. プリセットの検索

プリセットを検索する場合、データベースを参照したり、パネルの上部にあるフィルタを使用したりできます。

1. フィルタの矢印をクリックし、プリセットの名前、作成者、会社、またはプリセットの説明を検索基準として選択します。

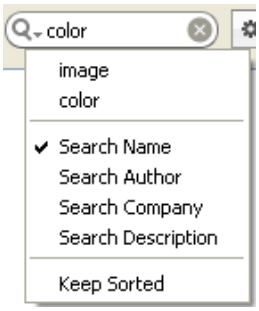


2. フィルタに検索テキストを入力します。

検索後に検索テキストを削除するには、小さい X 印をクリックします。



注: 過去の検索がフィルタに保存されます。



4.4.2.5. プリセットの削除

[ローカル] および [お気に入り] データベースのプリセットのみを削除できます。

- プリセットを右クリックして [削除] を選択します。
- プリセットを選択してアクション ボタン をクリックし、[削除] を選択します。

注: グループも削除できます。この場合、対象のグループのプリセットが全て削除されます。

4.4.2.6. プリセットの取り込み

1. [プリセット マネージャ] の中で右クリックし、[取り込み/書き出し] > [取り込み] を選択します。
2. 表示されたブラウザのダイアログ ボックスで、取り込むファイルを選択します。

注: 選択対象のファイルは、[プリセット マネージャ] を使用するパネルによって異なります。たとえば、ワークスペースの場合は .ppws、アクションリストの場合は .eal になります。

プリセットがローカル設定に追加されます。

4.4.2.7. プリセット グループの取り込み

1. [プリセット マネージャ] の中で右クリックし、[取り込み/書き出し] > [階層の取り込み] を選択します。
2. 表示されたブラウザのダイアログ ボックスで、取り込むプリセット ファイルが格納されているフォルダを選択します。

取り込んだグループ内のプリセットが [ローカル] のプリセットに追加されます (選択したフォルダの後に表示されます)。

4.4.2.8. プリセットの書き出し

1. 書き出すプリセットを右クリックして [取り込み/書き出し] > [書き出し] を選択します。
2. 目的の場所にファイルとして保存します。

> 注: ファイルタイプは、[プリセット マネージャ] を使用するパネルによって異なります。たとえば、ワークスペースの場合は .ppws、アクションリストの場合は .eal になります。

他のユーザーがファイルを使用できるようにして、プリセットを配布することができます。

4.4.2.9. プリセット グループの書き出し

1. 書き出すプリセット グループを右クリックして [取り込み/書き出し] > [階層の書き出し] を選択します。
2. 目的の場所に保存します。

フォルダが作成され、グループの各プリセットのファイルが格納されます。

4.5. ワークスペース

ワークスペースを使用すると、各種 Enfocus パネルの表示/非表示の切り替えなど、PitStop Pro のユーザー インターフェイスをカスタマイズできます。これにより、目的に応じて表示する項目を最大限に増やしたり、最小限に減らしたりできます。

ワークスペースでは、ウィンドウの位置、表示設定、カラー設定、デザインレイアウトなど、Adobe Acrobat および Enfocus PitStop Pro のその他の設定を行うこともできます。

PitStop Proの既定のワークスペースを使用したり、PitStop Pro で実行するタスクごとに適用するワークスペースを作成したりできます。必要に応じてワークスペースを簡単に切り替えたり、スタートアップワークスペースを設定したりできます。例えば、PDF文書を操作しているときにページボックスを常に表示する場合は、ページボックスを有効にしてワークスペースを設定し、これを既定のワークスペースに設定できます。

4.5.1. Enfocus ワークスペース パネルを開く

[**Enfocus** ワークスペース パネル] では、ワークスペースを管理できます。

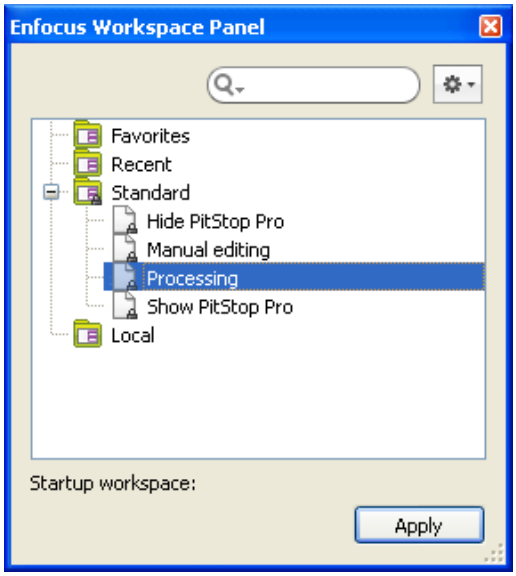
Enfocus ワークスペース パネルを開く手順

次のいずれかを実行します。

- **Alt + Ctrl + U** キー (Windows の場合)、または **Option + Command + U** キー (Mac の場合) を押します。

  注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

- ツール > **PitStop** 表示 > ワークスペースに移動し、ドロップダウンからワークスペースパネルを選択します。



Enfocusワークスペースパネルで、*Enfocus Preset Manager*を使用してワークスペースの整理、検索、複製、および管理ができます。デフォルトワークスペースは標準の下にあります。

4.5.2. デフォルトのワークスペース

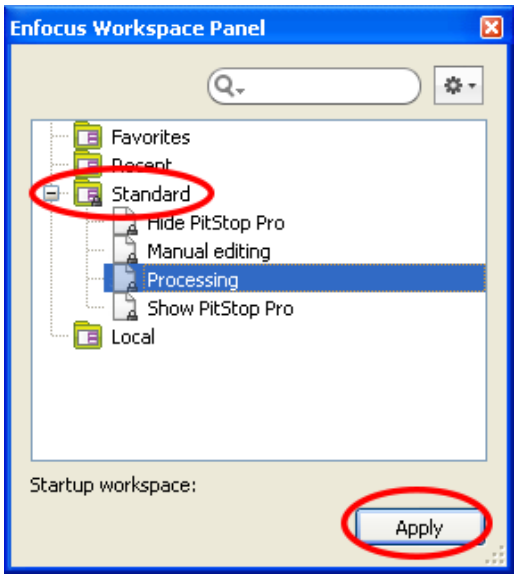
PitStop Pro には4つのデフォルトワークスペースがあり、編集せずにすぐに使用できます。

ワークスペース	説明
隠す PitStop Pro	PitStop Pro ユーザー インターフェイスの項目を可能な限り非表示にします。これにより、PitStop Pro の不要なインターフェイスを表示せずに、Adobe Acrobat で作業できます。
手動編集	PDF ファイルの編集で通常使用するコントロールパネル (Enfocus インスペクタなど) を開きます。
処理中	**[Enfocus** 処理中] パネルを開き、文書のプリフライトなどの半自動処理を実行する際に通常使用する設定を適用します。
表示 PitStop Pro	Enfocusツールバーをすべて表示します。「PitStop Pro を隠す」ワークスペースを使用した後に使用すると、すべてのツールやツールバーを再び表示することができます。

デフォルトワークスペースの使用

変更せずにデフォルトワークスペースを使用する手順

1. Enfocus ワークスペース パネルを開きます。
2. 優先ワークスペースを選択します（標準の下）。
3. [適用] をクリックします。



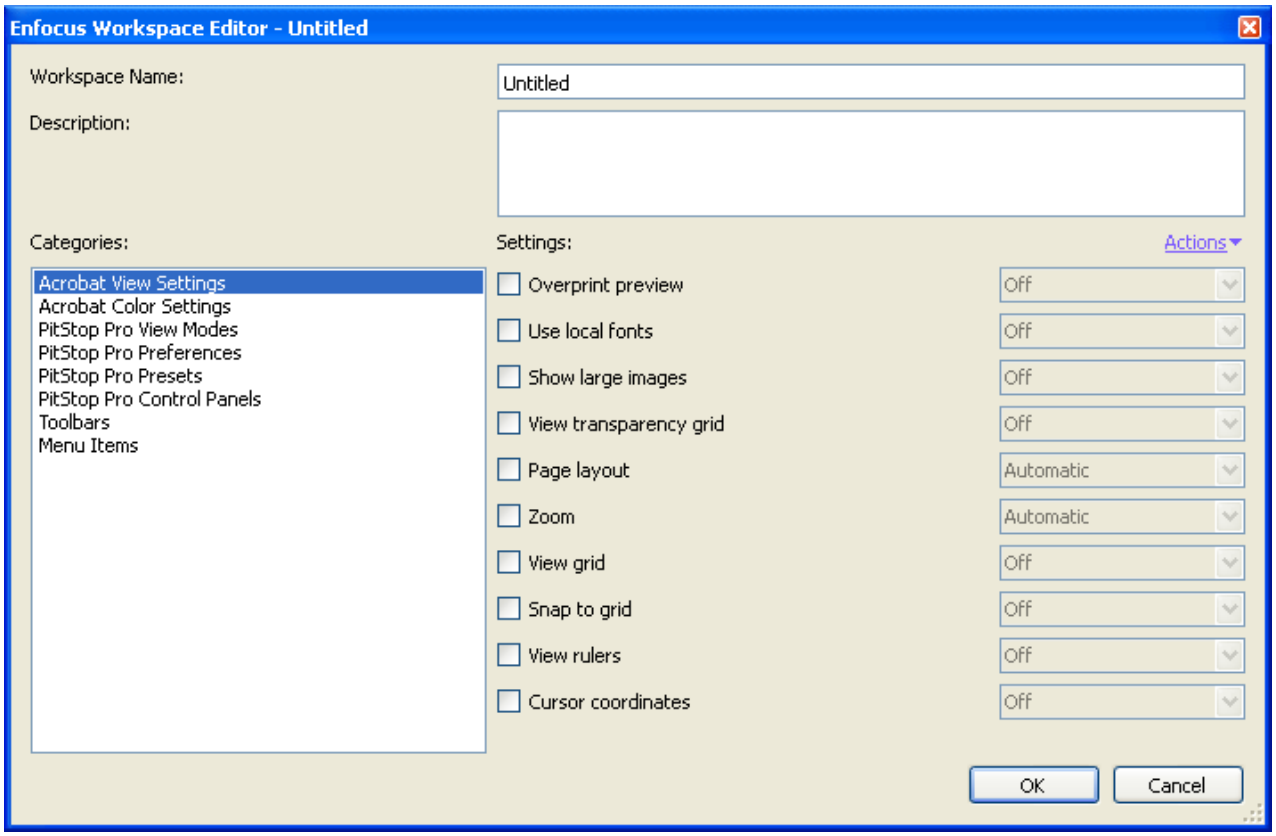
注: ワークスペースの設定を表示または変更する場合は、ワークスペースの編集 86 ページのを参照してください。

4.5.3. ワークスペースの使用

4.5.3.1. ワークスペースの作成

最初からワークスペースを作成する手順

1. **Enfocus** ワークスペース パネルを開きます。
   Enfocus ワークスペース パネルを開く 82 ページのを参照してください。
2. このパネルの中で右クリックし、[新規] > [新規作成] を選択します。
   [**Enfocus** ワークスペース エディタ] が開きます。



3. わかりやすい[ワークスペース名]を入力します。
4. [カテゴリ] の項目ごとに [設定] で、使用する設定項目のチェック ボックスをオンにして値を選択します。

   設定の詳細については、ワークスペース設定 88 ページののトピックを参照してください。

   注: 現在の Acrobat / PitStop Pro のインターフェイスの設定を選択して、ユーザーのワークスペースで使用することもできます。

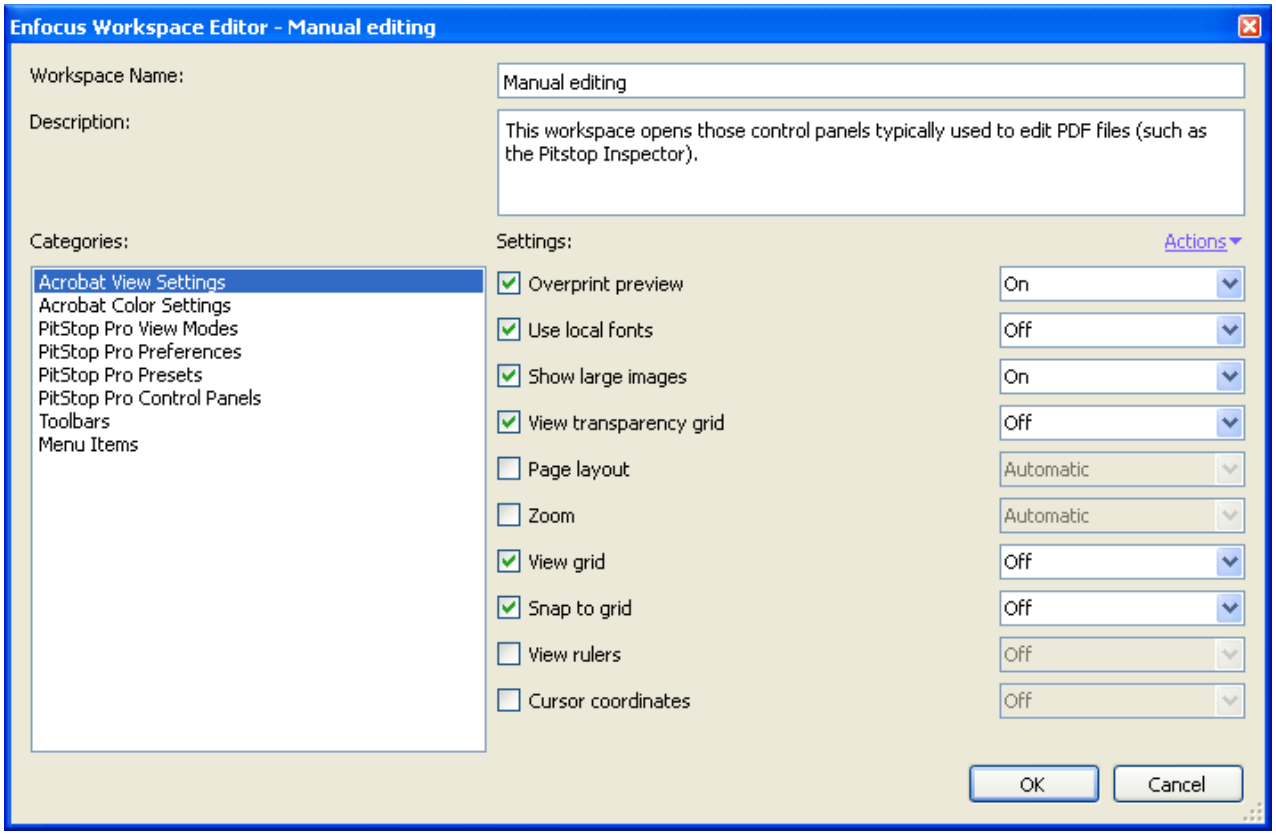
   - ワークスペースの現在の設定をすべて選択するには、[アクション]メニューをクリックして [全てのカテゴリを選択] を選択します。
   - 特定のカテゴリ (すべての Acrobat の表示設定など) に関連する現在の設定を選択するには、カテゴリを選択し、[アクション]メニューをクリックして [現在のカテゴリを選択] を選択します。
5. 完了したら **[OK]** をクリックします。

新規ワークスペースがローカル ワークスペースとして保存されます。

4.5.3.2. ワークスペースの編集

ワークスペースを編集する手順

1. **Enfocus** ワークスペース パネルを開きます。
   Enfocus ワークスペース パネルを開く 82 ページのを参照してください。
2. 編集するワークスペースがデフォルトワークスペース（標準の下）の場合、ローカルデータベースにドラッグします。
   ワークスペースが自動的に複製されます。ワークスペース名の後に括弧内の数字が表示されます。
3. ローカル データベースで、編集するワークスペースをダブルクリックします。
   ワークスペースが**[Enfocus** ワークスペース エディタ**]**で開きます。



4. 必要に応じてワークスペースを編集します。
   設定の詳細については、ワークスペース設定 88 ページののトピックを参照してください。

注: 現在の Acrobat / PitStop Pro のインターフェイスの設定を選択して、ユーザーのワークスペースで使用することもできます。

- ワークスペースの現在の設定をすべて選択するには、[アクション]メニューをクリックして [全てのカテゴリを選択] を選択します。
- 特定のカテゴリ (すべての Acrobat の表示設定など) に関連する現在の設定を選択するには、カテゴリを選択し、[アクション]メニューをクリックして [現在のカテゴリを選択] を選択します。

5. 完了したら、**OK**をクリックして、変更したワークスペースを保存します。

4.5.3.3. ワークスペースの適用

ワークスペースの適用は、現在の作業で使用することを意味します。起動ワークスペースとして設定しない場合、次回Acrobatを開くときに、もう一度適用する必要があります（必要な場合）。

ワークスペースを適用する手順

- [**Enfocus** ワークスペース パネル]で、ワークスペースを開き、[適用] ボタンをクリックします。
- ツールペインのPitStop 表示パネルで、Enfocus Workspaceボタン の横の矢印をクリックし、ワークスペースの適用 > <使用するワークスペース名>を選択します。

メッセージが表示され、各種設定を手動で設定するように指示される場合があります。例えば、ワークスペースオーバープリント設定が有効な場合、Acrobat環境設定ダイアログのページ表示カテゴリに移動します。必要な変更を手動で行うことができます。

4.5.3.4. 起動ワークスペースの選択

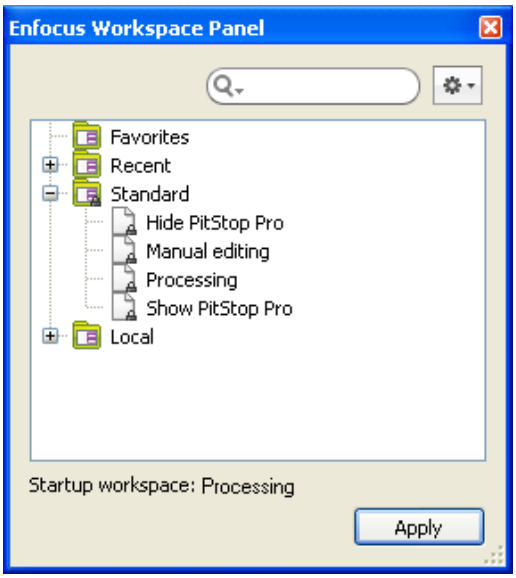
次回 Acrobat Professional を起動したときにデフォルトでワークスペースを使用するには、次の手順を実行します。

1. **Enfocus** ワークスペース パネルを開きます。

   Enfocus ワークスペース パネルを開く 82 ページのを参照してください。

2. **Enfocus**ワークスペースパネルで、起動ワークスペースとして使用するワークスペースを選択します。
3. アクション ボタン をクリックして、[選択したワークスペースを起動時に適用] を選択します。

   選択したワークスペースがパネルの下部に表示されます。この例では、選択したワークスペースは「処理中」です。

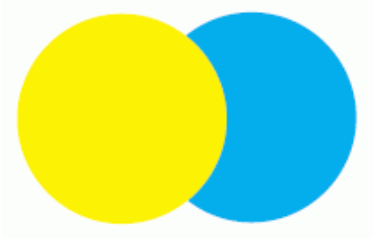
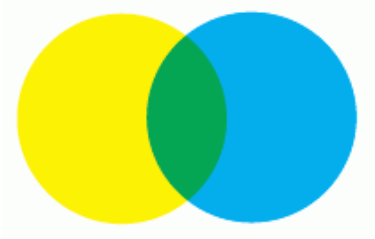


4.5.3.5. ワークスペース設定

この章では、最も重要なワークスペース設定について説明します。Acrobat設定の詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

オーバープリントプレビュー

オーバープリント プレビューは Adobe Acrobat の機能です。オーバープリント プレビューを使用すると、色で分版された文書でオーバープリントがどのように出力されるのか、画面でシミュレートできます。

オーバープリント プレビューオフ	オーバープリント プレビューオン
	

ローカルフォントを使用

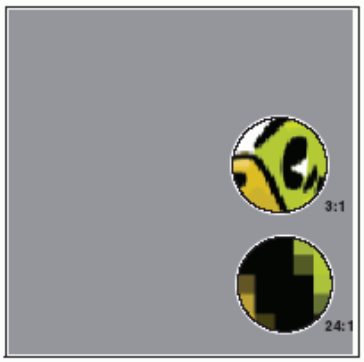
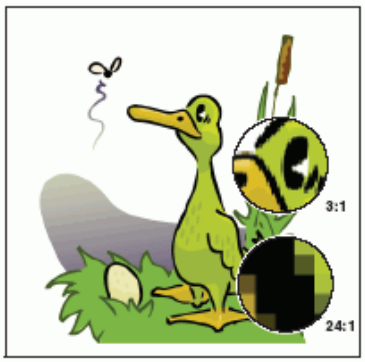
埋め込まれていないフォントを使用している PDF 文書を表示する場合は、Adobe Acrobat の機能である [ローカル フォントの使用] を使用できます。以下のように、状況によって処理内容が異なります。

[ローカル フォントの使用]オフ	[ローカル フォントの使用]オン

	
Adobe Acrobat では、PDF 文書のフォントが使用され、埋め込まれていないすべてのフォントが置換されます。PDF 文書を表示しているコンピュータにそのフォントがインストールされていても、フォントは常に置換されます。このため、別のユーザーがそのユーザー自身のコンピュータで PDF 文書を表示しているときは、現在、自分が参照している表示状況と同じであると見なされます。この設定の場合は、文字間隔が正しくなくなったり、文字の形状が歪んだりすることがあります。	Adobe Acrobat では、PDF 文書を表示しているコンピュータのフォントが使用されます。

サイズの大きい画像を表示

[データ量の多い画像を表示] は、Adobe Acrobat の環境設定であり、これを使用すると Adobe Acrobat で大きい画像を表示するかどうかを設定することができます。通常、このオプションは、コンピュータが高速であり、高解像度画像を迅速に表示できる場合にのみ使用します。

サイズの大きい画像を表示オフ	サイズの大きい画像を表示オン
	

透明グリッドを表示

[透明グリッドを表示] という Adobe Acrobat の環境設定を使用すると、透明であるオブジェクトとそうでないオブジェクトを区別できます。このオプションを選択した場合は、透過オブジェクトの背後にあるグリッドが見えるようになります。

透過グリッドを表示オフ	透過グリッドを表示オン: グラフィックが透過ではない場合は、背景が白になる

グリッドを表示

PDF 文書のテキストオブジェクトとグラフィックオブジェクトを整列するときは、Enfocus PitStop Pro ガイドを使用することも、Adobe Acrobat のグリッドを使用することもできます。[グリッドを表示] を選択した場合は、PDF 文書のページにグリッドが水平線および垂直線として表示されます。

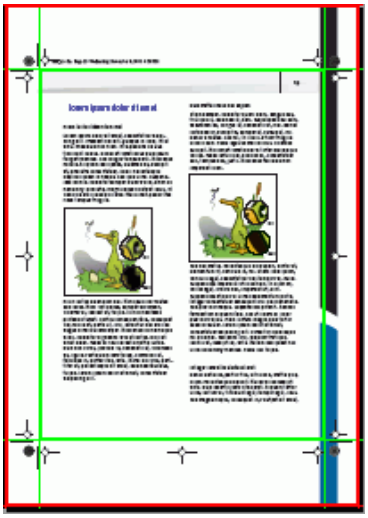
グリッドを表示オフ	グリッドを表示オン
	

グリッドにスナップ

[グリッドにスナップ] は、Adobe Acrobat の機能であり、グリッド線を「磁石付き」にします。オブジェクトをいずれかのグリッド線に近づけると、そのオブジェクトはそのグリッド線に「スナップ」(吸着) します。

ページ ボックスを見る

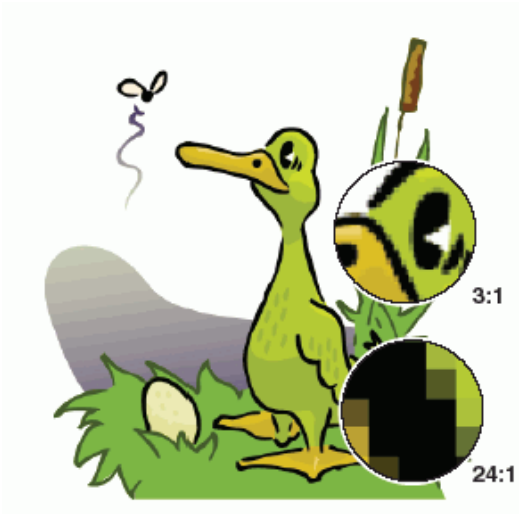
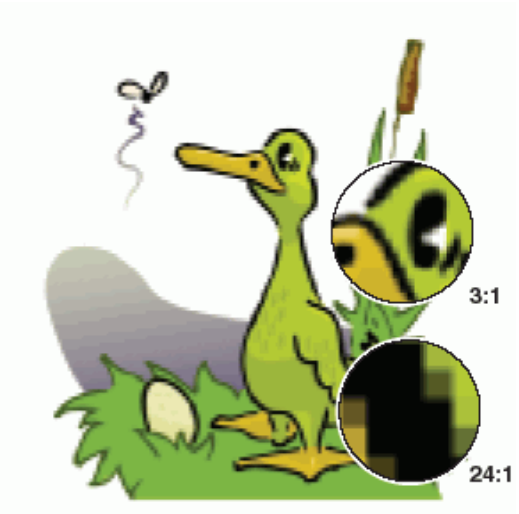
PDF 文書を表示するときに、ページボックスを表示するかどうかを選択できます。ページ ボックスとは、ページ内のさまざまなオブジェクトの周囲と、ページ自体の周囲に描かれる仮想的な矩形のことを指します。[ページ ボックスを表示] ボタン⌗を使用して、PDF 文書のページ ボックスを表示するかどうかを選択することもできます。

ページ ボックスを表示オフ	ページ ボックスを表示オン
	

画像の表示速度の向上 (代替画像)

高解像度の画像を含む PDF 文書で作業する際に、Adobe Acrobat の画像表示を早くすることができます。

代替画像を表示オフ	代替画像を表示オン

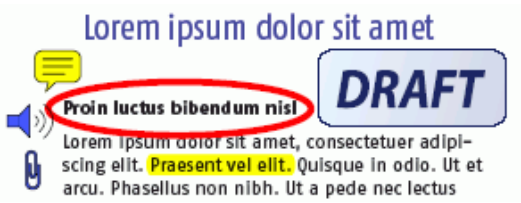
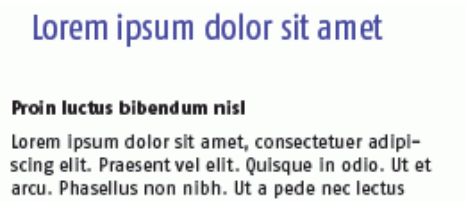
	

注釈を隠す

Adobe Acrobat では、注釈の表示と非表示を切り替えることができます。使用できる設定は次の通りです。

- Adobe Acrobat の [全てのコメントの表示/非表示] 機能
- PitStop Pro[注釈を隠す] ツール

[注釈を隠す] がオンとオフのどちらになっているかを確認し、それに応じてこの設定を修復することもできます。

注釈が表示された PDF 文書	注釈が表示されていない PDF 文書
	

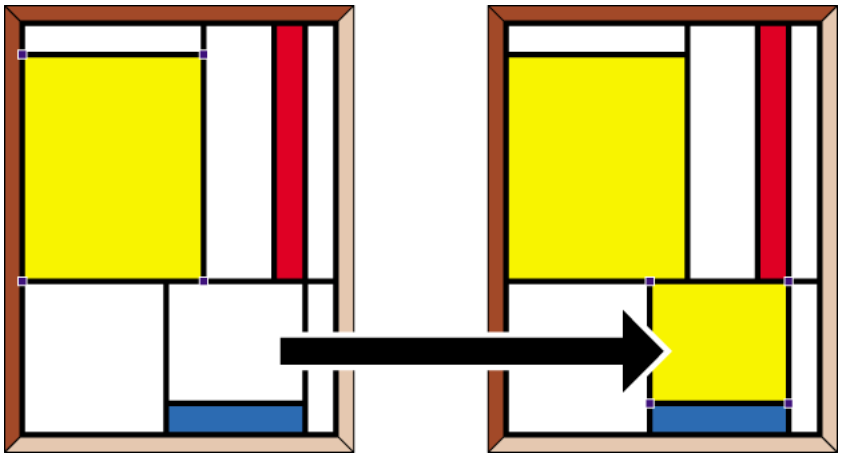
5. PDF 文書の操作

5.1. オブジェクト属性のコピーと貼り付け

5.1.1. オブジェクト属性のコピーについて

オブジェクトの属性をコピーして、これらの属性の全体または一部を PDF 文書内の別のオブジェクトに簡単に適用することができます。このような属性は、線や塗りに関係するものだけでなく、テキストや透過、プリプレスに関係するものもあります。

次に、オブジェクトの一部の塗り属性のコピーと貼り付けの例を示します。



5.1.2. オブジェクトの属性をコピーして貼り付ける手順

1. 属性のコピー/貼り付けツール をクリックします。

   カーソルが に変わります。

2. **CONTROL** (**CTRL**) キー (Windows) または **Command** () キー (Macintosh) を押したまま、属性をコピーするオブジェクトをクリックします。

   カーソルが に変わります。

   コピーされた属性が、選択された状態で Enfocus インスペクタ に表示されます。

3. 必要に応じて、貼り付ける必要のない属性をクリックしてその選択を解除します。

4. 選択した属性の貼り付け先となるオブジェクトをクリックします。

5.2. アクションの取り消しとやり直し

5.2.1. アクションの取り消しとやり直しについて

PitStop Pro ツールのいずれかを使用して実行したアクションのうち、まだ保存していないアクションは取り消すことができます。「アクション」とは、何かを変更することですが、1つまたは複数のオブジェクトを選択するという意味もあります。

アクションを元に戻すには、PitStop Proパネルに2つのボタンがあります。

ボタン	取り消しの対象	使用方法
	変更のみ。	変更を複数回行ったが、変更と変更の間に何回か選択を行った可能性がある場合。 例: テキストを選択し、そのページ上で移動してフォントとカラーを変更後、画像を選択し、拡大してそのテキストの下に配置した場合。
	変更と選択。	選択を何回も行った場合。たとえば、 Enfocusワイヤフレーム ビュー () を使用するなどして、非常に複雑な選択を行った場合もこれに相当します。または、多数のオブジェクトを選択したときに、マウスから手が滑って選択が解除されてしまった場合。

1つ以上のアクションを元に戻した後で、  取り消しと  選択のやり直しを使用してもう一度やり直すことができます。



注: Certified PDF 文書で作業している場合は、ファイルを保存した後でもアクションを取り消すことができます。

5.2.2. アクションの取り消し/やり直しの手順

最後のアクションの取り消し/やり直しの手順

1. [編集] > [<アクション>の取り消し] を選択するか、[取り消し] ボタン  または  をクリックします。

   メニュー コマンドには、最後のアクションの名前が表示されます。たとえば、オブジェクトを移動した場合、メニューには [移動の取り消し] と表示されます。

2. 直前に取り消したアクションをやり直すには、[編集] > [アクションのやり直し] を選択するか、[やり直し] ボタン または をクリックします。

5.2.3. 取り消しと反対のアクションの実行

場合によっては、実行した「取り消し」アクションは、反対のアクションの実行と同じ結果になりません。

例えば、さまざまなクリッピングパスをグループ化した場合、次のようになります。

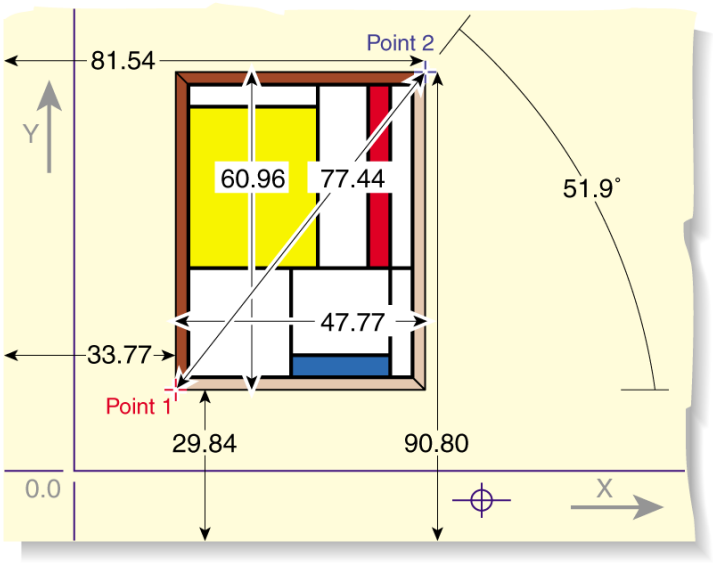
- グループの取り消しは元の状況を復元します（グループ化前）。
- グループ解除はグループ化されたクリッピングパスを解除しますが、グループ化中にクリッピングパスが複製された場合（目的の結果を得るために必要）などは、この複製が元に戻されません。

同様に、CMYK（CMYK - 100%ブラック）からGray (Gray 17.75%輝度）に変換した場合は次のようになります。

- カラーからグレイへの変換を取り消しは元の状況を復元します（CMYK（CMYK - 100%ブラック））。
- **CMYK**に変換（環境設定を使用）は環境設定で定義された設定を使用し、異なる結果になる場合があります（例：CMYK - シアン71.86%、マゼンタ65.84%、イエロー64.68%、ブラック73.79%）。

5.3. 2 点間の距離の測定

PDF 文書の作業領域にある 2 点間の距離を測定することができます。たとえば、この機能を使って、複数のオブジェクトの位置を揃えたり、オブジェクトの位置やサイズをチェックしたりすることができます。指定された距離を測るには、Enfocus インスペクタと測定ツール を組み合わせて使用します。



5.3.1. オブジェクトを置換する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、新しいオブジェクトを選択、すなわち既存のオブジェクトを置き換える目的で使用する別のオブジェクトを選択します。
2. コンテキストメニューで、コピー（またはCtrl＋C）を選択します。
3. 古いオブジェクト、つまり置換されるオブジェクトを選択します。
4. コンテクストメニューから［置換］を選択します。

   コピーしたオブジェクトで古いオブジェクトが置換され、古いオブジェクトのサイズ、縦横比率、および位置に合わせてコピーしたオブジェクトが調整されます。

5.4. オブジェクトの属性の表示

5.4.1. [スポイト] ツールを使用したオブジェクトの属性の表示

[スポイト] ツール を使用すると、インク適用量モードまたは基本オブジェクトモードのいずれかで次のオブジェクトの属性を表示できます。

- インク適用量モードでは、すべての透過、オーバープリント、オーバーラップするオブジェクトなどが計算され、クリックしたスポットの各分版の割合が表示されます。
- 基本オブジェクトでは次が表示されます。
  - オブジェクト タイプ
  - カラースペース
  - カラー設定
  - オーバープリント設定

5.4.1.1. オブジェクトの属性を表示する手順

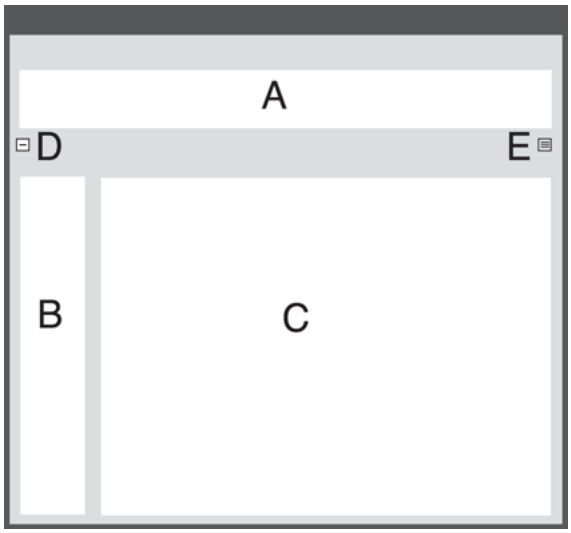
1. [スポイト] ツール をクリックします。
2. PDF 文書のテキストまたはオブジェクトをクリックします。

選択対象に応じてダイアログの表示が変わり、選択したテキストまたはオブジェクトの属性が表示されます。

5.4.2. Enfocus インスペクタの使用

Enfocus インスペクタを使用することによって、あらゆるオブジェクトの以下の属性を表示および編集することができます。

- 塗り / 線: カラー、オーバープリント、線の幅、...
- テキストの設定: フォント、サイズ、...
- 画像のプロパティ: 解像度、圧縮、...
- プリプレス: レイヤー、出力インテント、OPI、...
- 分版: 使用済み分版、リマッピング、光沢、...
- 位置: 位置、スケーリング、...
- 要約



A. *Enfocus インスペクタのカテゴリ*
B. *Enfocus インスペクタのサブカテゴリ*
C. 選択したテキストまたはオブジェクトの属性
D. 折りたたみボタン
E. *[アクション]* ドロップダウンメニュー

5.4.2.1. Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く

Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く

- **Adobe Acrobat**で：
  1. [表示] > [ツール] > [**PitStop** 検査] をクリックします。
  2.  をクリックします。



ヒント: ツールバーにこのアイコンを追加することもできます。その場合は、該当するアイコンを右クリックし、簡易ツールバーに追加を選択します。

- **Adobe Acrobat**で：
  1. [表示] > [ツール] > [**PitStop** 検査]をクリックします。
     メニューに PitStop 検査がなければ、最初に追加する必要があります。ツールペインへのPitStop Proパネルの追加 36 ページのを参照してください。
  2. [開く] をクリックします。
     PitStop 検査ツールは文書の一番上に表示されています。
  3. をクリックします。



ヒント: ツールバーにこのアイコンを追加することもできます。その場合は、ツールバーを右クリックし、簡易ツールのカスタマイズを選択してインスペクタアイコンを追加します。

Enfocus インスペクタダイアログボックスが開きます。

5.4.2.2. Enfocus インスペクタ での属性の表示または変更

Enfocus インスペクタ での属性の表示または変更の手順

1. [オブジェクトの選択] ツール をクリックします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. PDF 文書のテキストまたはオブジェクトを選択します。
4. 適切なカテゴリおよびサブカテゴリを選択します。
5. 必要に応じて、属性または設定を変更します

5.4.2.3. Enfocus インスペクタの[アクション]ドロップダウンメニューを使用によるオブジェクトの変更

アクションドロップダウンメニューには、インスペクタの選択したカテゴリに関連したさまざまな汎用アクションがあります。たとえば、塗りカテゴリでは、アクションドロップダウンメニューには「変換」アクションがあります。

1. [オブジェクトの選択] ツール をクリックします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. PDF 文書のテキストまたはオブジェクトを選択します。
4. 適切なカテゴリおよびサブカテゴリを選択します。

5. [アクション] ボタンをクリックします。
6. ドロップダウンメニューから目的のアクションを選択します。

5.4.2.4. Enfocus インスペクタの折りたたみ

Enfocus インスペクタは、折りたたみボタンをクリックして折りたたむことによって、カテゴリのみを表示されるようにすることができます。こうした場合は、折りたたみボタンは展開ボタンに変わります。

カテゴリを選択するか展開ボタンをクリックすると Enfocus インスペクタを展開します。

5.5. デザインレイアウト

デザインレイアウトは、ページ ボックス、ガイド、およびページ上の特別なゾーン (トリム ボックス付近の印刷保証領域や中央の端にあるパンチ穴の位置など) で構成されています。これらは、文書の上に描画され、デザインを配置できます。デザインレイアウトには、1 つまたは複数のアクションを含むこともできます。

デザインレイアウトは、必要に応じて（例えばページ ボックスを変更するため）デザインに適用することもできます。

5.5.1. PitStop ページボックス パネル

PitStop ページボックスパネル（ツールペインから使用可能）は、次の表で説明する4つのツールから構成されます。

ツール	アイコン	説明
デザインレイアウトを編集		デザインレイアウト（ガイド、ページ ボックスなど）を手動で編集できます。*[デザインレイアウトを編集] ツールの使用* 105 ページの を参照してください。
デザインレイアウト		開いている文書がないか、デザインレイアウトが選択されていません。
		デザインレイアウトがアクティブで適用されていません。選択したデザインレイアウトの名前がアイコンの横に表示されます。
		デザインレイアウトが適用されます。適用したデザインレイアウトの名前がアイコンの横に表示されます。

ツール	アイコン	説明
		ボタンの横にある矢印をクリックすると、次の操作を実行できます。 • デザインレイアウトを選択します。 • デザイン レイアウトを編集します (詳細については、デザインレイアウトの編集 103 ページのを参照してください)。 • 現在のページへのデザイン レイアウトを適用します (詳細については、ページへのデザインレイアウトの適用 106 ページのを参照してください)。 • 文書全体へデザイン レイアウトを適用します (詳細については、文書全体へのデザインレイアウトの適用 107 ページのを参照してください)。 • デザイン レイアウトの中央揃えを行います。 • テンプレートの変更の保存、または保存済みバージョンの復元をします。 • アクティブなデザインレイアウトのアクティブ解除を行います。 • **[Enfocus** デザインレイアウト**]** パネルの表示/非表示の切り替え (詳細については、*Enfocus*デザインレイアウトパネルを開く 101 ページのを参照してください)。
ページボックスを編集		手動でページボックスを編集できます。
ページボックスを表示		選択したデザインレイアウトで文書上に描画されたページ ボックスを全て表示できます。 

ツール	アイコン	説明
		ページボックスは、環境設定で選択したカラーで表示されます（カラーカテゴリ）。

5.5.2. Enfocusデザインレイアウトパネルを開く

[**Enfocus** デザインレイアウト パネル] では、デザインレイアウトを管理できます。

このダイアログを開く手順

1. [ツール設定] ペインを開きます。
2. [PitStop ページボックス]パネルを開きます。
3. [デザインレイアウトを編集]ボタンをクリックします。

プリセットマネージャを使い、デザインレイアウトを管理できます。詳細については、*Enfocus プリセット マネージャ* 77 ページのを参照してください。

5.5.3. デフォルトのデザインレイアウト

PitStop Pro は、デフォルトのデザイン レイアウトを多数備えています。これらを使用すると、すぐに作業を開始できます。

- A4 広告
- パンフレットの背面
- パンフレットの前面
- DVD ラベル
- US レター
- ガイド

5.5.4. デザインレイアウトの使用

デザインレイアウトを使用すると、ページ ボックスやゾーンを修正したり、ガイドなどを追加することができます。

ページ ボックス、ゾーン、ガイドを操作する手順

1. デザインレイアウトを選択してください

   デフォルトのデザインレイアウトまたは独自に作成したデザインレイアウトを選択できます。

2. 必要に応じてデザインレイアウトを編集します。
   a. [デザインレイアウトを編集] ツールを使用して、ガイド、ゾーン、ページ ボックスを手動で編集する
   b. **Enfocus** デザインレイアウト エディタで数値を使用してデザインレイアウトを変更する

デザインレイアウトの変更後、その変更を保存するか、保存済みのバージョンを復元することができます。

3. 必要に応じて、ページまたは文書全体にデザインレイアウトを適用します。
4. ガイド、ゾーン、ページ ボックスを非表示にするには、デザインレイアウトをアクティブ解除します。

5.5.4.1. デザインレイアウトの作成

デザインレイアウトを新規作成するには、次の手順を実行します。

1. [**Enfocus** デザイン レイアウト パネル] の中で右クリックし、[新規] > [新規作成] を選択します。

   [**Enfocus** デザインレイアウト エディタ] が開きます。
2. [テンプレート名] に新規デザインレイアウトの名前を入力します。
3. [オーバーレイ タイプ] の項目 ([ページ ボックス]、[ガイド]、および [ゾーン]) ごとに右側の [設定]で、使用する設定項目とその値を選択します。デザインレイアウトの定義 103 ページの を参照してください。
4. [アクション] をクリックし、アクションリストとグローバル変更のいずれかまたは両方をデザインレイアウトに追加します。

   デザインレイアウトを適用する際は、ページ ボックスの調整後に現在のページに対して、指定したアクションリストとグローバル変更が実行されます。
5. 完了したら **[OK]** をクリックします。

   新規デザインレイアウトがローカル デザインレイアウトとして保存されます。

5.5.4.2. デザインレイアウトのアクティブ化

文書の上にデザインレイアウトを表示するには、デザイン レイアウトをアクティブ化する必要があります。



注:

- これは文書を変更しません。
- デザインレイアウトで指定した内容に基づいて文書を変更するには、デザイン レイアウトを適用する必要があります。「文書全体へのデザインレイアウトの適用 107 ページの」を参照してください。

デザインレイアウトをアクティブ化するには、次の操作を実行します。

- [**Enfocus** デザインレイアウト パネル]で、デザイン レイアウトを選択して [アクティベート] ボタンをクリックします。

- アクティブにするデザインレイアウトを[**Enfocus** デザインレイアウト] ツールバーで選択します。

5.5.4.3. デザインレイアウトの編集

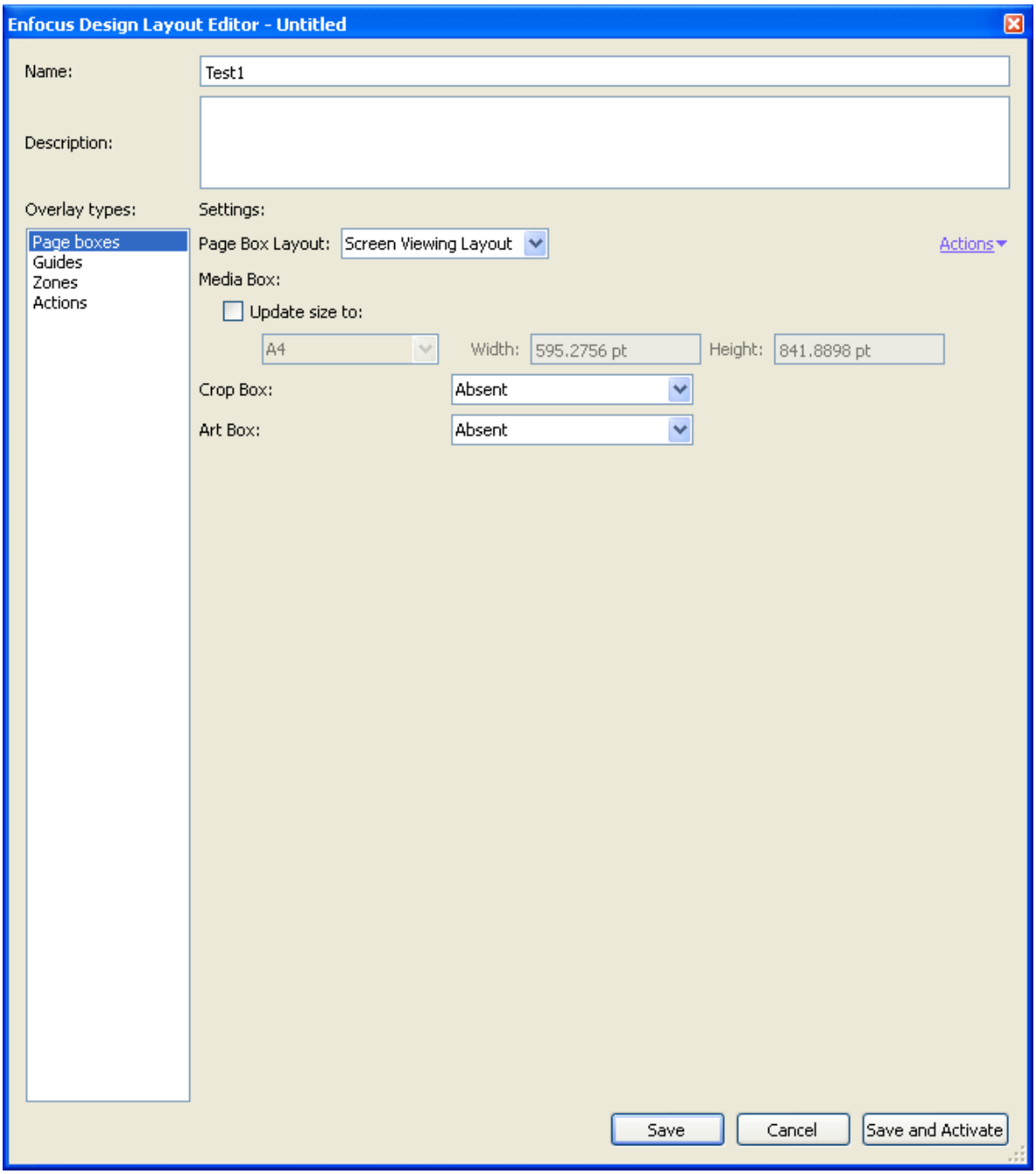
1. 編集するデザインレイアウトをアクティブにします。
2. 数値を使用してデザインレイアウトを調整する場合は、デザインレイアウト エディタを使用します。デザインレイアウトの定義 103 ページの を参照してください。
3. 手動でデザインレイアウトを変更するには、[デザインレイアウトを編集] ツールを使用します。
4. デザインレイアウトの変更を保存します。

   デザインレイアウトの変更後、まだ保存していない場合、ツールバーのデザインレイアウト名の横にアスタリスク（*）が表示されます。

   編集したデザインレイアウトが標準デザインレイアウトの場合は、その保存時にローカルデータベースにそのコピーを保存するためのオプションを使用できます。

   変更を保存しない場合は、デザインレイアウトの保存済みバージョンに復元するか、単にそのデザインレイアウトをアクティブ解除します。

デザインレイアウトの定義



デザインレイアウトの構成は次のとおりです。

- 名前
- 説明
- ページ ボックス。ページボックス 107 ページの を参照してください。
- ガイド。ガイド 117 ページの を参照してください。
- ゾーン。ゾーン 118 ページの を参照してください。
- アクション。アクションリスト、グローバル変更、および*QuickRun*による作業の自動化 319 ページの を参照してください。

[デザインレイアウトを編集] ツールの使用

デザインレイアウトをアクティブにし、[デザインレイアウトを編集] を選択すると、クリックおよびドラッグだけを使用して、ゾーン、ガイド、ページ ボックスを手動で移動することができます。

次のキーボード ショートカットのいずれかを使用することもできます。

ショートカット	動作
入力	現在のページにデザインレイアウトを適用します。ページへのデザインレイアウトの適用 106 ページの を参照してください。
Shift + Enter	文書全体にデザインレイアウトを適用します。文書全体へのデザインレイアウトの適用 107 ページの を参照してください。
Ctrl （Windows）または Command（Mac）	このキーを押したままにすると [選択] ツールに切り替わります。キーを離すと [デザインレイアウトを編集] ツールに戻ります。
V	ページの中央に垂直ガイドを追加します。
H	ページの中央に水平ガイドを追加します。
Esc	デザインレイアウトをアクティブ解除します。
G	ガイドを表示または非表示にします。
C	デザインレイアウトを中央に揃えます。
S	現在のデザインレイアウトを保存します。
R	保存しているデザインレイアウトのバージョンに復元します。
D	現在のデザインレイアウトを複製します。
Shift	ドラッグしているガイドを複製します。
矢印キー	デザインレイアウト全体を移動します。
Shift + 矢印キー	より大きな距離でデザインレイアウト全体を移動します。

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

5.5.4.4. デザインレイアウトの中央揃え

デザインレイアウトを文書の中央に配置する場合は、次の手順を実行します。

1. デザインレイアウトをアクティブにします。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
   - **[Enfocus** デザインレイアウト パネル**]**で、デザインレイアウトを選択して **[**中央**]** ボタンをクリックします。
   - **[Enfocus** デザインレイアウト**]** ツールバーから **[** [選択したデザインレイアウト] の中央配置] を選択します。
   - [デザインレイアウトを編集] ツールを選択し、**[C]** ショートカットを使用します。

     注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

5.5.4.5. ページへのデザインレイアウトの適用

デザインレイアウトを適用すると、デザインレイアウトで指定した内容に基づいて文書が実際に変更されます。

注: 文書を変更せずに文書の上にデザインレイアウトを単純に表示するには、デザインレイアウトをアクティブ化します (デザインレイアウトのアクティブ化 102 ページのを参照)。

現在のページにデザインレイアウトを適用するには、次の操作を実行します。

- **[Enfocus** デザインレイアウト パネル**]**で、デザイン レイアウトを選択して **[**ページに適用**]** ボタンをクリックします。
- デザインレイアウトをアクティブにして、**[Enfocus** デザインレイアウト**]** ドロップダウンから [[選択したデザインレイアウト] をページに適用] を選択します。
- デザインレイアウトをアクティブにし、[デザインレイアウトを編集] ツールを選択して **[Enter]** ショートカットを使用します。

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

5.5.4.6. 文書全体へのデザインレイアウトの適用

デザインレイアウトを適用すると、デザインレイアウトで指定した内容に基づいて文書が実際に変更されます。

注: 文書を変更せずに文書の上にデザインレイアウトを単純に表示するには、デザインレイアウトをアクティブ化します (デザインレイアウトのアクティブ化 102 ページの を参照)。

文書全体にデザインレイアウトを適用するには、次の操作を実行します。

- **[Enfocus** デザインレイアウト パネル]で、デザイン レイアウトを選択して [文書に適用] ボタンをクリックします。
- デザインレイアウトをアクティブにして、**[Enfocus** デザインレイアウト] ドロップダウンから [選択したデザインレイアウト] を文書に適用 を選択します。
- デザインレイアウトをアクティブにし、[デザインレイアウトを編集] ツールを選択して **[Shift + Enter]** ショートカットを使用します。

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

5.5.5. ページボックス

5.5.5.1. ページ ボックスの定義

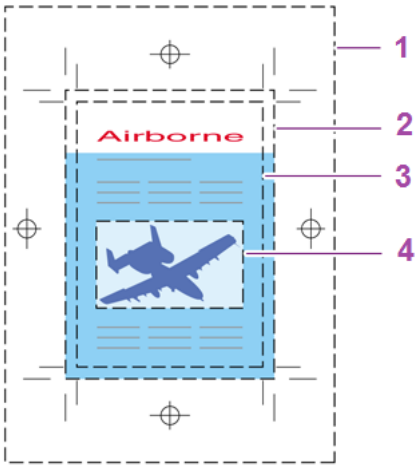
文書を設計し、その文書を PDF 文書として作成する場合、PDF 文書の中に多数のページ ボックスが存在することになります。ページ ボックスとは、ページ内のさまざまなオブジェクトの周囲と、ページ自体の周囲に描かれる仮想的な矩形のことを指します。ページ ボックスは、表示上は意識されることがありませんが、PDF 文書のレイアウトの基本的な概念です。

通常、Adobe Acrobat で PDF 文書を表示する場合、以下の場合を除いては、ページ ボックスは表示されません。

- Adobe Acrobat の [環境設定] ([ページ表示] カテゴリ) で、特定のオプションを選択したとき。
- PitStop Pro または他の PDF 編集ツールを使用しているとき。

5.5.5.2. ページ ボックスのタイプ

次の図に、さまざまなタイプのページ ボックスを示します。



タイプ	説明
1.メディアボックス	メディア ボックスは、一番外側にあるページ ボックスです。メディア ボックスに選択したページ サイズ (A4、A5、US レターなど) が、文書を PostScript または PDF ファイルに出力するときのページ サイズになります。つまり、メディア ボックスにより、PDF 文書を表示または印刷するときのメディアの物理サイズが決定されます。
2.ブリードボックス	文書でブリードを使用している場合、PDF 文書でもブリード ボックスが使用されます。ブリードとは、ページの端を越える部分に印刷されるカラー (またはその他のアートワーク) の量です。ブリードを使用すると、文書を印刷してサイズに合わせて切り取る (「トリムする」) ときに、インクがページの端まで確実に印刷されるようにすることができます。たとえば、トリム マークから少しずれた位置やページの少し「外側」で切り取られるなど、ページが「誤ってトリムされた」場合でも、ページの端が白くなることはありません。
3.トリムボックス	トリム ボックスは、印刷してトリミングした後の最終的な文書のサイズを表します。
4.アートボックス	アート ボックスとは、文書のページ内にある実際の内容の周囲に描かれるボックスのことです。このページ ボックスは、PDF 文書を他のアプリケーションの中にインポートするときに使用されます。
5.クロップボックス	クロップ ボックスは、PDF 文書が Adobe Acrobat で表示されるときのページ サイズです。通常の表示では、クロップ ボックスの内容のみが Adobe Acrobat に表示されます。

5.5.5.3. PDF文書の断ち落としとブリードを表示する

ブリード、トンボ、その他の印刷コントロールストリップおよびカラーコントロールストリップは、通常、PDF文書の最終仕上がりサイズの外側に表示されます。この情報は、Adobe InDesign または Quark XPress など、元の PDF ファイルを作成するときに使用したアプリケーションによって定義されたものです。

この情報を表示するように設定した後、他のグラフィック オブジェクトと同様に、編集、追加、または削除ができるようになります。

1. PDF 文書を開きます。

   Acrobat の画面全体に、PDF 文書が表示されます。

2. [ページ ボックスを表示] ボタン をクリックします。

   注: Acrobatのクラッシュが起きることがあるため、Acrobatのページレイアウト機能（「連続見開きページ」に設定されたページレイアウト環境設定）と一緒にこのオプションを使わないことをお勧めします。

   Acrobat のページの大きさが用紙サイズ全体に調整され、以下の情報が表示されます。

   - トリム サイズ
   - ページのトリム マーク (ある場合)
   - ページのレジストレーション マークとプリンタ マーク (ある場合)
   - ページのブリード (ある場合)

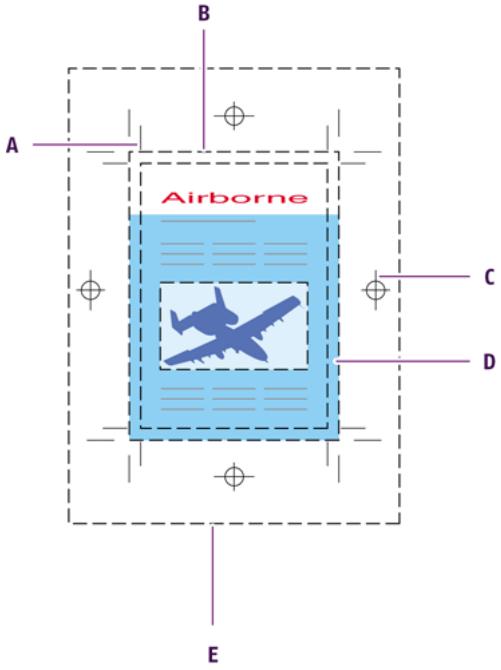
     注: PitStop Proには2つの標準アクションリストがあり、PDF ファイルにブリードを自動的に追加できます。

     - ない場合にブリードを3mmで生成し、すべてのページボックスを正しく設定
     - 一部、なし、または不十分の場合にブリードを3mmで生成

     詳細については、アクションリストダイアログのアクションリストをダブルクリックし、説明を参照してください。

   - カラー コントロール ストリップ (ある場合)

     注: 文書がブリード、トンボ、またはその他の印刷コントロール ストリップやカラー コントロール ストリップがない状態で生成されている場合は、ページの表示はほとんど変わりません (ただし、画像の端に薄く断ち落とし線が表示されます)。



A. トリムマーク
B. トリム サイズ
C. レジストレーションマーク
D. ブリード
E. メディアボックス

[ページボックスを編集]ツール⌗を使用すると、文書のページボックスを手動で移動および編集できます。

5.5.5.4. Enfocusデザインレイアウトエディタを使いページボックスを設定する

デザインレイアウト エディタの [ページ ボックス] カテゴリでは、ページ ボックスを定義することができます。[アクション]ドロップダウンメニューから [現在のページ ボックスをテンプレートとして選択] を選択して、現在の文書のページ ボックスを使用するか、または数値を使用してページ ボックスを定義することができます。ここでは、2つ目のオプションを説明しています。

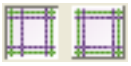
ページボックスの設定

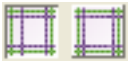
1. [ページボックスレイアウト]メニューから、[プリプレスレイアウト]を選択します。

   このオプションを使用すると、すべてのページボックスを定義できます。[画面表示レイアウト] を選択した場合は、メディア ボックス、クロップ ボックス、およびアート ボックスのみを定義できます。[レイアウトなし] を選択すると、デザインレイアウトでページ ボックスが定義されません。

2. トリムボックスを定義します。

- トリムマークを検出しトリムボックスに使用するには、[検出されたトリムマークにスナップ]チェックボックスを選択します。[編集] ボタンをクリックすると、トリム マークのカラー (CMYK の 100% 値、レジストレーション カラー、特定のカラー) を定義できます。トリムマークが検出されない場合は、その次のオプションが使用されます（有効な場合）。
- 既存のページボックスまたはページコンテンツを基準に新しいトリムボックスを配置する場合は、[既存のトリムボックスと同じ]チェックボックスを選択します。オフセットやアンカー ポイントなどを使用して、新しいトリム ボックスの左上隅を既存のトリム ボックスの左上隅に合わせることができます。
- [トリム ボックスのサイズ] を定義済みの用紙サイズに設定するか、[カスタム] を選択して幅と高さを定義します。他の検出方法が無効になっている場合、またはそれによって結果が生成されなかった場合、このオプションが使用されます。

3. [ブリードボックス]を定義します。
   - ブリードボックスを定義しない場合は、ブリードボックスを[なし]に設定します。定義する場合は [あり] に設定します。
   - ブリードマークを検出しブリードボックスに使用するには、[検出されたブリードマークにスナップ]を選択します。[編集] ボタンをクリックすると、ブリード マークのカラー (CMYK の 100% 値、レジストレーション カラー、特定のカラー) を定義できます。
   - トリム ボックスに基づいて、使用する余白を定義します。[トリム余白] ボタン  を使用して、左、右、上、下の余白を指定するか、全ての側に同じ距離を適用します。
   - 左、右、上、下の余白を指定する場合、[偶数ページでミラー処理] を使用して、偶数ページの左余白と右余白を入れ替えることができます。

4. [メディアボックス]を定義します。
   - トリム ボックスに基づいて、使用する余白を定義します。[トリム余白] ボタン  を使用して、左、右、上、下の余白を指定するか、全ての側に同じ距離を適用します。
   - 左、右、上、下の余白を指定する場合、[偶数ページでミラー処理] を使用して、偶数ページの左余白と右余白を入れ替えることができます。

5. 適当なオプションを選択し、クロップボックスとアートボックスを定義します。
   - なし: クロップボックス/アートボックスを定義しません。
   - [トリムボックスと等しく]
   - [メディアボックスと等しく]

- [表示オブジェクトにスナップ] (アート ボックスの場合のみ): クロップ ボックス内 (クロップ ボックスがない場合はメディア ボックス内) にあるページ内容のバンディング ボックスにアート ボックスを設定します。

5.5.5.5. ページボックスのサイズを確認する

PDFフォーマットには、200×200インチのページサイズ制限があります。ただし、アクロバットではユーザーユニットを使用して、PDF文書のページサイズを増やすことが可能です。この機能は通常、大判印刷で使用されます。

たとえば、150x150インチのメディアボックスは、ユーザーユニットを2に設定することで、300x300に拡大することができます。

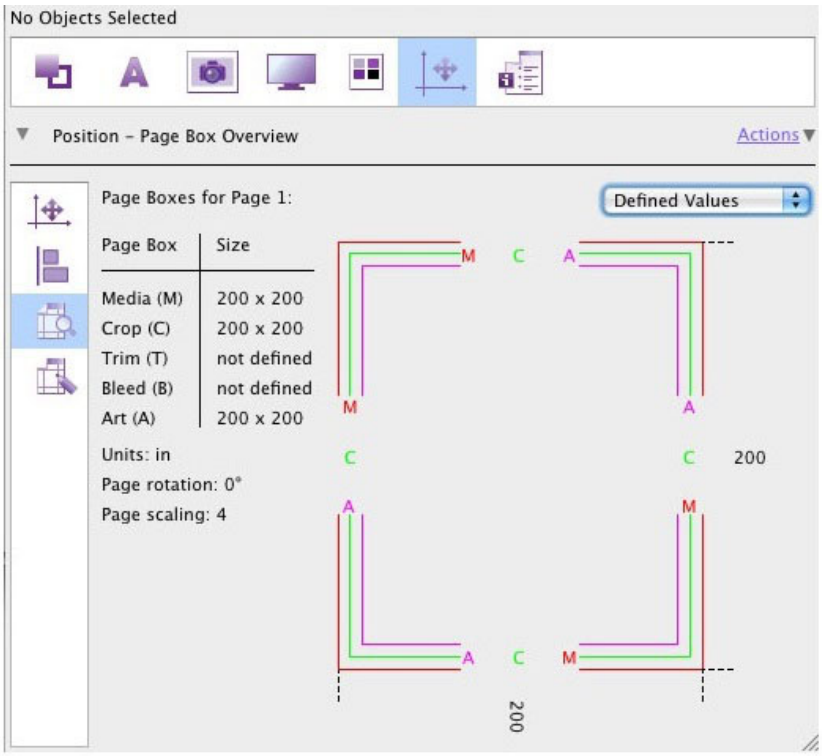
PitStop Pro では、特定のページにおけるページボックスの、定義済みの（つまりオリジナル）の値と、有効な（つまり表示された）値の両方を確認することができます。

ページボックスのサイズを確認する手順

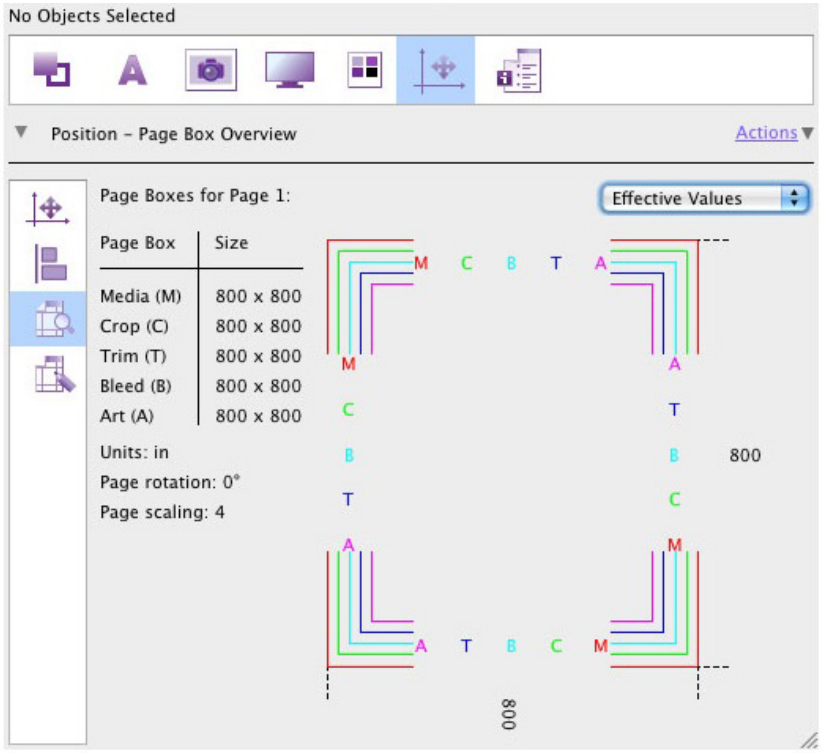
1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2.  >  を選択します。
   対応するサイズのページボックスが、ページ回転およびページスケーリングの値とともに表示されます。右側のドロップダウンリストで、定義済みの値と有効な値を切り替えることができます。
3. ページボックスの値を確認する手順
   - ユーザーユニットを適用しないで、[定義済みの値]を選択します。
   - ユーザーユニットを適用し、[有効な値]を選択します。

   以下のスクリーンショットは、200x200インチのページサイズでユーザーユニットに4が指定されています。

   定義値


No Objects Selected
Position – Page Box Overview
Actions
Page Boxes for Page 1:
Defined Values
Page Box
Size
Media (M)
200 x 200
Crop (C)
200 x 200
Trim (T)
not defined
Bleed (B)
not defined
Art (A)
200 x 200
Units: in
Page rotation: 0°
Page scaling: 4
200
200

有效值


No Objects Selected
Position – Page Box Overview
Actions
Page Boxes for Page 1:
Effective Values
Page Box
Size
Media (M)
800 x 800
Crop (C)
800 x 800
Trim (T)
800 x 800
Bleed (B)
800 x 800
Art (A)
800 x 800
Units: in
Page rotation: 0°
Page scaling: 4
800
800

5.5.5.6. ページボックスの編集

このトピックは特定のPDF文書のページボックスを、Enfocusインスペクタを使用して編集する方法を説明しています。

注: この他にも、[**Enfocus**デザインレイアウトエディタ]、または[ページボックス]パネルの[ページボックスの編集]オプションを通じてPitStop Proページボックスを編集することができます。これは他の文書にも同じ変更を適用する場合に便利です。

PDF文書のページボックスを編集する手順

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2.  >  を選択します。
3. [**X**ページのページボックス]ボックスで、編集するページボックスを選択します。
   ページボックスのサイズが表示されています。

   注: 単位はダイアログの右下コーナーに示されています。例として、「単位: cm」と表示されています。この単位を[PitStop Pro環境設定]（単位&ガイドカテゴリ）から変更することができます。「*単位 & ガイド* 60 ページの」を参照してください。
4. 表示されている寸法を変更するには、リストから目的のオプションを選択します。
   - 定義済みの幅/高さの表示: PDFで定義されているページボックスサイズ（幅/高さ）です。ページ回転またはページスケーリングファクタは適用されていません。ページ回転またはページスケーリングファクタはダイアログの下部で説明されています。
   - 定義済みの右/上の表示: PDFで定義されているページボックスサイズ（右= X軸/ 上= 高さ）です。ページ回転またはページスケーリングファクタは適用されていません。ページ回転またはページスケーリングファクタはダイアログの下部で説明されています。
   - 表示用の幅/高さの表示: ページ回転またはページスケーリングファクタ（該当する場合）を適用したあとの、実際のページボックスサイズ（幅/高さ）です。
   - 表示用の右/上の表示: ページ回転またはページスケーリングファクタ（該当する場合）を適用したあとの、実際のページボックスサイズ（右= X軸/ 上= 高さ）です。
5. [ページボックスを定義する]チェックボックスを選択します。
6. 次のいずれか 1 つ以上を実行します。
   - 選択したページボックスを移動するには、XまたはY軸を定義してアンカーポイントを変更するか、グラフィックの適切な部分をクリックすることで行います。
   - 選択したページボックスを拡大または縮小するには、目的の幅（W）および/または幅（H）を入力します。

注: 縦横比が維持されていることを確認するには、縦横比率が「ロック」（）されていることを確認します。アイコンをクリックして、ロック状態を変更することができます。

PitStopが（新しい）ページボックスサイズに問題を発見した場合、「アートボックスがメディアボックスより大きくなっています」といったエラーがダイアログの下部に表示される場合があります。アイコン!が[Xページのページボックス]ボックスにも表示されます。

7. ほかのページボックスに変更を行うには、必要に応じて手順5～6を繰り返してください。１つの特定のページのページボックスを変更しました。

8. この変更をほかのすべてのページに適用するには、[アクション]リンクをクリックし、[これらのページボックスを全てのページに適用]をクリックします。

[アクション]メニューでは多数の他のオプションが使用できます。以下が一覧です。

このオプションを使用	次のレンダリングインテントを使用
設定	ページボックスを他のページボックスの寸法と配置に基づいて設定します。以下が例です。クロップボックスからメディアボックスへ設定します。このオプションは、定義されていないページボックスでのみ使用できます。
トンボを検出して設定	PDF文書にトリムとブリードマークが存在する場合、トリムボックスとブリードボックスをそれらに基づいて設定します。
選択対象の位置でページボックスを設定	[Xページのページボックス]ボックスで選択したページボックスを特定の選択対象の左/右/下/上に移動します。 このオプションを使用する場合、最初に[PitStop選択オブジェクト]ツールを使用して選択を行う必要があります。
選択対象の位置でページボックスを拡張	[Xページのページボックス]ボックスで選択したページボックスを特定の選択対象の左/右/下/上に拡大します。 このオプションを使用する場合、最初に[PitStop選択オブジェクト]ツールを使用して(選択したページボックスよりも大きい)オブジェクトを指定しておく必要があります。 たとえば、15cm x15cmのオブジェクトを選択し、[ページボックスを上部の選択対象に拡大]を選択した場合、ページボックスの高さは15cmとなります。
デザインレイアウトを適用	選択したデザインレイアウト（ページボックスが定義されているもの）を現在のページに適用します。デザインレイアウトが選択されていない場合、このオプションはグレーアウト表示されます。
デザインレイアウト パネルを表示	Enfocusデザインレイアウトパネルを開く。このダイアログを使用して、（ページボックスが定義された）新規デザインレイアウトを選択し、現在のページ、または文書のすべてのページに適用することができます。

このオプションを使用	次のレンダリングインテントを使用
現在のページボックス設定でデザインレイアウトを作成	新しいデザインレイアウトを現在のページで定義されているページボックスを基にして作成します。Enfocusデザインレイアウトエディタが開き、定義済みページボックスの寸法が既に入力されています。新しいレイアウトデザインを保存するか、保存してすぐに有効化できます。
削除	定義されたページボックスを削除する（ただしメディアボックスはそのまま残す）。
現在のページでページ回転を適用	ページボックスで定義されたページ回転を、現在のページのみに適用します。
すべてのページでページ回転を適用	ページボックスで定義されたページ回転を、文書のすべてのページに適用します。

5.5.5.7. クロップボックスの外側にあるオブジェクトの表示

Acrobatは、クロップボックスの内側にあるPDFのコンテンツのみを表示します。しかし、ページにクロップボックスの外側にオブジェクトがあるかを確認するため、一時的に可視領域を広げたくなることがあるかもしれません。

定義されたクロップボックスが無い場合は、クロップボックスはメディアボックスの寸法に基づいて表示されます。

注: 表示モードは表示されているPDFを変更することはありません（Acrobatにより拡大したサイズで表示されることはありますが）。

ページボックスの外側にあるオブジェクトを表示するには

1. [PitStop 表示]パネルを開きます。
2. ビューポートを拡大するには、[ページボックスの外側のオブジェクトを表示する]ボタンをクリックします。
   ビューポートは拡大されているため、PDFの表示可能なコンテンツとその外側の領域を見ることができます。クロップボックスが表示されます。すべてのPitStopツールはこの表示モードで機能するので、通常の表示モードでのようにページボックスをまだ編集でき、また、このモードが有効な間は文書の他のページに移動できます。
3. 通常の表示モードに戻るには、もう一度[ページボックスの外側のオブジェクトを表示する]ボタンをクリックします。

注: Acrobatのページレイアウト機能（「連続見開きページ」に設定されたページレイアウト環境設定）と一緒にはこのオプションを使わないことをお勧めします。

5.5.6. ガイド

PDF文書でガイドを使用する場合は、アクティブなデザインレイアウトが必要です。独自のデザインレイアウトを作成するか、デフォルトのデザインレイアウトを使用できます。ガイドデザインレイアウトは、ガイドを使用して（ページ ボックスやゾーンを変更せずに）、専用にデザイン レイアウトを作成したサンプルレイアウトです。ページ ボックス情報およびゾーンは含まれていません。ページの中央に整列された垂直および水平の 2 つのガイドが含まれています。

5.5.6.1. Enfocusデザインレイアウトエディタを使いガイドを設定する

[デザインレイアウトエディタ]の[ガイド]カテゴリでは、必要なガイドを定義することができます。

デザインレイアウトのガイドを定義する手順

1. 新しいガイドを追加するには、＋をクリックします。

   ヒント: を使用し、ガイドを複製できます。を使いガイドを削除します。

   [設定]の下にあるテーブルに新しい行が追加されます。

2. 次に、この新しいガイドのプロパティを定義します。

設定	説明
カラーおよび名前	ガイドの代表カラーと名前。 注: テーブル内でダブルクリックすると、これらの値を変更できます。
向き	垂直方向から水平方向
次と相対的	参照として使用するページ ボックス、または他のガイドを指定します。
アンカーポイント	ページボックスの基準点。水平ガイドの場合は上/中央/下のいずれかを、垂直ガイドの場合は左/中央/右のいずれかを選択します。
ガイド名	[基準]が「その他のガイド」に設定されている場合は、ドロップダウンからガイドを選択することができます。同じ方向のガイドだけを使用できます。ガイドを移動すると、このガイドを「基準」とするガイドも移動します。

設定	説明
	注: 「基準」のガイドを削除すると、依存するガイドの設定が[メディア ボックスを基準] に変更されます。
オフセット	参照ポイントからの距離です。正の値は上/右への距離、負の値は下/左への距離になります。
偶数ページでミラー処理	(垂直ガイドの場合のみ): 偶数ページでクロップ ボックスの中心線を基準にガイドを左右逆にします。

3. 追加するすべてのガイドにこれまでのステップを繰り返します。

5.5.6.2. ガイドを手動で定義または変更する

[デザインレイアウトを編集] ツールを使用して、アクティブなデザインレイアウトのガイドを変更することができます。

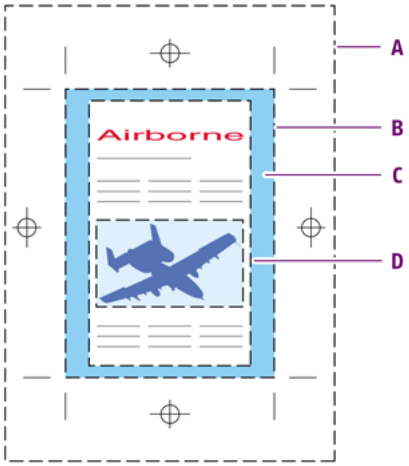
- ガイドをクリックし、ドラッグして移動します。
- 2つのガイドが交差する位置をクリックし、ドラッグして両方のガイドを移動します。
- **[Shift]** キーを押しながらガイドをクリックし、ドラッグすると、そのガイドを複製することができます。
- 垂直のガイドを追加するには、**V** を入力し、水平のガイドを追加するには **H** を入力します。新しいガイドがページの中央に配置されます。

5.5.7. ゾーン

ゾーンを使用すると、セーフティ ボックス、印刷保証領域、その他の特定の領域 (パンチ穴など) を定義できます。

5.5.7.1. セーフティ ボックスおよび印刷保証領域

セーフティ ボックスは厳密にはページ ボックスではありません。つまり、PDF 文書に保存されるページ ボックス タイプではありません。セーフティ ボックスは、トリム ボックスよりもやや小さな表示領域です。セーフティ ボックスには、印刷文書および完成文書に常に表示されるべき全てのテキストまたはその他のオブジェクトが含まれます。セーフティ ボックスとトリム ボックスの間の領域を印刷保証領域と呼びます。この領域には、ブリードとして使用するオブジェクト以外のテキストまたはオブジェクトを配置しないでください。



A. メディアボックス
B. トリムボックス
C. 印刷保証領域
D. セーフティ ボックス

セーフティ ボックスの目的は、不適当な仕上げを補正することです。

- ページは、トリム マークから少しずれた位置やページの少し「内側」で切り取られる可能性があります。この場合には、テキストまたはオブジェクトが誤って切り取られることになります。
- ページに穴を開ける場合があります。これによって、ページの端に非常に近いテキストまたはオブジェクトにも穴が開く可能性があります。

5.5.7.2. ゾーンの管理

- 新しいゾーンを追加するには、**[+]** ボタンをクリックします。
- 選択したゾーンを削除するには、**[-]** ボタンをクリックします。
- 選択したゾーンのカラーを定義するには、**[カラー]** フィールドをクリックします。
- ゾーンの名前は、**[名前]** フィールドで変更します。

5.5.7.3. ゾーンを定義する手順

リストでゾーンを選択すると、以下のゾーンの設定を変更できます。

設定	説明
形状	[境界線]、[矩形]、または [円] のいずれかを指定します。
デザインレイアウトの位置	形状に基づいてゾーンの位置とサイズを指定します。
偶数ページでミラー処理	偶数ページでクロップ ボックスの中心線を基準にガイドを左右逆にします。
描画モード	ゾーンを透明なオーバーレイとして表示したり、非表示にしたり、不透明な領域として表示したりします。
カラー	ゾーンの代表カラー。

設定	説明
ハイライト	テキスト オブジェクトおよび非テキスト オブジェクトが完全にゾーン内にある場合、またはゾーンの内側にあり、選択ゾーンをオーバーラップしたり覆い隠していたりする場合でも、これらのオブジェクトをハイライトできます。

5.5.7.4. 境界ゾーンの定義

境界ゾーンは既存のページ ボックスを使用します。

境界ゾーンを使用すると、トリム ボックスに基づいて印刷保証領域を定義したりできます。

- ページ ボックスを基準にゾーンを配置するには、[基準] を選択してページ ボックスを選択します。2 つのページ ボックス間の領域にゾーンを設定するには、[ページ ボックスの間隔] を選択してページ ボックスを 2 つ選択します。
- [基準] を選択した場合に、[ボックスの内側の全領域] または [ボックスの外側の全領域] を指定すると、ページ ボックスの外側または内側の領域全体をゾーンとして定義できます。
- 特定の領域を定義するには、[領域] を選択し、次の操作を実行します。
  - 選択したページ ボックスの外側にゾーンを定義するには、[ボックスの外側] に設定し、サイズを設定します。
  - 選択したページ ボックスの外側にゾーンを定義するには、[ボックスの外側] に設定し、サイズを設定します。
  - 選択したページ ボックスの内側にゾーンを定義するには、[ボックスの内側] に設定し、サイズを設定します。
  - 選択したページ ボックスの端の中央にゾーンを定義するには、[ボックスの中央] に設定し、サイズを設定します。

5.5.7.5. 矩形ゾーンの定義

1. [基準] で、矩形の配置位置の基準にするページ ボックスを選択します。
2. 参照ポイントとして使用するページ ボックスのコーナーを定義します。
3. 矩形のオフセット距離とサイズを入力します。
4. 安全余白距離を入力します。

   安全余白が矩形ゾーンの外側に破線で表示されます。

5.5.7.6. 円形ゾーンの定義

円形ゾーンを使用すると、パンチ穴を表示したりできます。

1. [基準] で、円の配置位置の基準にするページ ボックスを選択します。
2. 参照ポイントとして使用するページ ボックスのコーナーを定義します。
3. 円の中点オフセットと半径を入力します。

4. 安全余白距離を入力します。

   安全余白が円形ゾーンの外側に破線で表示されます。

5.6. レイヤーの操作

5.6.1. レイヤーについて

PDF 1.5 では、オブジェクトは 1 つまたは複数のレイヤーに割り当てることができます。レイヤーは設定によって表示にしたり非表示にしたり、また印刷したり印刷しないようにすることができます。

レイヤーの設定はアクション リストを使用するか、Enfocus インスペクタ内で変更することができます。

5.6.2. Enfocus インスペクタ内でのレイヤーの設定の変更

Enfocus インスペクタは、オブジェクトのレイヤーの設定を表示または変更することができます。

5.6.2.1. レイヤーの設定を表示する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール をクリックします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。

   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. PDF 文書のテキストまたはオブジェクトを選択します。
4. プリプレスのカテゴリおよびレイヤーのサブカテゴリを選択します。

   [表示表現] により選択したオブジェクトがどのレイヤーに属するかが表示されます。

5.6.2.2. 選択したオブジェクトのレイヤーの設定を削除する手順

1. Enfocus インスペクタを表示します。

   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. プリプレスのカテゴリおよびレイヤーのサブカテゴリを選択して、[アクション]ドロップダウンメニューをクリックし飛び出しメニューを開きます。

3. [常に表示] を選択して、すべてのレイヤーからオブジェクトを削除します

5.6.2.3. 選択したオブジェクトのレイヤーの設定を変更する手順

注: 次の手順は、Enfocus インスペクタを使用した設定変更方法を示します。これとは別に、選択したオブジェクトのコンテキスト メニューを使用して、レイヤーに割り当て > <レイヤー名>（既存レイヤーに移動する）またはレイヤーに割り当て > 新規レイヤー（新規レイヤーに移動する）を選択できます。

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. プリプレスのカテゴリおよびレイヤーのサブカテゴリを選択して、[アクション]ドロップダウンメニューをクリックし飛び出しメニューを開きます。
3. [レイヤーに割り当て] を選択して、オブジェクトを選択したレイヤーに割り当て、他のすべてのレイヤーから削除します。
4. レイヤーをリストから選択、または[新規レイヤー] を選択して、新しいレイヤーを作成します。

6. PDF 文書のプリフライトとチェック

6.1. プリフライトとは

6.1.1. プリフライトの定義

プリフライトという用語は航空業界に由来しています。パイロットには、離陸前に航空機の耐空性を判断する責任があります。つまり、パイロットは各フライトの前に多数のチェックを行う必要があります。

PDF 文書のプリフライトも基本的には同じことです。パイロット (PDF 文書を作成または処理する人) は、文書が「フライト準備完了」 (「出力準備完了」) であることを事前に確認する必要があります。

「出力に適している」ということは、PDF 文書が「使用可能である」ということを意味します。たとえば、次のような状態です。

- 4 色の印刷機で印刷する PDF 文書に含まれている画像が全て CMYK 画像であり、必要なフォントが全て含まれていること
- オンラインで表示することを目的とした PDF 文書に含まれている画像が全て RGB 画像であること

さらに、プリフライト チェックの要件に適合しない PDF 文書のプロパティは「問題」として報告され、同じ処理の中で修復できます。

6.1.2. プリフライトプロファイル

PDF 文書のプリフライトにはプリフライトプロファイルを使用します。プリフライトプロファイルは、PDF 文書を出力するにあたって満たす必要がある基準をまとめたファイルです。各基準では、次のことを指定できます。

- チェック対象にするかどうか。
- PDF 文書で基準を満たさないプロパティが検出された場合、プリフライト レポートでどのようにリストすべきか (「情報」または「エラー」など)。
- エラーまたは警告の場合、サイン オフできます。

さらに、一部の基準では、検出された問題をどのように修復するかを指定できます。

基準の例としては、RGB カラーがあります。PDF 文書で RGB カラーを使用したくない場合、これをチェックして、全ての RGB カラーを CMYK に変換できます。

PitStop 13では、特定の選択にチェックを制限できます。例えば、あるチェックをすべての奇数ページに適用し、別のチェックをすべての偶数ページに適用できます。

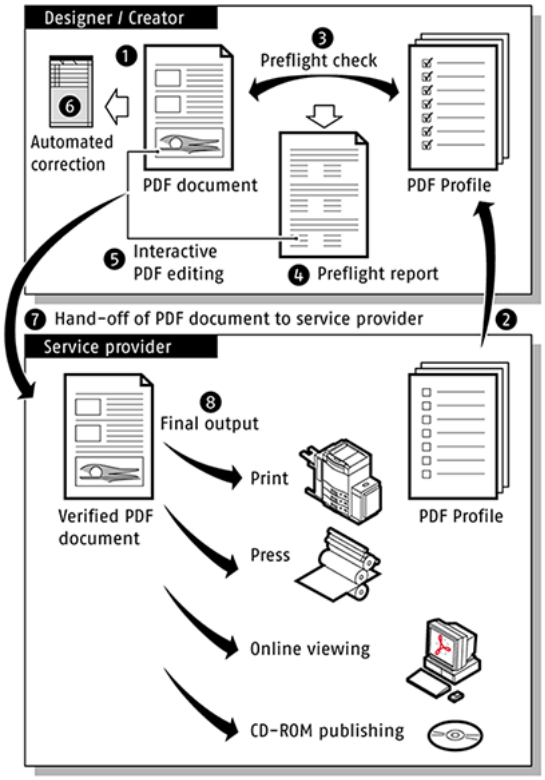
6.1.3. でのプリフライト PitStop Pro

PitStop Pro ではプリフライトはどのように行われるのでしょうか。プリフライト チェックの通常の段階は次のとおりです。

1. チェックの対象となる PDF 文書を開きます。
2. 新しいプリフライトプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを選択します。
3. PitStop Pro を使って、PDF 文書をプリフライトプロファイルと照らし合わせ、検出された問題を自動的に修正させます。
4. PitStop Pro により、プリフライト レポートが作成されます。
5. 必要に応じて、PDF 文書から検出された問題のうち、自動修正されなかったものを手作業で解決します。
6. 必要に応じて [アクションリスト] を使用して、PDF 文書で数々の (高度な) 自動修正を実行します。
7. 検証された PDF 文書をサービス プロバイダに渡します。

   サービス プロバイダは出力準備ができた PDF 文書を受け取り、これを印刷、出版、オンライン表示など最終的な出力ができる状態に仕上げます。

   次の図は、PitStop Proでの一般的なプリフライトワークフローの例を示します。



6.2. プリフライト チェックの実行

プリフライト チェックは、[プリフライトプロファイル] ダイアログボックス、Certified PDF ワークフロー内、または **[Certified PDF**パネル] ダイアログボックスから実行できます。

[プリフライトプロファイル] ダイアログ ボックスを開く手順 18 ページのを参照してください。

6.2.1. プリフライトプロファイルの管理

[Enfocus プロセス - プリフライト] パネルでは、**[Enfocus** プリセット マネージャ] を使用してプリフライトプロファイルを管理できます。*Enfocus プリセット マネージャ* 77 ページの を参照してください。

プリフライト プロファイルの編集または作成は、[プリフライトプロファイルエディタ] で行います。プリフライトプロファイルを編集または作成する 132 ページの を参照してください。

6.2.2. プリフライトプロファイルを実行する手順

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログボックスを開きます。
2. プリフライトプロファイルを選択します。

3. 必要に応じて、次のオプションを変更します。
   - **Certified PDF** プリフライト: プリフライトをCertified PDFワークフローの一部にする場合は、このチェックボックスを選択します。*Certified* プリフライト チェックと通常のプリフライト チェックの相違点 126 ページの も参照してください。

     注: Certified PDF プリフライトは常に文書全体に対して実行されます。このため、[Certified PDF プリフライト] を選択すると、（[実行対象:]の下にある）ページの選択オプション使用できなくなります。
   - 実行対象: プリフライトプロファイルを実行するページ範囲を設定します。
   - 修正を許可: 修復を適用するかどうかを指定します。プリフライトプロファイルによって修復が許可されていない場合、このオプションは無効になります。
4.  をクリックします。

完了すると、Enfocusナビゲータに全てのエラーが表示され、プリフライトを再起動したり、エラーの解決方法を参照したりできます。*Enfocus* ナビゲータ の使用 149 ページのを参照してください。

6.2.3. *Certified* プリフライト チェックと通常のプリフライト チェックの相違点

Certified PDF プリフライト チェックと通常のプリフライト チェックの相違点

プリフライトには次の2つのタイプがあります。

- 標準プリフライト：標準プリフライトはPDFを確認（およびオプションで修正）しますが、プリフライトプロファイルまたはプリフライト結果をPDFに埋め込みません。
- **Certified PDF** プリフライト：Certified PDF プリフライトはPDFを確認（およびオプションで修正）し、プリフライトプロファイルまたはプリフライト結果をPDFに埋め込みます。このため PDF 文書のプリフライト状況を確実に把握できます。詳細については、*Certified PDF*文書の操作を参照してください。

標準プリフライトの場合の***Certified PDF***ステータス

通常のプリフライトでは、PDF 文書の Certified PDF 状況は変わりません。

プリフライト時の条件	結果
その PDF 文書は、Certified PDF ではありません。	そのPDF 文書は「未承認」のままになります。
そのPDF 文書は、Certified PDF です。	Certified PDF 文書に埋め込まれたプリフライトプロファイルは、その PDF 文書を Enfocus プロセス パネル内の異なるプリフライトプロファイルでプリフライトしても、削除されません。

Certified PDF プリフライトの場合の***Certified PDF***ステータス

Certified PDF プリフライトでは、次のように PDF 文書の Certified PDF 状況がチェックおよび変更されます。

プリフライト時の条件	結果
その PDF 文書は、Certified PDF ではありません。	この PDF 文書に対して Certified PDF ワークフローを実行するかどうか確認を求められます。
そのPDF 文書は、Certified PDF です。	PDF 文書にはすでにプリフライトプロファイルが埋め込まれています。 PitStop Pro は、埋め込まれたプリフライト プロファイルが Enfocus 処理中パネルで選択されたプリフライト プロファイルと同じものであるかをチェックします。 プリフライトプロファイルが一致した場合、PDF 文書はプリフライトされます。 プリフライトプロファイルが一致しなかった場合、埋め込まれている Certified プリフライトプロファイルの代わりに、Enfocus処理中パネルで選択したプリフライトプロファイルを使用するかどうかの確認が要求されます。

6.3. 問題のレポート

6.3.1. 問題の重大度レベルの定義

PDF 文書内のプロパティが プリフライトプロファイルで指定した設定に適合しない場合は、プリフライトレポートと Enfocus ナビゲータにそのログが記録されます。これらの不適合の報告方法は、次の方法から選択できます。

- 「警告」として報告
- 「サインオフ」として報告
- 「エラー」として報告

これらのラベルは、検出された「問題」の重大度レベルを示します。プロパティが適合しない場合、検出された問題の重大度を次のように定義できます。

- 基準を満たさないプロパティが実際には問題ではない場合でも、その通知を受け取りたい場合は、そのプロパティに「警告」のラベルを付けることができます。
- 基準を満たさないプロパティが実際には問題ではない (エラーとして扱われる) 場合でも、この個別の文書においては実際の問題とはならないとして、ユーザーがその問題をサインオフしない限り、「サインオフ」のラベルを付けることができます。この場合、その問題は「警告」として扱われることになります。

- 出力用として送る前に適合しないプロパティを プリフライトプロファイルで指定した基準に合わせて修正する必要がある場合は、そのプロパティに「エラー」のラベルを付けることができます。

6.3.2. 問題の重大度レベル: 例

作業している PDF 文書の一部に RGB カラーが含まれているとします。最初に、これらの PDF 文書を校正するためにレーザー プリンタなどの複合出力デバイスで印刷します。その場合、RGB カラーは適切に処理されます。ただし、カラー適合プルーフの場合は、適切な ICC プロファイルが必要です。

ただし、RGB カラーのオブジェクトを含む PDF 文書を知っておく必要はあります。後の段階で、これらの文書をオフセット印刷機で印刷する可能性があるからです。この場合、以下の 2 つのプリフライトプロファイルを使って PDF 文書をプリフライトできます。

- RGB カラーを「警告」として報告するレーザープリンタ用のプリフライトプロファイル
- RGB カラーを「エラー」として報告するオフセット印刷機用のプリフライトプロファイル

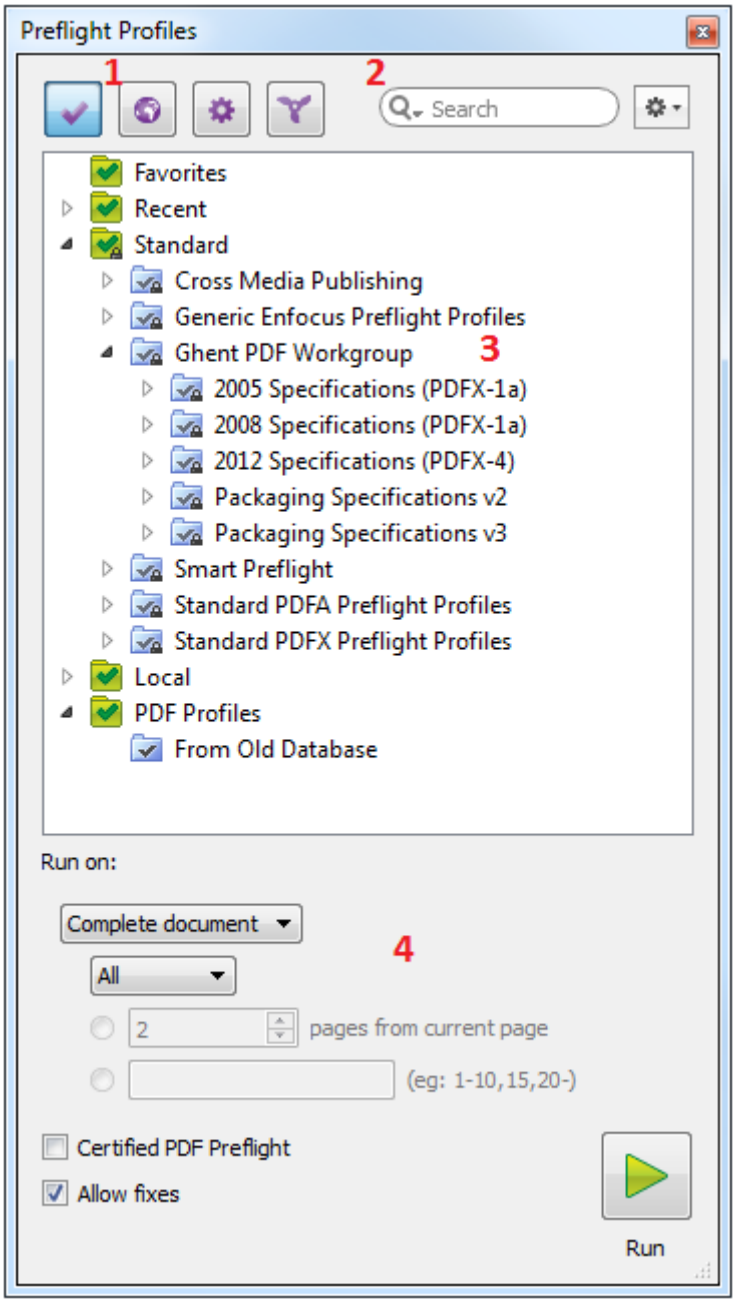
6.4. でのプリフライトプロファイルの場所 PitStop Pro

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**PitStop Pro** > [プリフライト]をクリックします。 • [ツール]ペインで、[**PitStop** プロセス] >  [プリフライトプロファイル]の順に選択します。
Windows	Alt+Ctrl+Pを押します。
Mac	⌥ ⌘ P キーを押します。

6.4.1. プリフライトプロファイルダイアログ

[プリフライトプロファイル]ダイアログでは、プリフライトプロファイルの整理、表示、および実行ができます。

- 既存のプロファイルまたは空のプロファイル（新しいプロファイル作成）を開くことができます。
- プリフライトプロファイルのインポート、エクスポート、複製、およびグループ化ができます。
- プリフライト中のPDFの1ページ以上に適用するなど、プリフライトプロファイルを実行できます。



[プリフライトプロファイル]ダイアログには次の画面パーツがあります。

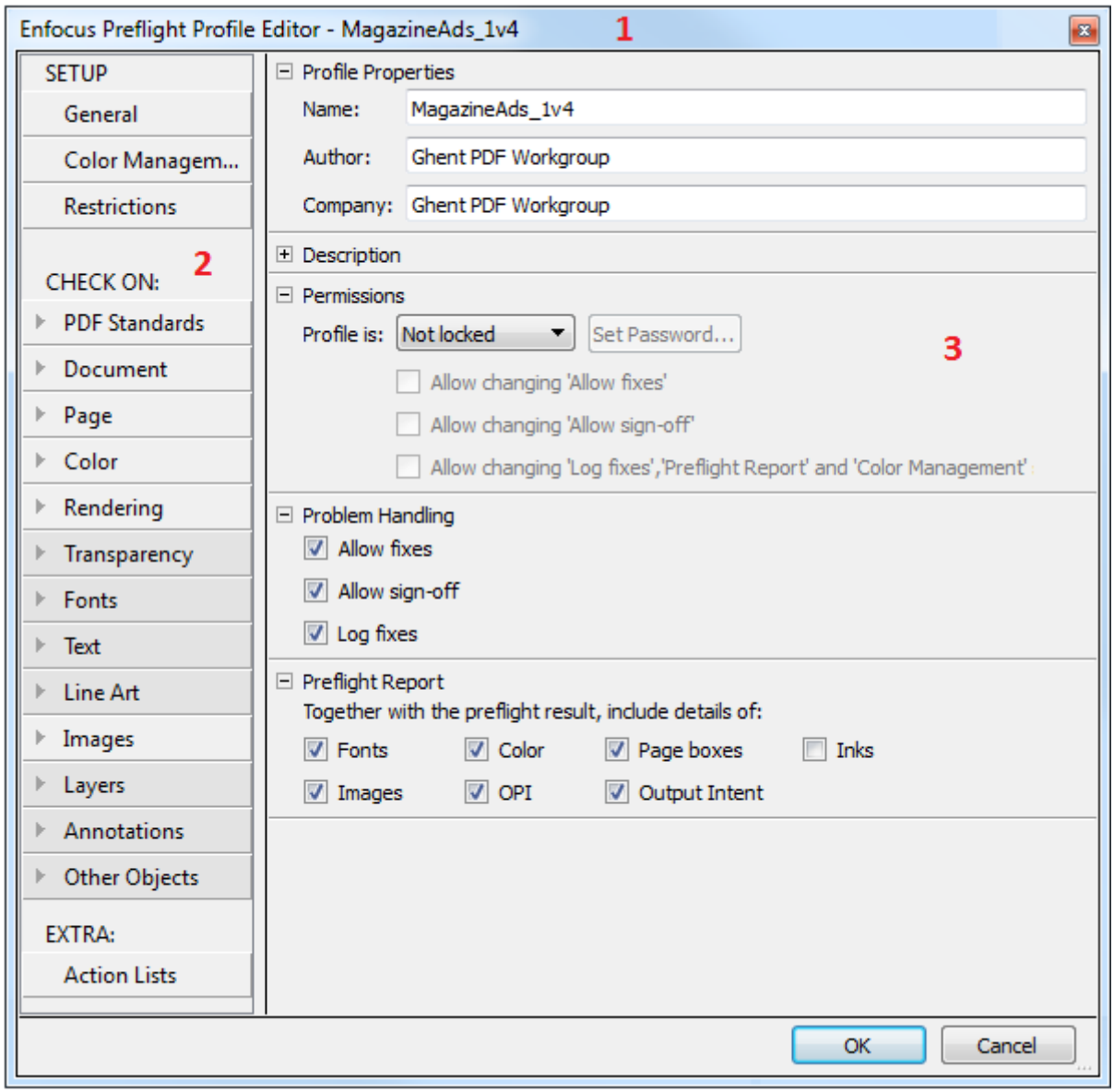
#	説明
1	プリフライトプロファイル  と他の「Preset」（アクションリスト  、グローバル変更、  、およびQuickRuns  ）を切り替えるボタン。
2	検索フィールド（特定のプリフライトプロファイルを検索）とメニュー  （プリフライトプロファイルの整理）。

#	説明
3	使用可能なプリフライトプロファイルが表示されるワークスペース。プリフライトプロファイルは、「データベース」フォルダで整理されます。既定では、次のフォルダがあります。 • お気に入り：プリフライトプロファイルはお気に入りに設定されます。これにより、頻繁に必要なプリフライトプロファイルにすばやくアクセスできます。 • 最近使用した項目：最後に使用した10個のプリフライトプロファイル。 • 標準: PitStop Proでインストールされるデフォルトのプリフライトプロファイル（汎用Enfocusプリフライトプロファイル、Ghent PDFワークグループプロファイル、標準PDF/AまたはPDF/X プロファイルなどのサブフォルダでグループ化）。 ヒント: 特定のプリフライトプロファイルに含まれるチェックを表示するには、プロファイルをダブルクリックします。 • ローカル：編集および作成したプリフライトプロファイルはローカルに保存されます。
4	ダイアログの下部では、ダイアログの上部で選択されたプリフライトプロファイルを実行できます。アクションリストを実行するページと、修正（プリフライトプロファイルで設定）が許可されているどうかを指定する必要があります。修正を許可チェックボックスがオフの場合、プリフライトプロファイルで有効な場合でも自動修正は実行されません。 **Certified PDF** プリフライトチェックボックスでは、certified PDFワークフローを開始できます。このタイプのワークフローでは、プリフライト情報がPDFに保存されます。例えば、PDFをプリフライトするためのプリフライトプロファイル、プリフライトレポート（プリフライトチェックの結果など）、編集セッションごとにPDFに行われた変更は、文書の前のバージョンにロールバックできます。詳細については、Enfocus WebサイトのPitStop Proリファレンスガイドを参照してください。

6.4.2. Enfocus プリフライトプロファイル エディタ

Enfocusプリフライトプロファイルエディタは[プリフライトプロファイル]パネルからアクセスできます。プリフライトプロファイルをダブルクリックするか、コンテキストメニューの[新規] > [新規]を選択すると、このダイアログが表示されます。プリフライトプロファイルの内容を変更できます。

- プリフライトプロファイルの一般設定または説明を変更します。
- プリフライトプロファイルをパスワードで保護できます。
- カラーマネージメントを有効化または無効化し、必要に応じて制限を追加または削除できます。
- 必要に応じて、チェックと修正を有効化または無効化できます。
- プリフライトプロファイルに埋め込むアクションリストを追加できます。



[**Enfocus**プリフライトプロファイルエディタ]には次の画面パーツがあります。

#	説明
1	編集中のプリフライトプロファイルの名前。
2	エディタの左側には3つのメインカテゴリがあります。 • 設定は次から構成されます。 • 全般設定。プロファイルの名前と作成者、環境設定（権限、問題処理など） • カラーマネージメント設定 • 制限。特定のチェックを制限する特定の選択（ページXのすべてのテキスト、特定のタイプのすべての画像など）を定義できます。

#	説明
	• チェックオンには、PDF標準、文書などのすべての使用可能なチェックがカテゴリでグループ化されて一覧表示されます。チェックは有効な場合にだけ実行されます（さらに参照）。ほとんどのチェックは自動修正があります。  注: 濃いグレイの背景のカテゴリのチェックは有効ではありません。 • 追加の下で、プリフライトチェックの一部として実行するアクションリストを追加または削除できます。
3	エディタの左の部分の項目をクリックしたら、対応する情報がダイアログの右側に表示されます。上の例では、右側のペインに[設定]>[全般]の内容が表示されます。

6.5. プリフライトプロファイルを作成および編集する方法

この章では、PitStop Proでプリフライトプロファイルを作成および編集する方法について説明します。

6.5.1. プリフライトプロファイルを編集または作成する

新しいプリフライトプロファイルを作成するか、既存のプリフライトプロファイルを編集する手順

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログを開きます。
   「でのプリフライトプロファイルの場所 *PitStop Pro* 128 ページの」を参照してください。
2. 新しいプリフライトプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを編集します。
   - 既存のプリフライトプロファイルから新規に作成するには、  > [新規] > [既存から新規作成/ファイルから新規作成]をクリックし、基にするプリフライトプロファイルを選択します。

     [既存から新規作成]オプションでは、標準データベースの既存のプリフライトプロファイルを選択することができます。また、[ファイルから新規作成]オプションでは、コンピュータのファイル（*.ppp）を選択することができます。
   - 新しいプリフライトプロファイルを最初から作成するには、  > [新規] > [新規]をクリックします。
   - 既存のプリフライトプロファイルを編集するには、ダブルクリックします。または、目的のプリフライトプロファイルを選択し、  > [編集]をクリックします。

   もしプリフライトプロファイルが完全にロックされている場合、プリフライトプロファイルのコンテンツを見る前にパスワードを要求されます。

もし部分的にロックされている場合、プリフライトプロファイルのコンテンツを見ることはできますが、変更を行う前に[ロック]アイコン  をクリックし、パスワードを入力する必要があります。プリフライトプロファイルをパスワードでロックする 148 ページのを参照してください。

3. 異なるカテゴリの設定を構成します。
   - プリフライトプロファイルの全般プロパティの定義 133 ページの
   - プリフライトプロファイルのカラーマネジメント設定を定義する 134 ページの
   - プリフライトプロファイルの制限の定義 136 ページの
   - チェックの設定 141 ページの
   - プリフライトプロファイルへのアクションの追加 147 ページの
4. **[OK]** をクリックします。

新しいプリフライトプロファイルまたは編集したプリフライトプロファイルを実行し、Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートでプリフライトチェックの結果を確認できます。

6.5.1.1. プリフライトプロファイルの全般プロパティの定義

プリフライトプロファイルの全般プロパティを定義する手順

1. Enfocusプリフライトプロファイルエディタで、設定 > 全般カテゴリで、必要に応じてプロファイルプロパティを確認して変更します。
   - 名前
   - 作成者
   - 会社
2. [プリフライトプロファイル]の[説明]にチェックを入れ、必要に応じて変更します。
3. [権限]セクションでは、プリフライトプロファイルを（部分的に）ロックして、ユーザーがプリフライトプロファイルを変更することを防ぐことができます。「プリフライトプロファイルをパスワードでロックする 148 ページの」を参照してください。
4. [問題の処理] セクションでは、エラーが発生したときにどうするかを決定できます。
   - 修正を許可：有効にすると、PitStop Proは問題を解決しようとします。無効にすると、問題はログに記録されますが、解決はされません。
   - サインオフを許可: 有効にすると、ユーザーはサインオフフラグが設定されている問題（以下を参照）をサインオフすることができます。これにより、ユーザーはエラーがそこまで深刻ではない場合、警告として扱うことができます。無効にすると、ユーザーはサインオフフラグが設定されている場合でもエラーをサインオフすることができません。このサインオフは、certified PDFウィンドウの一部としてのみ可能です。

- 修正をログに記録:有効にすると、PDFに行われた全ての修正がプリフライトレポートに記録されます。

5. [プリフライトレポート]セクションでは、プリフライトの詳細とともに、フォント、カラー、ページボックス、インク、レイヤー、画像、OPI、出力インテントおよびページカラータイプに関する情報を収集できます。
各チェックボックスはプリフライトレポートの情報の章と対応しています。たとえば、レイヤーチェックボックスを選択すると、プリフライトレポートにはPDFのレイヤーとそのプロパティに関する章が含まれることになります。ページカラータイプの章では、空白、白黒、カラーページの数についてお知らせします。...

6.5.1.2. プリフライトプロファイルのカラーマネジメント設定を定義する

カラーマネージメントは、プリフライト時および補正時にカラー変換が行われる際、どのICCプロファイルを使用するかを定義できます。これは、デバイス間でカラーの相違を最小限に抑える場合に便利です。カラーマネジメントを有効にしない場合、お使いのオペレーティングシステムの一般的なカラー変換が使用されます。

このトピックでは、プリフライト中のカラー変換の際に使用するカラーマネジメント設定を定義する方法を説明しています。



注: ここで定義される設定は[PitStop Pro環境設定]で定義された設定よりも優先されます。

カラーマネジメント設定を定義する手順

1. [Enfocusプリフライトプロファイルエディタ]の[セットアップ] > [カラーマネジメント]カテゴリで、カラーマネジメントを以下のように有効にします。
   - Enfocusデフォルトプリセットを使用するには、[カラーマネージメントを有効にする]チェックボックスを選択します。
   - 特定のカラーマネジメントプリセットを使用する手順
     1. [アクション]メニューをクリックします。
     2. [カラーマネージメントプリセットを使用]を選択します。
     3. 目的のカラーマネジメントプリセットを、データベースまたはコンピュータのファイルから選択します。
     4. **[OK]** をクリックします。

   選択されたプリセットで定義された設定が表示されます。必要に応じて変更することができます。

2. 各カラースペースに対して、適切なソースおよびターゲットICC プロファイルを選択してください。
   - 必要に応じて[選択した**ICC**プロファイルよりも出力インテントを優先]を選択します。
   - 目的のプロファイルがソースプロファイルと異なる場合、[ソースと別の**ICC**プロファイルを使用する]を有効にし、正しい目的のICCプロファイルを選択します。

3. 必要なCMMエンジンを選択します。

   CMM（カラーマネジメントモジュール）はカラー変換を管理します。次のいずれかを選択します。

   - **Adobe CMM**（Adobeにより開発されたCMMです。64ビットバージョンがないため、このCMMはサポートされていません）
   - **System CMM**（お使いのオペレーションシステムのCMM）
   - **Little CMS**（オープンソースCMM）

4. 優先するレンダリングインテントを選択します。

   レンダリング インテントは、異なるデバイス間でカラーを変換する際に使用される解析方法です。異なるデバイス間で画像の外観を維持するには、特定の出力デバイス (カラー プリンタ) で再現できないカラーを、出力デバイスのカラー範囲の中で最も近いカラーにリマッピングする必要があります。このリマッピングは、レンダリング インテントと呼ばれる特定の方式に従って実行されます。

   次のリマッピング方法のいずれかを選択します。

   - 定義されたオブジェクト: オブジェクト自体のレンダリングインテントが使用されます。

     注: オブジェクトのレンダリングインテントを確認するには、Enfocus インスペクタを開き、  プリプレス >  出力インテントをクリックします。

     以下のリマッピング方法は、PDF内のオブジェクトに定義されているレンダリングインテントを考慮しません。

   - 相対的な色域を保持: 色域に含まれないカラーは、同じ明度で異なる彩度のカラーで置き換えられます。
   - 絶対的な色域を維持：色域に含まれないカラーは色域の境界線にあるカラーに変更されます。変更先の色域で表示できないカラーは失われます。
   - 彩度：全てのカラーを最も明るい彩度にスケーリングします。彩度 (色度とも呼ばれる) は同じになりますが、一部のカラーは明るくまたは暗くなります。この方式は業務用のグラフィックに最も適しており、業務用のグラフィックでは、カラー間の関係性の精度よりも、カラーの彩度を鮮明にする方が重要になります。
   - 知覚的：変更先のカラースペースの色域内で、オリジナルの色域の再スケーリングを行いますが、カラー間の関係は残しています。この方式では、カラー間の視覚的な関係が維持されますが、カラー値自体は変更されることがあります。

5. 必要に応じて［ブラックポイント補正を使用］チェックボックスを選択します。

   ブラックポイント補正のオプションは、あるデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルと別のデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルとの間の差異によって生じる、カラー変換に関する問題に対処するためのAdobe Photoshopの機能です。

6. [画像]タブに切り替えます。

7. 次のいずれかを実行します。
   - 同じカラーマネジメント設定をPDFのすべてのオブジェクトに設定するには（すなわち[全般]タブで定義されている設定）、[全般的なカラー設定を適用]チェックボックスを選択します。
   - 画像に異なる設定を使用するには、[カラーマネージメントを有効化]チェックボックスを選択し、手順2～5を繰り返します。異なるプリセットで開始する（手順1）ことはできません。

6.5.1.3. プリフライトプロファイルの制限の定義

制限

プリフライトプロファイルの制限

制限は、プリフライトチェックの範囲を制限する方法です。すべてのチェックを文書全体に適用するのではなく、各チェックに対してチェックを実行するPDFの部分を定義できます。これは、PDFページボックス、特定のページ、PDFの特定の領域または特定の要素、またはPDFファイル内の異なるレイヤーにすることができます。

制限はアクションリストとアクションの選択のみで定義されます。独自の制限アクションリストを作成するか、PitStopにインストールされている定義済みのすぐに使える制限アクションリストを作成できます。これらの制限を使用するには、プロファイルにインポートする必要があります。

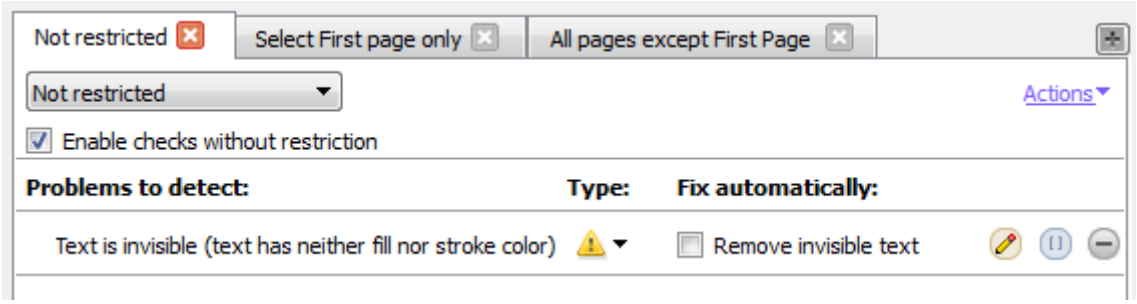
各チェックのグループ（チェックオンの下の各カテゴリ）で、適用する制限（該当する場合）を決定できます。1つのカテゴリに複数の制限が適用される場合は、次のように個別のタブ（制限ごとに1つのタブ）を使用できます。

例

非常に小さい色付きのテキストと非表示のテキストの両方のチェックをPDFで実行するとします。テキストサイズのしきい値は文書の表紙と他の部分によって異なりますが、非表示のテキストは、検出場所に関係なく検出されます。

小さい色付きのテキストと非表示のテキストのチェックはチェックオン：テキストの下にあります。

- 「非表示のテキスト」は文書のすべてのページで有効になる必要があり、制限されるべきではありません。これは、制限アクションリストが必要ないデフォルトの動作です。
- 「テキスト」サイズは2回チェックされます。表紙で1回、文書の他のページで1回です（それぞれが異なる値）。このため、2つの追加のタブが必要で、それぞれ制限が選択されます。
  - 制限1は表紙を選択するアクションリストです。
  - 制限2は他のすべてのページを選択するアクションリストです。



プリフライト レポートで制限

プリフライトレポートでチェックが制限によって限定される場合、制限の名前の前に実際の警告が表示されます。制限が適用されない場合、これは明示的に表記されません。

最適な方法

プリフライトプロファイルでチェックを設定する前に次の手順を実行します。

1. 必要な制限について検討します。
2. アクションリストを作成し、これらの制限を定義します。あるいは、PitStopでインストールされる定義済みの使いやすい制限を使用できるかどうかを確認します。
3. プリフライトプロファイルで必要な制限をインポートします。
4. チェックを設定し、必要に応じて、該当する制限を選択します。制限が選択されない場合、文書全体にチェックが適用されます。

制限の作成

プリフライトプロファイルから新しい制限アクションリストを作成できます。再利用する場合は、後からローカルアクションリストデータベースに書き出すことができます。

注: あるいは、アクションリストエディタでアクションリストを作成できます。「選択」アクションだけを使用してください（使用するプリフライトプロファイルに制限アクションリストを取り込む）。

プリフライトプロファイルから制限を作成する手順

1. プリフライトプロファイルで、設定 > 制限に移動します。
2.  をクリックします。
   [アクション リスト エディタ] が表示されます。
3. 他のアクションリストのようにアクションリストを設定します（「選択」アクションのみを使用）。
   - アクションリストごとに1つの選択だけが可能です（これには、1つの選択になる演算子と組み合わせられた選択アクションがあります）。1つの例外があります。内容が選択された場合にページを選択アクションは、別の選択アクションと組み合わせることができます。以下にその例を挙げます。

     ```
     Select by color space
     ```

```
Select page if content is selected
```

- より複雑な選択が必要な場合は、1つの制限に複数のアクションリストを組み合わせる必要があります。アクションリストは、2つのアクションの後にAND演算子があるかのように順次実行されます。



ヒント:  をクリックして、これらの「選択」アクションだけを表示します。

4. **[OK]** をクリックします。

   制限アクションリストは制限のリストに追加されます。制限をダブルクリックするか、  (選択した制限の編集) をクリックして、別の名前を選択するなど、必要に応じて変更します。

5. 必要に応じて選択の再使用を選択します。

   制限された選択の再使用 140 ページの を参照してください。

新しい制限はチェックのすべてのカテゴリで使用できます。任意で、複数のカテゴリに該当する制限を使用する場合は、すべてのカテゴリでタブを作成をクリックします。ただし、タブを追加しても、チェックは自動的に有効化されません。これは時間を節約する方法です。

他のプリフライトプロファイルの制限を再利用する場合は、  をクリックしてアクションリストダイアログのローカルフォルダに書き出します。このローカルフォルダの名前は該当するプリフライトプロファイルに関連して付けられます。たとえば、「Restrictions from PDFX-4」です。

制限の編集

プリフライトプロファイル内から制限を変更できます。

制限を編集する手順

1. プリフライトプロファイルで、設定 > 制限に移動します。
2. 編集する制限を選択します。
3. 制限をダブルクリックするか、  (選択した制限の編集)をクリックします。
   [アクション リスト エディタ] が表示されます。
4. 他のアクションリストのようにアクションリストを設定します（「選択」アクションのみを使用）。
   - アクションリストごとに1つの選択だけが可能です（これには、1つの選択になる演算子と組み合わせられた選択アクションがあります）。
   - より複雑な選択が必要な場合は、1つの制限に複数のアクションリストを組み合わせる必要があります。アクションリストは、2つのアクションの後にAND演算子があるかのように順次実行されます。



ヒント:  をクリックして、これらの「選択」アクションだけを表示します。

5. **[OK]** をクリックします。

6. 必要に応じて選択の再使用を選択します。
   制限された選択の再使用 140 ページの を参照してください。

変更は、プリフライトプロファイルに取り込まれるバージョンに対してだけ行われます。

ローカルフォルダに変更を書き出すには、  をクリックします。このローカルフォルダ名は該当するプリフライトプロファイルに関連して付けられます。例えば、「Restrictions from PDFX-4」です。

定義済み制限の使用

PitStopにはさまざまな定義済み制限があり、そのまま使用するか、それを基にして独自の制限を作成できます。

定義済み制限の使用

1. プリフライトプロファイルで、設定 > 制限に移動します。
2.  をクリックします。
   制限アクションリストの取り込みが表示され、「選択」アクションだけのアクションリストが表示されます。
3. データベースからが選択されていることを確認し、標準 > 制限アクションリストをクリックします。
   PitStopで提供されるすべての標準の定義済み制限が一覧表示されます。内容を確認するには、制限を選択し、ダイアログの下の説明を読みます。
4. 任意の制限をダブルクリックします。
   プリフライトプロファイルに制限がすぐに取り込まれ、そのまま使用できます。
5. 制限の内容を見るか、必要に応じて変更するには、ダブルクリックするか  (選択した制限の編集)をクリックします。
   詳細については、制限の編集 138 ページのを参照してください。必要に応じて**OK**またはキャンセルをクリックして、このダイアログを閉じます。

   最終的に不要な制限を追加した場合は、  をクリックします。

制限はチェックのすべてのカテゴリで使用できます。任意で、複数のカテゴリに該当する制限を使用する場合は、すべてのカテゴリでタブを作成をクリックします。ただし、タブを追加しても、チェックは自動的に有効化されません。これは時間を節約する方法です。

制限のインポート

制限を使用するには、プリフライトプロファイルにインポートする必要があります。

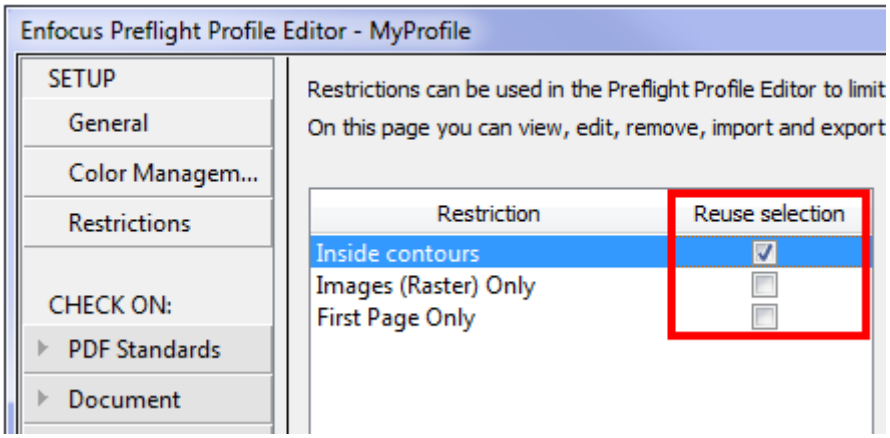
1. 次のいずれかを実行します。
   - プリフライトプロファイルで設定 > 制限に移動し、  (制限のインポート)をクリックします。
   - プリフライトプロファイルで

1. チェックオンに移動し、カテゴリを開きます。
2. ペインの上部のリストを開きます。
3. 制限をインポート...をクリックします。

2. 関係する制限を選択し、**OK**をクリックします。
制限をインポートした場所に関係なく、設定 - 制限の下に一覧表示され、チェックのすべてのカテゴリのすべてのタブのすべてのリストで使用できます。制限の変更は設定 > 制限セクションで行う必要があります。

制限された選択の再使用

文書のプリフライトにかかる時間を短縮したい場合は、プリフライトプロファイルエディタの設定 > 制限セクションにある選択の再使用チェックボックスを有効にします。



意味

- [選択の再使用] のチェックを外すと（デフォルト設定）、制限されたアクション リストが必要に応じて複数回（チェックに使用する度）実行されます。例えば異なる 5 つのチェックが、制限された 1 つの同じ選択に限られている場合（特定属性を持つすべてのオブジェクトなど）、これらのオブジェクトを選択するアクション リストは 5 回実行されます。複雑な制限の場合、PDF のプリフライトに必要な時間に大きく影響します。

- [選択の再使用] を選択すると、制限されたアクション リストは一度だけ実行され、選択が記憶されてプロファイルの関連するチェックに使用されます。複雑な制限の場合、これによって処理時間が大幅に削減されます。

警告

選択した領域がプリフライトプロファイルによる変更の影響を受けない場合にのみ、このオプションを有効化してください。

選択の再使用を有効化してもよい例として以下の場合があります。制限されたアクションリストによって輪郭内のすべてのオブジェクトが選択される場合、プリフライト処理でページのレイアウトが変更されない限り、選択は同じ状態となります。選択の再使用によって処理時間が削減されます。

選択の再使用を有効化しない方がよい例として以下の場合があります。制限されたアクションリストによって CMYK オブジェクトが選択され、プロファイルが CMYK を RGB に変換する場合、変換後に制限アクションリストの結果が PDF の変更状態と一致しない可能性があるため、選択を再使用しない方がよいと思われます。

注: 有効化した方がよいか分からない場合は、プリフライトプロファイルを実行して、結果が予想通りかどうかを確認してください。

6.5.1.4. チェックの設定

[チェック対象]セクションでは、どの問題が検出されるべきか（および必要に応じて修復するか）を示します。

プリフライトプロファイルでチェックを設定する手順

1. チェック対象の下のカテゴリ、例えばPDF 標準または文書をクリックします。
2. このカテゴリのチェック（の一部）を特定の選択に制限するかどうかを決定します。
   - チェックが文書全体に適用される場合は、制限なしがタブの左上端のリストから選択されます。
   - チェックが文書の特定の部分に適用される場合は、タブの左上端のリストから制限を選択します。
   - リストにはない制限が必要な場合は、新しい制限をインポートします。「制限のインポート 139 ページの」を参照してください。
   - PitStop 2017では、PDF標準カテゴリのみ制限できません。このカテゴリには、ドキュメント全体に適用され特定の選択に限定できない一体型のチェック（PDF/X準拠チェックなど）もあります。このカテゴリで定義された制限で古いプリフライトプロファイルを読み込む場合、読み込んだプロファイルでは関連する項目が無効になります。
3. <選択した制限>のチェックを有効化または制限なしでチェックを有効化ボックスを必要に応じて選択します。

   これで、ペインの左側のチェックがアクティブになります。灰色で表示されなくなります。
4. PDF/X Compliancy（PDF標準カテゴリ）またはBinding（文書カテゴリ）など、プリフライトプロファイルに追加するプロファイルチェックをダブルクリックします。

   チェックに関する詳細情報を見るには、マウスカーソルを上に合わせます。追加情報のツールチップが表示されます。

   ヒント: *Enfocus Webサイト*のすべてのチェックの概要を確認できます。該当する製品の製品ページに移動し、マニュアルタブをクリックします。

   有効なチェックは右側に表示されます。
5. 各チェックを個別に次のように設定します。

エリア/ボタン	次の手順を実行します。
検出する問題の下	必須値を入力または選択するなど、チェックする内容を正確に指定します。
タイプの下	検出された問題をプリフライトレポートにリストする方法を示します。 • 警告  : 警告は、深刻な問題ではないですが、情報を知っておいたほうが良い場合に使われます。Certified PDFワークフローでは、警告はブロックしません。 • サインオフ  : 問題が[サインオフ]に設定されている場合、ユーザは問題を警告として処理してサインオフするか決めることができます。これにより、PDFをプリフライトに通すことができます。サインオフはCertified PDFワークフローでのみ可能です。 • エラー:  エラーは深刻な問題として扱われます。Certified PDFワークフローでは、PDFが承認されるのをブロックします。
自動的に修正の下	PitStopが検出された問題を自動的に修正する場合は、このチェックボックスを選択し、（該当する場合は）必要な詳細を入力する必要があります。  **注:** 問題を記録だけし、まだ修正しないか、Enfocusナビゲータを使用して問題を手動で修正できます。この場合、チェックボックスを選択しないでください。
	プリフライトプロファイルに表示されるメッセージをカスタマイズするには（該当する問題が検出される場合）、このボタンをクリックします。これは、「デフォルト」メッセージが技術的で、理解しやすくする場合に有用です。デフォルトメッセージが修正された場合、ボタンが変わります（小さいチェックボックスが追加されます）  。 詳細については、レポートメッセージのカスタマイズ 144 ページのを参照してください。
	このボタンをクリックし、アクティブなタブからチェックを削除します。
	修正された値の代わりに、変数を使用してチェックを設定できます。例えば、プリフライト中の各文書に対して調整する必要がある修正された最小テキストサイズを入力するのではなく、変数「テキストサイズ」を使用できます。このプロファイルでプリフライトチェックを実行すると、ダ

エリア/ボタン	次の手順を実行します。
	イアログがポップアップ表示され、特定の文書の必要なテキストサイズを定義できます。 注: これらの変数がタブのすべてのチェックで使用される場合、タブの右上端のアクションリンクをクリックし、変数名の有効化を選択します。 詳細については、プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用 143 ページのを参照してください。

6. チェックおよび/または修復する、選択したカテゴリのそれぞれの問題について、これまでの手順を繰り返します。

7. 別のセットのチェックに異なる制限が必要な場合は、をクリックして、新しいタブを追加し、該当する制限を選択します。各タブのチェックを個別に設定する必要があります。

   注: プラスボタンが灰色表示の場合、すべての（インポートされた）制限はチェックのカテゴリで既に使用されています。追加のタブを追加する場合は、まず、新しい制限をインポートする必要があります。これにより、プラスボタンがアクティブになり、その制限の新しいタブを追加できます。

プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用

変数では、1つのプリフライトプロファイルで異なるジョブとジョブタイプを処理できます。固定値の使用ではなく、プリフライトプロファイルの実行時に定義される変数を入力します。

プリフライトプロファイルで変数を使用する前に、スマートプリフライト変数で変数セットを定義する必要があります。詳細については、Enfocus WebサイトのPitStop Proリファレンスガイドの「スマートプリフライト」の章を参照してください。このトピックでは、プリフライトプロファイルに変数を追加する方法について説明しています。

プリフライトプロファイルでの変数の使用

1. プリフライトプロファイルで、チェック対象を開きます。これは変数を使用するカテゴリです。

2. 次のいずれかを実行します。

   - 変数がタブのすべてのチェックで使用される場合、タブの右上端のアクションリンクをクリックし、変数名の有効化を選択します。ボタンが、制限なしでチェックを有効化または<制限>のチェックを有効化チェックボックスの横に表示されます。
   - 特定の1つのチェックで変数を使用する場合は、該当するチェックの属性で、変数名ボタンの有効化をクリックします。ボタンが、関連するときに各プロパティの横に表示されます。

3. 変数を使用するプロパティの横にあるをクリックします。
   このボタンは、チェックに変数が適用される場合にのみ表示されます。

4. 変数の選択ダイアログで、選択した変数セットから変数を使用がオンになっていることを確認し、必要に応じて変数セットを選択します。

5. 該当するプロパティで使用する変数をダブルクリックします。

   該当するプロパティに必要なタイプに一致する変数だけが表示されます。例えば、ページ幅を定義する場合は、タイプ長さの変数が必要です。

   変数の名前はプリフライトプロファイルに表示されます。

   プロファイルを実行すると、ダイアログが表示され、該当する値を入力できます。

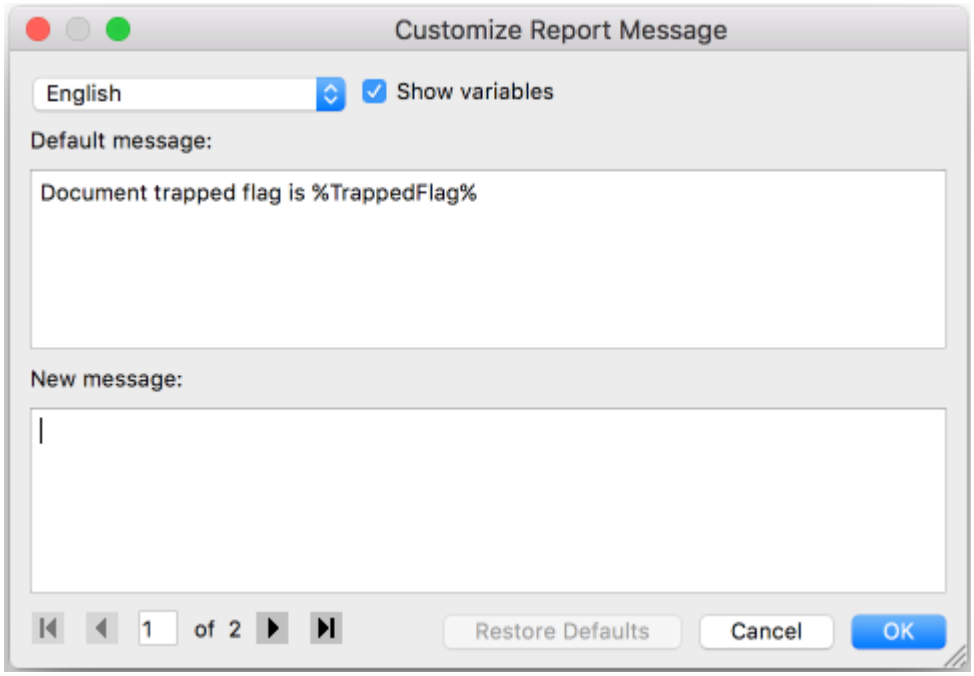
レポートメッセージのカスタマイズ

プリフライトレポートとEnfocusナビゲータのデフォルトメッセージは、複数の方法でカスタマイズできます。例：

- デフォルトテキストの再フレーズ
- その他の情報の追加（問題の場合の対応など）
- 詳細Webページへのリンクの追加

その場合は、次の手順に従います。

1. 該当するチェックの属性で、レポートメッセージのカスタマイズボタンをクリックします。
   [レポートメッセージのカスタマイズ]ダイアログが表示されます。



2. 上部のリストから、メッセージを変更する言語を選択します。
   PitStop言語に関係なく、特定のメッセージを表示するには、すべてを選択します。

デフォルトメッセージは最初のフィールドに表示されます。メッセージに変数が含まれる場合は、変数の表示を選択すると、表示されます。変数は%記号で囲まれています。最終結果（変数が実際の値で置換）をプレビューするには、もう一度チェックボックスをオフにします。

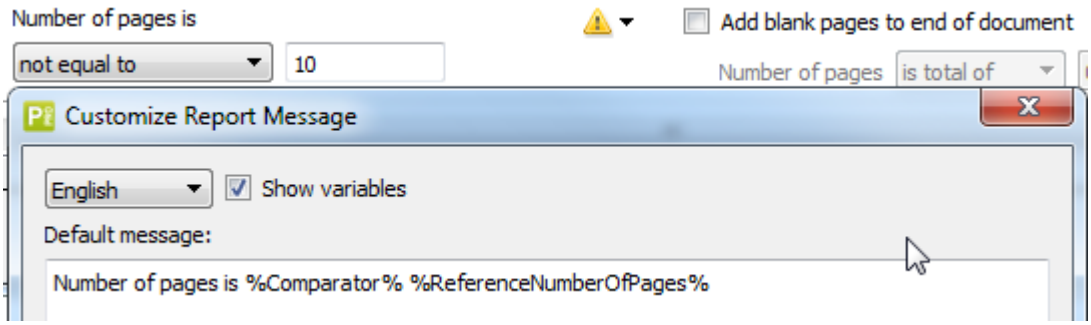
3. 2番目のフィールドに新しいメッセージを入力します。

   入力しない場合、デフォルトメッセージが使用されます。

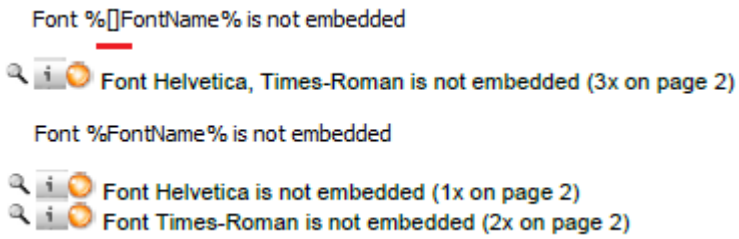
   ヒント: 最初のメッセージの2番目のフィールドにコピーすることをお勧めします（変数の表示がオンになっていることを確認）。この方法で、変数が正しく書き込まれます。変数に誤字がある場合は、そのように認識されず、固定文字列と見なされます。

   特殊ケース

   - ビルトイン設定変数はチェックの属性のオプションを参照します。変数の表示チェックボックスをオフにすると、参照内容を表示できます。次の例では、%Comparator%はリストから選択した値（「等しくない」）を参照し、%ReferenceNumberOfPages%は入力値を参照します。

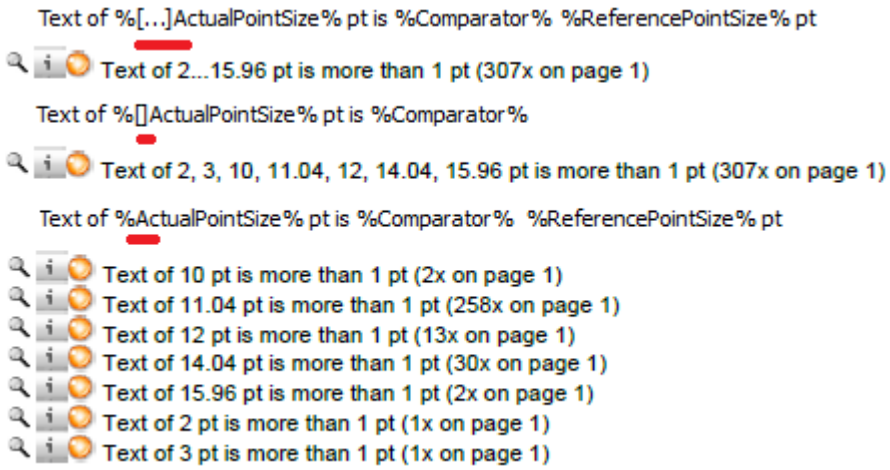


   - 変数内の「[]」などの角括弧は、PDFの検出内容に応じて、変数が1つ以上の値で置換されることがあることを示します。例えば、「%[]fontName%」は、メッセージで複数のフォント名が使用できることを意味します。このように書き込まれると、フォント名が次々に一覧表示されます。角括弧が削除されると、各フォント名の個別の行に別のメッセージが表示されます。以下の例を参照してください。



   - 変数内に「[...]」などの3つのドットを囲む角括弧は範囲を表します。例えば、%[...]ActualPointSize%は、文書内で検出された最も小さいポイントサイズと最も大き

いポイントサイズが3つのドットで区切られてメッセージで使用されることを意味します。間の値は使用されません。3つのドットを削除すると、文書のすべての値が使用されます（カンマ区切り）。あるいは、角括弧を削除すると、ポイントサイズ値ごとに1つの個別のメッセージが作成されます。以下の例を参照してください。



注: 1つのドットを省略するか、4つのドットを書き込む場合、正しい表記を使用してこれが機能することを必ず確認してください。

- レポートメッセージにリンクを表示する場合、URL (e.g. http://www.enfocus.com)を入力します。ユーザーがプリフライトレポートでこのURLをクリックすると、対応するWebページが開きます。

- **%Context%**変数は特別な変数で、触れてはいけません。PDF 規格チェックのような、複数のサブチェックがあるグローバルチェック（それぞれが独自のメッセージを持つ）の場合、プレースホルダとして使用されます。たとえば、「PDF/X-3:2002 : %Context%」は複数のメッセージを生成し、各メッセージは「PDF / X-3 : 2002 : 」で始まり、その後に該当するメッセージが続きます。ダイアログの下にあるナビゲーションボックスをクリックすると、すべてのメッセージは表示（また、必要に応じてカスタマイズ）されます。

- 少数のメッセージをカスタマイズできません。これらは「オンザフライ」生成されないためです。このようなメッセージの場合、「このアクションにはカスタマイズ可能なメッセージありません」という警告が表示されます。

4. ダイアログ下部のナビゲーションボックスをクリックして、同じチェックから発生する他のメッセージに移動して、同じように構成します。

   これは、チェックに複数の個別のオプションがある場合です。例えば、「ページを空にする」チェックでは、ページ全体が空かどうか、特定のページボックス内が空かどうかをチェックできます。これらのオプションのそれぞれで、個別のメッセージを使用できます。デフォルトの復元はこれらのメッセージをすべてリセットします（表示されていないものも含む）。

5. **[OK]** をクリックします。

プリフライトプロファイルでは、ボタンが変更されました ()。デフォルトメッセージに戻る場合は、ボタンをもう一度クリックし、デフォルトの復元を選択します。

6.5.1.5. プリフライトプロファイルへのアクションの追加

プリフライトチェックを行う前に、例えばカラーを修正または変更するアクションリストを実行するなど、PDF文書を編集する必要がある場合があります。これらのアクションリストを個別に実行してからプリフライトチェックを実行するほかに、これらをプリフライトプロファイルに含めることができます。これは一石二鳥の方法です。

- 最初に、埋め込まれたアクションリストで定義された変更点が適用されます。
- 次に、埋め込まれたアクションリストで定義されたチェックが適用されます。
- 最後に、プリフライトプロファイルに含まれる変更点とチェックが適用されます。

アクションリストをプリフライトプロファイルに追加する手順

1. Enfocusプリフライトプロファイルエディタの追加の下で、アクションリストカテゴリをクリックします。
   ダイアログの上部分では、「変更」アクションのみを含むアクションリスト、下半分では「チェック」アクションのみを含むアクションリストを追加できます。
2. 文書の特定の部分にアクションを制限する場合は、ペインの上でリストから制限を選択します。
   - リストにはない制限が必要な場合は、新しい制限をインポートします。（制限のインポート 139 ページのを参照してください。）
   - 別のセットのアクションリストに異なる制限が必要な場合は、  をクリックして、新しいタブを追加し、該当する制限を選択します。
3. 必要なアクションリストを追加します。
   プリフライトプロファイルエディタから既存のアクションリストをインポートするか、または新しいリストを作成できます。アイコンの意味は次の表を参照してください。

アイコン	これらのアイコンは以下に使用します:
	アクションリストが実行される順番を変更します。  注: アクションリストが複数ある場合、順序を変えて実行すると結果が変化する場合があります。必要に応じて事前にテストしてください。
	変更した後などに、アクションリストの取り込みまたは書き出しをします。
	アクションリストを編集します。  注: プリフライトプロファイル内のアクションリストのコピーを編集できます。アクションリスト内のバージョンは変更しません。
	選択したアクションリストを削除します。

アイコン	これらのアイコンは以下に使用します:
	プリフライトプロファイルエディタで作成した新しいアクションリストを追加します。

デフォルトでは、追加されたアクションリストは有効であり、プロファイルを実行する際にはこれらのアクションリストは常に実行されます。必要に応じて、プリフライトプロファイルの**[On/Off]**チェックボックスのチェックを解除し、アクションリストを手動で無効にすることができます。この場合、実行されません。

また、アクションリストを変数に基づいて有効にすることができます。つまり、プリフライトチェックを実行する際、アクションリストを実行するかどうかが変数の値によって決定されることになります。Enfocus WebサイトでPitStop Proリファレンスガイド（スマートプリフライトの章を参照）を参照してください。

4. 変数を使用して、プリフライトプロファイルのアクションリストを有効または無効にするには以下の手順に従います。
   a. プリフライトプロファイルエディタの右上端でアクションメニューをクリックします。
   b. **[変数の名前を有効化]**をクリックします。
      変数ボタン{}が[On/Off]チェックボックスとアクションリストの名前の間に表示されます。
   c. 変数を使用するアクションリストの横にある{}をクリックします。
   d. 変数セット（デフォルトが目的と異なる場合）、変数を選択し、**[OK]**をクリックします。
      [変数ユーザー読み取り可能名]が変数ボタンの角括弧内に表示されます。

   変数をすべてのアクションリストに使用しない場合は、変数ボタン{}をそのままの状態で残します。**[On/Off]**チェックボックスのステータスによって、アクションリストが有効にされるかどうかを決定します。

6.5.2. プリフライトプロファイルをパスワードでロックする

プリフライトプロファイルまたはその一部をパスワードで保護すると、他のユーザーによる設定の変更を防止できます。これは、プリフライトプロファイルを複数のユーザーの間で共有する環境で役に立ちます。パスワードは、プリフライトプロファイルの作成時に作成してロックすることも、後でパスワードだけを追加することもできます。

1. [プリフライトプロファイル]ダイアログを開きます。
   「でのプリフライトプロファイルの場所 *PitStop Pro* 128 ページの」を参照してください。
2. ロックするプリフライトプロファイルをダブルクリックします。
3. **Enfocus**プリフライトプロファイルエディタで、設定 - 全般セクションを開きます。
4. 権限セクションで、プロファイルリストから該当する権限レベルを選択します。

制限レベル	意味
[ロックなし]	プリフライトプロファイルの設定は一切ロックされません。誰でも全ての設定を変更できます。

制限レベル	意味
[部分的にロック]	リストの下にあるオプションを使い許可したアクションを除き、全てがロックされます。 • 「修復を許可」の変更を許可する（[問題の処理]内） • 「サインオフを許可」の変更を許可する（[問題の処理]内） • 「ログ修正」の変更を許可する（[問題の処理]内）、「プリフライトレポート」の変更を許可する（[プリフライトレポート]内のオプション）、「カラーマネージメント」設定の変更を許可する（全般ではなく[セットアップ - カラーマネジメント]内）。
[ロック]	何も変更できません。ユーザーはプリフライトプロファイルを選択し、 PDF文書で実行することのみ可能です。

5. パスワードを設定する場合、[パスワードを設定]をクリックします。
6. パスワードを入力して確認します。

   パスワードには次の文字を含めることができます。

   - 大文字と小文字の英字
   - キーボード上の全文字
   - スペース
7. **[OK]** をクリックします。
8. プリフライトプロファイルを保存するには、**[OK]**をクリックします。

6.6. Enfocus ナビゲータ の使用

6.6.1. エラー、警告、修復、および失敗の参照

PDF 文書でアクション リストまたはプリフライトプロファイルを実行すると、PDF 文書の多くのプロパティが検証され、必要に応じて修復されます。この検証の結果と、修復または変更の内容は、正確に把握する必要があります。これらの作業は、Enfocus ナビゲータを使用して行うことができます。Enfocus ナビゲータは、ご使用の Enfocus の環境設定によって、アクションリストまたはプリフライトプロファイルの実行直後に表示できます。Enfocus ナビゲータ:

- プリフライト チェックのエラーや警告のリスト表示
- アクションリストまたはプリフライトプロファイルの実行中に自動的に行われる修復のリスト表示
- 修復できない問題 (失敗) のリスト表示
- 変更されたオブジェクトまたは問題の可能性のあるオブジェクトの参照とハイライト

- 特定問題の解決方法とこれらの問題を対話形式で修復する方法の提示。
- プリフライト レポートまたはアクション レポートの表示

6.6.2. Enfocus ナビゲータを使用する手順

1. 文書に対してプリフライト チェックまたはアクション リストを実行します。

   [**Enfocus** ナビゲータ] が表示されます。

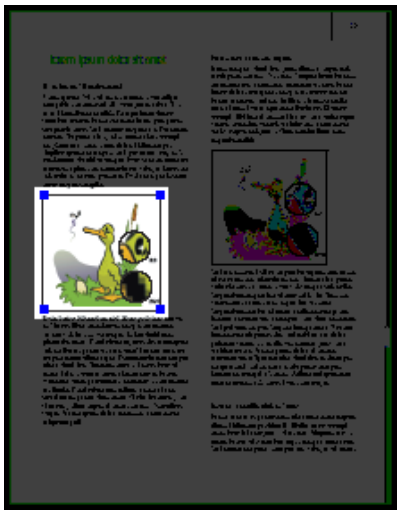
2. 選択したセクションを展開するには、**Enfocus Navigator** 内のプラス記号 (+) をクリックします。

   - 結果 150 ページの
   - 解決方法 151 ページの
   - サインオフ 152 ページの
   - レポート 152 ページの

6.6.2.1. 結果

プラス記号 (+) をクリックして、[エラー]、[警告]、[修復]、または [失敗] のカテゴリを展開します。1 つのエラー、警告、修復、または失敗をクリックすると、その詳細が表示されます。場合によっては、問題のあるオブジェクトがハイライトされます。

たとえば、以下の図では、ハイライト表示されたオブジェクトは、代替画像が削除された画像です。



結果による参照
結果によって参照し、問題または問題の可能性のあるオブジェクトを 1 つずつ表示およびハイライトできます (オブジェクトのハイライト設定か選択設定かによる)。

結果によって参照し、Enfocus インスペクタと併用して、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。

たとえば、PDF 文書の 3 つの画像の解像度が高すぎることを示すエラーが表示されたとします。その場合は、次の手順に従います。

1. 結果によって参照し、問題の画像を表示およびハイライトします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。「*Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く* 97 ページの」を参照してください。
3. Enfocus インスペクタで [画像] > [プロパティ] カテゴリをクリックし、選択した画像の実際の解像度を確認します。
4. [リサンプル] タブをクリックし、画像の解像度を必要な値に下げます。
5. Enfocus ナビゲータの [アクション] ドロップダウンメニューの [プリフライトの再起動] をクリックして、エラー、警告、および修復のリストを更新します。

6.6.2.2. オブジェクト ブラウザ

[オブジェクト ブラウザ] を使用して、問題または問題の可能性のあるオブジェクトを 1 つずつ表示およびハイライトできます。ボタンをクリックすると次のオブジェクトまたは問題が表示され、 または ボタンをクリックすると最後のオブジェクトまたは問題が表示されます。必要に応じて、ハイライトの設定を変更できます。

[オブジェクト ブラウザ] を Enfocus インスペクタと併用して、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。

たとえば、PDF 文書の 3 つの画像の解像度が高すぎることを示すエラーが表示されたとします。その場合は、次の手順に従います。

1. [オブジェクト ブラウザ] を使用して、問題の画像を表示およびハイライトします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。

   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. Enfocus インスペクタで [画像] > [プロパティ] カテゴリをクリックし、選択した画像の実際の解像度を確認します。
4. [リサンプル] タブをクリックし、画像の解像度を必要な値に下げます。
5. Enfocus ナビゲータの [プリフライトの再起動] をクリックして、エラー、警告、および修復のリストを更新します。

6.6.2.3. 解決方法

PDF 文書内に、プリフライトプロファイルで自動的に修正できない問題が含まれている場合があります。こうした問題のほとんどは、適切な修復方法を [解決方法] セクションで確認できます。問題のオブジェクトの修復は、全て行うか 1 つずつ行うかを選択できます。

たとえば、PDF 文書に含まれている注釈が、警告としてレポートされたとします。注釈の一部を残すために、全ての注釈を削除する プリフライトプロファイルは使用しませんでした。この

ような場合に、[オブジェクトブラウザ] を使用して PDF 文書内の注釈をハイライト表示させ、選択した注釈を削除することができます。

6.6.2.4. サインオフ

プリフライトプロファイルでプロパティが [サインオフ] に設定されている場合、基準を満たさないプロパティはレポートでエラーとしてリストされます。リストされたエラーは、ジョブやワークフローで問題にならないと独自に決めることもできます。このような場合、プロパティは警告として処理されます。



注: これはCertified PDFワークフローでのみ可能です。詳細については、*Certified* プリフライト チェックと通常のプリフライト チェックの相違点 126 ページのを参照してください。

1. [**Enfocus** ナビゲータ] で、+ (プラス) ボタンをクリックして [サインオフ] セクションを開きます。
2. エラーをサインオフする理由を、メモとして入力することができます。
3. 次のいずれかを実行します。
   - [適用先] オプションを [すべての問題のオブジェクト] に設定し、一度にすべての問題をサインオフします。
   - [適用先] オプションを [現在のオブジェクト] に設定し、[オブジェクト ブラウザ] を使用して、サインオフする特定のオブジェクトおよびエラーを選択します。
4. [サインオフ] ボタンをクリックします。

6.6.2.5. レポート

全てのエラー、警告、修復、および失敗の詳細なレポートを表示できます。レポート スタイルを選択して、[レポートの表示] をクリックします。

レポートの表示と解釈 153 ページの も参照してください。

レポート スタイル

[レポート スタイル] ドロップダウン メニューには、生成するレポートのタイプに基づき 7 つのオプションを選択できます。選択可能なオプションは次のとおりです。

1. [注釈付きレポート（Annotated Report）]: 注釈を含むレポートが生成されます。
2. [低解像度の注釈付きレポート（Low Resolution Annotated Report）]: 注釈および低解像度の画像を含むレポートが生成されます。したがって、このレポートのサイズは注釈付きレポートよりも少し小さくなります。
3. [保護された注釈付きレポート（Secured Annotated Report）]: レポート (注釈付き) を生成する際にパスワードの入力とその確認を求めるダイアログ ボックスが表示されます。保護された注釈付きレポートでは、ユーザがレポートを編集することはできません。

4. [スケーリングされた低解像度の注釈付きレポート(最大 A4)（Scaled Low Resolution Annotated Report (max A4))]: 注釈付きレポートが生成されます。文書全体がスケーリングされ、低解像度に設定されます。このレポートのページ サイズは A4 サイズを超えず、画像もより小さなサイズに圧縮されます。電子メールで送信するために、大規模なフォーマットの文書について A4 でより小さなプリフライト レポートを生成する必要がある場合などに便利です。
5. [標準（Regular）]: 標準のプリフライト レポートが生成されます。
6. [最小（Minimum）]: 最小限の情報 (プリフライト レポートおよび全般ファイル情報など) を含むレポートが生成されます。
7. [連続（Continuous）]: 連続したレポートが生成されます (すなわち、標準レポートのように各トピックが新しいページで開始されます)。

6.7. レポートの表示と解釈

6.7.1. レポートの内容

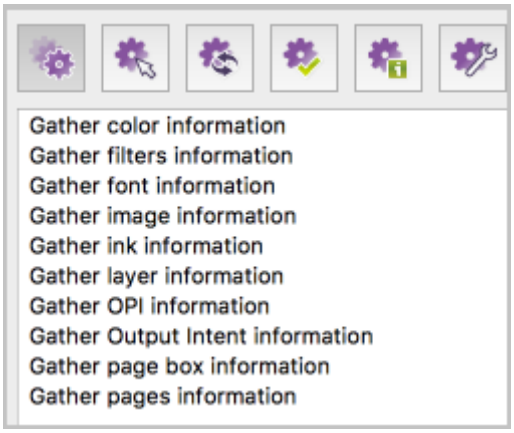
アクションリストまたは プリフライトプロファイルを実行して、PDF 文書のチェックと変更を実行できます。このとき、チェックと変更の結果レポートを表示することができます。PitStop Pro によって生成されるレポートも PDF 文書です。レポートには次のセクションが含まれています。

セクション	内容
エラー、警告、および修復	選択したプリフライトプロファイルに基づく (潜在的な) 問題と PDF 文書に加えられた変更
全般ファイル情報	PDF 文書のプロパティ (PDF バージョン、タイトル、作成者など) とセキュリティ情報
フォント情報	PDF 文書で使用されている全てのフォントとその属性 (フォントのタイプ、埋め込みかサブセットかなど)
画像情報	PDF 文書の全ての画像とその他の情報 (物理的な解像度、有効解像度、ページ、角度、カスタム カラー機能など)
OPI 情報	PDF 文書における OPI の使用方法
カラー情報	PDF 文書で使用されている全てのカラースペース (RGB、CMYK など) と、その他の情報 (必要に応じて)
ページカラータイプ情報	空、色付き、または白黒のページ数の概要。
インク情報	文書全体と各ページそれぞれから算出した CMYK インクの最大量。
レイヤー情報	文書内に存在するレイヤーのプロパティ。ツリー表示をクリックするとレイヤーの配列が表示されます。

この情報をレポートに表示するには、プリフライトプロファイルの設定で該当するチェックボックスを選択する必要があります。たとえばレイヤーを選択すると、レポートにレイヤー情報セクションが含まれます (プリフライトプロファイルの全般プロパティの定義 133 ページの参照)。



インクやレイヤーなどの情報の収集アクションを使っている場合、同じ情報がレポートに表示されます。



6.7.2. レポートを表示して解釈する手順

1. 文書に対してプリフライト チェックまたはアクション リストを実行します。

   [Enfocus ナビゲータ] が表示されます。

2. プラス記号 (+) をクリックして [レポート] セクションを展開します。

3. レポートのレイアウトを選択して、[レポートの表示] をクリックします。

   レポートが開き、エラー、警告、および修復が最初のページに表示されます。

4. Adobe Acrobat の [手のひらツール] を使用して、次のいずれかを実行します。

   - エラー、警告、または修復の横にある拡大鏡のアイコン をクリックして、PDF 文書内の対応するオブジェクトを選択しハイライトします。[オブジェクト ブラウザ] を Enfocus インスペクタと併用して、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。

   - エラー、警告、または修復の横にある情報アイコン をクリックして、ヘルプ トピックを参照します。ダイアログ ボックスが表示され、ヘルプ トピック (オープン Web リ

ンク) を表示する場所の選択が要求されます。この場合は、**[Web** ブラウザ**]** を選択します。

6.8. 注釈付きレポート

6.8.1. 注釈付きレポートについて

注釈付きレポートは、レポートとオリジナル文書の組み合わせを作成するものです。注釈付きレポートを使用すると、Acrobat Reader またはブラウザで Enfocus ソフトウエアを使用することなくプリフライト レポートを参照できます。レポート情報は、複数のメモやしおりとしてオリジナル文書に統合されるため、エラーや警告が参照しやすくなります。

6.8.2. 注釈付きレポートの作成

注釈付きレポートは通常のレポートで、レイアウト タイプとして Annotated Report で作成されます。

これは、[Enfocus PitStop Pro 環境設定]、または Enfocus ナビゲータで設定できます。*Enfocus ナビゲータ の使用* 149 ページの を参照してください。

6.8.3. 注釈付きレポートを表示して解釈する手順

1. 文書に対してプリフライト チェックまたはアクション リストを実行します。

   [Enfocus ナビゲータ] が表示されます。

2. Windows 上でプラス記号 (+) をクリックするか、Mac 上で三角形をクリックして、[レポート] セクションを展開します。

3. [注釈付きレポート] のレイアウトを選択して、[レポートの表示] をクリックします。

   [注釈付きレポート] が表示されます。使用されたプリフライトプロファイル、警告数、エラー数、元のファイル名、およびプリフライトの日時が 1 ページ目上部のメモに表示されます。

4. [ブックマーク] のプラス、マイナスボタンを使用して、しおりを展開または折りたたみます。

5. 警告またはエラーをクリックして、文書内で強調表示させます。

6. [ハイライトの非表示] のしおりをクリックして、すべての強調表示をオフにします。

6.8.4. レポート情報の削除

注釈付きレポートでは、レポート情報を削除することで、オリジナルの処理済み文書を取得し直すことができます。

1. 注釈付きレポートを開きます。
2. [ファイル] > [**Enfocus** レポート情報の削除] を選択します。

6.9. プリフライトの自動化

6.9.1. Enfocus PitStop Server

大量の PDF 文書を特定のプリフライトプロファイルに対して検証する必要がある場合は、この処理を自動化する必要があります。

PitStop Server には、PDF 文書を自動的にプリフライトする機能が備わっています。ここでは、指定した プリフライトプロファイルとアクションリスト (必要な場合) を保管するホット フォルダ を作成できます (アクションリスト、グローバル変更、および*QuickRun*による作業の自動化 319 ページの も参照)。フォルダの作成後、PitStop Server によってユーザー定義可能な入力フォルダが定期的に監視され、このフォルダに保管されている PDF 文書が自動的にチェックされます。有効な PDF 文書と無効な PDF 文書が自動的に適切なフォルダに移動されます。このとき、必要に応じてプリフライト レポートも一緒に保存されます。

PitStop Server の詳細については、弊社の Web サイト (*www.enfocus.com*) を参照してください。

6.9.2. Enfocus Switch

Enfocus Switch を使用すると、PDF ファイルの自動プリフライト、修正、および証明をひとつのより大きなワークフローへ簡単に統合できます。Enfocus Switch は 電子メールまたは FTP を介したジョブを自動的に受領したり、ファイルタイプやファイル命名規則に基づくジョブのソートとルーティングを行ったり、主要な専門家向け出版関連アプリケーションすべてを自動化することが可能です。これにより、Enfocus のプリフライト技術と、PDF ファイル作成、カラー変換、画像の最適化、面付け、および校正用の諸ツールとのスムーズな統合が実現できます。

Enfocus Switch の詳細については、弊社の Web サイト (*www.enfocus.com*) を参照してください。

6.10. スマートプリフライト

6.10.1. スマートプリフライトについて

スマートプリフライトは、1つのプリフライトプロファイルだけを使用して、多くの異なるジョブタイプと仕様を処理できる機能です。これは、変数の使用によって可能になります。

たとえば、プリフライト設定の1つがページサイズを確認する場合、最も一般的に使用されるページサイズ（A4など）をデフォルトとする変数を使用して1つのプロファイルを定義すれば十分です。異なるページサイズの文書タイプが発生する場合（リーフレットや新聞など）、必要なページサイズを定義済みリストから選択するか、プリフライトチェックの実行時に表示されるダイアログで（変数の定義方法に従い）該当する値を入力できます。

変数には次の3つのタイプがあります。

- 定数変数は、ユーザー入力（上記の例ではPitStop Pro）またはジョブチケットまたはデータベース（PitStop Server とConnect）から値を取得する変数です。
  - **PitStop Pro**では、プリフライトチェックを実行する直前にダイアログが表示されます。必要な値を手動で入力できます。
  - **PitStop Server**では、XML/JDFジョブチケットとPDFを送信する必要があります。このジョブチケットの情報（ページサイズなど）は、変数の値を決定するために使用されます。
  - **PitStop Server** コンフィギュレータ (Switchで使用) では、ジョブチケットまたはデータベースから情報を取得できます。
  - **Connect**では、Connectorによって処理された各文書のジョブ情報を収集するジョブチケットを作成できます。このジョブチケットのメタデータは、変数の値を決定するために使用されます。
- 計算に基づく変数は、乗算、除算、減算、合算などの特定の値（固定値または変数）によって値が計算される変数です。

  たとえば、大判印刷では、必要な解像度はビューイング距離によって異なり、距離が大きいほど、必要な解像度は低くなります。最適な解像度は、計算変数で計算できます。

  他の例はポイントサイズです。大きなポスターを小さなディスプレイで見る場合、ポイントサイズは小さくします。最適なポイントサイズは、標準値（固定値）を（変数に格納されている）スケーリングファクタで割って計算できます。
- 規則に基づく変数は、他の変数に値が基づいている変数です（すべてのEnfocus製品で可能）

  たとえば、プリフライトプロファイルのインク適用量を確認するとします。最適なインク適用量は、用紙タイプや印刷方法など、さまざまな要因によって異なります。変数がない場合、各用紙と印刷方法の組み合わせ、固定総インク適用量ごとに、異なるプロファイルを定義する必要があります（例：非コート+シートフィードリソグラフのプロファイル1、コート+シートフィードリソグラフのプロファイル2など）。ただし、変数を使用すると、1つのプロファイルを定義し、ジョブの必要な情報（用紙タイプと印刷方法）を入力し、最適なインク適用量を実行時に計算できます。

異なるタイプの変数を組み合わせることができます（定数変数のドロップダウンに基づいて計算される規則に基づく変数）。これにより、1つのユーザー入力 (PitStop Pro) またはジョブチケットまたはデータベースの1つの値のみに基づいて、複数のチェックと修正を設定できます。

	定数 ユーザー入力	定数 ジョブチケット	定数 データベース	規則に基づく	計算に基づく
PitStop Pro	✔			✔	✔
PitStop Server		✔		✔	✔
Enfocus Switch と PitStop Server の組み合わせ*		✔	✔	✔	✔
Enfocus Connect/ Connector		✔	✔	✔	✔

* *PitStop Server*コンフィギュレータは、*Switch* 変数をサポートします。スマートプリフライト変数：タイプ *162* ページのを参照してください。

注: 変数は、プリフライトと同様に、アクションリストで使用できます。

6.10.2. スマートプリフライトの使用の開始

変数と変数セット

スマートプリフライトの操作を行う前には、使用する変数を定義し、変数セット（書き出しおよび取り込み可能なファイル形式）に保存する必要があります。

プリフライトプロファイルを定義するときには、この変数セットから必要な変数を選択できます。別の変数セット（別の文書タイプまたは別のEnfocus製品の別の変数セットを定義する場合など）を作成できます。また、変数セットには任意の数の変数を含めることができます。ただし、1度に適用できる変数セットは1つだけです（PitStop Serverのホットフォルダごとに1つ、PitStop Proの1つのアクティブ変数セットなど）。また、該当するプリフライトプロファイルで使用される変数セットと一致する必要があります。

注: PitStop Pro と PitStop Server では、プリフライトプロファイルまたはアクションリスト同様、同一のスマートプリフライト変数セットを共有できます。ただし、一部の変数タイプはPitStop ProまたはPitStop Serverでのみ動作します。サポートされていない変数はデフォルト値を使用するか、エラーになります。

プリフライト設定を変数として設定する方法を決定するには

優れた候補は、次のようなジョブからジョブへ変更できるプリフライト設定です。

- トリム ページ サイズ
- 総インク適用範囲
- 定義済みカラーの数

多くの場合は同じであるプリフライト設定は、固定値としてより効率的に設定できます。例：

- フォントの埋め込み
- セキュリティ設定
- 文書には分版されたページが含まれています

はじめに

次のトピックでは、変数セットを設定し、プリフライトプロファイルで変数を使用する方法について段階的に説明します。

6.10.3. スマートプリフライトの設定

6.10.3.1. スマートプリフライト設定：概要

このトピックでは、スマートプリフライトの設定と使用に必要な手順について説明します。

1. 変数セットの設定:
   a. 変数セットを作成する。
   b. 使用する変数を定義する。
2. 変数セットを適用する。
3. プリフライトプロファイルでの該当するチェックに変数を適用する。
4. 定義済みの変数を使用してプリフライトプロファイルを実行する。

6.10.3.2. 変数セットの設定

変数セットの作成または編集

プリフライトプロファイルまたはアクションリストで変数を使用するには、変数セット（必要な変数が含まれる）が必要です。新しい変数を作成するか、既存の変数を再利用できます（必要に応じて新しい変数を追加するなど）。

重要: 複数の変数セットを作成できますが、1つのセットにすべての変数を保持することをお勧めします。PitStop ProとPitStop Serverの両方を使用している場合にのみ、別のセットを使用することを検討できます。ただし、単一のプリフライトプロファイル内で異なる変数セットに含まれる変数を使用すると、「アクティブな」（適用済み）変数セットの変数のみでデフォルト値が使用されます。非アクティブな変数セットの変数は空白になります。

変数セットの作成または編集の手順

1. **PitStop Pro** > 変数セット > 変数セットの環境設定...をクリックします。

   あるいは、**PitStop** プロセスパネル（ツールの下）を開き、[ ]または[ ]をクリックし、変数セットの環境設定...を選択します。

この操作によって、[変数セットの環境設定] が表示されます。このパネルには、インストールされているすべての変数セット、定義済みのローカル変数セットが表示されます。

2. 次のいずれかを実行します。
   - 既存の変数セットを編集するには、該当するセットをダブルクリックします。
   - 新しい変数セットを作成するには、アクションメニュー（  ）から、新規 > 新規を選択します。

   Enfocus 変数セット エディタが表示されます。
3. 該当する詳細（わかりやすい名前と説明）を入力し、必要に応じて変数セットをロックします。
   変数セットのロック（オプション） 160 ページの を参照してください。
4. 任意の変数を定義します。
   スマートプリフライト変数の定義 161 ページの を参照してください。
5. [保存] をクリックします。
   新しい変数セットは、ローカルPitStop Proフォルダに保存されます。



注: 「ローカル」のフォルダは、他のEnfocusアプリケーションと共有されます。

変数セットのロック（オプション）

変数セットのロックは、Enfocus 変数セット エディタで変数セットを開いたときに、単に他のユーザが変数セットを編集したり、完全な詳細を閲覧できなくすることを目的としています。

変数セットをロックするには

1. 変数セットを開きます。
   変数セットの作成または編集 159 ページの を参照してください。
2. Enfocus 変数セット エディタでを設定 > 全般をクリックします。
3. 権限リストからロックを選択します。
4. パスワードを入力して確認します。
   必要に応じて、パスワードの変更ボタンをクリックすると、いつでもパスワードを変更できます。
5. **[OK]** をクリックします。
6. [保存] をクリックします。

変数セットがロックされます。変数セットの詳細を編集または表示する場合は、ロックアイコン  をクリックして、正しいパスワードを入力します。

スマートプリフライト変数の定義

プリフライトプロファイルで使用するスマートプリフライト変数は、使用する前に定義する必要があります。このトピックでは、新しい変数を作成および定義する方法を説明します。

スマートプリフライト変数の定義手順

1. 新しい変数を含む変数セットダイアログが開きます。
   変数セットの作成または編集 159 ページのの手順1を参照してください。
2. Enfocus変数セットエディタの左側の変数の下で、⊞をクリックします。
3. 新しい変数に必要な詳細を入力します。

フィールド	意味
名前	変数が目的とするチェックなど、わかりやすい名前を選択します。 この名前は、変数がチェックまたは修正に適用されるときに、プリフライトプロファイルエディタまたはアクションリストエディタに表示されます（プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用 170 ページのを参照）。このため、この名前はできるかぎり短くすることをお勧めします。
ユーザーの読みやすい名前	変数名が技術的すぎる場合や短すぎてわかりにくい場合は、このフィールドを使用します。 PitStop Proでスマートプリフライトチェックを実行するときに表示されるスマートプリフライトダイアログで表示されます（定義済みの場合）。スマートプリフライト チェックの実行 171 ページのを参照してください。
タイプ (最初のリスト)	該当するタイプを選択します。スマートプリフライト変数：タイプ 162 ページのを参照してください。
タイプ (2番目のリスト)	この変数によって生成された値のタイプ。たとえば、トリム ページ サイズの変数を作成する場合、「長さ」変数タイプを定義する必要があります。チェックボックスの選択または選択解除を行う必要のある変数 (たとえば、修正をオンにするため) では、ブール変数タイプを定義する必要があります。各オプションの例： • 数値：ページ カウント、分版数など • 長さ（測定フィールド数など）- ページトリムサイズ、ブリード量など • 文字列：メタデータ フィールドのエントリ • ブール：チェックボックスの選択 注: 変数タイプが目的のプリフライト チェック設定と一致していることが重要です。変数をプリフライト

フィールド	意味
	チェック設定に適用する場合、入力のタイプと一致する変数のみが表示されます。
タイプ (3番目のリスト)	変数タイプ「長さ」とジョブチケットを組み合わせる場合、3番目のリストが使用でき、「ポイント」、「インチ」などの該当する単位を選択できます。 注: デフォルト値フィールド（下）に表示される単位は、該当する環境設定によって異なります。
説明	任意で、簡単な説明を入力します。

4. ダイアログの下側のフィールドで続行します。
   手順のこの部分は選択した変数タイプによって異なります。
   - 定数変数定義 163 ページの。
   - 計算に基づく変数の定義 165 ページの。
   - 規則に基づく変数の定義 166 ページの。

   注: 変数の例については、スマートプリフライト変数セット - PitStop Pro - v1.4を確認します。(標準 > スマートプリフライトの下)。

5. をクリックして、変数がユーザーに表示される方法を確認します。
   「変数セットの変数をテストまたは検証する 169 ページの」を参照してください。このオプションはSwitchでは使用できません。

6. [保存] をクリックします。

スマートプリフライト変数：タイプ

変数の定義中には、タイプを選択する必要があります。以下の表は、アプリケーションごとに使用可能な変数タイプの概要を示し、意味について説明します。

タイプ	意味	アプリケーション
一貫性	PitStop Proでは、定数変数フィールドをプリフライトチェックに適用する場合、オペレータはプリフライト チェックを実行する前に表示されたデフォルト値をオーバーライドできます。定数は、文字列、数値、長さ (測定値など)、またはブール値 (はい/いいえ、またはオン/オフ) のいずれかです。 定数変数はPitStop Serverにあり、PitStop Proと互換性があります。デフォルト値のみが処理で使用されます。PitStop Server はファイルを 100% 「ハンドオフ」の形で処理することを目的としているため、処理時に	PitStop Pro/Server Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ Enfocus Connect

タイプ	意味	アプリケーション
	は値を上書きする一切の選択を行うことができません。	
規則に基づく	規則に基づく変数では、他の変数から値を取得し、異なる条件に基づいて新しい値を作成できます。たとえば、用紙タイプと印刷方法を表す変数を両方使用し、必要な総インク適用範囲の値を定義できます。	PitStop Pro/Server Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ
計算に基づく	計算に基づく変数により計算をすることが可能になります。必要に応じて、固定値や変数値を乗算、除算、減算、合算できます。	PitStop Pro/Server Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ Enfocus Connect
ジョブ チケット	ジョブ チケット変数は、PDF ジョブ ファイルと併せて PitStop ServerまたはConnector に送信された XML/JDF ジョブ チケット ファイルから抽出されます。この変数では、単一の設定を変更するために使用するか、より複雑な処理で使用する規則に基づく変数にリンクすることができます。 注: PitStop Serverのジョブチケット変数はSwitchでは使用できません。ただし、ジョブチケット変数を変数またはスクリプトの式が付いたテキストに変更し、これらをSwitchの動作に合わせて変更できます。	PitStop Server Enfocus Connect
変数を含むテキスト	変数値は、Switch変数を使用して定義されます。この種類は、SwitchでPitStop Serverコンフィギュレータ経由で変数セットを開いた場合のみ利用できます。	Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ
スクリプトの式	変数値はJaveScriptを使用して定義されます。この種類は、SwitchでPitStop Serverコンフィギュレータ経由で変数セットを開いた場合のみ利用できます。	Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ

定数変数定義

オプション

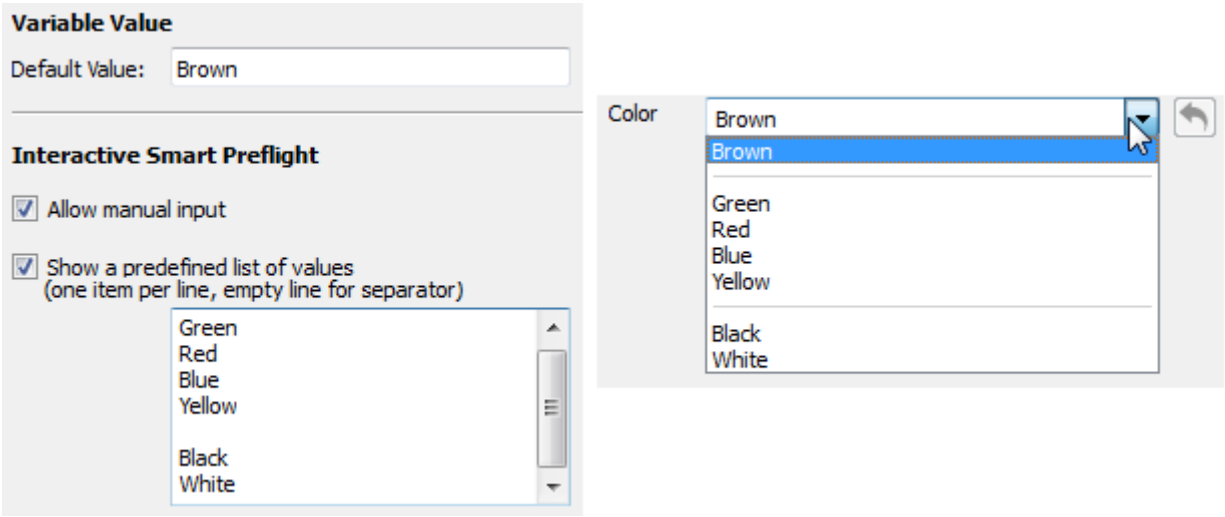
次の表は、定数固有のオプションの概要を示したものです。

オプション	説明
デフォルト値	これは、PitStop Proがこの変数に必要なプリフライトプロファイルまたはアクションリストを実行するときに使用される固定値。 注: PitStop Serverで使用される定数変数はユーザーが操作できません。ただし、PitStop Serverはデフォルト値のみを使用します。

オプション	説明
手動入力を許可	プリフライトプロファイルを実行するときには、ユーザーが値を入力できます。
定義済みの値のリストを示します。	ユーザーは値のリストから定義済みの値を選択できます。 値タイプが数値または長さの場合、値をマスクし、ユーザーの代替名を指定できます。 ヒント: 値を選択し、上下にドラッグするか任意の位置にドロップすることでリストの項目の順序を変更することもできます。

例

以下に、定数変数定義（左）と、プリフライトプロファイルを実行するときにユーザーに表示される結果リスト（右）の例を示します。



。

オプションの組み合わせ

手動入力を許可と定義済みリストを表示を組み合わせることができます。次の表に、この意味を示します。

選択したオプション	意味
両方有効	ユーザーは定義済みのリストから値を選択するか、手動で値を入力できます。
両方無効	ユーザーは読み取り専用テキストボックスにデフォルト値が表示されます。変更はできません。
手動入力を許可のみを有効	ユーザーは値を手動で入力できます。選択するリストはありません。
定義済みリストを表示のみが有効	ユーザーは定義済みリストから値を選択できます。値を自分で入力することはできません。

計算に基づく変数の定義

計算に基づく変数により、特定の値（固定値および変数の両方）を乗算、除算、減算、合算して値を計算できます。

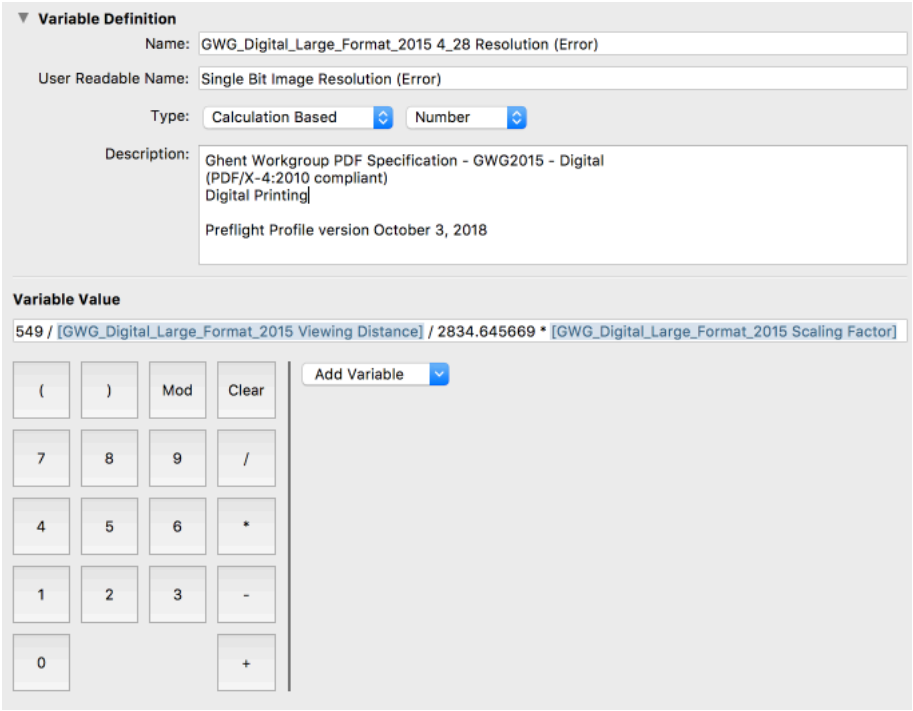
次のようにして、（変数値入力フィールド内で）計算を組み立てることができます。

- 変数値フィールドに直接値を入力できます。
- 数字と演算子を挿入するには、入力フィールドの下で計算機を使用することもできます。「クリア」はすべての入力フィールドをクリアします。
- 変数を挿入するには：
  1. [変数を追加]ボタンをクリックするか、または入力フィールドに角括弧 ([) を入力します。これにより、現在の変数セットで定義されたすべての変数を含むドロップダウンリストが開きます。
  2. 挿入する変数をクリックします。

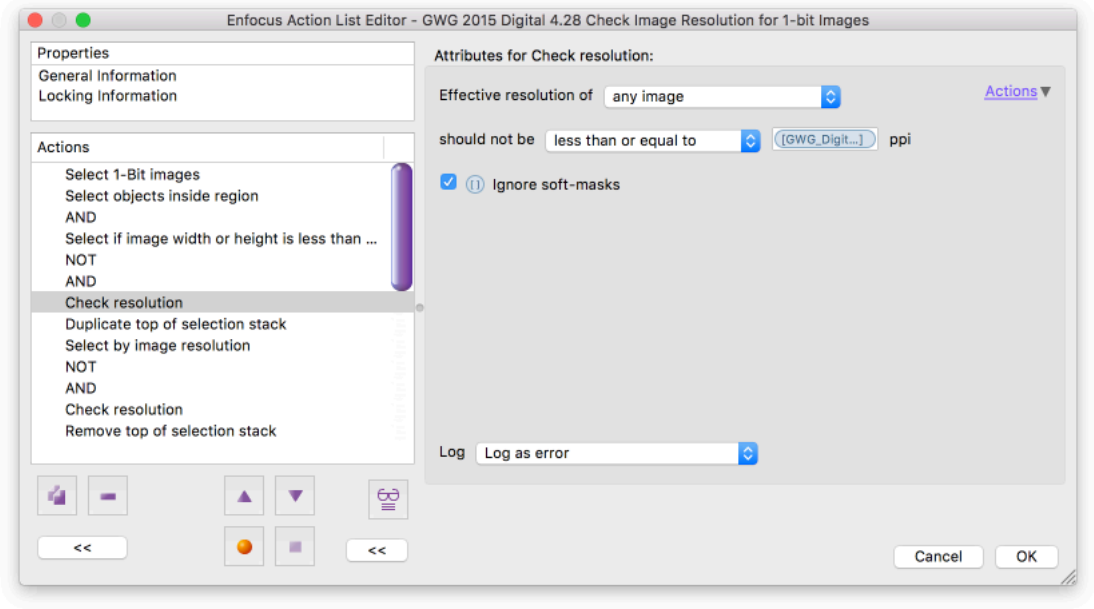
例

これは、大判の画像の解像度をチェックするために使用する計算変数の例です。これはエラーをトリガする値です。

最初のスクリーンショットは変数の定義を示します。この値は、固定値と変数値（ビューイング距離とスケーリングファクタ）を除算、乗算して計算しますが、どちらも許容される画像の解像度に影響を与えます。ビューイング距離とスケーリングファクタの変数定義は、同じ変数セットで変数として定義する必要があります。

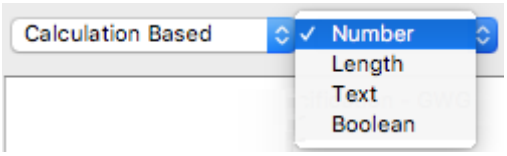


2つめのスクリーンショットは、グレースケールやカラー画像の画像解像度をチェックするために、アクションリストでどのように変数を使用するかを示しています。



さらに多くの例は変数セット1.4 (設定 > 変数セットの下)にあります。これらの変数は、パッケージ用GWGプロファイル（2015仕様）で使用するために設定されました。

備考



計算変数の最も一般的な値のタイプは数値です。しかし、プリフライト チェックやアクションで別のタイプを予想している場合は、それも可能です。たとえば、「ブール」変数の場合、計算結果は偽（0の場合）または真（0でない場合）に変換されます。「長さ」の場合、計算結果は、設定で選択した単位の値に変換されます（そのため、xポイントはcm、mm、フィート等の対応する値に変換されます）。

規則に基づく変数の定義

規則に基づく変数

規則に基づく変数の概念は、別の設定の状態に基づいて変わる値を作成する、ということになります。以下にその例を挙げます。

規則に基づく変数「画像の解像度」は次のように定義されます。

```
IF "Job type" is "Offset" THEN set "Image Resolution" to 300 ppi
ELSE
IF "Job type" is "Digital", THEN set "Image Resolution" to 150 ppi
```

規則に基づく変数は、1つ以上の規則に基づいて値を取得します。各規則には、規則をトリガーする条件 (IF) と条件がトリガーされたとき (THEN)に使用される値の2つの部分があります。

各条件には変数と値との1つ以上の比較が含まれます。上記の例では、変数「Job type」は値「Digital」と比較されます。これらの比較は「AND」および「OR」で結合し、複雑な条件を作成できます。

規則がトリガーされない場合、次の規則が試行されます。一番最後に「ELSE」規則もあり、条件のいずれも満たされない場合にトリガーされます。

規則に基づく変数は必ず**1**つ以上の他の変数と比較する必要があるため、規則に基づく変数が動作するには、必ず1つ以上の他の変数を作成する必要があります。上記の例では「Image Resolution」の値を決定するには、「Job type」変数の値を知る必要があります。PitStop Serverでは、比較する変数通常はジョブチケット変数です。PitStop Proでは、通常は、選択する定義済み変数値のリストを提供する定数変数です。

処理方法

次の手順に従います。

注**:** ソフトウェアの設定を開始する前に、IF/ELSE文を使用して独自の規則を作成することをお勧めします。これにより、必要な変数が明確になります。

1. 任意の変数を定義します。
2. 規則に基づく変数を定義します。
   - タイプで規則に基づくを選択し、数値などの値タイプを決定します。
   - 規則の作成：
     - 最初のリスト（「IF」で始まる）では、前に定義した変数を選択できます。
     - 必要に応じて「is」、「is not」、「begins with」を選択し、該当する値を入力または選択します。前の手順で選択した変数によってオプションが変わります。
     - 該当する演算子（AND/OR）をクリックします。(選択した演算子は規則に追加されます。)

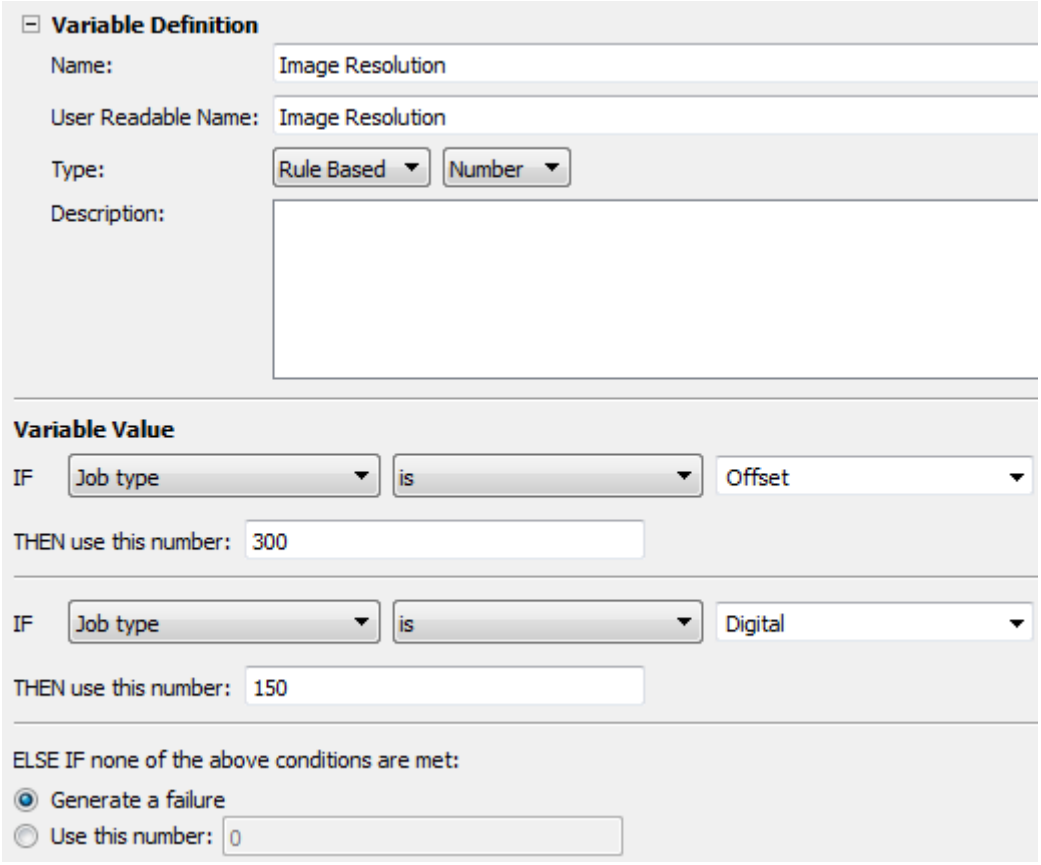
       AND/OR文は選択した規則の条件に追加され、規則は2つ以上の条件に依存するようになります。

     - 結果の値を入力/選択します（タイプは選択した値タイプによって異なります）。
     - 必要に応じて、**ELSE** をクリックして、代替規則を全体変数 (=IF) に追加し、同じ方法で続行します。
     - どの条件も満たされていない場合の処理を決定します。エラーを生成してプリフライトチェックでプリフライトエラーを発生させるか、デフォルト値を入力できます。
3. 変数セットを保存する。

例***1***

以下に、「Image Resolution」規則に基づく変数の定義を示します（値タイプ = 数値）。前に定義した変数を使用できます。可能な値として「Offset」および「Digital」を使用した定数（テキスト）変数の「Job type」です。

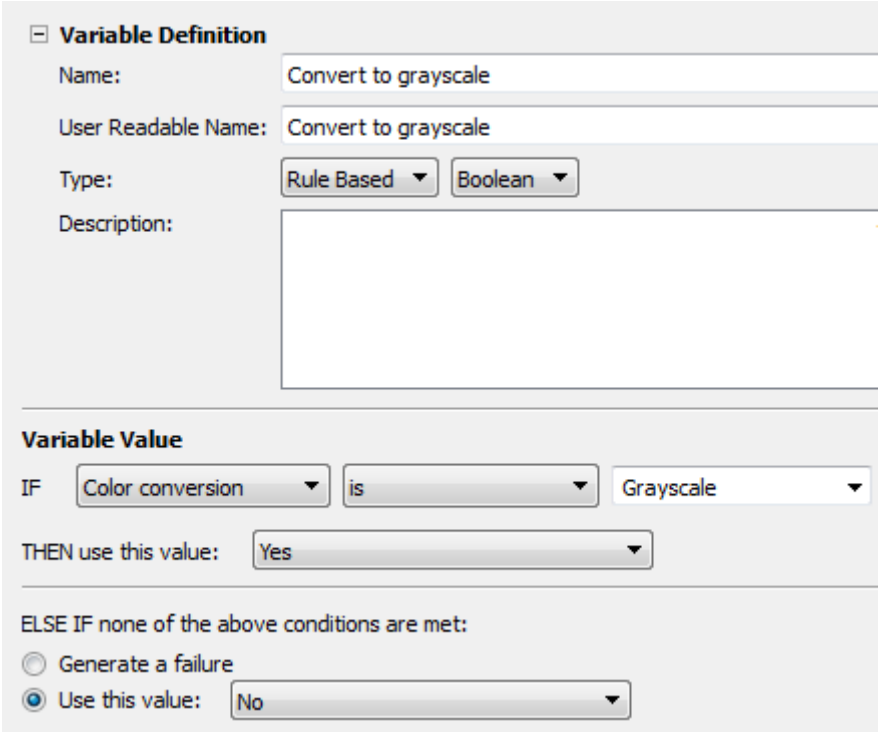
「Job type」の値によって、画像解像度が変わります（300または150）。Job typeが規則が設定されたものとは異なる場合、プリフライトエラーが発生します。



例***2***

以下に、「Convert to grayscale」規則に基づく変数の定義を示します（値タイプ = ブール値）。前に定義した変数を使用できます。可能な値として「Grayscale」を使用した定数（テキスト）変数の「Color conversion」です。

「Color conversion」変数の値が「Grayscale」の場合、「Convert to grayscale」の値が「Yes」になります。これが該当しない場合（例：カラー変換が「CMYK」）、「Convert to grayscale」の値は「No」になります（既定値）。



変数セットの変数をテストまたは検証する

Enfocus 変数セット エディタでは、編集セット内の設定を確認および検証して、定義した変数セットが期待通りに機能することを確実にすることができます。たとえば、XML/JDFジョブチケットの値が正しく読み込まれるかどうかを検証できます。

注: このダイアログでは、設定を変更します。変数セットの使用をシミュレートするだけです。

変数セットの変数をテストまたは検証する

1. Enfocus 変数セット エディタでをクリックします。

   現在の変数セット内のすべての変数はデフォルト値または（ジョブチケット変数の場合）読み込まれた最後のXML/JDFジョブチケットから取得された値（ある場合）を使用して表示されます。

2. 変数のさまざまな側面を検証します。たとえば、

   - デフォルト値は想定通りか。
   - 手動入力が許可または禁止されているか（設定通り）。
   - さまざまな選択肢を定義した場合、これらの選択肢は想定通りに表示されるか。
   - 規則に基づく変数の場合、正しく動作するか。
   - ジョブチケットの場合、正しい値がジョブチケットから取得されるか。

   ジョブチケット変数を使用するか。この場合、別の値のジョブチケットを使用して変数をテストできます。Enfocus変数セットテスターの上部にある参照ボタンをクリックして、別のジョブチケットを読み込みます。

ジョブ チケット変数およびその値は、変数設定に基づくXPath式およびそのフィールドに対する変更とともにロードされたファイルに基づき表示されます。XPath 式にエラーが存在する場合や要求されたフィールドがサンプル XML/JDF ファイルに存在しない場合、変数が赤色で表示されます。ジョブ チケット値のエラーは、定義済みの編集のエラーまたは XML/JDF サンプル ファイル内のエラーの結果として発生している場合があります。XPath 式または編集のエラーは、問題の変数を編集することで修正できます。

3. 値を変更した場合は、デフォルト値をもう一度表示できます。
   - テスターですべての変数のデフォルト値を復元するには、ダイアログの下部にあるすべてのデフォルト値を復元ボタンをクリックします。
   - 1つの特定の変数のデフォルト値を復元するには、この変数の横の  をクリックします。

6.10.3.3. 変数セットの適用

変数セットを定義したら、使用する変数セットを適用またはアクティブ化する必要があります。これは、複数の変数セットを定義した場合に重要です。プリフライトプロファイルで使用される変数がアクティブ化された以外のセットから取得される場合は、プロファイルの変数値が空白のままです（同じ名前の変数が両方のセットで使用される場合）。

変数セットを適用するには

次のいずれかを実行します。

- **PitStop Pro** > 変数セット > 変数セットの適用 > **<**該当する変数セット**>**をクリックします。
- PitStop プロセスパネルで、[ ]**<**現在の変数セット**>** > 変数セットの適用 > **<**該当する変数セット**>**をクリックします（変数セットが前に適用された場合のみ可能）。
- PitStop プロセスパネルで、[ ]アクティブな変数セットなし > 変数セットの適用 > **<**該当する変数セット**>**をクリックします。
- **PitStop Pro** 環境設定を開き、次のように続行します。
  1. 変数セットをクリックします。
  2. 適用する変数を選択します。
  3. **[**適用**]** をクリックします。適用された変数セットの名前は現在適用されたフィールドに表示されます。
  4. **[OK]** をクリックします。

6.10.3.4. プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用

変数では、1つのプリフライトプロファイルで異なるジョブとジョブタイプを処理できます。異なる固定値の複数の使用ではなく、プリフライトプロファイルの実行時に定義される変数を入力します。

プリフライトプロファイルで変数を使用する前に、スマートプリフライト変数で変数セットを定義する必要があります。

プリフライトプロファイルでの変数の使用

1. **[PitStop Pro]** > [プリフライトプロファイル]をクリックし、該当するプリフライトプロファイルをダブルクリックします。
2. プリフライトプロファイルで、チェック対象を開きます。これは変数を使用するカテゴリです。
3. 次のいずれかを実行します。
   - 変数がタブのすべてのチェックの有効化または無効化で使用される場合、タブの右上端のアクションリンクをクリックし、変数名の有効化を選択します。[{}]ボタンが、制限なしでチェックを有効化または<制限>のチェックを有効化チェックボックスの横に表示されます。
   - 特定の1つのチェックで変数を使用する場合は、該当するチェックの属性で、変数名ボタンの有効化[{}]をクリックします。ボタン[{}]が、関連するときに各プロパティの横に表示されます。
4. 変数を使用するプロパティの横にある[{}]をクリックします。
   このボタンは、チェックに変数が適用される場合にのみ表示されます。
5. 変数の選択ダイアログで、選択した変数セットから変数を使用がオンになっていることを確認し、必要に応じて変数セットを選択します。
6. 該当するプロパティで使用する変数をダブルクリックします。
   該当するプロパティに必要なタイプに一致する変数だけが表示されます。例えば、ページ幅を定義する場合は、タイプ長さの変数が必要です。

   変数の名前はプリフライトプロファイルに表示されます。

   プロファイルを実行すると、ダイアログが表示され、該当する値を入力できます。

6.10.3.5. スマートプリフライト チェックの実行

プリフライトプロファイルに変数が含まれる場合、プリフライトプロファイルチェックを実行するときに、ダイアログがポップアップされ、該当する値を確認および修正できます。必要な情報を入力した後に、入力した値を使用してプリフライトプロセスが開始されます。

プリフライトチェックを実行する方法については、プリフライト チェックの実行 125 ページのを参照してください。

6.10.4. アクションリストでのスマートプリフライト変数の使用

スマートプリフライト変数もアクションリストで使用できます。

6.10.4.1. アクションリストの固定値の代わりに変数を使用する

スマートプリフライト変数を使用して、アクションリストに含まれるアクションの属性を定義できます。この利点は、プリフライトプロファイルと同じです。つまり、別のアクションリストが必要ありませんが、アクションを実行する前や、ジョブチケットまたはデータベースから取得することによって、値を動的に修正できます。

このトピックでは、アクションを設定して、固定値の代わりに変数を使用する手順を説明します。

固定値の代わりに変数を使用してアクションを定義するには

1. **[PitStop Pro]** > [アクションリスト]をクリックし、該当するアクションリストをダブルクリックします。
2. スマートプリフライト変数を使用して定義するアクションを選択します。
3. 該当するアクションの属性の右上端にある[アクション]リンクをクリックします。
4. [変数の名前を有効化]をクリックします。
   このオプションは、該当するアクションに関連する場合にのみ使用できます。
   アイコンが、変数を使用できる場所に表示されます。
5. をクリックします。
6. 使用する変数を選択します。
   該当するフィールドで使用できる変数のみが表示されます。必要に応じて、別の変数セットを選択できます。
7. **[OK]** をクリックします。

6.10.4.2. スマートプリフライト変数でアクションリストを実行

アクションリストに変数が含まれる場合、アクションリストを実行するときに、ダイアログがポップアップされ、該当する値を確認および修正できます。必要な情報を入力した後に、入力した値を使用してPDF文書が処理されます。スマートプリフライト変数：タイプ 162 ページの も参照してください。

アクションリストを実行する方法については、アクション リストの実行 341 ページのを参照してください。

6.10.5. スマートプリフライトのトラブルシューティング

スマートプリフライトでの作業中に発生する可能性のある問題の解決方法を次の表に示します。

6.10.5.1. プリフライト チェックに適用可能な変数が存在しない

リリース

変数は変数セットにありますが、特定のプリフライトチェックで選択できません。

原因/コンテキスト

プリフライトチェックの設定時には、まず該当する変数セットを選択する必要があります。これに属する変数のみを適用できます。

変数は特定のタイプ（定数、規則に基づく、ジョブチケット）と値/測定タイプ（数値、長さ、文字列、ブール）によって定義されます。この値タイプは目的のプリフライトチェック設定と一致する必要があります。そうでない場合は、選択しようとしても表示されません。

修正

正しい変数セットが選択されていることを確認してください。使用する変数が別の変数セットに保存されている場合は、変数セットを切り替えるか、変数を現在選択されている変数セットに追加できます。

変数を確認し、プリフライト チェックのタイプと一致する適切な「変数タイプ」 (数値、長さ、文字列、ブール) が定義されていることを確認してください。

6.10.5.2. 変数セットがサポートされていません

リリース

変数セットのインポート中に、次のエラーのいずれかが表示されます。

- この変数セットにはこのバージョンのソフトウェアでサポートされない設定があります。これらは変数セットの編集時に変更または削除可能です。
- 選択した変数セットは、新しいバージョンのアプリケーションで作成されており、使用することができません。

原因/コンテキスト

前のバージョンのソフトウェアで作成された変数セットは、常に新しいバージョンと互換性があります。これらを取り込み、必要に応じてソフトウェアの新機能を使用できます。エラーメッセージは表示されません。

使用しているものよりも新しいバージョンのソフトウェアで作成された変数セットは、新しい設定が使用されていない限りは使用できます（新しい設定は前のバージョンでサポートされていないため）。バージョンの不一致がある場合は、上記のエラーメッセージのいずれかが表示されます。

修正

変数セットを取り込める場合は、サポートされていない設定を含む変数を削除または変更します。

新しい変数セットを取り込めない場合は、ソフトウェアをアップグレード（推奨）するか、古いバージョンのソフトウェアを使用して変数セットを再作成します。

変数セットの保存中、Enfocus PitStop Proは自動的に可能な限り最低バージョン番号の変数セットを選択し、最大限の移植性を確保します。

6.10.5.3. 変数が既定値を表示しない

リリース

プリフライトチェックの実行中、デフォルト値がポップアップダイアログに表示されません。

原因/コンテキスト

含まれる変数セットが適用されている場合にのみ、変数を使用できます。これが該当しない場合は、デフォルト値が空です。

修正

現在適用されている変数セットを確認し、正しい変数セットがアクティブになっていることを確認してください。

現在適用されている変数セットは、**PitStop Pro**環境設定（変数セット）から確認できます。

6.10.5.4. 赤色で表示される変数

リリース

プリフライトプロファイルまたはアクションリストを変数を有効にして実行すると、値を入力するダイアログに赤色で変数が表示されます。

原因/コンテキスト

プリフライトチェックで適用された後に、変数が変更されたか、変数セットから削除されました。

修正

変数セットを確認または修正し、変数をもう一度プリフライトチェックに適用します。赤色が消えます。

6.10.5.5. 変数の前の赤色の感嘆符

リリース

変数セットエディタで変数セットを開くと、変数セットの1つ以上の変数の前に赤色の感嘆符が表示されています。考えられる警告：

- 変数は不明な変数タイプ...を使用し、編集できません。
- ... から得た変数は...のため、サポートされませんモジュールのライセンスがありません。

原因/コンテキスト

一部の変数タイプがすべてのEnfocus製品と互換性がありません。たとえば、「変数のテキスト」はSwitchでのみ使用できます。変数がEnfocus製品にとって「不明」の場合、使用または編集できませんが、問題もありません。

Switchでは、一部の変数タイプが特定のSwitchモジュールにリンクしています。たとえば、データベースフィールドを使用する「変数のテキスト」変数は、Switchデータベースモジュールのアクティブなライセンスがある場合にのみサポートされます。

問題は規則に基づく変数にもリンクしています。変数が、削除または無効な別の変数に基づく場合、規則に基づく変数は無効になり、赤色の感嘆符が表示されます。

修正

不明な変数を使用する場合は、変数タイプを使用している製品がサポートするタイプに変更する必要があります。

使用しない場合は、そのままにします。問題はありません。他のEnfocus製品を使用するときにもう一度使用または編集できます。

持っていないライセンスが必要な変数を使用する場合は、Enfocusに連絡してライセンスを購入してください。

無効な規則に基づく変数の場合、規則を確認し、必要に応じて依存変数を修正または再定義してください。

7. Certified PDF 文書の操作

7.1. Certified PDF について

7.1.1. PDF ワークフローの概念

Certified PDF とは、お客様の要望および業界の専門家からのフィードバックを基に、Enfocus が開発した PDF ワークフローの概念です。Certified PDF の概念は、PDF ワークフローを導入するユーザーの大多数が直面している、以下の 3 つの基本的な問題を解決するために設計されました。

- PDF 文書が特定のプリフライトプロファイルで正常にプリフライトされていることをどのように保証するのか。
- ワークフローで (小さな) 変更を PDF 文書に適用した場合、ソースの文書と PDF 文書との間でどのように整合性を維持するのか。
- 最終出力の前に、お客様の PDF 文書を変更する場合、どのようにリスクと責任を最小限に抑えるのか。

7.1.1.1. 保証されたプリフライト

プリフライトの問題

「プリフライト」とは、PDF 文書をさまざまな基準と比較して検証する処理で、PDF 文書が全ての出力条件または出版条件を満たしていることを保証するために行われます。一般的に、この基準は出力プロセスまたは出版プロセスによって異なります。特定のプロセスに求められる条件との比較に使用される基準をまとめたファイルは、「プリフライトプロファイル（Preflight Profile）」と呼ばれます。

PitStop Proたとえば、色やフォントの用法などのさまざまな基準に照らし合わせて PDF 文書を検証するプリフライトプロファイルを作成できます。さらに、PDF 文書に検知された問題も、PitStop Pro を使用することで修復することができます。

プリフライトを実行する理想的なタイミングは、ワークフローの初期段階、つまり PDF 文書の作成直後です。作成された PDF 文書が作成者から出版部門や印刷部門などの担当者に受け渡される場合は、特にプリフライトが必要です。これは作成者が PDF 文書を引き渡す前に問題点を検知することで、時間 (と費用) を節約できるためです。地理的に離れた場所に PDF ファイルを送る場合などには、このケースが当てはまります。



注: Certified PDF 文書はまた、Enfocus Connectorを使用して作成することもできます。Enfocus Connect についての詳細は、弊社 Web サイト *www.enfocus.com* を参照してください。

Certified PDF ワークフローにおけるプリフライト

Certified PDF ワークフローでは、以下のようにプリフライト処理をサポートします。

- PDF 文書の提供者は、PDF 文書の受信者から供給されたプリフライトプロファイルを使用して PDF 文書をシンプルかつ効果的にプリフライトできます。
- プリフライトプロファイルおよび対応するプリフライト レポートが PDF 文書に含まれます。このため PDF 文書のプリフライト状況を確実に把握できます。
- 直感的に使用可能なユーザー インターフェイスにより、PDF 文書の受信者は文書が自身の提供したプロファイルで正常にプリフライトされたことを確認できます。

これらの機能は以下の利点をもたらします。

- PDF 文書の提供者自身による PDF 文書のプリフライトを促します。
- PDF 文書の提供者から受け取ったファイル中に存在する問題の件数を劇的に削減します。

7.1.1.2. 文書の一貫性

PDF 編集 問題

Enfocus PitStop Pro などの PDF 編集ツールは、PDF 文書の途中修正や最終段階での修正を行う場合に非常に便利です。これらのツールを使用すると、元のアプリケーション プログラムまで戻って PDF 文書を再作成する必要がなくなるため、時間と費用を節約できます。状況によっては、PDF 文書に対して直接変更を行う方が、効率的な場合もあります。たとえば、Enfocus PitStop Pro では、PDF 文書全体に対してカラー変更を一括して適用することができます。

PDF 編集にはリスクが伴います。たとえば、PDF 文書を編集して保存すると、変更された PDF 文書はワードプロセッサ プログラムや DTP ソフトウェアを使用して作成されたオリジナルの文書とは別バージョンとなります。これらのバージョンを管理するのは非常に困難で、またファイルの保管時や後日文書を再出版する場合に問題の原因となることがあります。

Certified PDF ワークフローでの ***PDF*** 編集

文書の一貫性に関する問題を削減するため、Certified PDF ワークフローには以下のメカニズムが採用されています。

- Certified PDF 文書に加えられたすべての変更を記録します。
- これらの変更を Certified PDF 文書の内部に保存できます。

この情報を基に、編集ログ (人が読める形式の PDF レポート) が生成されます。

PDF 文書とソース ファイル間で一貫性を保つ必要がある場合は、編集ログを参照してソース ファイルを変更できます。このプロセスを支援するため、Certified PDF 文書にはその文書を作成する元となったオリジナルファイルへの参照情報を保存することもできます。この参照情報を使用すると、PDF 文書の作成後にソース ファイルが編集されていないことを確認できます。

7.1.1.3. 責任

責任の問題

他人の作成した PDF 文書を変更することは、不統一の原因となることに加えて、最終結果に対する責任の所在が誰にあるのかが曖昧になる原因となる場合があります。

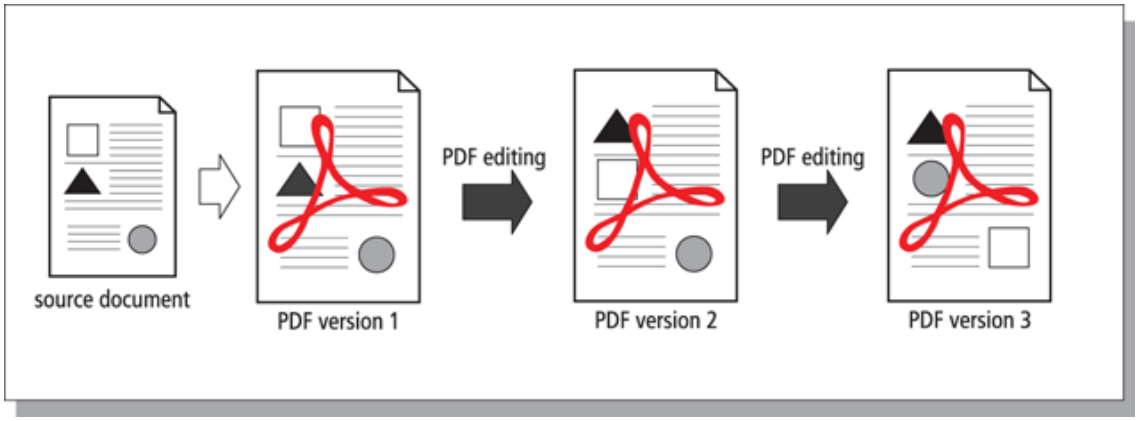
印刷業者、サービスビューロなどの多くは、何か問題が起きた場合に責任を問われることを恐れて、顧客の文書に対して変更を加えることを極端に嫌います。これは修正自体が小さくても、修正箇所とは全く関係の無い問題が発生する可能性があるためです。

Certified PDF ワークフローにおける責任の所在

Certified PDF ワークフローでは、責任の問題を以下の方法で解決しています。

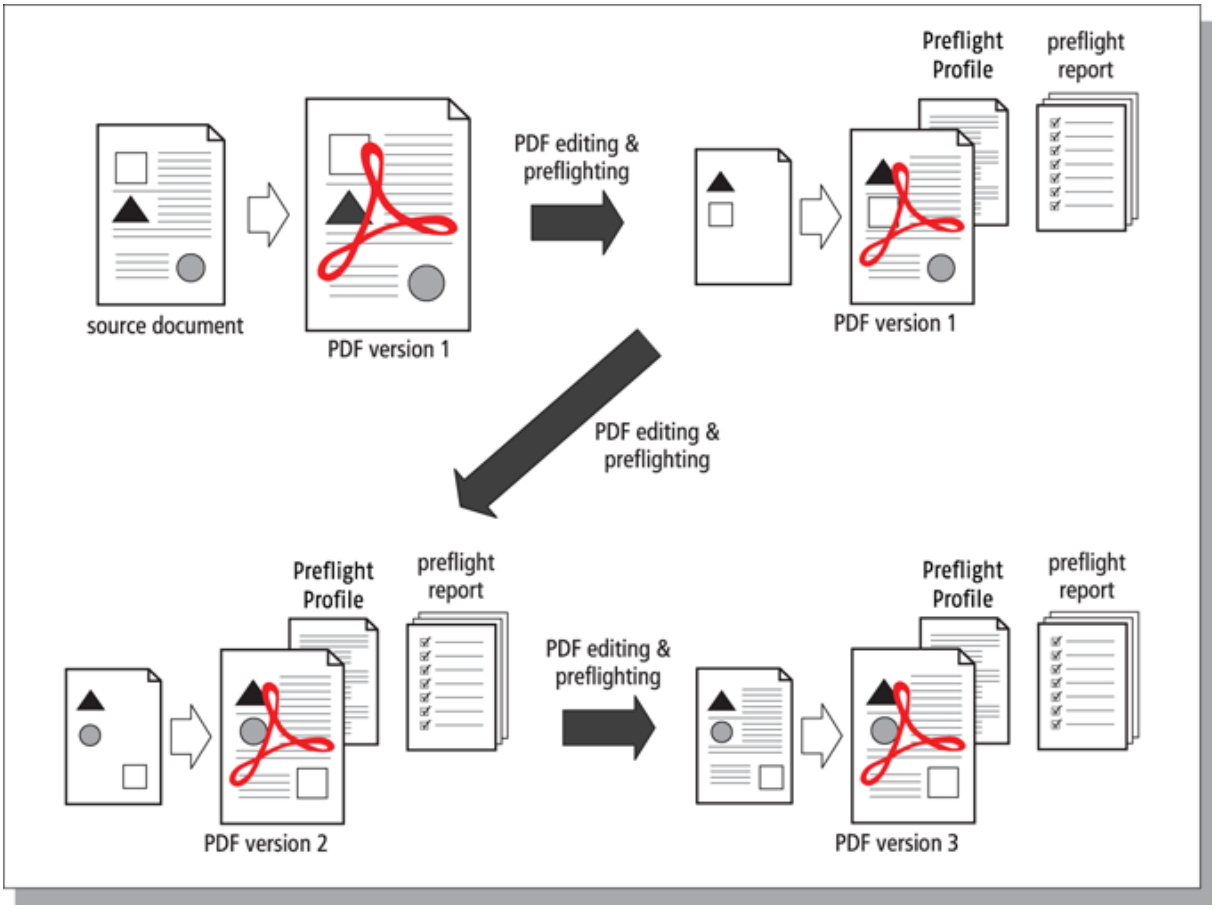
- PDF 文書に対して加えられた全ての変更を記録した詳細なログ ファイルが提供されます。
- 変更者、変更内容、変更時刻などの PDF 編集処理の記録が保存されます。
- 高機能なロールバック メカニズムが実装されているため、必要に応じて PDF 文書を事前に保存した状態 (スナップショット) に簡単に戻すことができます。
- 2 つのスナップショットを視覚的に比較し、相違点を検知して調査する機能が提供されます。

7.1.2. 従来方式の **PDF** ワークフロー



従来の PDF ワークフローにおいては、PDF 文書が異なる部門間でやり取りされており、また必要に応じて各人がそれぞれ編集していました。この場合、元の PDF 文書は編集後の PDF に置き換えられます。

7.1.3. **Certified PDF** ワークフロー



差分保存、スナップショット、ロールバックメカニズム

Certified PDF 文書では、特定のセッション中に行われた全ての変更を記録できます。また PDF 文書を保存すると、変更に関するセッションごとの差分情報も同様に保存されます。さらに、PDFを保存するたびに、「スナップショット」として表示することができます。つまりセッション終了時に保存した時点の PDF 文書の状況を確認することができます。このスナップショットは表示だけではなく、個別の文書として保存することもできます。この手法はロールバック メカニズム と呼ばれます。これにより、ユーザは物理的には 1 つの PDF ファイルのみを管理しながら、Certified PDF ワークフローの前の段階に戻ったり、PDF 文書の別バージョン同士を比較したりすることができます。

Certified PDF 文書を編集して保存すると、ファイル サイズが大きくなることがあります。この理由は、編集セッションで行った変更は全て Certified PDF 文書に保存されるためです。したがって、オブジェクトの削除や画像のダウンサンプリングなどの、通常は PDF 文書のサイズを減らす操作を実行したとしても、PDF 文書を保存するとファイル サイズは増えてしまいます。また、ファイル サイズは、操作の種類や実行する編集セッションに応じてさらに大きくなります。

最適化された保存

ファイルサイズが問題になった場合は、Certified PDFを最適化できます。最適化を行うと、Certified PDF 文書に対して行われた編集セッションの履歴情報は残りますが、これらのセッションのスナップショットを保存したり、ロールバックメカニズムを使用して Certified PDF 文書を以前の状態に戻したりすることはできなくなります。

PitStop Proでは、次のオプションのいずれかを使用して保存し、PDFを最適化できます。

- ファイル > 名前を付けて保存
- ファイル > **Enfocus Sign and Save**で、[スナップショットを保持] チェックボックスをオフにします。
- ファイル > **Enfocus Sign and Save As**で、[スナップショットを保持]チェックボックスをオフにします。

詳細については、保存オプション 185 ページのを参照してください。

7.1.4. Enfocus Certified PDF 文書とは

標準PDFにはAcrobatメタデータのみが含まれますが、Enfocus Certified PDF文書には、プリフライト設定やバージョン履歴など、プリフライトプロセスに関するさまざまな追加情報（「Enfocusメタデータ」）があります。

Acrobat のメタデータ

通常の PDF 文書には、メタデータ(文書自体についての情報)が含まれます。Adobe Acrobat の [文書の概要] ダイアログボックスには、以下のようなメタデータが表示されます。

- PDF 文書の作成日と変更日
- PDF 文書の作成元アプリケーション
- PDF のバージョン
- ファイルサイズ
- PDF ファイルの名前とパス名
- ページ数
- ページサイズ

Enfocus 独自のメタデータ

Enfocus Certified PDF 文書の場合は、以下のメタデータが追加されます。

- PDF 文書の基である 1 つまたは複数のソース文書への参照
- プリフライトプロファイル
- プリフライト レポート
- ユーザーおよびシステム識別情報
- 編集セッション (PDF 文書を開いたとき、編集したとき、保存したとき) ごとに PDF 文書に加えられた全ての変更をリストした編集ログ。ファイルの旧バージョンがすべて含まれているため、以前のバージョンに戻って保存することができます。
- セッション コメント

7.2. でのCertified PDF機能の場所 PitStop Pro

Certified PDFオプションは次の場所にあります。

- Acrobatメニューバーの**Certified PDF**の下
- **Certified PDF**パネル（ツールの下）ツールを使用する前に、Certified PDFパネルをツールペインに追加する必要があります。

環境設定を行う手順

- Windows: 編集 > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** 環境設定
- Mac: **Acrobat** > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** 環境設定

注: StatusCheckは無料のCertified PDFプラグインの名前です。これは、PitStop Proを購入していないユーザーがダウンロードできます。Enfocus Webサイト (*http://www.enfocus.com/en/products/statuscheck*) からこのプラグインをダウンロードできます。

PitStop Pro 環境設定の設定 48 ページのを参照してください。

7.3. Certified PDFワークフローの開始

7.3.1. 個人情報の設定

環境設定のパーソナル情報カテゴリで個人情報（名前や連絡先など）を入力することをお勧めします。入力すると、パーソナル情報がPitStop Proで作成または編集するすべてのCertified PDFに追加され、質問がある場合にはPDFの受信者から連絡を受けることができます。

このパーソナル情報は作成または編集するすべてのPDFで同じです。*PDF*固有の情報（各PDFで個別）を追加する必要がある場合は、Enfocus Certified PDFパネルのジョブ情報カテゴリを使用します。

Certified PDF 文書にジョブ情報を指定する 185 ページのを参照してください。

パーソナル情報を設定する手順

1. 環境設定でパーソナル情報を開きます。
   - **Windows:** 編集 > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** 環境設定 > パーソナル情報をクリックします。
   - **Mac: Acrobat** > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** 環境設定 > パーソナル情報をクリックします
2. パーソナル情報を入力してください。

   可能な限り詳しく入力します。メッセージは入力しなくてもかまいません。
3. **[OK]** をクリックします。

Adobe AcrobatのEnfocus Certified PDFパネルで、Certified PDFのパーソナル情報を確認できます。

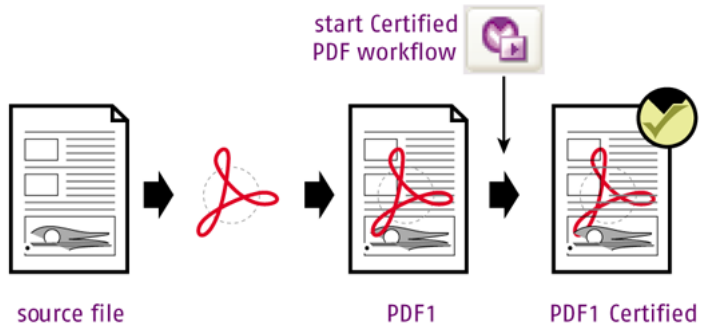
*Certified PDF*情報の表示 189 ページのを参照してください。

備考：

Certifiedユーザーはパーソナル情報によって識別されるだけではなく、2番目のタイプのユーザー識別情報もあります。これはシステム情報であり、PitStop Proを登録した個人の詳細情報と、オペレーティングシステム、ネットワーク、コンピュータから取得された情報から構成されます。

7.3.2. PDF 文書の Certified PDF ワークフローの開始

PDF 文書の Certified PDF ワークフローを開始するということは、文書にスタンプを押すことと同様の意味を持ちます。これは、対象 PDF 文書の Certified PDF ワークフローの利点を生かすために必要な情報が、PDF 文書に提供されていることを示します。文書の Certified PDF ワークフローを開始すると、その直後から文書に対するすべての変更が編集セッションごとに「記録」され、編集ログで確認できるようになります。



Certified PDF ワークフローを開始する手順

1. Certified PDF ワークフローを開始する PDF 文書を開きます。

   注: Certified PDFワークフローを開始する前に、PDFのすべての変更が保存されていることを確認してください。そうでない場合は、最初のCertified PDFセッションには、編集ログにない変更が含まれます。

2. 次のいずれかを実行します。

   - **[Certified PDF]** > [編集ログの開始]を選択します。
   - Certified PDFパネル（ツールの下）を開き、をクリックします。[Enfocus Certified PDF パネル] が開きます。次に、編集ログの開始ボタンをクリックします。

   この PDF 文書用の Certified PDF ワークフローが起動されます。

3. Certified PDFのプリフライトオプションを使用する場合は、プリフライトプロファイルを選択します。

   Enfocus Certified PDF パネル 183 ページのを参照してください。

   プリフライトは任意です。Certified PDFのみを使用して、PDFの変更を追跡することもできます。

4. その場合は、PDFが基づく元の文書（アートワーク、Microsoft Office文書など）への参照を追加できます。

   Enfocus Certified PDF パネル 183 ページのを参照してください。

5. [Enfocus Certified PDF パネル] を開くには、をクリックします。

6. 文書に必要な変更を行います（該当する場合）。

7. PDF を保存します。

   PDFを保存すると、編集セッションが終了します（編集ログファイルに記録）。

   注: PDFのスナップショットを保存するかどうかによって、該当する保存オプションを選択します。保存オプション 185 ページのを参照してください。

PDFがCertifiedワークフローにあるため、次回文書を開き、編集を行うと、これらの変更は自動的に記録されます。

7.3.2.1. Enfocus Certified PDF パネル

Certified PDFのプリフライトと検証機能を使用する場合は、**[Certified PDF]** > **[Certified PDF]**をクリックし、**[Enfocus Certified PDF** パネル**]**をクリックします。

このダイアログには5つのカテゴリがあり、それぞれがCertified PDFワークフローの特定の要素を確認できます。

セクション	機能
プリフライト	任意のプリフライトプロファイルを使用した *PDF* のプリフライト。 PDFが既にプリフライトされている場合は、使用されたプリフライトプロファイルの名前と、小さいアイコンで表示されるプリフライトチェックのステータスを確認できます。これは プリフライトのステータスのみを反映し、*Certified PDF*ワークフローの他の要素は反映しません。詳細については、結果の表示ボタンをクリックします。
オリジナル文書	定義済みのオリジナル文書を検証します。
Certified プリフライトプロファイル比較	選択したプリフライトプロファイルを他のプロファイルと比較します。
Certified PDF 情報	• *PDF* でシステムおよびユーザー情報を表示します。 • 文書にジョブ情報を指定します。
Certified PDF 2 文書の証明書	証明書が *Certified PDF 2* に準拠しているかどうかチェックされます。

7.3.2.2. Certified PDF ワークフローにおけるプリフライト

任意のプリフライトプロファイルを使用して現在のPDFをプリフライトするには

1. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。
2. プリフライトカテゴリで選択をクリックします。
3. 任意のプリフライトプロファイルを選択します。

- プリフライトプロファイルは、データベースから選択できます。その場合、[プリフライトプロファイル パネル] と同じデータベースが表示されます。
- コンピュータにファイルとしてプリフライトプロファイルを保有している場合 (電子メールで受信した場合など)、[ファイルから] を選択すると、対象のファイルを閲覧できます。

4. **[OK]** をクリックします。
選択したプロファイルは、Enfocus Certified PDFパネルのプリフライトカテゴリに表示されます。

5. PDFのプリフライトを開始するには、プリフライトをクリックします。
プリフライトチェックのステータスは、小さいアイコンで示されます。

	PDF 文書はエラーが発生することなくプリフライトされました。
	PDF 文書はプリフライトされましたが、エラーが発生しました。
	PDFはプリフライトされていないか、より最近の編集により埋め込まれたプリフライト結果が有効ではありません。

これはプリフライトのステータスのみを反映し、*Certified PDFワークフローの他の要素*は反映しません。

6. 詳細については、結果の表示ボタンをクリックします。
環境設定（全般カテゴリ - プロセスの環境設定を行う手順）によっては、Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートが表示されます。

7.3.2.3. ソースファイルの追加

Certified PDFでは、Word文書、InDesign、Photoshopなど、PDFファイルの元になるソースファイルへのリンクを追加できます。

このようにした場合の利点：

1. PDF受信者は該当するソースファイルを簡単に検索できます。
2. 後からこれらのソースファイルがCertified PDFワークフローが開始した後に変更されたかどうかを確認できます。必要に応じて、ソースファイルを編集されたPDFと同期できます。PDFの変更（編集ログで報告）をソースファイルに適用できます。

ソースファイルを追加するには

1. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。
2. 元の文書カテゴリで、  をクリックします。
3. PDFの元になるソースファイルを選択します（Microsoft Wordファイル、InDesignファイルなど）。

   複数のファイルを1度に選択するには、選択を行っている間、**Ctrl**キーを押し続けます。

ヒント: その場所とファイル名はPDFに保存されるため、場所と名前がソースファイルを追加する前に確定していることを確認してください。

4. [開く] をクリックします。
   ソースファイルの名前が元の文書セクションに表示されます。

これで、PDFを開くたびに、ソースファイルが自動的に確認されます。変更または見つからない場合（移動、名前変更、削除のため）、元の文書カテゴリに赤色のアイコンが表示されます。詳細については、ソースファイルの検証 188 ページのを参照してください。

7.3.2.4. Certified PDF 文書にジョブ情報を指定する

必要に応じて、Certified PDF文書にジョブ情報を追加できます。ジョブ情報には、PDF 文書を受け取る相手と共有する情報を自由に指定できます。たとえば、以下の情報を含めることができます。

- PDF 文書を最終的に受け取る相手の氏名、会社の住所と連絡先。
- PDF 文書を受け取る相手に知らせる詳細情報。たとえば、PDF 文書の印刷方法や PDF 文書で次に実行する必要がある操作などについての詳細情報です。

Certified PDF 文書にジョブ情報を指定するには

1. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。
2. **Certified PDF** 情報 カテゴリで編集をクリックします。
   Certified PDFワークフローが開始するとすぐに、[編集]ボタンがアクティブになります。
3. 必要に応じて、[ジョブ情報] タブをクリックします。

   注: パーソナル情報タブの情報は、StatusCheck環境設定からのみ変更できます。「個人情報の設定 181 ページの」を参照してください。システム情報タブの情報は編集できません。
4. PDF 文書の受信者の氏名、会社の住所と連絡先を入力します。
5. [メッセージ] テキスト ボックスに、PDF 文書の受信者についての追加コメントや情報を入力します。
6. **[OK]** をクリックします。

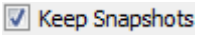
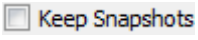
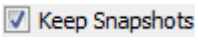
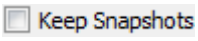
7.3.2.5. 保存オプション

次の表では、 Adobe Acrobat ファイルメニューの保存オプションの概要を示します。

差分保存では、スナップショットがセッションごとに作成され、前の状態のCertified PDF文書に戻すことができます。

最適化保存では、スナップショットが保持されず、ファイルサイズを小さくできます。

Certified PDF ワークフロー 178 ページのを参照してください。

保存オプション	差分	最適化
保存	はい	いいえ
別名保存	いいえ	はい
Enfocus 署名して保存*	 （デフォルトで選択）	
Enfocus 名前を付けて署名して保存*		 （デフォルトでオフ）

*Certified PDFワークフローが開始している場合にのみ使用可能です。

7.4. セッション コメントの追加

PitStop Pro の Certified PDF メカニズムでは、編集ログにコメントを追加することで、PDF ワークフローの品質を改善することができます。たとえば、PDF 文書を出版社に届ける前に、変更を加えた理由の説明が必要な場合があります。

編集セッションごとにコメントが追加できます。セッションとは、PDF 文書の編集や保存を行っている時間のことです。

セッション コメントを追加する手順

1. 必要な変更を行います。
2. [ファイル] > **[Enfocus** 署名して保存]を選択します。
3. 新しいセッション コメントを追加します。
   編集ログ（セッション情報、コメントの下）にこのコメントがあります。
4. 現在のバージョンの文書をスナップショットとして保存（後から再利用可能）するには、スナップショットを保持チェックボックスを選択します。
   詳細については、スナップショット 196 ページのを参照してください。
5. **[OK]** をクリックします。

7.5. Certified PDF 状態のチェック

7.5.1. PDF 文書の Certified PDF 状況の確認

このトピックでは、文書がすでにCertifiedワークフローにあるかどうか、その場合のステータスを確認する方法について説明します。

1. Adobe Acrobat Pro で PDF 文書を開きます。

2. 次のいずれかを実行します。

   - **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。Enfocus Certified PDFパネルが開き、Certified PDFステータスボタンが左上端に表示されます。
   - ツールペインで、**Certified PDF**パネルをクリックします。パネルが開き、使用可能なツールが表示されます。このボタンは、Certified PDF 状況を示します。

   これらのボタンの意味は次の表を参照してください。

   注: Enfocus Certified PDFパネルの左上端のボタンは、全体的なCertified PDFステータスを参照します。詳細については、*Certified PDF* 状況の側面 188 ページのを参照してください。

Acrobat のボタン（**Certified PDF** パネル）	意味
	現在の PDF 文書は、Certified PDF 文書ではありません。
	現在の PDF 文書は、Certified PDF ワークフロー内にあります。ただし、プリフライトおよび検証は成功していません。考えられる原因は次のとおりです。 • PDF 文書はプリフライトされましたが、エラーが発生しました。 • プリフライトプロファイルは、プリフライトプロファイル比較と一致していません。 • PDF 文書または選択したプリフライトプロファイルは、前回のプリフライト以降に変更されました。 • オリジナル文書が変更されました。
	現在の PDF 文書は Certified PDF 文書で、正常にプリフライトおよび検証されています。 • Certified プリフライトプロファイルは、プリフライトプロファイル比較と一致しています。 • PDF 文書はエラーが発生することなくプリフライトされました。
	現在のPDF文書のステータスが未確定な場合、原因の例として以下が考えられます。 • 文書は承認されていますが、その後に編集されている（そのため認証が有効ではない可能性があります）。 • PDF文書は認証されていますが、プリフライトされている。

Acrobat のボタン（**Certified PDF** パネル）	意味
	• PPDF文書は1つ以上のアクションリストと、1つの*Quickrun*（PitStop Pro）、もしくは1つのホットフォルダ（PitStop Server）内で組み合わされたプリフライトプロファイルで処理されている。この場合、どのチェックがアクションリストでどのチェックがプリフライトレポートから来ているか区別がつかないため、プリフライトプロファイルに基づいて文書を承認することができません。  ヒント: アクションリストをプリフライトプロファイルに埋め込むことを推奨します。これにより、PDF文書をプロファイルでプリフライトし、ステータスを決定することができます。プリフライトプロファイルへのアクションの追加 147 ページのを参照してください。

7.5.1.1. Certified PDF 状況の側面

Certified PDF 状況は、さまざまな側面によって決定します。ある側面の状況が「異常」になると、直ちに Certified PDF 状況全体も異常になります (赤)。全ての側面の状況が「正常」になるか、「未定」(定義されているオリジナル文書がない場合など) になると、Certified PDF 状況は「正常」になります。

- [プリフライト]: プリフライトプロファイルに基づいて文書を確認します。
- [オリジナル文書]: オリジナル文書への参照です。オリジナル文書に対して行われた変更を全て監視します。
- [**Certified** プリフライトプロファイル比較]: プロファイル比較設定では、許可するプリフライトプロファイル数を設定できます。Certified プリフライトプロファイル比較では、Certified PDF 文書で使用されるプリフライトプロファイルがリストのプリフライトプロファイルと一致しているかどうかを確認できます。

7.5.2. ソースファイルの検証

このトピックでは、ソースファイル（PDFにリンク）がPDFの作成後に変更されたかどうかを確認できます。ソースファイルを変更されたPDFと同期する場合などにこの情報が必要です。

ソースファイルを検証するには

1. Certified PDFワークフローが開始したPDFを開きます。
2. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。
3. 元の文書カテゴリを確認します。

   PDFを作成するときに関連付けられたソースファイルの状況が表示されます。

   - 同一：ソース文書は、Certified PDFワークフローが開始したから変更されていません。ソース文書と同期する場合は、編集ログの変更をソース文書に適用します。

- 不一致：Certified PDF ワークフローを起動してからソース文書が変更されたことを意味します。できる限り、最初にソース文書の各バージョンを確認してから、いずれかのソース文書を PDF 文書と同期するようにします。
- 見つからない：ソース文書が移動、名前変更、または削除されました。

  ソースファイルの新しい場所または新しい名前を知っている場合は、解決（ソースファイルのテーブルの下）をクリックして問題を解決できます。新しい場所または新しい名前でファイルを選択します。ソース文書がリストに再表示され、状況が [同一] または [不一致] になります。

全体的なステータスは小さいアイコン ( または )で示されます。複数のソースファイルがある場合は、1つ以上の文書が異なるか見つからない場合に、赤色のアイコンが表示されます。これは検証ステップのステータスのみを反映し、*Certified PDFワークフローの他の要素*は反映しません。

4. ステータスは、PDFを開く時点の状況です。実際のステータスを確認するには、検証をクリックします。

   ソース文書はいつでも削除し、必要に応じて新しい文書を追加できます。追加された文書は、その時点から元のソースファイルと見なされます。ソースファイルの追加 184 ページの も参照してください。

7.5.3. Certified PDF情報の表示

Certified PDF 情報には次の3つのタイプの情報があります。

- **PDF**提供者の名前と連絡先詳細情報。PDFの受信者は質問がある場合に提供者に連絡できます。
- ジョブ詳細。PDF文書が（最終的に）意図された相手の名前、会社住所、連絡先詳細、PDFの印刷方法やPDFの次の処理といった追加の備考など。
- システム情報には、PitStop Pro を登録したユーザーの詳細情報に加えて、お使いのオペレーティング システム、ネットワークおよびコンピュータから取得された情報が含まれます。この情報は変更できないため、たとえば、責任の所在を特定するための信頼できる情報源になります。PDF 文書に対して行った変更について、責任の所在を主張あるいは否認する場合、システム情報は明白な証拠となります。この情報は、編集ログで、所定のセッション中に誰がどのような変更を行ったかを表示するために使用されます。

Certified PDF 情報を表示するには

1. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。
2. ⊞を展開して、Certified PDF 情報カテゴリ（必要な場合）を展開します。
3. [編集] をクリックします。
   [ジョブ情報] タブをクリックします。この情報はPDF固有です。
4. システム情報を表示するには、システムタブをクリックします。

   複数の Enfocus PitStop Pro製品がインストールされている場合、[プログラム] リストから Enfocus を選択します。
5. ユーザー情報を表示するには、パーソナル情報タブをクリックします。

ユーザー情報は環境設定から設定されるため、同じ提供者からのすべてのPDFで同じ情報です。

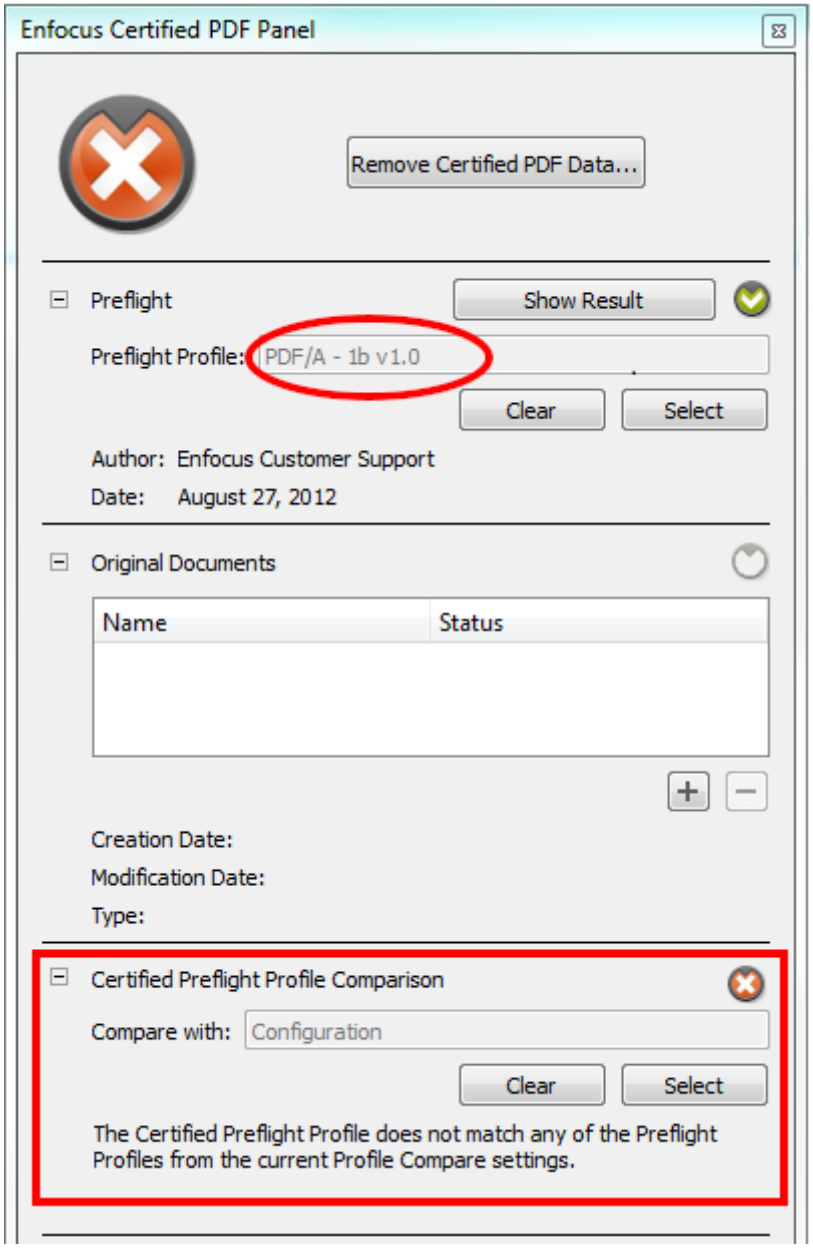
6. **[OK]** をクリックします。

7.5.4. Certified PDF プリフライトプロファイルの比較

Certified PDFパネルの**Certified** プリフライトプロファイル比較カテゴリでは、PDFに関連付けられたプリフライトプロファイルを1つ以上の自分のプリフライトプロファイル（設定で収集）と比較できます。これにより、関連付けられたプリフライトプロファイルが要件を満たすかどうかを確認できます。

PDFに関連付けられたプリフライトプロファイルの名前はプリフライトカテゴリに表示されます。次の例では、PDFは「PDF/A - 1b v 1.0」でプリフライトされます。緑のアイコンはプリフライトが成功したことを示します。

比較するプロファイル（設定に含まれる）は、Certified プリフライトプロファイル比較カテゴリで選択する必要があります。次の例では、使用される設定は「設定」と呼ばれます。設定を選択すると、ファイルはただちに比較され、結果がボタンの下に表示されます。次の例では、この比較の結果は負()です。設定のプロファイルはPDFに関連付けられたプロファイルと等しくありません。結果として、全体的なCertified PDFステータスはNOK（ダイアログ上部の）です。Certified PDFステータスの詳細については、*Certified PDF* 状況の側面 188 ページのを参照してください。



7.5.4.1. プリフライトプロファイル比較設定の作成または編集

プリフライトプロファイル比較設定はプリフライトプロファイルのセットです。これらのプロファイル（または同様のもの）でPDFがプリフライトされている場合は、PDFが特定の要件を満たすことを確認します。別のタイプのPDFなど、別の設定を使用することができます（広告、新聞、雑誌、異なる顧客、異なる印刷方法など）。プリフライトプロファイルを比較するには、設定が必要です。

プリフライトプロファイル比較設定の作成または編集の手順

1. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。

2. Enfocus Certified PDFパネルで、**Certified** プリフライトプロファイル比較カテゴリで選択をクリックします。
   [Enfocusプリフライトプロファイル比較パネル]が表示されます。

3. をクリックして該当するオプションを選択します。たとえば、新規は新しい設定を作成します。編集は既存の設定を変更します。
   既存の設定を編集するには、設定の名前をダブルクリックできます。設定は、環境設定からも任意で取り込めます（プリフライトプロファイル比較パネルへのフォルダの追加 71 ページのを参照）。

4. 名前フィールドにわかりやすい設定名を入力するか、必要に応じて変更します。

5. 必要に応じて、プリフライトプロファイルを追加または削除します。
   - プリフライトプロファイルを現在の設定に追加するには、をクリックし、任意のプリフライトプロファイルを選択します。
   - 現在の設定からプリフライトプロファイルを削除するには、選択してをクリックします。

6. 必要に応じて、より厳密な **Certified** プリフライトプロファイルを使用するプリフライトが許可されますを選択します。

   注: 設定すると、設定内のいずれかのプリフライトプロファイルより厳密な場合に、プリフライトプロファイルも一致します。より厳密とは、より多くの基準が設定されているか、より高いレポート レベルが基準に割り当てられている (たとえば、「警告」ではなく「エラー」) ことを意味します。たとえば、2つのプリフライトプロファイルに行サイズチェックが含まれる場合（2 ptと5 ptを許可するなど）、最低行サイズ（2 pt）が最も厳密であると見なされます。

7. **[OK]** をクリックします。

7.5.4.2. プロファイルの比較

まず、プリフライトプロファイル比較設定を作成します。これには、PDFが満たす要件が含まれます（プリフライトプロファイル比較設定の作成または編集 191 ページのを参照）。設定のプリフライトプロファイルは、現在のPDFに関連付けられたプリフライトプロファイルと比較されます。

注: 制限のないプロファイルと制限のあるプロファイルなど、異なるバージョンのプリフライトプロファイルを比較できません。チェックが同じ場合でも、差異として報告されます。*バージョン3とバージョン4のプロファイルの比較* 193 ページのを参照してください。

プリフライトプロファイルを比較する手順

1. Enfocus Certified PDFパネルを開くには、**Certified PDF** > **Certified PDF**をクリックします。

2. プリフライトプロファイルがプリフライトカテゴリで選択されているかどうかを確認します。

比較を実行するには、プリフライトプロファイルを選択する必要があります。プリフライトプロファイルがPDFに関連付けられてなく、使用されたものがわかっている場合（顧客から提供された場合など）、選択ボタンをクリックして追加できます。

3. Certified プリフライトプロファイル比較トカテゴリで選択をクリックします。
4. 任意の設定を選択します。
5. [選択]をクリックします。
   設定のプリフライトプロファイルは、プリフライトカテゴリで選択されたプリフライトプロファイルとただちに比較されます。結果はボタンの下に表示され、小さいアイコン(または)で示されます。

バージョン3とバージョン4のプロファイルの比較

プリフライトプロファイルバージョン

ユーザーとして、プリフライトプロファイルのバージョンは意識していないかもしれません。多くの場合、問題にはなりません。ただし、プリフライトプロファイルを比較するときには、バージョン番号が問題になります。デフォルトでは異なるバージョンにより、プロファイルの内容に関係なく、不一致が生じるためです。

バージョン番号はプロファイルのどこにも表示されませんが、プリフライトプロファイルのバージョンは簡単に確認できます。

- バージョン**3**プロファイルは、設定>制限カテゴリで定義された制限を実行しないプリフライトプロファイルです。これは「古い」プリフライトプロファイル (PitStop 11または12で作成) または PitStop 13以降で作成された「新しい」プリフライトプロファイルです。
- バージョン**4**プロファイルは、設定>制限カテゴリで定義された1つ以上の制限を実行するプリフライトプロファイルです。これらの制限はチェックオン：カテゴリのいずれかで使用する必要がありません。定義するだけで十分です。

注:

- バージョン4プロファイルから制限を削除した場合は、自動的にバージョン3プロファイルにダウングレードされます。
- バージョン1と2プロファイルも存在します。バージョン1プロファイルはPitStop Proの最初のバージョンに付属した最も古いプロファイルですが、使用されていません。バージョン2プロファイルはPitStop 10以前で作成され、まだサポートされていますが、より新しいプロファイルバージョンとは比較できません。

バージョン***3***とバージョン***4***プロファイルの比較

プリフライトプロファイルを比較するときには、PDFに関連付けられたプリフライトプロファイルの有効化されたチェックは、プリフライトプロファイル比較設定のプリフライトプロファイルのチェックと比較されます。制限が設定（有効化）されている場合、考慮されます。

ただし、バージョン3プロファイルがバージョン4プロファイルと比較される場合、PitStopは比較を実行できません。チェックが完全に同じ場合でも、バージョンが異なれば、異なると見なされます。

PDFに関連付けられたプリフライトプロファイル	設定のプリフライトプロファイル	問題
バージョン3	バージョン3	いいえ
バージョン4	バージョン4	いいえ
バージョン3	バージョン4	はい
バージョン4	バージョン3	はい

回避策

バージョン不一致の問題を回避するには

1. バージョン3プリフライトプロファイルを複製します。
2. 複製を編集し、設定>制限カテゴリでダミー制限を取り込みます。この制限は使用されないため、内容は重要ではありません。
3. 設定のすべてのバージョン3プリフライトプロファイルで、バージョン4の同じ内容を設定に追加します。

これにより問題が解決されます。

PDFに関連付けられたプリフライトプロファイル	設定のプリフライトプロファイル	問題
バージョン3	バージョン3	いいえ
バージョン4	バージョン4	いいえ
バージョン3	バージョン3+バージョン4	いいえ
バージョン4	バージョン3+バージョン4	いいえ

7.5.5. Certified PDF 2 文書の証明書の表示

Certified PDF プリフライトおよび検証プロセスは、PDFがCertified PDF 2に準拠しているかどうかも確認します。

Certified PDF 2 文書の証明書はPDFファイルの特定のプロファイルに関する文です。たとえば、「GWG Magazine Adsプリフライトプロファイルに対応」または「ID de719fa2でプリンタXYZでハードコピープルーフを生成」などです。Certified PDF 2情報はXMPメタデータとしてPDFファイルに保存されます。Certified PDF 2はプリフライトチケットのGWG Universal Proofにも対応します。

PDFの証明書を表示するには

1. **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。
2. ⊞を展開して、Certified PDF 2 文書の証明書カテゴリ（必要な場合）を展開します。

   証明書のステータスは小さいアイコン (準拠している場合、準拠していない場合、未定義の場合)で示されます。

   証明書が生成されます。

   - プリフライトプロファイルまたは元の文書が追加されるとき。

- プリフライトチケットの有効なUniversal Proofを含むPDFファイルを開くとき。

3. 証明書をクリックします。
状況（エラー/警告なしなど）、タイプ（元の文書またはプリフライトプロファイル/プリフライト結果を参照）、ハンドラ（ファイルを処理したアプリケーション）など、証明書のプロパティが表示されます。証明書を削除すると、証明書の元になる情報も削除されます（プリフライトプロファイル、元の文書など）。

7.5.6. 編集ログの表示

PitStop Pro の Certified PDF メカニズムは、Certified PDF 文書の各編集セッションの記録を保存します。したがって、PDF 文書に対して行われた全ての変更は、PDF 文書内に時系列に記録されます。変更は以下の 2 種類の方式で記録できますが、方式は文書を作成したツールによって異なります。

- Enfocus PitStop Proなどの Enfocus Certified PDF に準拠したプラグインで PDF 文書を編集している場合、変更は即座に編集ログに保存されます。編集ログには、各変更に対する詳細な情報が記録されます。
- Enfocus Certified PDF に準拠していないサードパーティ製の PDF 編集ツールで PDF 文書を編集している場合、PitStop Pro が編集内容を抽出して記録します。ただしこの場合は、変更の詳細も変更を行った製品の詳細も記録されません。

編集ログの表示

[Certified PDF] > [編集ログ]を選択します。

編集ログが表示されます。編集ログは、セッションごとの全ての変更を表示する PDF ファイルです。

7.5.7. 文書の履歴の表示

PitStop Pro の Certified PDF メカニズムでは、PDF 文書の履歴を参照できます。つまり、Certified PDF 文書に対して実行された全ての編集セッションのリストを時系列に表示できます。

セッションの時系列のリストには、以下の情報が含まれます。

- セッションに「検印」が押された Certified PDF 製品
- セッションに対して責任のある担当者または会社
- セッションの終了した日時

文書の履歴を表示する手順

1. **Certified PDF** > 履歴を選択します。
2. 任意のセッションをダブルクリックすると、セッションについての詳細が全て表示されます。
3. [ユーザー] タブまたは [システム] タブをクリックすると、特定セッションに該当する情報が表示されます。
4. バージョン（選択したセッションの最後の文書の状態）を比較するには、2つのセッションを選択（**Ctrl**キーを押す）し、任意のオプションを選択します。

セッションの比較 197 ページのを参照してください。

5. バージョン（選択したセッションの最後の文書の状態）のスナップショットを保存するには、該当するセッションを選択し、スナップショットの保存ボタンをクリックします。

   *PDF*のスナップショットの保存 197 ページのを参照してください。

6. [閉じる]をクリックします。

7.5.7.1. スナップショット

スナップショットとロールバック メカニズムの説明

Certified PDF ワークフローでは、複数のユーザーによるさまざまなPDF 文書の編集セッションが実行されます。Certified PDF 文書では、特定のセッション中に行われた全ての変更を記録できます。また PDF 文書を保存すると、変更に関するセッションごとの差分情報も同様に保存されます。

このような管理および変更方法には大きな利点があります。つまり誰がどのセッションでどのような変更を行ったかが正確に把握できます。さらに、これらの変更は「スナップショット」として表示することができます。つまりセッション終了時に保存した時点の PDF 文書の状況を確認することができます。

また、以前に行った特定の編集セッションにおける PDF 文書の状況を表示できるだけでなく、スナップショットを別の PDF 文書として保存することもできます。この手法はロールバック メカニズム と呼ばれます。PDF 文書を編集しているときに、1 回変更しただけで大きな問題が発生することがあります。変更を加えることにより望ましくない結果が生じてしまったにもかかわらず、PDF 文書を保存してしまった場合がそうです。Certified PDF ワークフローでは何の問題もありません。「増分保存」方式を使用して、Certified PDF 文書を保存した場合には、以前に保存した PDF 文書の任意の状態に戻すことができます（保存オプション 185 ページのを参照）。

スナップショットの保存

スナップショットとは、編集セッション後の任意の時点で保存した PDF 文書の完全バックアップです。PDF 文書を以前のバージョンに戻すため、スナップショットを保存するとします。この場合、必ずしも編集セッションの後にスナップショットを保存する必要はありません。リストから任意のセッションを選択し、ワークフローの任意の段階で保存するだけです。

次の例を考えてみましょう。墨文字と特色を 1 つのみを使用して Certified PDF 文書を作成したとします。文書はオフセット印刷を想定してデザインされています。しかし、ワークフローの過程でこの PDF 文書をデジタル 4 色刷印刷でも印刷したい場合があります。そのためには、特色を対応する CMYK に変更する作業を PDF 文書全体に対して行います。たとえば、Enfocus PitStop Pro を使用してこの作業を行うこともできます。つまり、最新バージョンの PDF 文書には CMYK カラーのみが含まれていますが、この PDF 文書を、特色を使用するオフセット印刷でも印刷する必要があります。この場合、特色が含まれているバージョンを選択し、そのスナップショットを別の PDF 文書として保存してから、この PDF ファイルをオフセット プリンタに送信します。

スナップショットの表示

Certified PDF 文書のスナップショットを表示する方法には、次の 2 つの方法があります。

- 別の名前でスナップショットを保存し、通常の PDF 文書として開きます。

- 2 つの異なる編集セッションを比較します。「セッションの比較 197 ページの」を参照してください。

PDFのスナップショットの保存

PDFの中間バージョンが必要な場合は、ローカルシステムで検索する代わりに、PDF履歴で該当するバージョンを選択し、ここから保存できます。

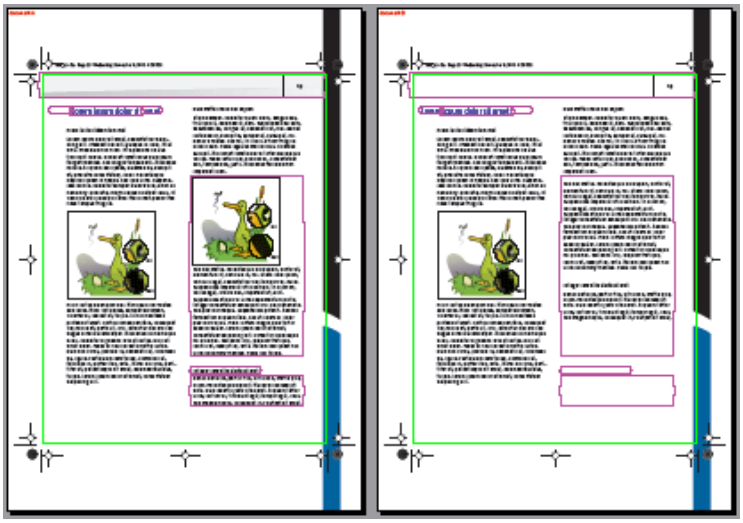
Certified PDFの編集セッションのいずれかのスナップショットを保存するには

1. Certified PDF 文書を開きます。
2. **Certified PDF** > 履歴を選択します。
3. スナップショットを保存するセッションをリストから選択します。
4. [スナップショットの保存] をクリックして、選択したセッションの終了時に PDF 文書のスナップショットを保存します。
5. スナップショットの内容を表す名前を入力して、[保存] をクリックします。
6. 必要に応じて、手順 2～5 を繰り返してスナップショットを随時保存します。
7. [閉じる]をクリックします。

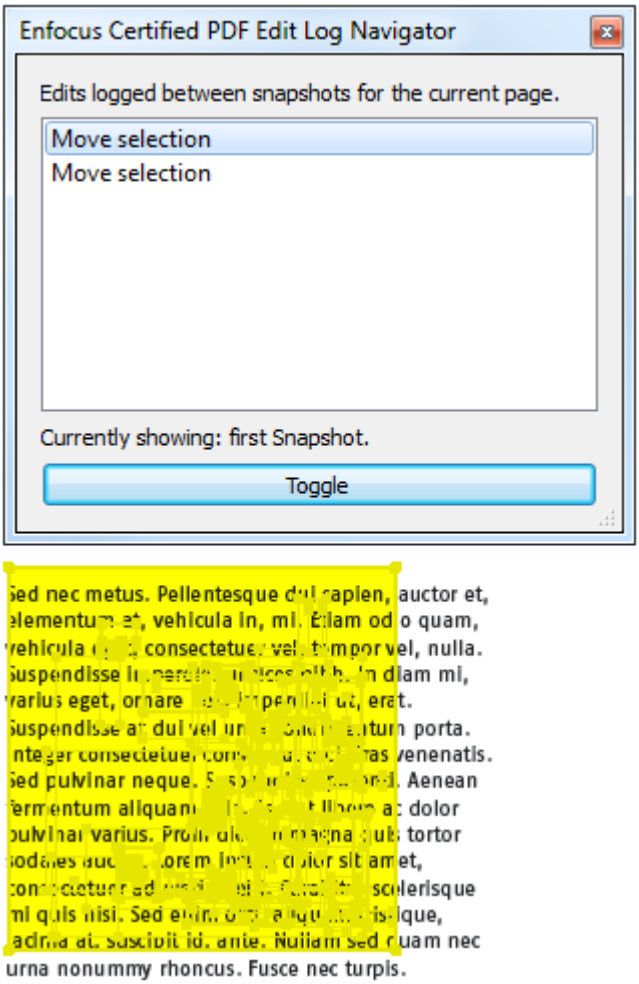
7.5.7.2. セッションの比較

ワークフローの特定の時点で Certified PDF 文書の 2 つのバージョンを比較したい場合があります。たとえば、小さな変更を検出するときに、この処理を行います。これは次の 2 種類の方法で行います。

- 比較するスナップショットを横に並べて表示 して比較する。これは、表示される変更をすぐに確認するために便利です。



- それぞれの編集ログ レポート を比較する。この方法は、オーバープリント設定、トラッピング設定、(非表示) のレイヤー オブジェクトなど、画面上で変更が確認しにくい場合にお勧めします。



注: 最適化された Certified PDF 文書では、セッションの比較はできません。「*Certified PDF ワークフロー* 178 ページの」を参照してください。

セッションを横に並べて視覚的に比較

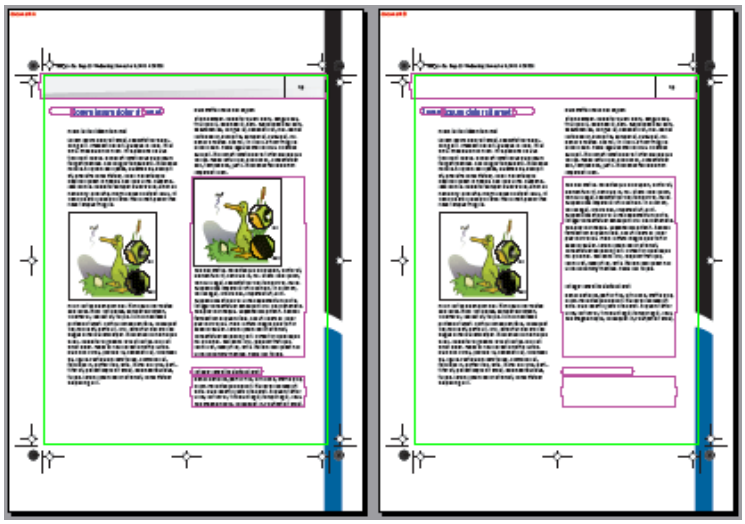
PDF 文書の 2 つのバージョンを表示させて比較すると、変更を視覚的に確認できます。

セッションを横に並べて比較する手順

1. **Certified PDF**＞履歴を選択します。
2. セッション リストからセッションを 2 つ選択します。
3. [表示 **(**横に並べる**)**] をクリックします。

PitStop Pro は 2つのスナップショットを生成して、それぞれのセッション終了時のPDF文書の状況を表示します。これらのスナップショットは画面上に横並びで表示されます。差異がハイライト表示されます。

注: 環境設定でハイライト色を変更できます(編集/**Acrobat** > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** > 全般)。



編集ログを使用するセッションの比較

編集ログを使用したセッションの比較は、オーバープリント設定、トラッピング設定、(非表示)のレイヤー オブジェクトなど、画面上で変更が確認しにくい場合に便利です。

編集ログを使用してセッションを比較する手順

1. **Certified PDF** > 履歴を選択します。
2. セッション リストからセッションを 2 つ選択します。
3. [編集ログの使用] をクリックします。

   最初のスナップショットが開いて、[**Enfocus Certified PDF** 編集ログ ナビゲータ] が表示されます。
4. リストから変更の 1 つを選択します。

   オブジェクトに透明のオーバーレイが追加されて、文書の変更箇所が表示されます。



注: 環境設定で透明オーバーレイの色を変更できます(編集/**Acrobat** > 環境設定 > **Enfocus StatusCheck** > 全般)。

5. 最初と2番目のスナップショットでビューを切り替えるには、トグルボタンをクリックします。

   [編集ログ ナビゲータ] には、文書内の現在表示しているページの変更のみが表示されます。PDF 文書内の別のページに移動する場合は、[編集ログ ナビゲータ] が新しいページの変更がリストに表示されます。

8. オブジェクトの編集

8.1. 線画とピクセル画像について

8.1.1. コンピュータ グラフィックのカテゴリ

コンピュータ グラフィックは、大きく 2 つに分類されます。

- 線画 201 ページの
- ピクセル画像 202 ページの

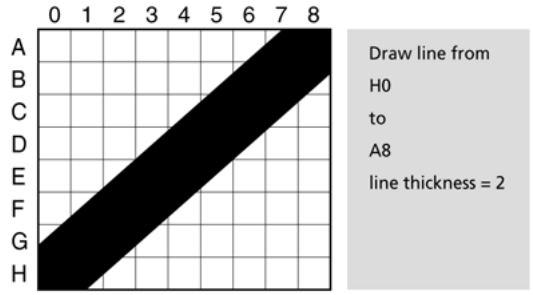
グラフィックは、種類ごとに PDF 文書の中で異なる働きをします。また、ユーザーはそれぞれのグラフィックに対して、異なる方法で操作します。それぞれの異なる特徴を理解しておくと、PDF 文書を処理する際に、それぞれの異なる働きについて理解するのに役立ちます。

8.1.2. 線画

線画は、数学的に定義された曲線と線分によって形成されており、ベクトルと呼ばれます。これらのベクトルは、その幾何学的な特性に従って、グラフィックを表現します。また、ベクトルは、それぞれの始点と終点を x、y の座標系で表現する一連の直線として表記されます。

たとえば、斜線は、特定の線の太さと、特定の傾斜角度が指定されて、座標 H0 から座標 A8 に対する直線として描画されます。

次の図は、斜線のベクトル化された表現を示します。

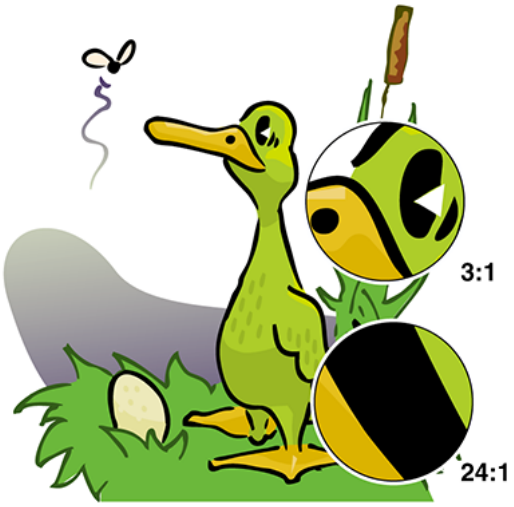


線画を編集するには、グラフィック全体、またはグラフィックを形成している直線と線分を移動またはサイズ変更します。線画は、解像度に依存しません。

品質、詳細、鮮明さを低下させることなく、グラフィックを任意のサイズにスケーリング (拡大縮小) し、任意の解像度で任意の出力デバイスを使って印刷することができます。

線画をオブジェクト指向 グラフィック、またはベクトル グラフィックと呼ぶこともあります。

線画は、解像度に依存することなく、その幾何学的な特性に従って形状を表現します。

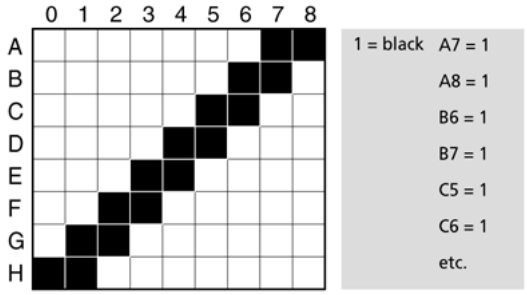


8.1.3. ピクセル画像

ピクセル画像は、ピクセルと呼ばれる小さい正方形から成る、矩形のグリッド (ビットマップまたはラスタとも呼ばれます) によって形成されます。ピクセル画像の中にある各ピクセルには、特定の場所が割り当てられ、そのピクセルが黒、白、または特定のカラー値を保持していることを表すデータが記録されています。

たとえば、ピクセル画像の斜線は、特定の場所にあるピクセルの集合体によって形成されます。たとえば、ピクセル A7 と A8 は黒、B6 と B7 は黒などのように定義されます。

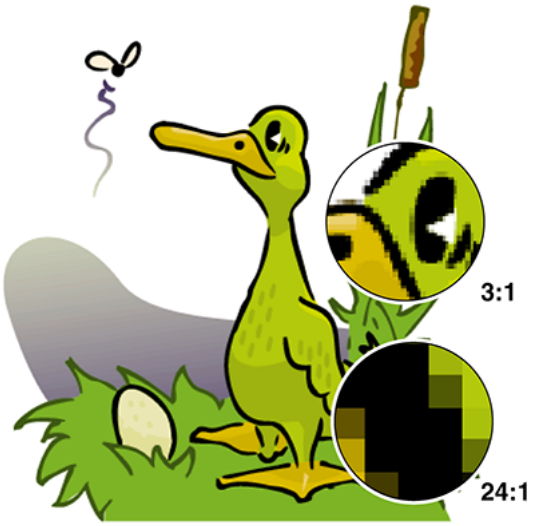
次の図は、斜線のビットマップ表現を示します。



ピクセルまたは一連のピクセルを変更または操作することで、ピクセル画像を編集できます。この編集を行うには、Adobe Photoshop のような画像編集ソフトウェアが必要です。

ピクセル画像は、解像度に依存します。グラフィックを表現するピクセルの数が固定だからです。ピクセル画像をスケーリングしても、ピクセルの絶対数は変化しません。ただし、平方測定単位 (平方インチなど) あたりのピクセル数は変化します。その結果、最初の作成時より高い

解像度でピクセル画像を拡大または印刷した場合は、ジャギー (ギザギザの状態) で出力され、精細さが失われることがあります。ピクセル画像をラスタ画像と呼ぶこともあります。



8.2. パス、アンカー ポイント、および方向ポイントについて

8.2.1. 線画の要素

これ以降のセクションでは、線画を作成および編集する方法について説明します。線画は、多数の標準的な要素によって形成されています。線画の編集や作成を開始する前に、これらの要素がどのようなものなのか理解しておくことが重要です。これらの要素は、以下のとおりです。

- パス 203 ページの
- アンカー ポイント 204 ページの
- 方向ポイント 204 ページの

これらの各要素について、以下で簡単に説明します。

8.2.2. パス

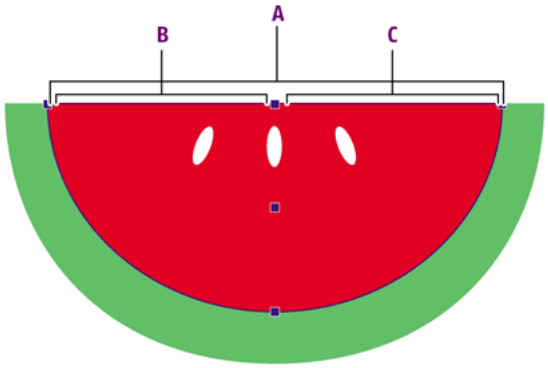
パス とは、線画オブジェクトの中にある任意の直線または形状のことです。パスには、以下のものを含め、任意の形状を含めることができます。

- 円

- 矩形
- 直線

パスを形成する個別の要素をセグメントと呼びます。場合によっては、パスがただ 1 つの線分によって形成されていることもありますが、通常は複数の線分によって形成されています。

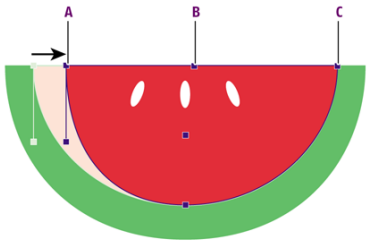
例：パス (**A**) が 2 つの線分 (**B** と **C**) によって形成されている例



8.2.3. アンカー ポイント

直線 (線分) を紙に描くときは、特定のポイント、つまり鉛筆を紙に押し当てた点から描画を開始します。次に、もう 1 つのポイント、つまり鉛筆を紙から離した点で描画を終了します。線画の場合は、これらのポイントをアンカーポイント と呼びます。論理的には、これらのアンカー ポイントを移動した場合は、パスの線分を変更することになり、パスのセグメントも変化する可能性があります。

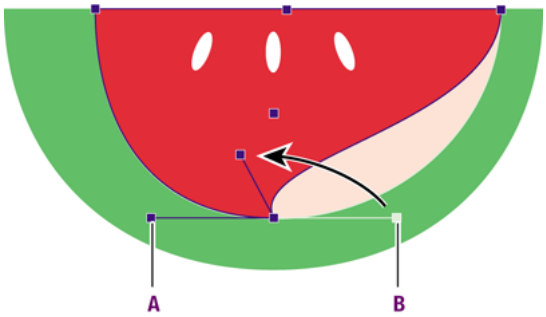
例：アンカー ポイント (**A**、**B**、および **C**) により、各線分の始点と終点が定義されます。



8.2.4. 方向ポイント

曲線の線分には、アンカー ポイントのほかに、2 つの付加的な制御ポイントがあります。これらを方向ポイント と呼びます。これらの方向ポイントは、方向線により、曲線の線分のアンカー ポイントに接続されます。これらの方向ポイントのいずれかを移動した場合は、曲線の形状は変わります。

例：方向ポイントを使用して、曲線の線分の形状を制御できます。



8.3. オブジェクトの選択

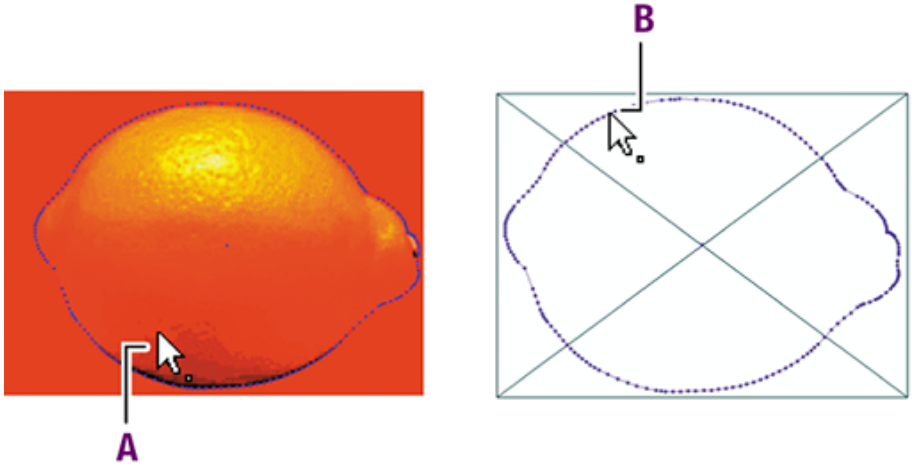
8.3.1. オブジェクトの選択ツール

PDF 文書のオブジェクトを選択するときに、以下の 2 つの選択ツールのいずれかを使用できます。

- [オブジェクトの選択] ツール
- [類似オブジェクトの選択]ツール

プレビューとワイヤフレームビューモード

[オブジェクトの選択] ツール は、プレビュー モードでもワイヤフレーム ビュー モードでも、ほぼ同じ動作をします。唯一の違いは、ワイヤフレーム ビュー モードでは、線画とベクトル画像は、そのアウトラインだけで選択できることです。



A. プレビュー モードでオブジェクトを選択する場合は、オブジェクトのどこをクリックしてもかまいません。
B. ワイヤフレーム ビュー モードでオブジェクトを選択できるのは、オブジェクトのアウトラインをクリックした場合だけです。

8.3.2. 1つまたは複数のオブジェクトを選択する

[オブジェクト選択]ツール は1つまたは複数のオブジェクトを選択する場合に使用します。これは、グラフィック (またはその一部) と、テキスト セグメントのどちらでもかまいません。

1つ以上のオブジェクトを選択する手順

1. PitStop 検査ダイアログで、オブジェクトを選択ツールをクリックします 。
2. 次のいずれかを実行します。
   - 1つのオブジェクトを選択するには、それをクリックします。
   - 一度に複数のオブジェクトを選択するには、**[Shift]**キーを押しながら選択するオブジェクトをクリックします。

   注: 選択済みのオブジェクトの選択を解除する場合は、**[Shift]**キーを押した状態で、もう一度クリックします。

あるいは、選択するオブジェクトをドラッグして長方形で囲みます。



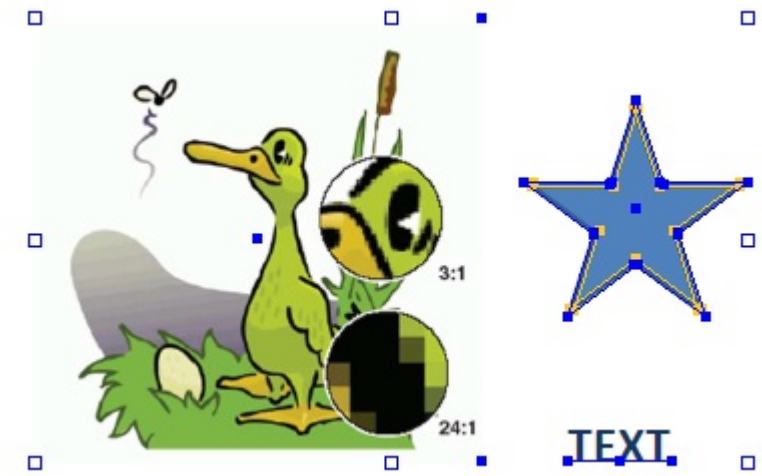
環境設定に応じて、**[Alt]**キーを押しながら部分的にオブジェクトを選択することもできます。選択領域のドラッグ時には *Alt* キーを長押し 52 ページのを参照してください。

選択されたオブジェクトの[バウンディングボックス]が表示されます。ハンドル を使用して、選択されたオブジェクトを拡大縮小、あるいは回転することができます。

単一選択（テキスト）の例



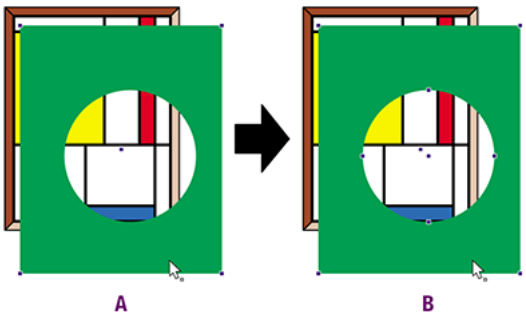
複数選択（**3**つの異なるオブジェクト）の例：



注: PitStop Proの環境設定で[オブジェクト選択時に中央ハンドル表示]を有効にした場合は、各オブジェクトのバウンディングボックスの中央の原点も表示されます。

特殊ケース

- 複合パスをクリックした場合は、パスのうち、クリックした部分だけが選択されます。複合パスをダブルクリックした場合は、オブジェクト全体が選択されます。



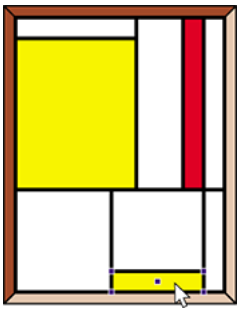
- マスクされているオブジェクトを選択するには、マスクの外側にあるオブジェクトの一部 (非表示になっている部分) をクリックします。オブジェクトのレイヤーは保持されます。つまり、オーバーレイによって非表示になっている (マスクされている) 矩形をクリックすると、その矩形が選択され、下の方にある表示オブジェクトは選択されません。マスク自体を選択するには、その (非表示の) アウトラインをクリックします。非表示のマスクにカーソルを重ねた場合は、ポインタが反転表示されます。マスクをダブルクリックすると、マスク グループ全体が選択されます。マスクされた画像をダブルクリックした場合は、その画像の最初のマスクが選択されます。

8.3.3. 類似オブジェクトを選択する

[類似オブジェクトの選択] ツール を使用すると、同じページに存在していて、同じ属性を持つ複数のオブジェクトを選択できます。PDF 文書の中にある、類似した複数のオブジェクトに変更を加える場合は、このツールを使うと便利です。

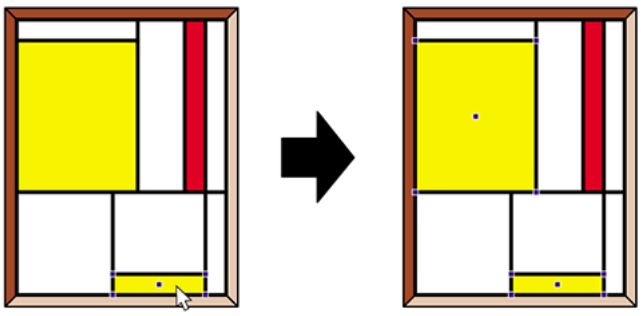
類似オブジェクトを選択する手順

1. PitStop 検査ダイアログで、類似オブジェクトの選択ツールをクリックします。
2. PDF 文書の 1 つのオブジェクトを選択します。これは、グラフィック (またはその一部) と、テキスト セグメントのどちらでもかまいません。



3. 選択対象に応じて Enfocus インスペクタの表示は変わり、選択したオブジェクトの属性が表示されます。
4. 必要な場合は、1 つまたは複数のプロパティを選択解除し、選択対象を拡大します。
5. 以下のいずれかを実行し、類似オブジェクトを選択します。
   - [類似オブジェクトの選択] ボタンをクリックします。
   - 選択したオブジェクトをダブルクリックします。

   全ての類似オブジェクト、つまり選択したオブジェクトと同じ属性を持つオブジェクトが選択されます。



8.3.4. オブジェクトブラウザを使いオブジェクトを選択

PDFでは、別のオブジェクト（画像、テキスト、シェーディング、ベクトル形状）は互いの上に置かれます（「スタック」のように）。それらがどのように見えて相互作用するかは、オーバープリント、ノックアウト、透明度などの機能によって異なり、また外観に影響を与えるマスクやクリッピングのような他の機能もあります。

「オブジェクトのスタック」は、PDFを保存または書き出す際の作成アプリケーションにより作られます。

PitStopで選択したいオブジェクトがスタックの中間、または底にある場合、必要なオブジェクト（だけ）を選択するのは必ず簡単ではありません。このためにEnfocusではオブジェクトブラウザを開発し、これによりクリック可能なツリー表示でオブジェクトスタックを視覚化しています。このオブジェクトブラウザで直接オブジェクトを選択できます。そのようにすると、ページ上でオブジェクトが選択されるので、必要に応じてオブジェクトを操作したり、PitStopインスペクタを使い属性を検査できます。

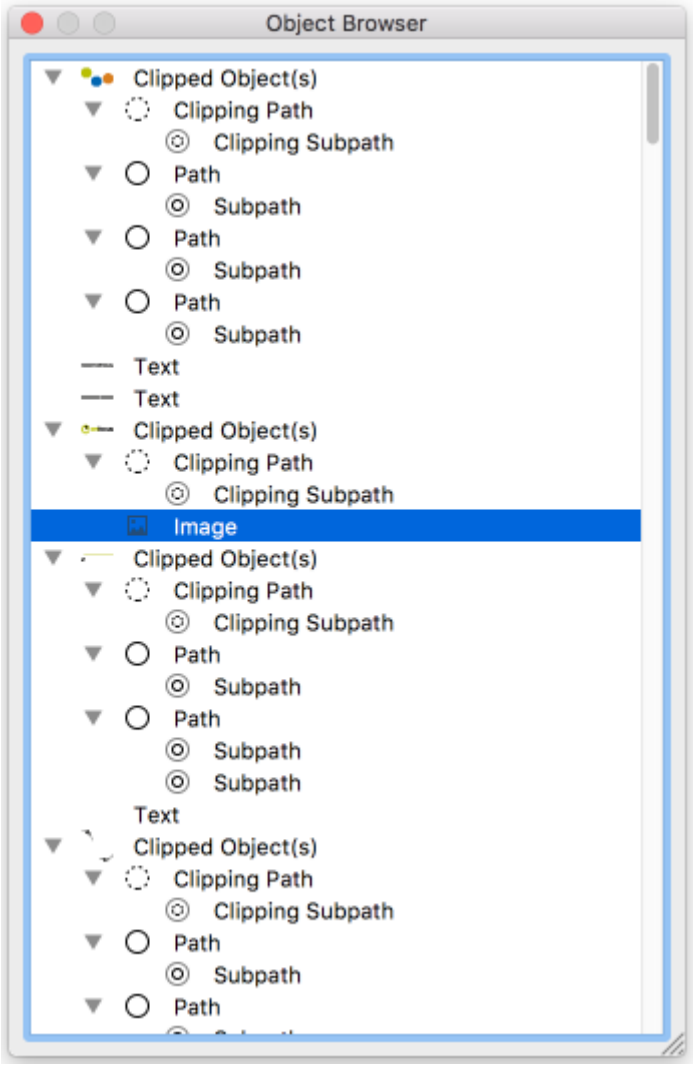
8.3.4.1. オブジェクトブラウザ

表示内容

オブジェクトブラウザは、クリック可能なツリー表示でページコンテンツを表示します。最初に制作されたオブジェクトをリストの最上段に置き、オブジェクトが制作された順番で、アクティブページにあるすべてのオブジェクト（テキスト、画像、ラインアート、フォーム、シェーディングオブジェクト、クリップしたオブジェクト）が表示されます。

オブジェクトのタイプははっきりマークされ、エレメントのサムネールが表示されます。

複数のコンポーネントを構成するオブジェクトのツリーを展開し、基礎となる構造（例、クリップしたオブジェクト、コンパウンドパス、およびそのサブパス、等）を見ることができます。



オブジェクトブラウザの開き方

オブジェクトブラウザは2つの方法で開くことができます。

- PitStop メニューから: **PitStop** > オブジェクトブラウザ
- PitStop 検査パネルから: オブジェクトブラウザを表示

複数ページの文書では、検査したいページをクリックしてください。

インスペクタ、グローバル変更、アクションリストなどの他のPitStopツールと併せてオブジェクトブラウザの選択を使用することができます。

選択方法

オブジェクトブラウザのツリービューでオブジェクトをクリックして選択できます。 複数のオブジェクトを選択する場合は、選択しながらSHIFTキーを押してください。これにより文書内のオブジェクトも選択せきます。

（PitStopオブジェクトの選択ツールを使用し）PDFファイル内のオブジェクトを選択すると、オブジェクトはオブジェクトブラウザでハイライトされます。

PDFのコンテキストメニューや、オブジェクトブラウザのコンテキストメニューを使い、必要に応じて選択を展開できます。

オブジェクトブラウザコンテキストメニュー

オブジェクトブラウザで右クリックすると、コンテキストメニューを開くことができます。下の表はオプションの一覧です。

オプション	機能
すべて折りたたむ	ページ上のすべてのオブジェクトの最も高いレベル（のオブジェクト）だけを表示します。
すべて展開	ページ上のすべてのオブジェクトのすべての基礎となるコンポーネント（サブパス、クリップした画像、等）を表示します。
すべて選択	（ページ上、オブジェクトブラウザ内の両方の）ページ上のすべてのオブジェクトを選択します。
すべて選択解除	（ページ上、オブジェクトブラウザ内の両方の）選択を選択解除します。
サムネールのサイズを設定する	（読みやすさを改善するため）サムネールのサイズを変更します。オプション： • 小 • 中 • 大
選択対象を拡大	（同じオブジェクトの一部である他のエレメントに）選択を展開します。オプション： • テキストライン • 複合パス • クリッピングパス • 親フォーム すべてのオプションを利用できますが、関連がある場合にのみ有効になります。たとえば、オブジェクトがフォームの一部でない場合、親フォームに選択を展開することは、もちろんできません。
削除	（ページ上、オブジェクトブラウザ内の両方の）選択したオブジェクトを選択解除します。

8.3.4.2. オブジェクトブラウザの使用

オブジェクトブラウザを使用し、ページ構造を検査、またはページでオブジェクトを選択できます。

オブジェクトブラウザを使用するには、次の手順に従います。

1. 複数ページ文書の場合、関係するページ（例：検査したいページ、または1つ以上のオブジェクトを選択したいページ）をクリックします。

2. 次のいずれかを実行します。
   - メニューから、**[PitStop]** > [オブジェクトブラウザ]を選択します
   - [PitStop 検査]パネルを開き、[オブジェクトブラウザを表示]をクリックします

   オブジェクトブラウザが表示されます。
3. 矢印ボタンをクリックし、必要に応じてページツリーを展開します。
4. 選択したいオブジェクトをクリックします。

   一度に複数のオブジェクトを検査するには、選択しながらSHIFTキーを押します。

   オブジェクトは、オブジェクトブラウザとページで選択されます。ページ上で選択を変更する場合、オブジェクトブラウザでも選択は変更されます。
5. 任意に、選択を親オブジェクトに展開します。

   オブジェクトブラウザのコンテキストメニュー（オブジェクトブラウザ 209 ページのを参照）、またはページのコンテキストメニューを使用し、選択を親オブジェクトに展開できます。

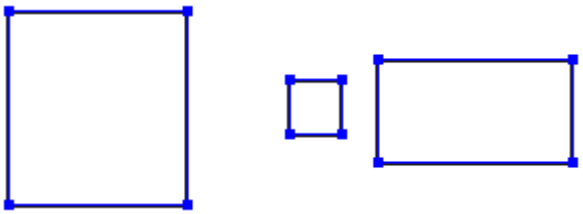
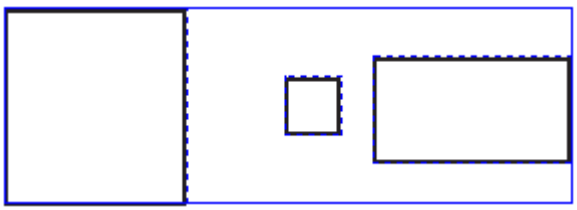
   詳細については、*Enfocus インスペクタの使用* 97 ページのを参照してください。

これで、必要に応じてオブジェクトの属性を検査したり（*Enfocus インスペクタ*を使用し）、オブジェクトを操作できます。

8.4. グループ化とグループ解除

8.4.1. グループ化とグループ解除について

オブジェクトをグループ化およびグループ解除できます。

例	説明
	グループ解除されたオブジェクト。
	グループ化されたオブジェクト。 グループ化されたオブジェクトは1つのオブジェクトとして動作します。 例: • 切り取りと貼り付け時。

例	説明
	• PDF から別の PDF にコピーするとき。

8.4.2. オブジェクトのグループ化

1. グループ化されていないオブジェクトを選択します。
2. [ツール] で、[**PitStop** 編集] > の順に選択します



注: これとは別に、コンテキストメニューまたはアプリケーション上部のメニューバーも使用できます。

- コンテキストメニューを使用して [グループ化] を右クリックして選択します。
- メニューバーで、[**PitStop Pro**] > [オブジェクト] > [グループ化]をクリックします。

8.4.3. オブジェクトをグループ解除する手順

1. グループ化されたオブジェクトを選択します。
2. [ツール] で、[**PitStop** 編集] > の順に選択します。



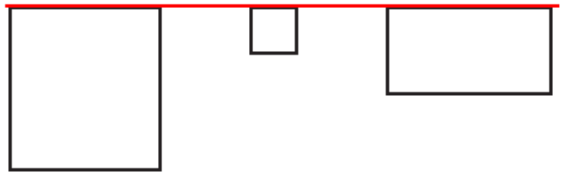
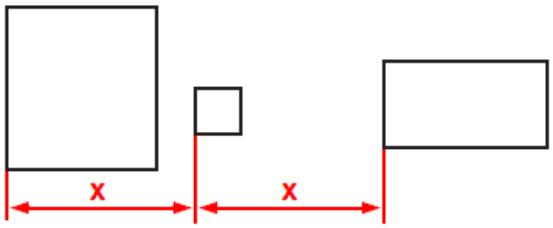
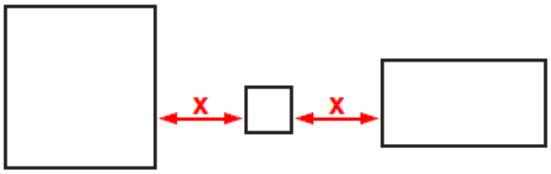
注: これとは別に、コンテキストメニューまたはアプリケーション上部のメニューバーも使用できます。

- コンテキストメニューを使用して [グループ解除] を右クリックして選択します。
- メニューバーで、[**PitStop Pro**] > [オブジェクト] > [グループ解除]をクリックします。

8.5. 整列と分散

8.5.1. 整列と分散について

オブジェクトの整列、オブジェクトの分散、およびオブジェクト間隔の分散ができます。

例	説明
	上端を揃えます。
	左端を分散します。
	横間隔を分散します。

8.5.2. オブジェクトを整列または分散する手順

1. 整列時には2つ以上、分散時には3以上のオブジェクトを選択します。
2. **[Enfocus** インスペクタ]ダイアログボックスで、 > をクリックします。

   注: コンテキストメニューも使用できます。
3. 変更を行うには該当するボタンをクリックします。

   ヒント: 説明を表示するには、ボタンの上にカーソルを置きます。

   ボタンと意味の概要については、オブジェクトの整列と分散: ボタン 215 ページのを参照してください。
4. オブジェクトの位置合わせをする場合、[整列]リストからオプションを選択します。

オブジェクトを選択対象またはページボックスと相対的な位置に、位置を合わせることができます。

8.5.3. オブジェクトの整列と分散: ボタン

ボタン	このボタンをクリックしたときの処理
オブジェクトの整列	
	上端を揃える
	縦中央を揃える
	下端を揃える
	左端を揃える
	横中央を揃える
	右端を揃える
オブジェクトの分散	
	上端を分散
	縦中央を分散
	下端を分散
	左端を分散
	横中央を分散
	右端を分散
間隔の分散	
	縦間隔を分散
	横間隔を分散

8.6. 選択したオブジェクトの非表示と表示の切り替え

8.6.1. オブジェクトを非表示にする理由

1つまたは複数のオブジェクトを選択した場合は、それがテキスト、線画、ピクセル画像のどれであっても、その選択対象を非表示にすることができます。たとえば、編集するオブジェクトが、他のオブジェクトの一部であるか、他のオブジェクトの中に完全に含まれていることが原因で簡単に選択できない場合は、この操作を行うことがあります。

1回の操作で、1つのオブジェクトを隠すことも、非表示オブジェクトを全て表示することもできます。

非表示オブジェクトは、ワイヤフレーム ビューの中では表示されません。ワイヤフレーム ビューでの *PDF* 文書の表示 74 ページの も参照してください。

8.6.2. 選択したオブジェクトを非表示にする手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、1つまたは複数のオブジェクトを選択します。
2. コンテクストメニューから[選択範囲を非表示]を選択します。

8.6.3. 非表示オブジェクトを表示する手順

1. コンテキストメニューからすべて表示を選択します。



注: このオプションは、非表示のオブジェクトがある場合にのみ表示されます。

8.7. オブジェクトの並び順の変更

8.7.1. 重なり合ったオブジェクト

PDF 文書の中に、互いに重なり合ったオブジェクトが存在していることがあります。下の方にあるオブジェクトを編集する場合には、そのオブジェクトを編集できるように一番上に移動する必要があります。このような状況に対処できるように、PitStop Pro には、オブジェクトの並び順を変更する機能が装備されています。

例： ページの上半分にある赤い背景色を手前に移動します。



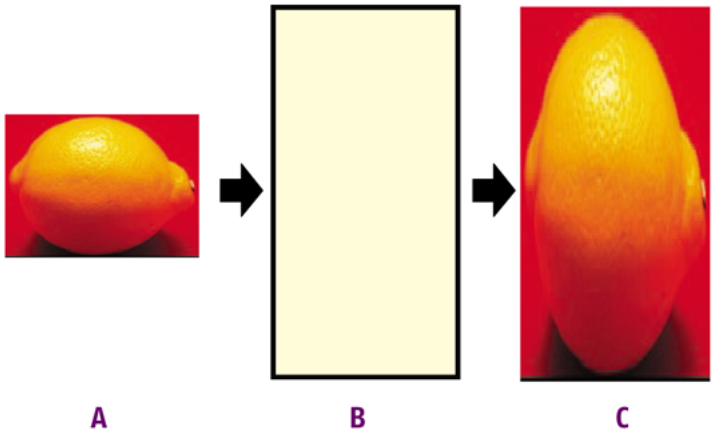
8.7.2. オブジェクトの並び順を変更する手順

1. 上または下に移動するオブジェクトを選択します。
2. コンテキストメニューで、オブジェクトの順序を選択し、オプションのいずれかを選択します。
   - [前面に移動] を選択すると、選択したオブジェクトは 1 つ上に移動し、[背面に移動] を選択すると、選択したオブジェクトは 1 つ下に移動します。
   - [最前面に移動] を選択すると、選択したオブジェクトは一番上に移動し、[最背面に移動] を選択すると、選択したオブジェクトは一番下に移動します。

8.8. オブジェクトの置換

8.8.1. オブジェクトの置換について

PitStop Pro では、コピー アンド ペースト操作を 1 回実行するだけで、オブジェクトを別のオブジェクトに置き換えることができます。置換後のオブジェクトは、置換前のオブジェクトのサイズと位置が同じになるように自動的に調節されます。また、置換前のオブジェクトの縦横比率も維持されます。この結果、矩形オブジェクトが歪むことがあります。



A. オブジェクトをコピー
B. 置換対象のオブジェクトを選択
C. 置換対象のオブジェクトに新しいオブジェクトを貼り付ける *(サイズの調整も同時に行われる)*

8.8.2. オブジェクトを置換する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、新しいオブジェクトを選択、すなわち既存のオブジェクトを置き換える目的で使用する別のオブジェクトを選択します。
2. コンテキストメニューで、コピー（またはCtrl＋C）を選択します。
3. 古いオブジェクト、つまり置換されるオブジェクトを選択します。
4. コンテクストメニューから［置換］を選択します。

   コピーしたオブジェクトで古いオブジェクトが置換され、古いオブジェクトのサイズ、縦横比率、および位置に合わせてコピーしたオブジェクトが調整されます。

8.9. オブジェクトの OPI 情報の変更または削除

8.9.1. OPI について

PDF 文書の中に、OPI (Open Prepress Interface) 情報を持つオブジェクトが含まれている場合は、Enfocus インスペクタを使用してその情報を変更または削除することができます。

8.9.2. オブジェクトのOPI情報を変更または削除する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、OPI 情報を変更する PDF 文書内にあるオブジェクトを選択します。

2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [プリプレス] > **[OPI]** を選択し、選択したオブジェクトの OPI 情報を表示します。
4. 次のいずれかを実行します。
   - OPI 情報を変更するには、[ファイル名] ボックスにカーソルを合わせ、必要な変更を加え、[変更] をクリックします。たとえば、画像のファイル名やパスを変更します。
   - [アクション]ドロップダウンメニューから、**[OPI**情報の削除] をクリックします。

8.10. オブジェクトの透過性の変更

オブジェクトを透過にするか、透過性の設定を変更することができます。さらに、選択したオブジェクトやページ全体の透過を解除することもできます。

8.10.1. オブジェクトの透過性を変更する手順

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. [透明] > [全般]をクリックします。
3. 透過性を変更するオブジェクトを選択します。
4. 以下のいずれかを実行します。
   - 透過性を変更するには、アルファ塗りまたはアルファ線スライダを動かします。
   - テキストを透過にするには、テキストノックアウトオプションを選択します。このオプションにより、重なった文字の見え方が決まります。有効にすると、重なり部分の一番上の文字が下の文字の上に表れます (「ノックアウト」)。

テキストノックアウト	例
無効	
有効	

- 前面の透過オブジェクトの色と、下の方にあるオブジェクトの色をブレンドする方法を変更するには、[ブレンド] タブをクリックし、必要なブレンド モードを選択します。[ブレンド] リストからブレンドモード選択します。PitStop Pro の以前のバージョン (PitStop 2022より前) では、複数のブレンドモードを選択できました。PDF 2.0 では複数のブレンドモードの使用が推奨されていないため、これができません。ただし、オブジェクトに複数のブレンドモードがすでに存在する場合は、表示されます。

注: ブレンドモードの詳細については、Adobe の Web サイト (*www.adobe.com*) にアクセスするか、デザインアプリケーション (Adobe InDesign、QuarkXPress など) のヘルプまたはマニュアルを参照してください。

8.10.2. 透過を解除する手順

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. [透明] > [全般]をクリックします。
3. 透過オブジェクトのあるページに移動し、必要な場合は、透過オブジェクトを選択します。
4. アクションドロップダウンメニューをクリックします。
5. アクションドロップダウンメニューから、必要に応じてページの透明効果を削除または選択対象の透明効果を削除を選択します。

注: アクション リストまたは プリフライトプロファイルを使用して透過を解除することもできます。

8.11. 透明グループのプロパティの表示と変更

透明グループの優先順位は Enfocus インスペクタを使って変更できます。

「透明グループ」は一緒に所属しているオブジェクトの集まりで、グループはフォームレベル (いわゆる Xobject フォーム) またはページレベルで定義できます。

オブジェクトはグループの一部であるため、透明グループのプロパティを確認すると、オブジェクトの外観が変わったかどうかがわかります。

8.11.1. 透明グループのプロパティの表示

オブジェクトが透明グループに属している場合、これが外観に影響するおそれがあります。

選択したオブジェクトが透明グループに属するかどうか確認する

1. Enfocus インスペクタを表示します。

2. 透明 > 親透明グループをクリックします。
3. PitStop のオブジェクトを選択 ツールを使って、透明グループに属するかどうか知りたいオブジェクト、フォームまたはページを選択します。

インスペクタのダイアログでは、選択したオブジェクトはツリー構造に「選択対象」と表示されます。親透明グループがあれば、プロパティとともに上に表示されます。概要については、透明グループのプロパティ 221 ページのを参照してください。

選択した透明グループのプロパティを必要に応じて変更することができます。

8.11.2. 透明グループのプロパティの変更

透明グループのプロパティの変更

1. インスペクタダイアログを開きます。
2. 透明 > 親透明グループカテゴリをクリックします。
3. PitStop のオブジェクトを選択ツールを使い、変更したい透明グループに属するオブジェクトを選択します。
4. PitStop インスペクタダイアログで、変更したい透明グループをクリックします。
   選択したグループがハイライト表示されます。
5. 透明 > 透明グループカテゴリに切り替えます。
6. 必要な変更を行います。
   オプションの概要については、透明グループのプロパティ 221 ページのを参照してください。
   ブレンドカラースペースを (たとえば CMYK からキャリブレーション済みグレーに) 変更し、その変更を文書ですぐに確認することができます。透明 > 親透明グループに戻すと、選択した透明グループのプロパティに変更が反映されていることを確認できます。

8.11.3. 透明グループのプロパティ

透明のプロパティ ー透明グループタブは親透明グループタブで行った選択 (青色のハイライト) を参照しています。何も選択していない場合、そのページのプロパティが表示されます。

プロパティ	意味
フォームは透明グループです ページは透明グループです	このオプションが「フォーム」または「ページ」のどちらを参照しているかは選択によって決まります。 オフにすると、選択したフォームは透明グループになりません。オブジェクトはページに直接配置したようにレンダリングされます。以下のオプションが灰色表示されます。 有効にすると、フォームは透明グループになり、ここで選択した設定が透明グループのレンダリングに使われます。

プロパティ	意味
ノックアウトグループ	選択すると、透明グループの複数のオブジェクトが1つのオブジェクトとしてレンダリングされます。重なったパーツが互いに作用することはありません。一番上のオブジェクトが下のオブジェクトの前面に出ます。
分離グループ	透明グループのオブジェクトは下のオブジェクトの影響を受けません。たとえば広告は、掲載する雑誌や新聞に載せる前に、通常は分離グループとしてレンダリングされます。
ブレンドカラースペース	分離グループが選択されている場合のみアクティブになります。透明グループのレンダリングに使用するブレンドカラースペース。
ICC プロファイル	ブレンドカラースペースがグレイ、RGB、または CMYK の場合のみアクティブになります。その場合、適切な ICC プロファイルを選択することができます。

注: 透明グループについての詳細は、*PDF リファレンス* (1147ページ、プレート17のイラストなど) をご覧ください。

8.12. テキストまたは線画オブジェクトのカラーの変更

PDFのテキストまたはラインアートオブジェクトの色は2つの方法で変更できます。

- 環境設定で定義された既定のカラープロファイルを使用する場合は、**Enfocus** インスペクタを使用します。

  このようにして、オブジェクトの他の塗りとストローク属性を変更できます（ソリッドとグラデーション塗りまたはストロークの切り替え、点線パターンの変更など）。

- 特定のカラープロファイルを使用する場合は、[**Enfocus** カラー変換]パネルを使用します。

8.12.1. Enfocus インスペクタを使用してカラーを変更する

オブジェクト（テキストまたはラインアート）のカラー、および/またはその他の塗りおよび線の属性を変更する手順

1. カラーを変更するテキストまたはラインアートを（ を使用して）選択します。

   ヒント: 同じカラーのテキストまたはオブジェクトを選択する場合は、[類似オブジェクトの選択]ツール の使用を推奨します。

2. Enfocus インスペクタを表示します。

   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。

3. [塗り/線] カテゴリをクリックし、[塗り] と[線] が（変更する対象に応じて）選択されていることを確認します。

   選択したオブジェクトの現在のカラー設定が Enfocus インスペクタに表示されます。

4. 選択したオブジェクトの色を変更するには、[塗りのカラー]または[線のカラー]カテゴリで、以下のいずれかを実行します。

   - 同じカラースペース（たとえば**CMYK**）の色を変更する場合は、それぞれのカラーのスライダを左右に動かすか、テキストボックスにパーセント値を入力します。
   - 別のカラースペース（グレー、RGB、CMYK、特色）に色を変更する場合は、以下のオプションがあります。

     - 色をほかのカラースペースに変換できます。その際、色は[環境設定]で定義された[カラーマネジメント]設定を基にして変換されます。

       注: 特定のカラープロファイルに基づく色の変換は[カラー変換]ウィンドウで行われます（*Enfocusカラー変換パネルを使用して色を変換する* 228 ページのを参照して下さい）。

       色をほかのカラースペースに変換する手順

       1. [アクション]ドロップダウンメニューで目的のオプションをクリックします。
          - [グレーに変換（環境設定を使用）]
          - [**RGB** に変換（環境設定を使用）]
          - [**CMYK** に変換（環境設定を使用）]
          - [特色に変換（環境設定を使用）]
       2. 必要に応じて、そのカラーのスライダを左右に動かすか、テキストボックスにパーセント値を入力します。

     - 色をほかのカラースペースにマッピングできます。この場合、中間カラースペースまたは中間カラーマネジメントは使われません。カラー値はデータを失うことなくすぐにマッピングされます。これは、マッピングルールが存在するカラースペースでのみ可能です。例えば、グレー/キャリブレーション済みグレーはCMYKまたは特色にマッピングが可能ですが、RGBはほかのカラースペースにマッピングできません。

       色をほかのカラースペースにマッピングする手順

       1. [アクション]ドロップダウンメニューで目的のオプションをクリックします。
          - [グレイにマッピング]
          - [**CMYK**にマッピング]
          - [スポットカラーにマッピング]

            注:
            - 使用可能なオプションは選択したオブジェクトのカラースペースによって異なります。

- グレーをCMYKにマッピングする場合、スライダーを使い目的のCMYK値に設定できます（マッピングが100%グレーの場合）。

2. 必要に応じて、そのカラーのスライダを左右に動かすか、テキストボックスにパーセント値を入力します。

- [**Enfocus**カラー変換パネル]を使用してカラーを変換できます。

  *Enfocus*カラー変換パネルを使用して色を変換する 228 ページのを参照してください。

- ユーザスウォッチから選択したカラーへ変換できます。

  手順

  1. [アクション]ドロップダウンメニューで、[カラーピッカー]をクリックします。
  2. リポジトリのカラーを選択します。
  3. **[OK]** をクリックします。

- その色をダイアログの下部の色の一つに変換できます。

  手順

  1. 任意のスウォッチを入力します。
  2. ［スウォッチを適用］をクリックします。

  カラースウォッチ 227 ページのを参照してください。

5. 塗りの属性を変更するには、[塗り]サブカテゴリで
   a. 該当する適切なボタンを選択します。
      - 塗りつぶしを使用しない
      - 単色の塗りつぶし色を使用
      - グラデーションの塗りつぶし色を使用
   b. ポリゴンまたはループを塗る場合、[塗り] または **[EO** 塗り] を選択します。
      塗りの属性:塗りと *EO* 塗り 226 ページのを参照してください。
6. 線の属性を変更するには、[線]サブカテゴリで
   a. 該当する適切なボタンを選択します。
      - ストロークを使用しない
      - 単色のストロークカラーを使用
      - グラデーションのストロークカラーを使用
   a. インク/ティント/カラースライダを必要に応じて移動します。
   b. ICC プロファイルおよび/またはCRIを必要に応じて選択します。
   c. [線幅]を指定します（線の太さのことで、通常はポイントで表します）。
7. [線の詳細]サブカテゴリに切り替えます。
   - [線端] スタイルおよび[結合] スタイルを選択します。

     線端スタイルによりパスの終端にある線の外観が決まります。

結合スタイルによりパスの角にある線の外観が決まります。

線端スタイル		結合スタイル	
アイコン	意味	アイコン	意味
	バット線端		マイター結合
	ラウンド線端		ラウンド結合
	突出線端		ベベル結合

- マイター結合スタイル  を選択した場合、[マイター結合]を設定してください（ストローク属性：マイター制限 227 ページのを参照）。

- [ストロークの調整]ドロップダウンメニューで、以下の設定をします。
  - ストロークの調整を有効にするには**[On]**を選択します。

    ストロークの調整を有効にすると、すべての垂直線および水平線について、同じ太さの外観を持つようにピクセル線幅が整数値に丸められます。

  - 自動的なストロークの調整を有効にするには、[デフォルト]を選択します。

    同じ線幅を持つ複数のストロークが低解像度にレンダリングされると、それらのラスタライズ処理は、デバイス ピクセルでの異なる幅の線（最大で 1 ピクセルの差異）を生じる可能性があります。この効果は、それらのストロークの実数での正確な位置が、デバイス ピクセル グリッドとどのように交わるかによって変わります。より良い視覚的な結果を得るために、自動的なストロークの調整を有効化できます。これは、必要に応じてラスタライズの効果を自動的に弱めるもので、線幅と座標をわずかに変更することによって、デバイスピクセルでの均一の太さを持つ線を生成します。

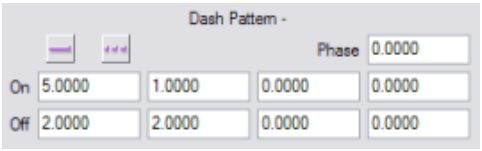
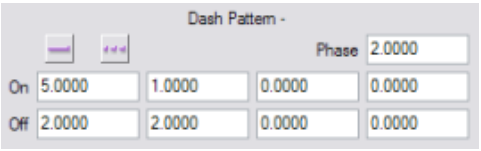
  - ストロークの調整を無効にするには、**[Off]**を選択します。

    垂直および水平の線は調整されません。低解像度でレンダリングする場合、目に見える幅の変化が少ない場合があります。

- 破線を作成する

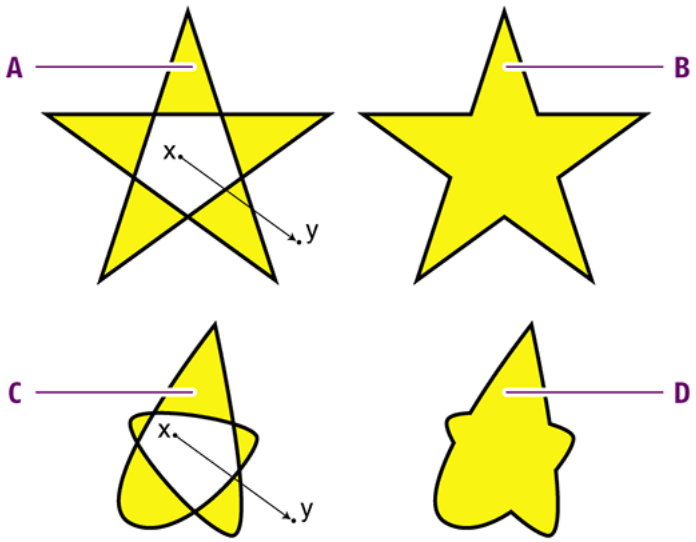
  1. [破線]ボタン  をクリックします。
  2. **[On]**ボックスでダッシュの長さを指定します。
  3. **[Off]**ボックスでダッシュ間のギャップ（スペース）を指定します。
  4. 必要に応じて、[位相] を指定し、破線を動かします。位相が破線パターンの開始位置を示します。以下が例です。
     - 位相がない場合、最初のダッシュは長さが5.0になります（**[On]**フィールドの最初の値）。
     - 位相がある場合、最初のダッシュは長さが3.0になります（**[On]**フィールドの最初の値から位相に指定された値をマイナスしたもの）。

  単位は[環境設定]で設定された値に依存します。

フェーズなしの点線	フェーズありの点線
	
	

8.12.1.1. 塗りの属性:塗りと EO 塗り

ポリゴンまたはループの塗りカラーを指定する場合、(標準) [塗り] または [**EO** 塗り] の各属性を選択できます。ポリゴンおよびループは、線が交わり複合パスを持つという点で、他の線画の形状と異なります。ポイントが形状の一部かどうかを判断するために、別の規則、すなわち標準規則または偶数/奇数 (EO) 規則を適用できます。これらの規則により、形状の塗り方法が決まります。



A. *EO* 塗りのポリゴン
B. 標準塗りのポリゴン
C. *EO* 塗りのループ
D. 標準塗りのループ

偶数/奇数 (EO) 規則では、形状のアウトラインの内部にある点 (x) とアウトラインの外側にある点 (y) の間に線を引くと想定します。この線と形状の線とが交差する回数が奇数の場合、点 (x)

が属する形状の領域は塗りつぶされます。交差する回数が偶数の場合、領域は塗りつぶされません。

8.12.1.2. ストローク属性：マイター制限

マイター結合とは、結合が留め継ぎされた (鋭角の) 状態から斜角が付けられた (四角になった) 状態に切り替わるときの結合のことです。

線の太さを基にマイター長を分割することにより、マイター結合を計算できます。マイター長が線の太さの特定の倍数と一致する場合、結合はベベル結合になります。

線の太さが 2pt であり、 マイター結合を 4 とします。マイター長が 8 pt になるとすぐに角の端が四角になり、ベベル結合になります。論理的には、マイター結合が 1 の場合は常にベベル結合になります。これは、マイター長が常に線の太さよりも大きいためです。

「ポインタ」角度を許可するには、マイター長を大きくします。マイター結合はラウンドやベベルにすでにスタイルが設定されている結合には適用されません。

8.12.1.3. カラースウォッチ

線画やテキストを選択した場合、Enfocusインスペクタの[塗り/線]タブは2列のカラースウォッチを表示します。



注: 選択したオブジェクトにストロークや塗りがない場合、スウォッチは対応するタブに表示されません。

カラースウォッチにより、頻繁に使用される色へ素早くアクセスできます。その使用方法の概要は以下のとおりです。

方法	説明
色をインスペクタのカラースウォッチに追加	1. 選択した色でオブジェクトまたはテキストを選択します。（必要に応じて）色を変えることができます。 2. 必ず[塗りと線]タブでPitStopインスペクタを開きます（使用するものに応じて、ストロークまたは塗り）。 3. ダイアログの下部の空の（または白い）ボックスをクリックします。 4. ［スウォッチを保存］をクリックします。選択したオブジェクト/テキストの色がカラースウォッチに追加され、必要に応じて他のオブジェクト/テキストに適用されます。
カラースウォッチをPDFのオブジェクトやテキストに適用	1. カラースウォッチを使用して色を変更するオブジェクトやテキストを選択します。

方法	説明
	2. 必ず[塗りと線]タブでPitStopインスペクタを開きます（変更するものに応じて、ストロークまたは塗り）。 3. ダイアログの下部の選択したカラースウォッチをクリックします。 4. ［スウォッチを適用］をクリックします。選択したオブジェクトの色は、カラースウォッチに色に変更されます。

注: 追加した色はカラーデータベースには保存されません。そのため、追加した色はPitStop Serverでは利用できません。カラーデータベースの詳細については、カラーデータベースの操作 237 ページのを参照してください。

8.12.2. Enfocusカラー変換パネルを使用して色を変換する

Enfocusインスペクターでの色の変換および変更は [環境設定] で定義されたカラー プロファイルを使用して行われます。しかし、特定のカラー プロファイルに基づく色変換を正しく行うために、Enfocus カラー変換パネルを使用することができます。

Enfocus カラー変換パネルを使用して色を変換する手順

1. カラーを変更するテキストまたはラインアートを（ を使用して）選択します。

   ヒント: 同じカラーのテキストまたはオブジェクトを選択する場合は、[類似オブジェクトの選択]ツール の使用を推奨します。

2. **PitStop** カラーパネルでカラー変換 をクリックします。
3. [塗り]、[線] または [両方]を変換したい場合は、定義します。
   塗りと線が異なるカラースペースを使用している場合、[両方]を選択することはできません。
4. ターゲットカラースペースを選択します。
5. 必要に応じて、ソースの **ICC** プロファイルを変更します。ソースのカラー スペースのプロファイルのみが使用できます。

   注:

   - 灰色のオブジェクトの場合には、灰色を CMYK ブラックとして扱うために CMYK プロファイルを選択することも可能です。
   - ソースICC プロファイルの一覧は、いくつかのデバイスリンクプロファイルも含みます。デバイスリンクプロファイルはデバイス固有のプロファイルで、あるカラー スペースから別のカラースペースへの色変換を行います。その際、LAB への変換や、その他装置非依存色スペース間での変換を行うことはありません。トータルインクプレビュープロファイルが1つの例です。デバイスリンクプロファイルには定義済みの変換元および変換先のカラー スペースがあるの

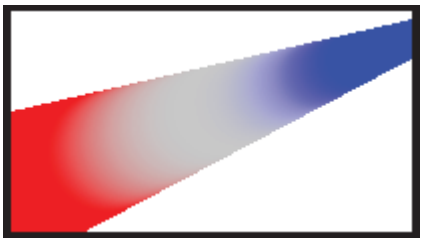
で、[ソース] フィールドで変換元および変換先のカラースペースと合致するデバイスリンクプロファイルを選択することしかできません。デバイスリンクプロファイルが選択された場合は、ターゲット プロファイル フィールドは無効になります。

6. ターゲットの **ICC** プロファイルを設定します。ターゲットのカラースペースプロファイルのみが使用できます。
7. 使用するレンダリングインテントを定義します。別のリマッピング方法に関する詳細情報は、レンダリング インテント 392 ページのの章を参照してください
8. [同じ輝度を保つためにグレーを強制]を選択すると、 PitStop Proによって、混色のグレーおよびブラックはCMYKへの変換前にブラックにリマップされます。これによって、例えばRGB ブラックのテキストは、すべてのプロセス カラーの混色ではなく、純色 100% K に変換されます。
9. [ターゲット**ICC**プロファイルを変換済みオブジェクトにタグを付け]オプションを有効にします。
10. [変換] をクリックします。

8.13. テキストまたは線画オブジェクトへのグラデーションの適用

8.13.1. グラデーションについて

線形または放射状グラデーションの塗りつぶしとストロークをテキストとラインアートオブジェクトに適用できます。

例	説明
	線形グラデーション塗りつぶしとストロークはラインアートオブジェクトに適用されます。
	角度20度の放射状グラデーション塗りつぶしとストロークはラインアートオブジェクトに適用されます。
	線形グラデーション塗りつぶしはテキストに適用されます。

例	説明
	線形グラデーションストローク（グレースケール）はラインアートオブジェクトに適用されます。

8.13.2. グラデーションを適用する手順

1. テキストまたは線画オブジェクトを選択します。
2. **[Enfocus** インスペクタ**]**ダイアログボックスで、次のいずれかの手順を実行します。

適用する場合	結果
グラデーション塗りつぶし	1.  >  をクリックします。 2.  をクリックします。 3. 必要に応じて、**[**アクション**]**をクリックし、異なるカラーモデル（例：**RGB**に変換）を選択します。 グラデーションを変更するための最初のコントロールバー、オプション、およびボタンが **Enfocus**インスペクタダイアログボックスに表示されます。
グラデーションストローク	1.  >  をクリックします。 2.  をクリックします。 3. 必要に応じて、**[**アクション**]**をクリックし、異なるカラーモデル（例：**RGB**に変換）を選択します。 グラデーションを変更するための最初のコントロールバー、オプション、およびボタンが **Enfocus**インスペクタダイアログボックスに表示されます。

3. **[**ツール**]** で、**[PitStop** 編集**]** >  の順に選択します。
グラデーションを変更するための2番目のコントロールバーがPDF文書に表示されます。
4. 次を使用して必要な変更を行います。
   - **[Enfocus** インスペクタ**]** ダイアログ ボックスのオプションとボタン
   - **[Enfocus** インスペクタ**]** ダイアログ ボックスの最初のコントロールバー

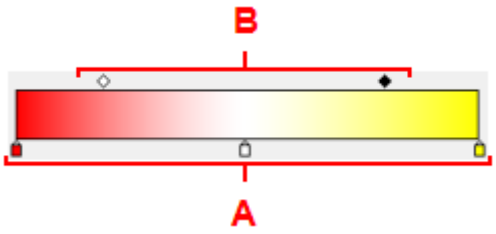
- PDF 文書の2番目のコントロールバー

8.13.3. グラデーション: コントロールバー

多数のオプションとボタンの他に、グラデーションを変更するための2つのコントロールバーがあります。簡単に操作するためには、両方を開き、状況に最適ないずれかを使用します。

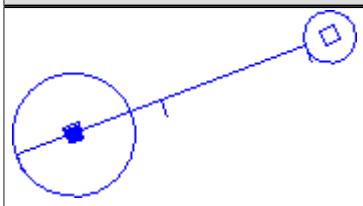
注: コントロールバーにアクセスするには、グラデーションを適用する手順 230 ページのを参照してください。

*[**Enfocus** インスペクタ]* ダイアログボックスに表示されるコントロールバー

コントロールバー	以下のことを実行できます。
 ***A.*** *カラーコントロールポイント* ***B.*** *2つのカラーコントロールポイントの中点*	• バーの下部をクリックし、カラーコントロールポイントを追加します。 • コントロールバーから離れたところにドラッグするか、選択してDeleteキーを押して、カラーコントロールバーを削除します。 • カラーコントロールポイントをダブルクリックして、カラーを変更します。 • コントロールバーに沿ってドラッグ（または選択したコントロールポイントの場所オプションを変更）して、カラーコントロールポイントの位置と中点を変更します。

***PDF** 文書に表示されるコントロールバー*

コントロールバー	以下のことを実行できます。
線形グラデーションを使用するときには、コントロールバーは次のように表示されます。 	• コントロールバーをドラッグします。 • コントロールバーのコントロールポイントをドラッグします。 • 終点を移動します。
放射状グラデーションを使用するときには、コントロールバーは次のように表示されます。	• コントロールバーをドラッグします。 • コントロールバーのコントロールポイントをドラッグします。 • 円を拡大および縮小します。 • 円の中点を移動します。

コントロールバー	以下のことを実行できます。
	

8.13.4. グラデーション: オプションとボタン

コントロールバーの他に、グラデーションを変更するためのさまざまなオプションとボタンがあります。

注: オプションとボタンにアクセスするには、グラデーションを適用する手順 230 ページの を参照してください。

オプション／ボタン	説明
	グラデーションを逆にします。
タイプ	線形または放射状グラデーションを適用します。
	グラデーションの回転角度。
場所	指定する位置で選択したコントロールポイントの位置を決定します。
ICC プロファイル	ICC プロファイルを選択したオブジェクトに割り当てます。 「*ICC* プロファイルの使用方法 399 ページの」を参照してください。
カラーレンダリングインテント	レンダリングインテント選択したオブジェクトに割り当てます。 「レンダリング インテント 392 ページの」を参照してください。
•  塗り •  **EO** 塗り	適用: • 標準の塗りつぶし。 • even-odd 塗りつぶし (EOFill)。 「塗りの属性:塗りと *EO* 塗り 226 ページの」を参照してください。 注: グラデーション塗りつぶしを変更するときにのみ使用できます。
太さ	線の太さ。

オプション／ボタン	説明
	注: グラデーションストロークを変更するときにのみ使用できます。

8.13.5. 例：線形グラデーションをラインアートオブジェクトに適用する

矩形を作成し、線形グラデーション塗りつぶしとストロークを適用する（RGBカラー）には、次の手順を実行します。

工程	アクション	結果
1	矩形を作成します。 場所: ツールペイン: **PitStop** 編集 >	
2	単色の塗りつぶしを適用します。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: 	
3	グラデーション塗りつぶしを適用します。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: 	
4	**[Enfocus** インスペクタ**]** ダイアログ ボックスのコントロールバーを使用して、グラデーション塗りつぶしを変更します。  • バーの下部をクリックし、カラーコントロールポイントを追加します。 • コントロールバーから離れたところにドラッグするか、選択してDeleteキーを押して、カラーコントロールバーを削除します。 • カラーコントロールポイントをダブルクリックして、カラーを変更します。	

工程	アクション	結果
	• コントロールバーに沿ってドラッグ（または選択したコントロールポイントの場所オプションを変更）して、カラーコントロールポイントの位置と中点を変更します。	
5	グラデーションストロークで繰り返します。 場所：**Enfocus** インスペクタダイアログボックス: >	

8.13.6. 例：線形グラデーションをテキストに適用する手順

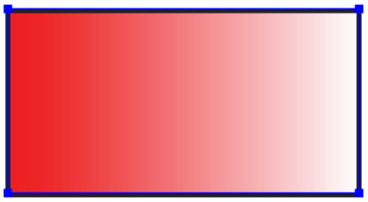
この例では、グラデーション塗りつぶし（RGBカラー）を特定の文字に適用し、他を黒のままにします。

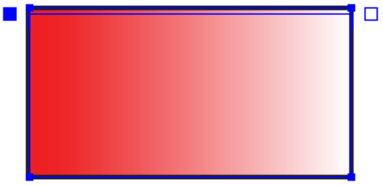
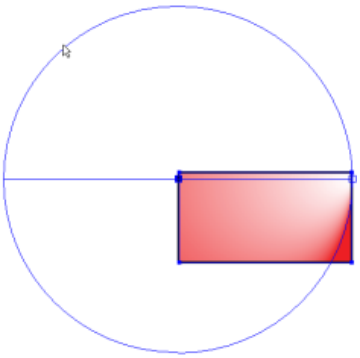
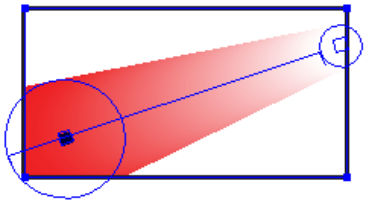
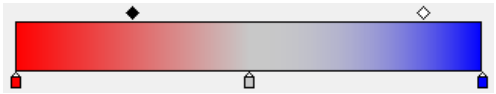
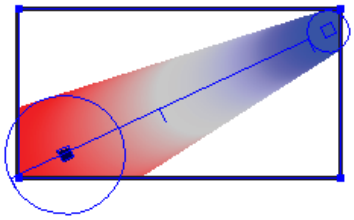
工程	アクション	結果
1	テキストを選択します。 場所: ツールペイン: **PitStop** 編集 >	
2	文字への分割をします。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: A > A > アクション > 文字への分割	
3	文字を選択します。 場所: **Enfocus** 編集ツール ツールバー: Acrobatの場所： ツールペイン: **PitStop** 編集 >	
4	グラデーション塗りつぶしを適用します。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: > >	
5	**[Enfocus** インスペクタ**]** ダイアログ ボックスのコントロールバーを使用して、グラデーション塗りつぶしを変更します。	

工程	アクション	結果
	 • バーの下部をクリックし、カラーコントロールポイントを追加します。 • コントロールバーから離れたところにドラッグするか、選択してDeleteキーを押して、カラーコントロールバーを削除します。 • カラーコントロールポイントをダブルクリックして、カラーを変更します。 • コントロールバーに沿ってドラッグ（または選択したコントロールポイントの場所オプションを変更）して、カラーコントロールポイントの位置と中点を変更します。	

8.13.7. 例：放射状グラデーションをラインアートオブジェクトに適用する

矩形を作成し、放射状グラデーション塗りつぶしを適用する（RGBカラー）には、次の手順を実行します。

工程	アクション	結果
1	矩形を作成します。 場所: ツールペイン: **PitStop** 編集 >	
2	単色の塗りつぶしを適用します。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: 	
3	グラデーション塗りつぶしを適用します。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: 	

工程	アクション	結果
4	PDF 文書のコントロールバーを表示します。 場所: ツールペイン: **PitStop** 編集 >	
5	グラデーションタイプを放射状に変更します。 **Enfocus** インスペクタダイアログボックス: > > タイプ	
6	PDF文書のコントロールバーのコントロールポイントの位置を変更し、円を調整します。	
7	**[Enfocus** インスペクタ**]** ダイアログ ボックスのコントロールバーを使用して、カラーグラデーション塗りつぶしを変更します。  • バーの下部をクリックし、カラーコントロールポイントを追加します。 • コントロールバーから離れたところにドラッグするか、選択してDeleteキーを押して、カラーコントロールバーを削除します。 • カラーコントロールポイントをダブルクリックして、カラーを変更します。 • コントロールバーに沿ってドラッグ（または選択したコントロールポイントの場所オプションを変更）して、カラーコントロールポイントの位置と中点を変更します。	

8.14. カラーデータベースの操作

8.14.1. カラー リポジトリの使用

カラー データベースでは、標準（pantone）カラー、以前に定義したカラーまたはインポートしたカラー ライブラリから（カラーピッカーを使用して）カラーを選択できます。

オブジェクトが選択されている場合、カラー データベースは、[塗り／線] タブを選択して、[アクション]メニューから[カラーピッカー]を選択すると、**Enfocus** インスペクタ内から開くことができます。

カラー データベースでは、カラーを管理するため Enfocus プリセット マネージャが使用されます。

8.14.2. ローカル カラー データベースにカラーを追加する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、リポジトリに追加するカラーが含まれたテキストやオブジェクトを PDF 文書内でクリックします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。

   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。

   Enfocus インスペクタが開き、選択したテキストまたはオブジェクトの現在のカラー設定が表示されます。
3. 必要に応じて、スライダを使用してカラーを変更するか、または他のカラー モデル (グレー、RGB または CMYK) や特色を選択します。
4. [アクション]ドロップダウンメニューで [ローカル カラー データベースにカラーを追加] をクリックします。
5. ダイアログ ボックスにカラーを表す名前を入力し、**[OK]** をクリックします。

   これで、指定したカラーが「ローカル」カテゴリのカラー データベース保存され、再利用が可能になります。

8.14.3. カラー データベースのカラーをテキストまたはオブジェクトに適用する手順

カラーをリポジトリに保存しておくと、そのカラーを PDF 文書内のオブジェクトやテキストに適用することができます。事前に定義されたカラーを選択するか、カラー ライブラリをインポートすることもできます。

次の手順に従います。

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、リポジトリのカラーを適用する、PDF 文書のテキストまたは線画オブジェクトをクリックします。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [塗り / 線] カテゴリをクリックし、[アクション]ドロップダウンメニューから[カラーピッカー] を選択します
4. カラーを使用するカラーライブラリを選択します。例えば、「ローカル」を選択して、[ローカル カラーデータベースにカラーを追加] を使用して定義したカラーを選択します。
5. データベースからカラーを選択します。そのカラーの詳細が右側に表示されます。

   注: 選択したカラーに基づき新しいカラーを作成できます。その場合は、スライダと名前を変更して、[カラーを保存] ボタンをクリックします。
6. **[OK]** をクリックして、選択したカラーを適用します。
7. 必要に応じて、Enfocus インスペクタのスライダを使用して、選択したカラーを調整します。

8.14.4. カラー データベースへのインポートおよびエクスポート

カラー データベース内から、単一のカラーまたはカラー グループをエクスポートできます。カラーは .elc ファイルとして保存され、グループまたはカテゴリ全体は個別の .elc ファイルを含むフォルダとして保存されます。書き出しを実行するには、カラー ピッカーのコンテキスト メニューまたは[アクション]ドロップダウンメニューからインポート／エクスポート機能を使用します。

カラーまたはカラー ライブラリをインポートすることもできます。次の項目をインポートできます。

- カンマ区切りの値リスト
- **Adobe Photoshop** スワッチ ファイル
- **Adobe** カラー テーブル
- **Adobe** スワッチ エクスチェンジ ファイル
- カラー グループ： 以前にエクスポートされた .elc ファイルを含むフォルダ

読み込みを実行するには、カラーピッカーのコンテキスト メニューまたは[アクション]ドロップダウンメニューからインポート／エクスポート機能を使用します。

8.14.4.1. CSV 形式でのカラーリスト

カラーのリストをカラーライブラリにインポートできます。これを行うためには、リストを CSV 形式（カンマ区切りの値）にして、適切な形式になっている必要があります。

正しくインポートするために、CSV に含まれる情報は次のようになります。

- 最初の行に、ライブラリの名前が含まれている。

- リストの各行に、次の情報が含まれている。
  - カラーの名前
  - カラーがスポットカラーである場合は（1）、そうでない場合は（0）
  - カラーの C、M、Y、および K の値

2 つの CMYK と 1 つのスポットカラーを含んでいるカラーリストの例は次のようになります。

```
Enfocus Colors;;;;;Color1;0;30;10;10;50Color2;0;60;80;60;60SpotColor;1;20;20;80;20
```

スプレッドシートをCSVファイルとして保存することによって、CSVファイルを簡単に作成できます。この場合、スプレッドシートは次のようになります。

	A	B	C	D	E	F
1	Enfocus Colors					
2	Color1	0	30	10	10	50
3	Color2	0	60	80	60	60
4	SpotColor	1	20	20	80	20
5						

8.15. オブジェクトの回転

8.15.1. 回転の原点

オブジェクトを回転する場合は、そのオブジェクトを回転するときに使用される軸の位置を把握することが重要です。この軸は、原点 ⊹ によって表示されます。

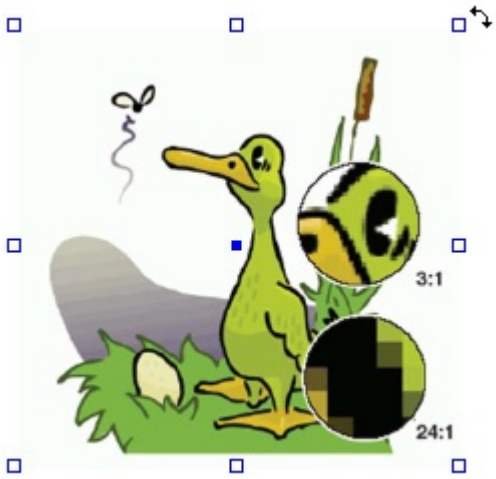
オブジェクトの回転方法には、以下の 2 つがあります。

- ドラッグして、選択ハンドルまたは 選択対象の回転ツールを使用する。
- Enfocus インスペクタを使用して、回転角度を指定する方法。回転角度を指定してオブジェクトを回転させる手順を参照。

8.15.2. 選択ハンドルを使いオブジェクトを回転する

選択ハンドルを使いオブジェクトを回転する手順

1. Enfocusインスペクタで、[オブジェクトの選択]ツールをクリックします。
2. 回転するオブジェクトを選択します。
3. バウンディングボックスのコーナーの選択ハンドルの近く（ただし外側）にポインタを移動します。するとポインタが、下の画像が示すように曲線の矢印 に変わります。



4. 左マウスボタンを押したまま、ハンドルをドラッグして目的の位置まで移動します。

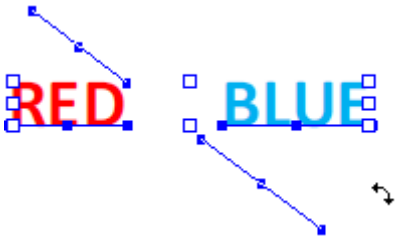
> 注: オブジェクトを固定の角度（アングルポイントの倍数）で回転するには、**[SHIFT]**キーを押したままドラッグします。

選択されたオブジェクトが中心点を基準として回転されます。



複数のオブジェクトが選択された場合（下の画像では2つのテキストセグメント）、それらは中心点を基準として同時に回転します。

オブジェクト	説明
	1.複数選択

オブジェクト	説明
	
	2.回転（マウスボタンを放す前）
	3.結果

8.15.3. 選択対象の回転ツールを使いオブジェクトを回転する

選択対象の回転ツールを使いオブジェクトを回転する手順

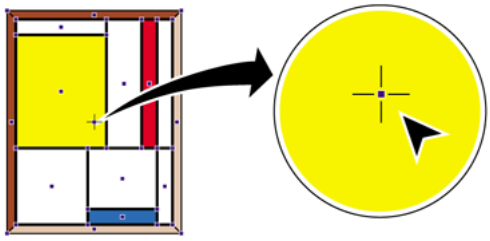
1. Enfocusインスペクタで、[オブジェクトの選択]ツールをクリックします。
2. 回転するオブジェクトを選択します。
3. [選択対象の回転] ツールをクリックします。

   選択対象に応じて Enfocus インスペクタの表示は変わります。
4. 必要に応じて、Enfocus インスペクタの[抑制角度] **(SHIF**T キーを押しながら回転) または [十字線の色] を変更します。[十字線の色] を変更するには、カラー パッチをクリックし、他の色を選択します。

   注**:** [数値フィードバック] 領域に、回転の操作に応じて回転に関する正確な数値が表示されます。
5. 選択したオブジェクトをクリックします。

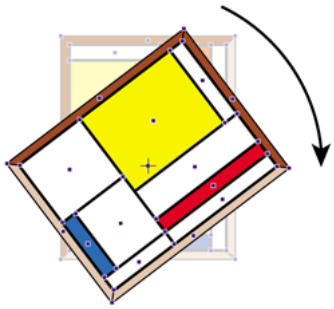
回転の基準となるオブジェクトの原点が表示されます。

原点は、選択したオブジェクトの中心点です。

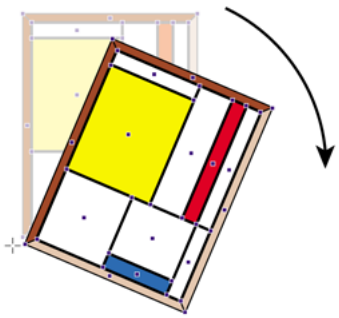


6. 次のいずれかを実行します。

   - 中心点を基準としてオブジェクトを回転させるときは、選択したオブジェクトを回転方向にドラッグします。



   - 原点を移動するために、別の場所をダブルクリックします。ポインタを中心点以外の場所に移動し、回転方向にドラッグすると、新しい原点を基準としてオブジェクトが回転します。次の図は、オブジェクトの外に配置された基点の周囲をオブジェクトが回転する方法を示します。



- **SHIFT**キーを押したままドラッグすると、オブジェクトは固定角度で回転します。[Enfocus インスペクタ] ダイアログ ボックスの [数値フィードバック] カテゴリで、この角度を設定できます。

- **ALT**キー (Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したままドラッグすると、選択したオブジェクトを回転させたコピーが作成されます。

8.15.4. 回転角度を指定してオブジェクトを回転させる手順

「正確な値を指定したオブジェクトの変形 254 ページの」を参照してください。

8.16. オブジェクトのスケーリング

オブジェクトをスケーリングし、水平、または垂直、または一度に両方の方向に拡大または縮小することができます。オブジェクトの形状を変更するか、選択したオブジェクトのスケーリングされたコピーを作成できます。

オブジェクトをスケーリングする方法には、以下の 2 つがあります。

- ドラッグして、選択ハンドルまたは スケール選択ツールを使用する。

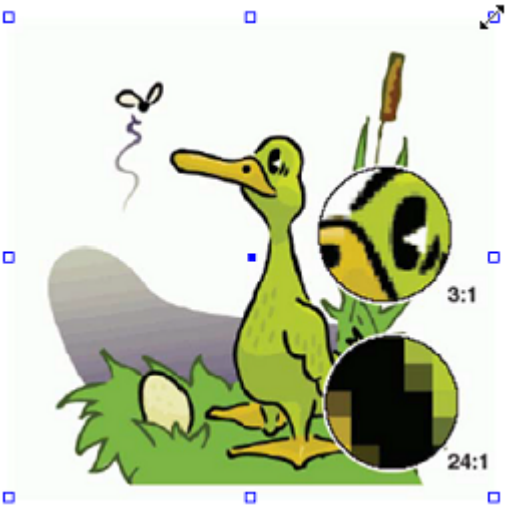
- Enfocus インスペクタを使用して、倍率を指定する。

正確な値を指定したオブジェクトの変形 254 ページの も参照してください。

8.16.1. 選択ハンドルを使いオブジェクトをスケーリングする

選択ハンドルを使いオブジェクトをスケーリングする手順

1. Enfocusインスペクタで、[オブジェクトの選択]ツールをクリックします。
2. スケーリングするオブジェクトを選択します。
3. バウンディングボックスのコーナーの選択ハンドルの上にポインタを移動します。するとポインタが、下の画像のように に変わります。



4. 左マウスボタンを押したまま、ハンドルをドラッグして目的の位置まで移動します。
   - 選択対象の中心を基準にしてオブジェクトをスケーリングするには、**[Alt]**キーを押したままにします。
   - オブジェクトの縦横比を維持しながら比例的にスケーリングをするには、**[SHIFT]**キーを押したままにします。

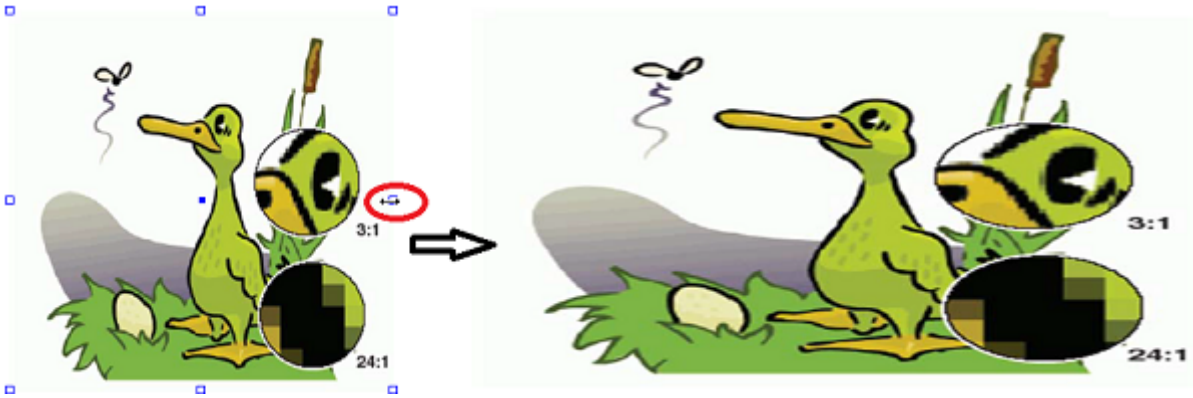


複数のオブジェクトが選択された場合（下の画像では2つのテキストセグメント）、それらは同時にスケーリングされます。

オブジェクト	説明
	1.複数選択

オブジェクト	説明
	
2.スケーリング（マウスボタンを放す前） 	
3.結果 	

注: 水平方向、または垂直方向に縮小拡大し、縦横比率を維持せずにオブジェクトをスケーリングする場合、以下の図で示す通り、バウンディングボックスハンドルを目的の位置にドラッグします。



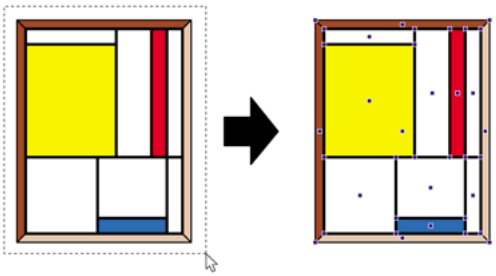
8.16.2. 選択対象のスケールツールを使いオブジェクトをスケーリングする

ドラッグしてオブジェクトをスケーリングする手順

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。

2. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、回転させるオブジェクトを選択します。オブジェクトをクリックするか、オブジェクトの周囲にある、マーキーと呼ばれる長方形をドラッグします。

   次の図は、オブジェクトの周囲でマーキーを選択し、グラフィック全体を選択する方法を説明します。



3. [選択対象のスケール] ツール をクリックします。

   選択対象に応じて Enfocus インスペクタの表示は変わります。

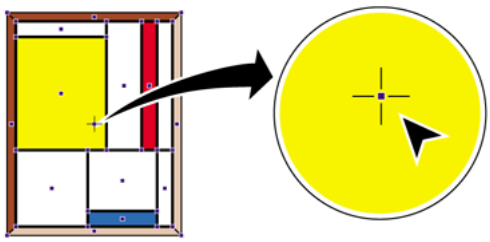
4. 必要に応じて、Enfocus インスペクタの [十字線の色] を変更します。

   注: [数値フィードバック] 領域に、スケーリングの操作に応じてスケーリングに関する正確な数値が表示されます。

5. 選択したオブジェクトをクリックします。

   スケーリングの基準となるオブジェクトの原点が表示されます。

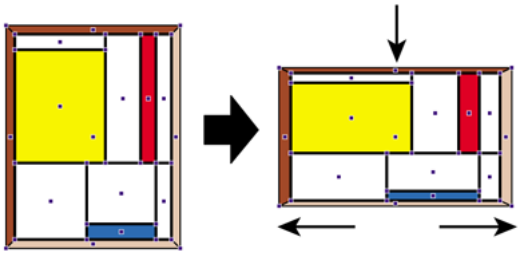
   原点は、選択したオブジェクトの中心点です。



6. 次のいずれかを実行します。

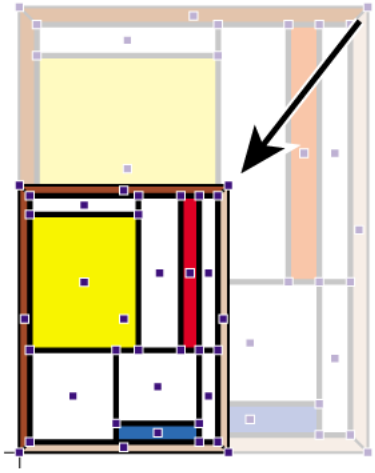
   - 縦横比率を維持せずにオブジェクトをスケーリングする場合は、選択したオブジェクトを任意の方向にドラッグします。

   例：縦横比率を維持せずにオブジェクトをスケーリングすると、オブジェクトの縦と横の比率が変わります。



- 原点を移動するために、オブジェクトの別の場所をダブルクリックします。次に、オブジェクトの新しい原点を使用して、オブジェクトをドラッグしてスケーリングします。たとえば、矩形オブジェクトの頂点のいずれかを原点として、スケーリングを実行するときに、オブジェクトの 2 つの辺を位置を変えないこともできます。

例：オブジェクトの中心点以外を原点として使用して、オブジェクトをスケーリングします。



- **SHIFT** キーを押したままドラッグすると、オブジェクトの縦横比率を維持したままスケーリングします。つまり、スケーリング後のオブジェクトの縦と横の比率は、元のオブジェクトの縦横比率と等しくなります。

- **ALT**キー (Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したままドラッグすると、選択したオブジェクトをスケーリングしたコピーが作成されます。

8.17. オブジェクトの移動

PDF 文書内にある任意のオブジェクトを選択し、新しい場所に移動することができます。

オブジェクトの移動方法には、以下の 2 つがあります。

- ドラッグする（ドラッグしてオブジェクトまたはコピーを移動する 248 ページのを参照）。
- Enfocus インスペクタ を使用して、特定の距離と方向を指定する方法。

マグネット ガイドを使用して、移動するオブジェクトを整列することもできます。

8.17.1. ドラッグしてオブジェクトまたはコピーを移動する

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、移動するオブジェクトを選択します。
   SHIFTキーを押したままマウスの左ボタンをクリックすると、複数のオブジェクトを選択できます。
3. 次のいずれかを実行します。
   - [選択対象の移動] ツール を クリックします。
   - Windows の場合は**CONTROL**（**[CTRL]**）キーを、Macintoshの場合は**Command**（⌘）キーを押します。

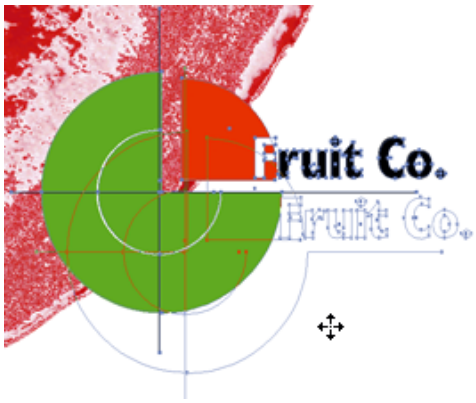
   ポインタが から に変化します。

   選択対象に応じて Enfocus インスペクタの表示は変わります。

   ヒント**:** [選択対象をドラッグしてオブジェクトを移動]が**[EnfocusPitStop Pro**環境設定]で有効にされている場合、この手順をスキップしてください。「選択対象をドラッグしてオブジェクトを移動 51 ページの」を参照してください。
4. 必要に応じて、**[Enfocus PitStop Pro** 環境設定] 領域の [測定単位] を変更します。

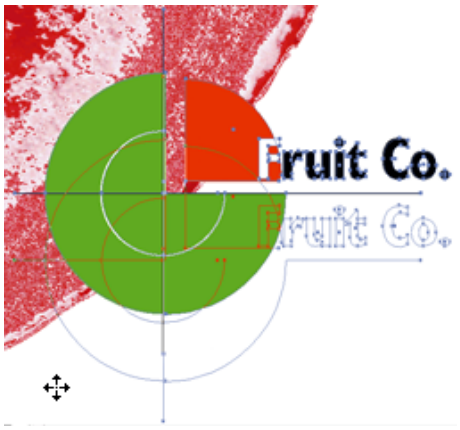
   注**:** [数値フィードバック] 領域に、移動の操作に応じて移動に関する正確な数値が表示されます。
5. 次のいずれかを実行します。
   - 選択したオブジェクトを新しい場所にドラッグします。

   例：選択したオブジェクトをドラッグして新しい場所に移動します。



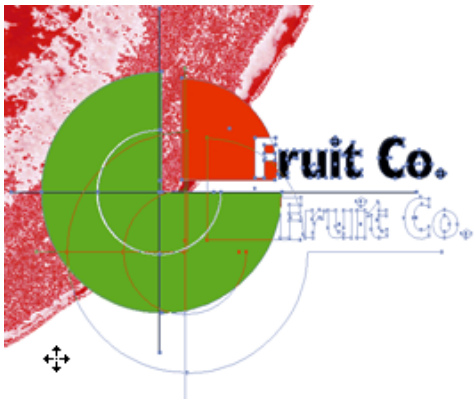
- **SHIFT**キーを押したまま、選択したオブジェクトをドラッグすると、オブジェクトは水平方向または垂直方向にのみ移動します。

例：**SHIFT**キーを押したままドラッグし、固定の水平軸または垂直軸に沿ってオブジェクトを移動します。



- **ALT**キー (Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したままドラッグすると、オブジェクトのコピーが新しい場所に作成されます。

例：上の図は、**ALT**キー (Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したながらオブジェクトをドラッグして、オブジェクトのコピーを新しい場所に作成したところです。



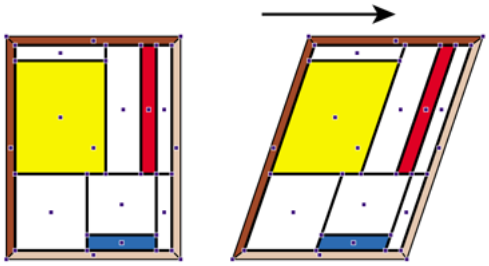
- **CONTROL**（**[CTRL]**）キー（Windows）または**Command**（⌘）キー（Macintosh）を押したまま、矢印キーを使ってオブジェクトを移動します。

> 注: 矢印キーを使ってのオブジェクトの移動は、**[EnfocusPitStop Pro**環境設定]の[選択対象をドラッグしてオブジェクトを移動]チェックボックスの選択が解除されている場合のみ使用できます。「選択対象をドラッグしてオブジェクトを移動 51 ページの」を参照してください。

8.18. オブジェクトのシアー

8.18.1. シアーについて

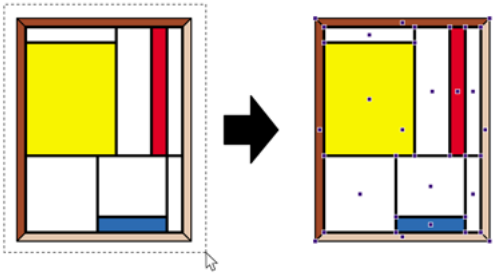
オブジェクトをシアーすると、オブジェクトを斜めに変形できます。これは、矩形の枠組みのうちどれか 1 つの頂点を押すと、平行四辺形になることに非常によく似ています。



8.18.2. 選択対象のシアーツールを使いオブジェクトをシアーする手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、シアーするオブジェクトを選択します。オブジェクトをクリックするか、オブジェクトの周囲にある、マーキーと呼ばれる長方形をドラッグします。

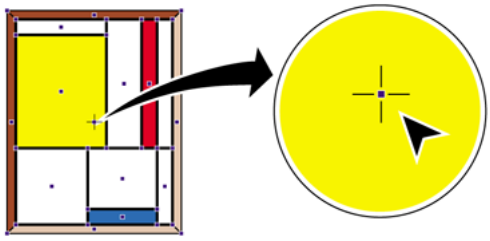
   例：オブジェクトの周囲にある破線の矩形をドラッグして、グラフィック全体を選択します。



2. [選択対象のシアー] ツール をクリックします。

   シアーの基準となるオブジェクトの原点が表示されます。

   原点は、選択したオブジェクトの中心点です。



   選択対象に応じて Enfocus インスペクタの表示は変わります。

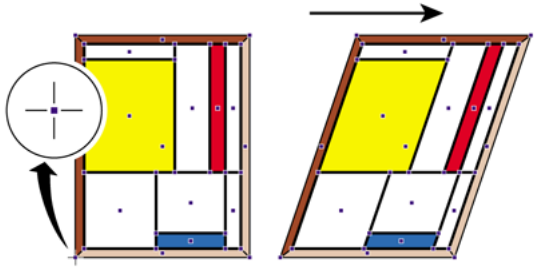
3. 必要に応じて、Enfocusインスペクタの [数値フィードバック] 領域の [抑制角度] (**SHIFT** キーを押しながらシアー) または [十字線の色] を変更します。

   注: [数値フィードバック] 領域に、シアーの操作に応じてシアーに関する正確な数値が表示されます。

4. 次のいずれかを実行します。

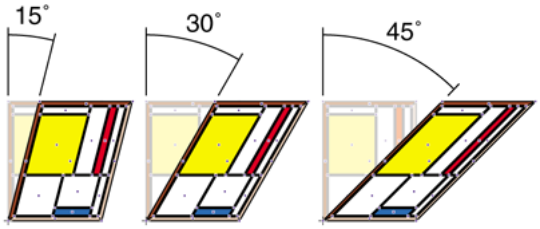
   - 中心点を原点として維持したままオブジェクトをシアーするには、オブジェクトを任意の方向にドラッグします。
   - 原点を移動するには、オブジェクトの内側または外側の別の場所をダブルクリックします。次に、オブジェクトの新しい原点を使用して、オブジェクトをドラッグしてシアーします。たとえば、矩形オブジェクトから平行四辺形を作成するには、原点をオブジェクトのいずれかの頂点にします。

   例：オブジェクトの頂点のいずれかを原点にすると、矩形オブジェクトから平行四辺形を作成できます。



   - **SHIFT**キーを押したままドラッグすると、シアーを固定の角度、たとえば 15°に制限できます。Enfocus インスペクタの [環境設定] 領域で、この角度を設定できます。

   例：[環境設定] で定義された固定角度でオブジェクトをシアー



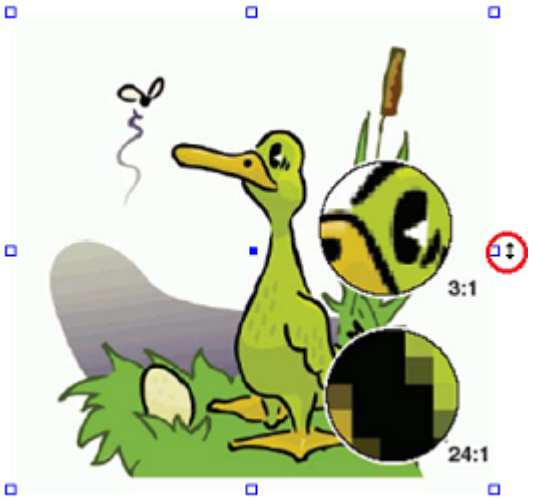
   - **ALT**キー (Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したままドラッグすると、選択したオブジェクトをシアーしたコピーが作成されます。

8.18.3. 選択ハンドルを使い選択対象をシアーする

選択対象をシアーする手順

1. Enfocusインスペクタで、[オブジェクトの選択]ツールをクリックします。
2. シアーするオブジェクトを選択します。

3. 選択ハンドルの1つの上（移動する端の中心）にポインタを移動します。するとポインタが、下の画像のようにに変わります。

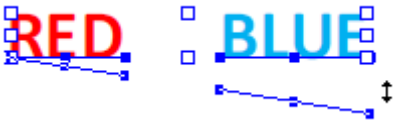


4. 左マウスボタンを押したまま、ハンドルをドラッグして目的の位置まで移動します。



複数のオブジェクトが選択された場合（下の画像では2つのテキストセグメント）、それらは同時にシアーされます。

オブジェクト	説明
	1.複数選択

オブジェクト	説明
	2.シアー（マウスボタンを放す前）  3.結果 

8.19. 正確な値を指定したオブジェクトの変形

変形ツールの [移動] 、[回転] 、[シアー] または [スケール] を使用して、ドラッグするときよりも正確な値でオブジェクトを変形する場合は、Enfocus インスペクタを使用する必要があります。Enfocus インスペクターでは、PDF 文書を使用すると、正確な値を指定して、PDF 文書の中にある任意のオブジェクトを変形できます。

オブジェクトを変形する場合は、以下の操作のいずれかか、または組み合わせになります。

- 移動
- 拡大縮小
- 伸縮
- 反転
- 回転

8.19.1. 正確な値を指定してオブジェクトを変形する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、変形するオブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [配置]のカテゴリ（ ）および[配置]のサブカテゴリ（ ）を選択します。

4. 以下のいずれかを実行します。

- ダイアログの最初のセクションの値を変更することにより、選択したオブジェクトをスケーリングします。

  1. [アンカーポイント]を変更します（グラフィックをクリックするか、またはXおよびY軸の値を変更して行います）。
  2. 希望通りになるまで[ロック]アイコンをクリックします。
     - 縦横比率、すなわち幅と高さの比率を維持する場合は、[ロック]アイコンは次のようになります。  （既定値）。これは比率を維持するために必要です。
     - オブジェクトの幅または高さのみを変更し、「シアー」する場合は、アイコンが次のようになるまでクリックします。 
  3. 目的に応じて幅（W）および/または高さ（H）を変更してください。

- ダイアログの2〜3番目のセクションの値を変更し、ボタンをクリックすることにより、選択したオブジェクトをスケーリング、回転、または反転します。

...対象	次のいずれかを実行します。
オブジェクトのスケーリング	• パーセント値のボックスに値を入力し、  をクリックします。 • [アクション]ドロップダウンメニューから**[Scale 50%]**または**[Scale 200%]**を選択します。
オブジェクトの回転	• 角度のボックスに値を入力し、  をクリックします。 • [アクション]ドロップダウンメニューから[反時計回りに**90**度回転]または[時計回りに**90**度回転]を選択します。
オブジェクトを反転	• オブジェクトを左右に反転する場合は、  をクリックします。 • オブジェクトを上下に反転する場合は、  をクリックします。

- ダイアログの最後のセクションにある[縦横比率]と[回転角度]を変更することにより、選択したオブジェクトを伸縮または回転します。

ボックス	値	結果
縦横比率	> 1	垂直方向に伸張 (高さ > 幅)
	< 1	水平方向に伸張 (高さ < 幅)
回転角度	正数	時計回りに回転

ボックス	値	結果
	負	反時計回りに回転

8.20. オブジェクトの形状の組み合わせと分割

PitStop 2018 では、選択した複数の図形を1つの図形に短時間で結合することができます（形状を複数の部分に分割する）。そのために、PitStop Pro オブジェクトメニュー、コンテキストメニュー、Enfocus インスペクタに余分なオプション（形状を組み合わせ/分割）が追加されました。

オブジェクトメニューとコンテキストメニューを使用すると、選択した形状が変更されます。オリジナルは保持されません。

これを行わない場合は、最初に選択内容を複製してこのコピーで作業したり、Enfocus インスペクタの[元のオブジェクトを保持]チェックボックス（デフォルトで選択）で、オブジェクトを組み合わせ/分割したりできます。

もう1つの方法で同じことができます：「形状を組み合わせ/分割」の新しいアクション。詳細については、弊社 Web サイトのアクションリストマニュアルを参照してください。



注: 「開いた」パスで使用する場合、開いたパスは操作を実行する前に閉じられます。結果は必ずしも期待したものとは限りません。

8.20.1. 複数のオブジェクトの形状を組み合わせる

選択したオブジェクトを新しい形状に組み合わせる

1. **[PitStop**オブジェクト選択]ツールを使用して、少なくとも 2 つのオブジェクトを選択します  。
2. 次のいずれかを実行します。
   - **PitStop Pro** > [オブジェクト] > [形状を組み合わせ/分割]を選択します。
   - コンテキストメニューを開き、[形状を組み合わせ/分割]を選択します。
   - Enfocus インスペクタを開き、  [線画の編集] - [形状を組み合わせ/分割]を選択します。
3. Enfocus インスペクタを使用している場合は、必要に応じて[元のオブジェクトを保持]チェックボックスを選択解除または選択します。
4. 任意のオプションを選択します。
   - 結合：選択したオブジェクトを 1 つの形状に組み合わせます。
   - 交差：オブジェクトが互いに重なり合った領域を維持します。
   - 除外：奇数のオブジェクトが互いに重なり合った領域を維持します。

- マイナスフロント：上にある形状と重なっていない下の形状の領域を維持します。
- マイナスバック：下にある形状と重なっていない上の形状の領域を維持します。

形状はすぐに 1 つの形状に変換されます。

8.20.2. 形状を複数の部分に分割する

形状の分割とは、線が交差するところで分割することです。たとえば、2つの重なり合う形状は3つの部分に分割されます（交点は別個の部分になる）。

オブジェクトを分割する

1. **[PitStop**オブジェクト選択]ツールを使用して、オブジェクトを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - **PitStop Pro** > [オブジェクト] > [形状を組み合わせ/分割]を選択します。
   - コンテキストメニューを開き、[形状を組み合わせ/分割]を選択します。
   - Enfocus インスペクタを開き、[線画の編集] - [形状を組み合わせ/分割]を選択します。
3. Enfocus インスペクタを使用している場合は、必要に応じて[元のオブジェクトを保持]チェックボックスを選択解除または選択します。
4. [分割]をクリックします。

形状は分割され、各部分は別々に処理することができます。

8.20.3. 形状を組み合わせ/分割：例

次の例は、[形状を組み合わせ/分割]メニューの各オプションの影響を示しています。

元の形状：



選択されたオプション	結果
結合	 新しいシェイプは前/上の形状のカラーを取得します。

選択されたオプション	結果
交差	3 つのオブジェクトが互いに積み重なっている部分がないため、交差は空であり、すべての形状が削除されます。
除外	
マイナスフロント	
マイナスバック	
除算	 たとえば、分割されると、異なる部分を別々に移動することができます。 

8.21. 新しい形状の作成

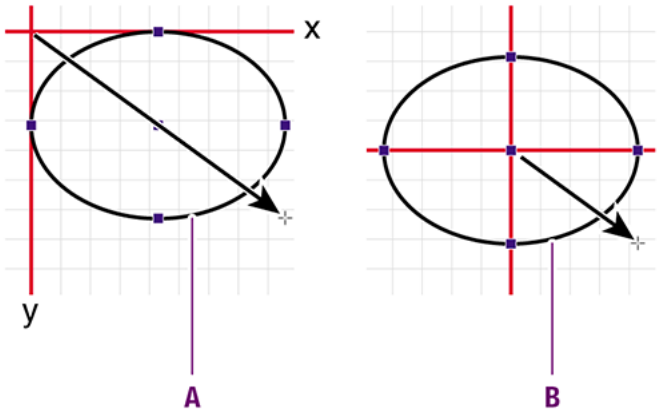
8.21.1. 楕円形と矩形の描画

PitStop Pro を使用して、既存のオブジェクトを編集するほかに、楕円形や矩形のような基本的な形状を新しく描画することもできます。たとえば、テキストの一部を矩形または楕円形で囲んで、その部分を強調することがあります。

注: 塗りと線のプロパティを同じにして複数の新しい形状を作成する必要がある場合は、これらのプロパティをあらかじめデフォルトとして設定しておく方法もあります。

8.21.2. 新しい形状を作成する手順

1. [矩形を追加]ツール または[楕円を追加]ツール をクリックします。
2. PDF 文書のページにポインタを置き、以下のいずれかを実行します。
   - 新しい矩形または楕円形を描画する場合は、対角線方向にドラッグします。
   - 正方形または円を描画する場合は、**SHIFT**キーを押したままドラッグします。
   - 矩形または楕円形を描画するときに、辺ではなく中心点から描画する場合は、**ALT**キー (Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したままドラッグします。



A. 辺から描画する場合は、形状の辺の位置は *x* 軸と *y* 軸に沿って固定されます。
B. 中心点から描画する場合は、中心点の位置は固定になります。

   - 正方形または円を描画するときに、中心点から描画する場合は、**SHIFT**キーと、**ALT**キーの両方(Windows) または **Option**キー (Macintosh) を押したままドラッグします。

8.22. 新しいパスの作成

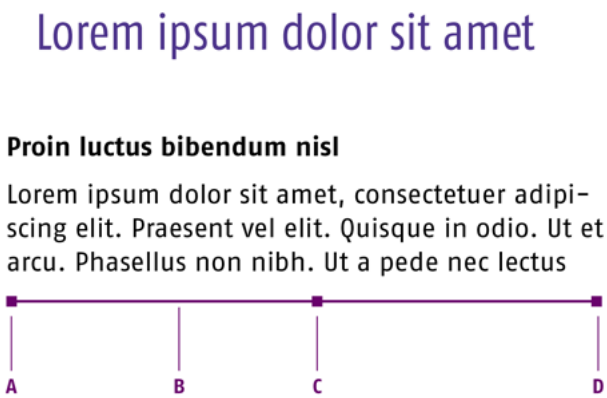
PDF文書にまったく新規のパスを作成することもできます。この場合は、[パスの追加]ツール を選択し、文書内をクリックします。クリックするたびに、新しいアンカー ポイントと線分が作成されます。開いたパスまたは閉じたパスを作成できます。

8.22.1. 新しいパスを作成する手順

1. [パスを追加] ツール をクリックします。

2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. PDF 文書内の、最初のアンカー ポイントを作成する場所にポインタを合わせ、そこをクリックします。
4. 最初の線分が終わる場所にポインタを合わせ、そこをクリックします。

   これで 2 つのアンカー ポイントの間に最初の線分が描画されます。



A. 最初のアンカー ポイント
B. セグメント
C. 中点
D. 2 番目のアンカー ポイントとポインタ

5. 他の場所をクリックし、新しいアンカー ポイントを追加します。この結果、新しい線分が作成されます。

   注: 曲線の線分を作成するには、任意の場所をクリックし、マウスのボタンを押したままドラッグします。

6. パスを完了させるには、以下のいずれかを実行します。
   - [パスを追加] 以外のツール をクリックします。
   - **ESC** キーを押します。
   - Enfocus インスペクタの [パスを閉じる] をクリックします。

8.23. パスの編集

PitStop Pro では、線画オブジェクトのパスの形状を変更できます。この操作を行うには、パスのアンカー ポイントを 1 つまたは複数選択し、そのアンカー ポイントまたはそのアンカー ポイントの方向ポイントを移動します。

パスを編集する手順

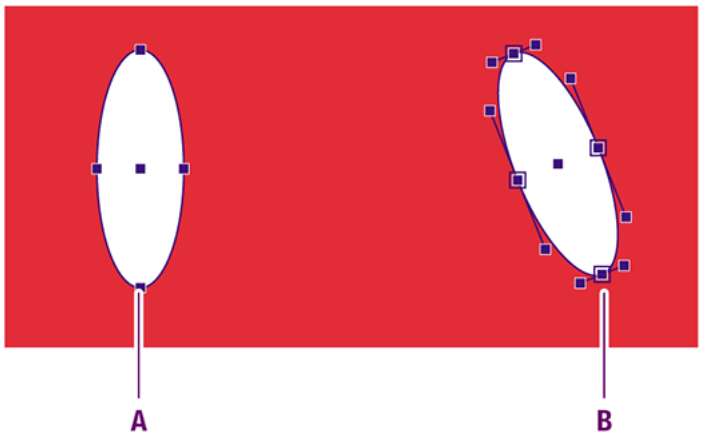
1. [パスの編集] ツールをクリックします。
2. パスを変更する線画オブジェクトをクリックします。

   パスのアンカー ポイントが表示されますが、まだ選択されていません。



3. 次のいずれかを実行します。
   - 2 回目は特定のアンカー ポイントをクリックします。
   - **SHIFT**キーを押したまま、2 回目は複数のアンカー ポイントをクリックします。
   - 1 つまたは複数のアンカー ポイントを囲んでいる破線の矩形 (マーキー) をドラッグします。

   アンカー ポイントが選択されるのは、ユーザーが 2 回目にそれらをクリックした場合、またはそれらを囲んでいるマーキーをドラッグした場合だけです。選択したアンカー ポイントは、表示が大きくなり、その方向ポイントも表示されます。

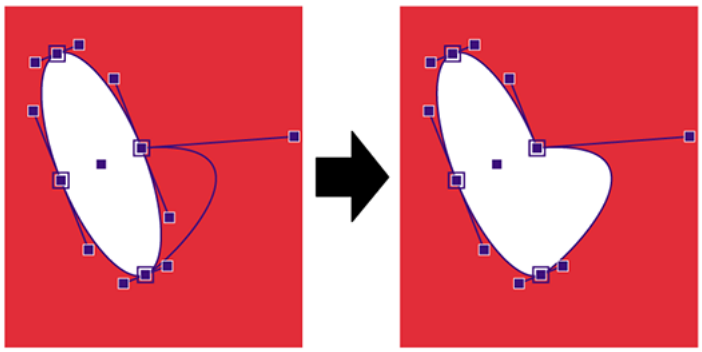


A：表示されている未選択のアンカー ポイント

B：選択されたアンカーポイントと方向

4. アンカー ポイントまたはその方向ポイントを、必要な場所までドラッグし、線分の形状を変更します。

   例：方向ポイントをドラッグし、線分の形状を変更します。

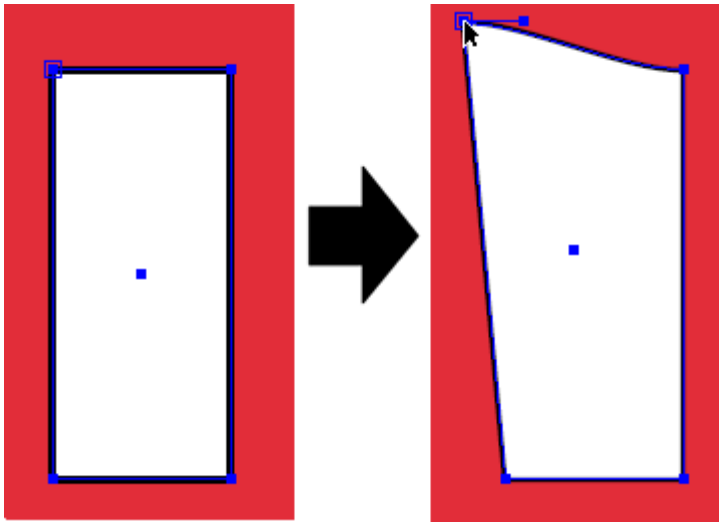


注記: カーブのセグメントはカーブのまま（前のスクリーンショット）で、直線のセグメントは直線のままです。

直線のセグメントをカーブのセグメントに変更するには、（ライン）アンカーポイントを選択し、カーブアンカーポイントに変更してから（**PitStop Pro** > オブジェクト > 曲線のアンカーポイントを設定を選択）、新しい位置にドラッグする必要があります。

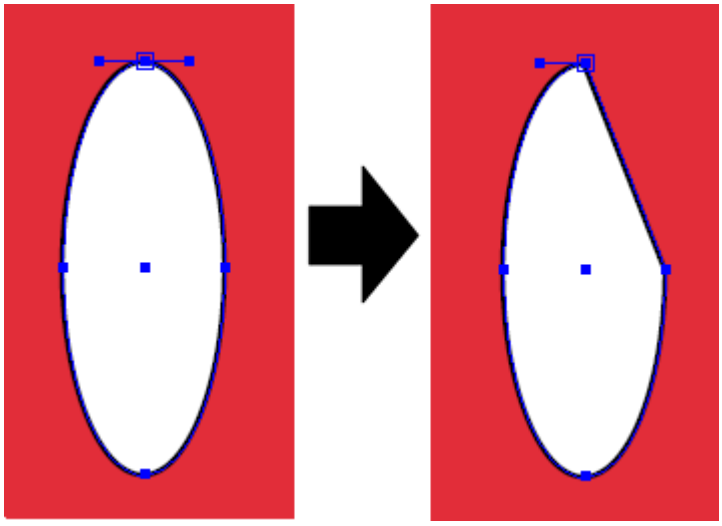
例えば、次の図では、左上のアンカーポイントが選択され、カーブアンカーポイントに設定されました。このアンカーポイントを新しい位置（左上に移動）にドラッグすると、直線が曲線になります。

例：直線を曲線に変更



曲線のセグメントを直線のセグメントに変更するには、（カーブ）アンカーポイントを選択し、ラインアンカーポイントに変更する必要があります（**PitStop Pro** > オブジェクト > 線のアンカーポイントを設定 を選択）。

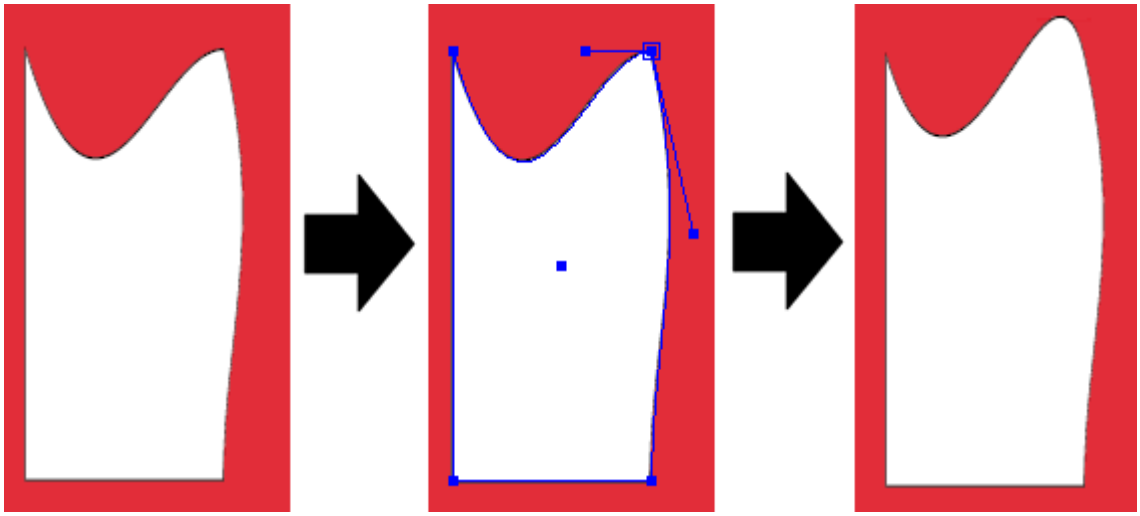
例：曲線を直線に変更



注: 左下のパスのアンカーポイントは、パスの開始点であるため変更できません。線のアンカーポイントを設定 /曲線のアンカーポイントを設定 オプションは灰色表示されます。このポイントを使用してセグメントの形状を変更しない場合は、**PitStop Pro** > オブジェクト > パスを逆順を使用してパスの方向を変更してください。

アンカーポイントのカーブをなめらかにするには、アンカーポイントを選択し、次の例のように**PitStop Pro** > オブジェクト > アンカーポイントのスムーズ化をクリックします。

例：アンカーポイントをなめらかにする



8.24. オフセットパスの作成

以下のトピックでは、Enfocusインスペクタを使用してオフセットパスを作成する方法を説明します。同様のオプションを持った「オフセットパス」と呼ばれるアクションもあります。

8.24.1. オフセットパスの作成

特定の値でパスを拡大または縮小するには、次の手順を実行します。

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、オフセットする元のパスを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [線画の編集] > [形状をオフセット]をクリックします。
4. 適切なオプションを選択します。

> 注: 最初にすべての他のオプションを設定し、次に拡大または縮小ボタンのどちらかをクリックしパスをオフセットします。

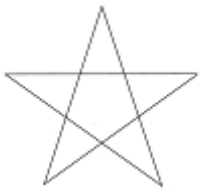
オプション	説明
	拡大または縮小オプション
 拡大	他のオプションを設定後、このボタンをクリックし大きなバージョンのパスを作成します。
 縮小	他のオプションを設定後、このボタンをクリックし小さなバージョンのパスを作成します。
オフセット	元のパスと新しいパスの間の距離の値を入力します。負の値を使うとパスは小さくなり、正の値を使うとパスは大きくなります。単位は、PitStop 環境設定で選択した単位により決まります。
	パス詳細をオフセット（パスの角度を決定します）
	このボタンをクリックして、 とがったコーナーを取得します。これを選択すると、マイター制限値を入力することにより、コーナーをより鋭くしたり（高い値）、または鋭くしなく（低い値）することができます。
	このボタンをクリックして、 ラウンドコーナーを取得します。

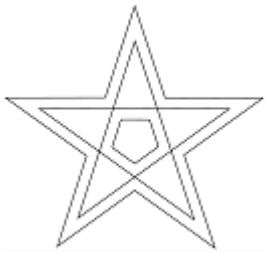
オプション	説明
	このボタンをクリックして、 フラットコーナーを取得します。
マイター制限値	このフィールドは、とがったコーナーが選択された場合にのみアクティブになります（上記を参照）。詳細については、ストローク属性：マイター制限 227 ページのを参照してください。
	オリジナルを維持しますか？
元のオブジェクトを維持	これを選択すると、新しいオフセットパスの他にオリジナルの形状が維持されます。

8.24.2. オフセットパス：例

例

元のオブジェクト



選択したオプション	結果
オフセット：5 mm 結合：マイター 元のオブジェクトを維持	
オフセット：5 mm 結合：ラウンド 元のオブジェクトを維持	
オフセット：5 mm 結合：ベベル 元のオブジェクトを維持	

選択したオプション	結果
オフセット：5 mm 結合：ベベル 元のオブジェクトを維持しない	

8.25. ストロークを塗りに変換

以下のトピックでは、Enfocusインスペクタを使用してパスのストロークを塗りに変換する方法を説明します。同様のオプションを持った「ストロークを塗りに変換」と呼ばれるアクションもあります。

この機能の使用例は次のとおりです。

- 形状を組み合わせたい。これは塗りのないオブジェクトでは不可能です。
- 破線の一つのダッシュを削除したい。これはストロークを塗りつぶしパスに変換した後でのみ可能です。

8.25.1. ストロークを塗りに変換

線画オブジェクトのストロークを塗りに変換するには、次の手順を実行します。

1. [オブジェクトを選択] ツール を使用し、ストロークを変換するオブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [線画の編集] > [ストロークを塗りへ]をクリックします。
4. ノックアウト動作の場合、変換には2つの方法があるので、任意の方法を示してください。
   - ノックアウトグループに塗り、または線でオブジェクトを配置中です。この方法では、すべてのものをフォームに入れます。これは望ましくないかもしれません。その場合は、2番目のオプションを選択できます。
   - 線の付いたオブジェクトで塗りの付いたオブジェクトをクリップ。この方法は別の方法で機能し、ノックアウトグループを使わずに、ストロークしたオブジェクトを単純に切り離します。非常に小さなヘアラインが表示されることがあります（使用したレンダラーに応じて）。

   ほとんどの場合、両方の方法の間に視覚的な違いはありません。
5. 変更したオブジェクトの下に元のオブジェクトを維持する場合は、[元のオブジェクトを保持]を選択します。

6. [ストロークを塗りへ]ボタン  をクリックし変換を行います。
ストロークプロパティは、新しく作成されたオブジェクトの塗りプロパティになります。

8.26. 線画をクロップ

以下のトピックでは、Enfocusインスペクタを使用して線画をクロップする方法、例えばベクターデータをクリップマスクや、ページボックスまたはフォームにクロップする方法について説明します。同様のオプションを持った「線画をクロップ」と呼ばれるアクションもあります。

線画をクロップは、マスクされたコンテンツなどの冗長データを削除する方法です。これにより複雑さが軽減されるため、ファイル処理が速くなり、編集が容易になります。

注: この機能を正確に実行するため、ストロークは自動的に塗りに変換されます。切り線やカッターガイドなどのオブジェクトをクロップしようとして、最終的な結果をストロークパスにする必要がある場合には、これは望ましくないかもしれません。

8.26.1. 線画をクロップ

線画上でハードクロップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [オブジェクトを選択] ツール を使用し、ストロークを変換するオブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [線画の編集] > [線画をクリップにクロップ]をクリックします。
4. [線画をクリップにクロップ]ボタンをクリックする前に、次のいずれか1つ以上を選択します。
   - 線画をこのクリップマスクにクロップ：線画上でクリッピングマスクを「実行」できます。クリッピングパス自体とこれまでに切り取られたものはすべて削除されますが、視覚的な違いなしにオブジェクトはクリッピングマスクにクロップされます。この処理の間、ストロークは輪郭化されます（塗りパスに変換）。その結果、「冗長」な線画は削除されるため（見えないため）、これによりファイルサイズが小さくなり、アートワークファイルのレンダリングと処理がスピードアップされます。
   - 線画を<お好みのページボックス>にクロップ：指定したページボックスの外側のすべての線画を削除します。
   - 線画をフォームにクロップ：フォームの外側のすべての線画を削除します（該当する場合）。
5. ノックアウト動作の場合、変換には2つの方法があるので、任意の方法を示してください。

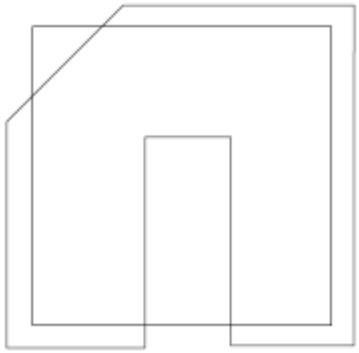
- ノックアウトグループに塗り、または線でオブジェクトを配置中です。この方法では、すべてのものをフォームに入れます。これは望ましくないかもしれません。その場合は、2番目のオプションを選択できます。
- 線の付いたオブジェクトで塗りの付いたオブジェクトをクリップ。この方法は別の方法で機能し、ノックアウトグループを使わずに、ストロークしたオブジェクトを単純に切り離します。非常に小さなヘアラインが表示されることがあります（使用したレンダラーに応じて）。

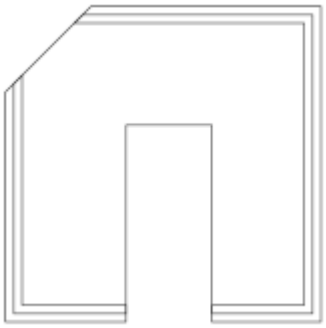
ほとんどの場合、両方の方法の間に視覚的な違いはありません。

6. 元のオブジェクトを維持する場合は、[元のオブジェクトを保持]を選択します。
7. [線画をクリップにクロップ]ボタン  をクリックし、線画をクロップします。

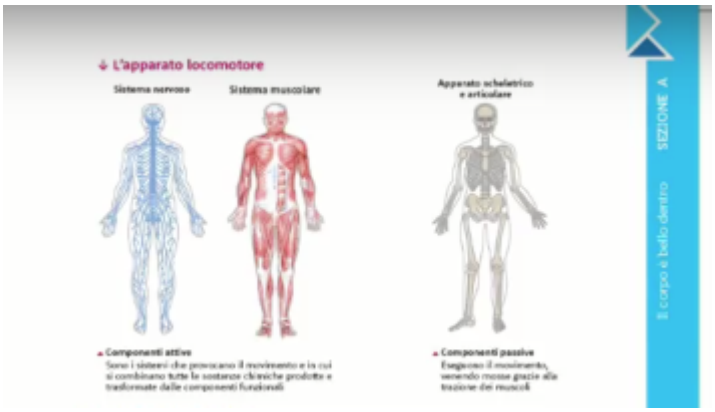
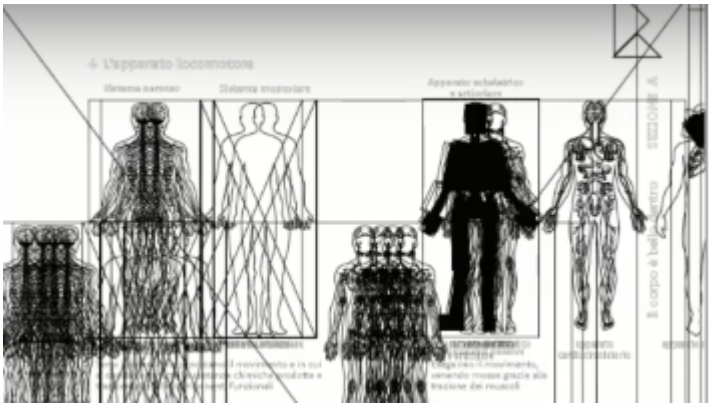
8.26.2. クリップにクロップ：例

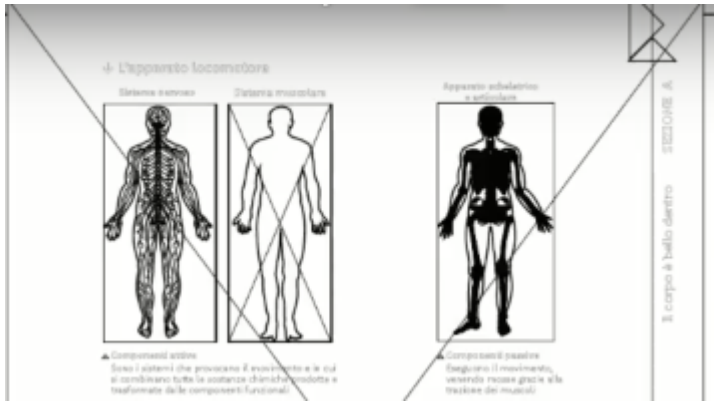
例*1*

	クリップされた画像。線画をクロップする前後で視覚的な違いはありません。
	線画をクロップする前のワイヤーフレームモードでのクリップされた画像。

	線画をクロップした後のワイヤーフレームモードでのクリップされた画像。

例***2***

	ページの見え方。線画をクロップする前後で視覚的な違いはありません。
	線画をクロップする前のワイヤーフレームモードでのページ。

	線画をクロップした後のワイヤーフレームモードでのページ。

8.27. オブジェクトをトレース

以下のトピックでは、PDFのオブジェクトをトレースしてパスや形状を生成する方法を説明しています。パスは実際には白くないすべてものの周りに描画され、エンボス加工用のカッターガイドまたは形状として使用可能なベクトル要素を作成できます。

同様のオプションを持った「トレースパスの追加」と呼ばれるアクションもあります（個別の色分版で作業するオプションを除きます。これはインスペクタでは利用できません）。

8.27.1. オブジェクトをトレース

トレースパスを生成するには、次の手順を実行します。

1. [オブジェクトの選択]ツール を使用して、トレースするオブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [線画の編集] > [オブジェクトをトレース]をクリックします。
4. [オブジェクトをトレース]ボタンをクリックする前に、選択したトレースの詳細を入力します。

属性	説明
スキャン解像度(ppi)	デフォルト値は300です。 この値を増やすと処理は遅くなりますが、精度が改善されます（またはその反対）。
白しきい値	デフォルト値は10%です。これは不自然な小さなピクセルを除外するには最良の値です。

属性	説明
	このしきい値を変更するには、スライダを右左にドラッグし、手動で任意の値を入力します。 白のしきい値を大きくすると、選択内容にグレーのパーツが含まれます。
曲線最適化	デフォルト値は20%です。 この値を低くすると、さらに多くの選択ポイントを考慮して曲線を描画するので、曲線は更に正確になりますが、なだらかさは軽減されます。
白穴を無視	このオプションにより白の形状を含めるか、または無視することができます（例：他のパスの完全に内側にあるパス）。含めると、白穴は切り出されます。 このオプションは、透明な基板上に印刷する白の下刷りを作成する場合に便利です。
トレースパスを反転、<ページボックス>を外側の端として使用	このオプションにより、任意のページボックスを外部境界として使用し、作成したパスを反転できます。
を超える大きさのトレースパスのみ追加	このオプションにより、バウンディングボックスの幅と高さが入力値より小さなパスなどの、指定したサイズより小さなパスを削除できます。
最大のトレースパスを追加	このオプションにより、すべての小さなパスを削除し、最も大きなパスのみを維持できます。

5. [オブジェクトをトレース]ボタン  をクリックし、パスを生成します。

8.27.2. オブジェクトをトレース：例

以下の画像上でこのアクションを実行しているとします。生成されるトレースパスは、選択したオプションによって異なります。



属性	結果
デフォルト値、追加オプションの有効化なし	
デフォルト値、白穴を無視	
デフォルト値、白穴を無視、一番大きなトレースパスのみを追加します。その結果、単一のバルーンはトレースされません。	

属性	結果
デフォルト値、白穴を無視、解像度72 ppi（iso 300）	
デフォルト値、白穴を無視、解像度72 ppi（iso 300）、追加の曲線の最適化なし（バージョンが選択されたので、選択ポイントがはっきりと見えます）	
デフォルト値、白穴を無視、72 ppi（iso 300）の解像度、曲線の最適化を強化（バージョンが選択されたので、選択ポイントが少なくなり、その結果曲線がスムーズになります）	

8.28. アンカー ポイントの追加または削除

8.28.1. アンカー ポイントを追加または削除する理由

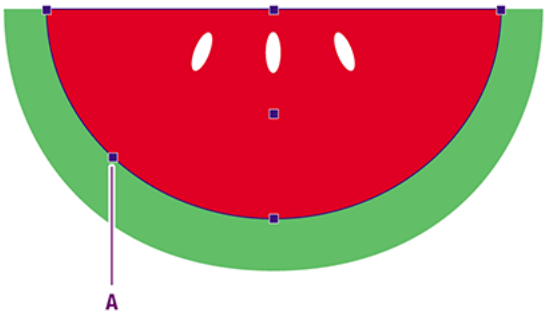
線画オブジェクトの任意のパスに対して、アンカー ポイントを追加または削除できます。

- アンカーポイントを追加すると (アンカーポイントを追加する手順を参照) するとパスの形状をより詳細に制御できます。
- アンカーポイントを削除すると、(アンカーポイントを削除する手順を参照) するとパスをより簡潔にし、パスの形状を自動的に変更できます。

8.28.2. アンカー ポイントを追加する手順

1. [アンカーポイントの追加] ツールをクリックします。
2. アンカー ポイントを追加する線画オブジェクトをクリックします。
3. アンカー ポイントを追加する、パスの線分の位置をクリックします。

   クリックするたびに、線分に新しいアンカー ポイントが追加されます。



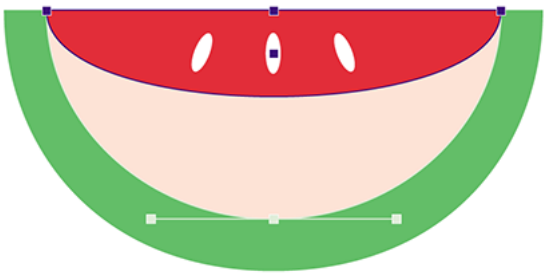
A：パスのセグメントに新しいアンカーポイントを追加

8.28.3. アンカー ポイントを削除する手順

注: パスの線分からアンカー ポイントを削除すると、パスのセグメントが変化します。

1. [アンカーポイントの削除] ツールをクリックします。
2. アンカー ポイントを削除する線画オブジェクトをクリックします。
3. 削除するアンカー ポイントをクリックします。

   それぞれのアンカー ポイント (存在する場合はその方向ポイントも) が選択された状態でいったん表示されてから消えます。その後、パスの形状が変化します。



8.29. オブジェクトのマスク

PDF 文書の中にある 1 つまたは複数のオブジェクトをマスクしたり、既存のマスクを解除したりすることができます。

8.29.1. でのマスクについて PitStop Pro

PitStop Proでは、マスクはクリップパス、つまり形状 (の一部分) がほかの形状をマスクするようなもの (絵画や文章) を指しています。クリップ対象の内側だけが見えるようになります。

注: Enfocus インスペクタのマスキングタブにはソフトマスクの情報しかなく、本章で説明するクリップパスの説明はありません。

8.29.2. オブジェクトをマスクする手順

1. PDF 文書のオブジェクトを少なくとも 1 つ選択し、マスクする線画オブジェクトまたはテキスト セグメントも少なくとも 1 つ選択します。

   次の例では、マスクする2つのオブジェクトが選択されています。



2. コンテキストメニューから、マスク > 作成を選択します。

   上の方にあるオブジェクトのアウトラインは、下の方にあるオブジェクトをマスクするのに使用されます。

   次の例では、上のオブジェクトでマスクが作成されます。



8.29.3. マスクの解除

マスクの解除

1. マスクを選択します。
2. 選択肢を右クリックしてコンテキストメニューを開きます。
3. マスクの解除をクリックします。

マスクを構成するさまざまなオブジェクト (ラインアートやテキスト) が見えるようになります。

8.30. ソフトマスクの検査

Enfocus インスペクタのマスキングタブタブには選択したマスクに関する情報 (マスクの種類) やさまざまなマスク表示モードがあり、マスクの構造をよく理解することができます。

モードを切り替えてもマスクが変わったり PDF に影響したりはしません。表示モードはファイルの分析だけに使われます。

注: このタブはソフトマスクだけに有効で、クリッピングパスには使えません。

8.30.1. ソフトマスクの検査

ソフトマスクの検査

1. マスキングオブジェクト、またはマスキングオブジェクトを含むフォームを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. 透明 > マスキングをクリックします。

ダイアログの上の部分にマスクの種類があり、下の部分でマスク表示モードを切り替えられます。ソフトマスク画像および明示的なマスクの場合、画像マスクの解像度が表示されます。

8.30.2. ソフトマスクの種類

マスクというオブジェクトは別のオブジェクト (の一部) を隠します。色の配置場所を指定するためのステンシルのような働きをします。マスクにはさまざまな定義の仕方があるため、さまざまなマスキングタイプがあります。詳細については、*http://www.adobe.com/content/dam/Adobe/en/devnet/acrobat/pdfs/PDF32000_2008.pdf*を参照してください。

タイプ	意味
ソフトマスクの辞書	可能な値: なし、アルファ、輝度 ソフトマスクは、グラフィックの状態の現在のソフトマスクとして指定されたソフトマスクの辞書で定義されます。マスクの値は2つの方法で透明グループから引き出されます。 • アルファでは、透明グループ XObject を評価してグループアルファだけを計算し、色を無視します。 • 輝度では、マスクをレンダリングしてグレースケールに変換します。白のピクセルは維持し、黒のピクセルは削除します。
ソフトマスクの画像	ソフトマスクの値はモノクロ画像から引き出されます。黒は透明、白は不透明、グレーは半透明です。
JPEG 2000 マスク	値は JPEG 2000 マスクから引き出されます。
明示的なマスク	画像マスクは不透明な部分と透明な部分があるステンシルマスクとして扱われます。画像のサンプル値は、現在の色を設定するかまったく設定しない箇所をページ上で指定します。
カラーキーマスク	このタイプのマスクは、ある範囲の色を指定し、画像内のどこに発生してもマスクします。

8.30.3. 画像マスク解像度

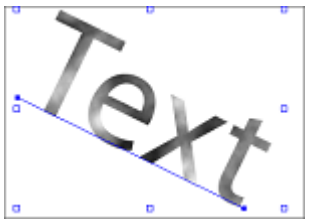
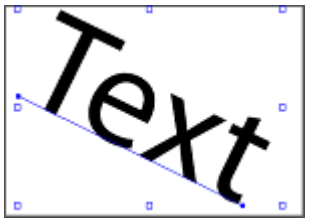
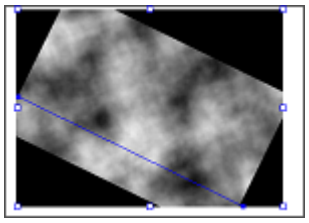
ソフトマスク画像および明示的なマスクの場合、画像の解像度はインスペクタに表示されます。（たとえば、解像度の異なる複数の画像が選択されたため）これが不可能な場合は、下の表で説明されるように、代わりの値が表示されます。

値	意味
＜解像度＞	選択した画像の解像度（マスクあり）、またはすべて同じ解像度のマスクがある複数の選択した画像の解像度。
はい	各画像の解像度が異なる複数の画像が選択され、そのため1つの値を表示することが不可能なことを示します。
いいえ	マスクの無い1つ以上の画像が選択されたこをと示します。

値	意味
-	複数の画像が選択され、そのうちのいくつかにはマスクがあり、いくつかにはマスクがないことを示します。この値は、選択したオブジェクトが画像でない場合に表示されます。

8.30.4. マスク表示モード

以下のマスク表示モードにより、選択したソフトマスクの構造が理解しやすくなります。

マスク表示モード	意味と例
 マスクしたオブジェクトの表示	デフォルト表示: PDF 上で表示されるとおりのマスク。 
 マスクの無効	マスクを適用しない場合の画像。 
 マスクオーバーレイの表示	半透明の赤色のオーバーレイとしてマスク画像を表示 (下にあるものを確認できます)。 
 マスキングオブジェクトの表示	マスキングオブジェクトのみを表示 (白黒) 

8.31. ピクセル画像のプロパティの表示

8.31.1. ピクセル画像プロパティ

PDF 文書の中にピクセル画像が存在する場合は、それらを選択し、サイズ、解像度、圧縮、カラーの使用状況に関する情報などのプロパティを表示できます。

8.31.2. ピクセル画像のプロパティを表示する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、ピクセル画像を選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [画像] > [プロパティ] の順にクリックし、選択したピクセル画像のプロパティを表示します。

8.32. ピクセル画像の明るさとコントラストの調整

8.32.1. 明るさとコントラストの変更について

すべてのカラースペース（RGB など）と画像タイプ（JPEG など）のピクセル画像の明るさとコントラストを調整（簡易または詳細）できます。

以下のことを実行できます。	説明
簡易調整	同じ量の明るさとコントラストを画像全体に適用します。 場所: **Enfocus** インスペクタダイアログボックス:  >  次に対して実行できます。 • 1つの画像。 • 複数の画像。
詳細調整 （＝曲線編集）	異なる量の明るさを各入力明るさ値に適用します。 場所:

以下のことを実行できます。	説明
	Enfocus インスペクタダイアログボックス:  >  出力明るさの量は編集可能な曲線によって表されます。 次に対して実行できます。 • 画像の分版（チャンネル）。例：RGB 画像の赤チャンネル。 • 画像全体。 • 同じカラースペースを持つ複数の画像。  ヒント: 曲線編集はアクションリストエディタではできませんが、アクションとして記録し、アクションリストで使用できます。

 注: 同じカラースペースの画像を前の画像として選択すると、最初の画像の適用されていない調整済み曲線も2番目の画像でプレビュー表示されます。

8.32.2. 例：明るさとコントラストを簡易調整する

この例では、同じ量の明るさとコントラストを画像全体に適用します。これにより、シャドーとハイライトが同じ量だけ明るくなります。

明るさとコントラストを簡易調整する手順

1. ピクセル画像を選択します。
2. [**Enfocus** インスペクタ]ダイアログボックスで、  >  をクリックします。
3. 必要な変更を行います。

以前	以後
 • 明るさ: 0 • コントラスト: 0	 • 明るさ: 45 • コントラスト: 45

注: [プレビュー]チェックボックスを選択することで、行った変更をプレビューするか、  をクリックしてデフォルト値に戻すことができます。

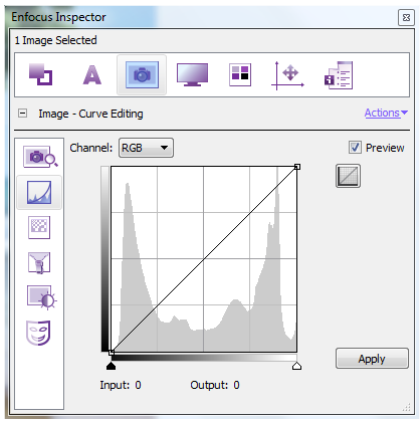
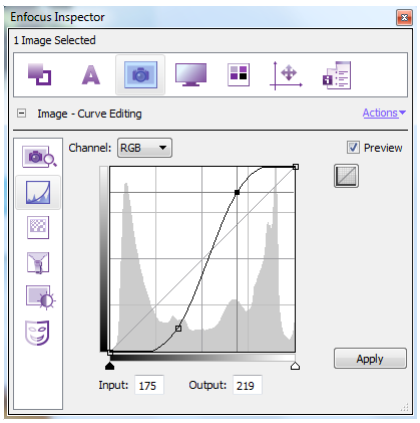
8.32.3. 例：明るさとコントラストを詳細調整する（曲線編集）

この例では、S型の曲線を画像の明るさレベルに適用します（RGB画像のすべてのチャンネル）。これにより、シャドーが暗くなり、ハイライトが明るくなります。

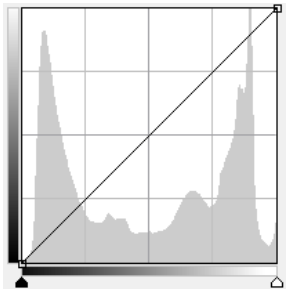
明るさを詳細に調整する

1. ピクセル画像を選択します。
2. [**Enfocus** インスペクタ]ダイアログボックスで、  >  をクリックします。
3. 必要な変更を行います。

以前	以後
	

以前	以後
	

8.32.4. 曲線編集: オプションとボタン

オプション／ボタン	説明
チャンネル	曲線が適用される分版。 例：RGB 画像の赤チャンネル。
プレビュー	有効: PDF 文書の変更を表示します。 ヒント: 拡大し、プレビュー表示を高速化します。 リマーク: このプレビューが元の画像よりも低解像度でレンダリングされる場合（表示を高速化するため）、品質の損失（鮮明度が低い文字など）があることがあります。ただし、これは色に影響しません。
	曲線をリセットします。
	以下のことを実行できます。 • 曲線をクリックし、コントロールポイントを追加します。 • コントロールポイントをドラッグし、曲線を編集します。 • ウィンドウから離れたところにコントロールポイントをドラッグして削除します。
入力 - 出力	指定された入力を指定された出力明るさ値に調整します。 曲線がそれに応じて調整されます。
[適用]	変更を選択した画像に適用します。

8.33. ピクセル画像を鮮明にする

8.33.1. ピクセル画像を鮮明にする

不鮮明なマスクフィルタを適用することで、ピクセル画像のエッジを鮮明にできます。複数の画像上に同時にフィルタを適用できます。

フィルタ:

1. 隣接するピクセル（半径としきい値で指定）を比較し、修正するピクセルを決定します。
2. これらのピクセルのコントラストを上げます（量で指定）。

不鮮明なマスクフィルタの効果は、高解像度出力において、画面上に大きく反映されます。印刷時には、テストを行い、画像に最適なオプションを判断してください。

詳細については、*http://en.wikipedia.org/wiki/Unsharp_masking*を参照してください。

8.33.2. 例：ピクセル画像を鮮明にする手順

1. ピクセル画像を選択します。
2. **[Enfocus** インスペクタ**]**ダイアログボックスで、  >  をクリックします。
3. 必要な変更を行います。



ヒント**:** 拡大し、プレビュー表示を高速化します。

以前	以後
	 • 閾値：15

以前	以後
	• 量: 460 • 半径: 5

8.33.3. 不鮮明なマスクフィルタ: オプション

オプション	説明
プレビューチェックボックス	有効な場合、PDF 文書の変更を表示します。 注: 拡大し、プレビュー表示を高速化します。 リマーク: このプレビューが元の画像よりも低解像度でレンダリングされる場合（表示を高速化するため）、品質の損失（鮮明度が低い文字など）があることがあります。ただし、これは色に影響しません。
	このボタンをクリックすると、イメージ調整を既定値に戻します。
[量]	ピクセルを修正するときに適用するコントラストの量。
[半径]	隣接するピクセル間の距離。この距離のピクセルのみがピクセルの比較で考慮されます。 注: 半径の値を大きくすると、プレビュー速度が低下します。
[しきい値]	隣接するピクセル間の明るさの差。大きく異なるピクセルのみが修正されます。

8.34. ピクセル画像のリサンプリング

8.34.1. リサンプリングについて

リサンプリングを実行すると、画像のピクセル数とピクセル寸法が変更されます。このため、(ファイル) サイズが変わるだけでなく、画像の品質も変わり、良い方にも悪い方にも品質が変わる可能性があります。

- 画像をダウンサンプル する場合には、サイズは減少しますが、画像の品質も低下します。
- 画像をリサンプルすると、ピクセル数が増加します。新しいピクセルが、既存のピクセルのカラー値に基づいて追加されます。

以下のいずれかを選択できます。

- 単一の画像をリサンプルする手順 286 ページの
- 複数の画像をリサンプルする手順 287 ページの

8.34.2. 画像をダウンサンプリングする目的

以下の目的に合わせて、画像をダウンサンプリングすることがあります。

- ピクセル画像を保持している PDF 文書の編集または印刷速度を向上させるため。
- 1 インチあたりの行数 (lpi) で表現される最終的なスクリーン ルーリングに合わせて、画像の解像度 (dpi) を調整するため。
- PDF 文書をインターネットに公開するため。

最適な解像度を指定するための適切な目安は、以下のとおりです。

スクリーン ルーリング **(**たとえば **150 lpi) x 2 =** 画像の解像度 **(300 dpi)**

8.34.3. 補間方式

リサンプリング、つまりピクセルの追加または削除は、さまざまな方法で実行できます。技術的には補間方式と呼ばれています。画像をリサンプルする場合は、以下の補間方式のいずれかを選択する必要があります。

- 平均リサンプリング 285 ページの
- サブサンプリング *(ニアレストネイバー法)* 285 ページの
- リサンプリング*(バイキュービック法)* 286 ページの
- リサンプリング *(バイリニア法)* 286 ページの
- リサンプリング *(バイキュービック B-Spline 法)* 286 ページの

8.34.4. 平均リサンプリング

平均ダウンサンプリングでは、サンプル領域の中にあるピクセルの平均色が計算されます。その後、指定した解像度に合わせて領域全体が平均のピクセル色で置き換えられます。

8.34.5. サブサンプリング (ニアレストネイバー法)

サブサンプリングでは、サンプル領域の中心にあるピクセルが参照ポイントになります。周囲にあるピクセルには、中心にあるピクセルと同じ値が適用されます。実際に、指定した解像度に合わせて領域全体が中心にあるピクセルと同じ色で置き換えられます。サブサンプリング

は、ダウンサンプリングより高速ですが、出力される画像のスムーズさと連続性が失われる可能性があります。

8.34.6. リサンプリング(バイキュービック法)

リサンプリング (バイキュービック法) は低速ですが高精度な方式で、色調のグラデーションがもっともなめらかになります。新しいピクセルの値は、元の画像の対応するピクセルの集合の値を加重平均した値を基にして計算されます。補間は、元の画像の 16 個のピクセルを対象に、やや画像が鮮明になるように行われます。

8.34.7. リサンプリング (バイリニア法)

リサンプリング (バイリニア法) は、品質を中程度にする補間方式で、元の画像の 4 個のピクセルに対する加重補間が計算されます。

8.34.8. リサンプリング (バイキュービック B-Spline 法)

BSpline は、バイキュービック法を改良した補間方式で、画像の鮮明さがより強くなり、アップサンプリングを行うときの方式に適しています。ダウンサンプリング (バイキュービック法) では、通常は単純な平均ダウンサンプリング手法よりもよい結果が得られます。

8.34.9. 単一の画像をリサンプルする手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、ピクセル画像を選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [画像] > [リサンプリング] カテゴリの順にクリックします。
4. 次のいずれかを実行します。
   - 画像をダウンサンプルするには、[次の値より上の場合リサンプリング] を選択し、しきい値の解像度を dpi 単位で指定します。解像度がこのしきい値以上である画像のみが、ダウンサンプルされます。
   - 画像をリサンプルして品質を向上させるには、[次の値より上の場合リサンプリング] チェック ボックスをオフにします。
5. リサンプリング (補間) 方式を選択し、画像をリサンプルするときに使用する解像度 (dpi) を指定します。

6. [適用] をクリックします。

8.34.10. 複数の画像をリサンプルする手順

グローバル変更を使用すると、複数の画像をリサンプリングできます。これは「画像のリサンプリング」といい、PitShopグローバル変更の画像カテゴリにあります。

一般的なグローバル変更の詳細については、グローバル変更の使用の章を参照してください。

使用可能なローバル変更の概要と詳細については、Enfocus Webサイトにあるグローバル変更リファレンスマニュアルを参照してください。

8.35. ピクセル画像の圧縮

8.35.1. 圧縮について

PDF 文書の中にあるピクセル画像を圧縮し、PDF ファイルのサイズを小さくすることができます。この操作を行う場合は、圧縮方式 (圧縮方式を参照) と、必要な場合は ASCII フィルタ (*ASCII filter*を参照) を選択します。

8.35.2. 圧縮方式

以下の圧縮方式のいずれかを選択できます。

- *JPEG* 圧縮
- *JPEG 2000*圧縮
- *LZW* 圧縮
- *ZIP* 圧縮

8.35.2.1. JPEG 圧縮

JPEG はグレースケール画像やカラーの画像に適した圧縮方式です。JPEG 圧縮の使用が推奨される画像としては、連続階調のある写真などが挙げられます。この種類の画像には、画面または印刷に再現できる情報をはるかに超える情報が含まれています。このような画像に対しては、JPG 圧縮を使用することで表示できない情報を削除できます。この方式は圧縮時に情報が削除される不可逆圧縮方式であるため、圧縮時には画質の劣化を伴います。ただしこの方式ではファイル サイズを大幅に縮小できます。

JPEG圧縮方法は次の目的では使用できません。

- インデックス付きカラースペースの画像
- タイルカラースペースの画像
- シェーディングカラースペースの画像
- 8以外のコンポーネントあたりのビットの画像

- チャネル数が4未満の画像

8.35.2.2. JPEG 2000圧縮

JPEG 2000は、最近の画像圧縮規格およびコーディングシステム（2000年に開発）です。

JPEG圧縮方式と比較すると、JPEG 2000圧縮はより効率的（48ビット色深度サポートを含む）で、画質の低下がないロスレス圧縮が可能です。



注: JPEG 2000はAdobe Acrobat 10以降でサポートされています。これよりも前のバージョンのAdobeでPitStopを使用している場合は、JPEG 2000画像をプレビューできません。

JPEG 2000圧縮方法は次の目的では使用できません。

- インライン画像
- 非常に小さい画像

ロスがあるJPEG 2000圧縮方式は次に適用されません。

- インデックス付きカラースペースの画像
- タイルカラースペースの画像
- シェーディングカラースペースの画像
- カラーマスクされた画像

8.35.2.3. LZW 圧縮

LZWは、PitStopのバージョン2019でサポートされる無損失の圧縮方法です。

この方法は、開発者であるAbraham **L**empel、Jacob **Z**ivとTerry **W**elchの名前から名付けられています。

LZWは、辞書ベースの圧縮アルゴリズムです。辞書ベースの圧縮アルゴリズムは、辞書の中で複数回発生するデータのシーケンスを格納し、繰り返しが起きる場所ではどこでも圧縮ファイルに参照を入れます。

8.35.2.4. ZIP 圧縮

ZIP 圧縮を使用すると、情報を失わずに画像サイズが小さくなります (可逆圧縮)。

8.35.3. ASCII フィルタ

画像を圧縮するときに ASCII フィルタを選択すると、PDF 文書内の画像データをプレーン (ASCII) テキストとしてエンコードすることができます。PDF 文書を送信するときに、送信経路で ASCII 以外のデータが受け付けられない場合には、ASCII エンコードを使用します。一部の E メール システムなどでは画像データを ASCII テキストにエンコードする必要がありますが、現在、一般的に使用されているほとんどの 電子メール ソフトウェアでは、ASCII 以外のコードを含む文書も送信することが可能です。PDF 文書の画像を ASCII エンコードする必要がある場合は、以下の ASCII フィルタのうち 1 つを選択します。

- ASCII Hex。画像データのサイズが大きくなり、2 倍になることもあります。
- ASCII 85。画像データのサイズが約 25% 増加します。

8.35.4. 単一の画像を圧縮する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、ピクセル画像を選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [画像] > [圧縮] カテゴリの順にクリックします。
4. 圧縮方式として、[JPEG]、[JPEG2000]、[LZW]、[ZIP]または [ランレングス] を選択します
   ランレングス（RLE）は、白黒画像に使用可能な別の圧縮方式です。
5. JPEG 、またはJPEG2000圧縮を選択した場合は、品質レベルを選択します。
   高い品質レベルを選択すると、画像の精細さが正確に維持されます。ただし、画像の品質レベルを高くすると、PDF ファイルのサイズが大きくなります。
6. 必要な場合は ASCII フィルタを選択します。
7. [適用] をクリックします。

8.36. 選択したオブジェクトの統計データの表示

8.36.1. 統計について

PDF 文書の中で 1 つまたは複数のオブジェクトを選択し、それらのオブジェクトに関して、以下のような統計情報を表示することもできます。

- パスあたりのアンカー ポイント数
- テキスト行あたりの文字の数
- 画像あたりのバイト数
- オブジェクトあたりのシェーディング数

8.36.2. 選択したオブジェクトの統計を表示する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、1 つまたは複数のオブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. Enfocus インスペクタの [統計データ]カテゴリをクリックし、選択したパス、テキスト セグメント、ピクセル画像に関する統計データを表示します。

4. 必要な場合は、[選択対象] 領域で選択対象を変更します。
   - ページ内にある全てのオブジェクトを選択する場合は、[全て選択] をクリックします。
   - テキスト行の全てのテキストを選択する場合は、そのテキスト行をダブルクリックするか、[選択対象を拡大] をクリックします。テキストが、単語または文字列単位に分かれている場合は、この作業が役に立つことがあります。
   - 複合パスによって形成されている線画オブジェクトの全体を選択するには、そのパスのいずれかをダブルクリックするか、[選択対象を拡大] をクリックします。

8.37. オブジェクトのブラックポイント補正設定を表示および変更する手順

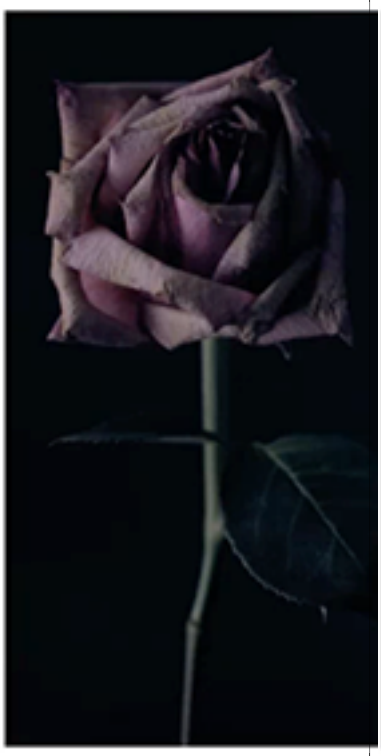
8.37.1. ブラックポイント補正について

ブラックポイント補正のオプションは、あるデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルと別のデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルとの間の差異によって生じる、カラー変換に関する問題に対処するためのAdobe Photoshopの機能です。

カラーエンジンの多くはこの機能を使用します。これは通常、この機能を適用するとより良い結果が得られるためです。ただし、必ずしも改善されているわけではありません。その場合は、特定のオブジェクトに対して無効にすることができます。

例

以下の例は、黒の背景を新しいカラースペースで再現できない画像です。この画像出力の品質は、ブラックポイント補正属性の値に依存します。

画像	ブラックポイント補正がオフ	ブラックポイント補正がオン
		

8.37.2. オブジェクトのブラックポイント補正を表示する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [プリプレス] > [全般] カテゴリをクリックします。
   選択したオブジェクトのブラックポイント補正設定が表示されます。

   オプション：

   - デフォルト：このため、このオブジェクトのカラーが PitStop で別のカラーに変換されるたびに、カラーマネージメント環境設定で設定されたブラックポイント補正環境設定が使用されることになります。
   - オン：カラー変換でブラックポイント補正が使用されます。
   - オフ：カラー変換でブラックポイント補正が使用されません。

異なる設定を持つ複数のオブジェクトが選択されている場合は、ダッシュが表示されます。

8.37.3. オブジェクトのブラックポイント補正値を変更する手順

1. [オブジェクトを選択]ツールを使用して、同じブラックポイント補正値を持つ1つまたは複数のオブジェクトを選択します。
   異なる設定を持つ複数のオブジェクトが選択されている場合、それらを一度に変更することはできません。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [プリプレス] > [全般] カテゴリをクリックします。
   選択したオブジェクトの現在のブラックポイント補正設定が表示されます。
4. ブラックポイント補正の横にあるリストを開き、適切なオプションを選択します。
   オプション：
   - デフォルト：このため、このオブジェクトのカラーが PitStop で別のカラーに変換されるたびに、カラーマネージメント環境設定で設定されたブラックポイント補正環境設定が使用されることになります。
   - オン：カラー変換でブラックポイント補正が使用されます。
   - オフ：カラー変換でブラックポイント補正が使用されません。

   この変更はすぐに適用されます。

8.38. オブジェクトのハーフトーン情報を表示および変更する手順

8.38.1. ハーフトーン情報について

ハーフトーンは、小さなドットで構成された画像です。遠くから見ると、点ではなく画像に見えます。画像からハーフトーンへの変換は通常、インクを節約するために行われ、たとえば、新聞や雑誌で使用されます。

PDF 文書の中で1つまたは複数のオブジェクトを選択し、それらのオブジェクトに関して、以下のようなハーフトーン情報を表示することもできます。

- ハーフトーン原点。(オブジェクトのハーフトーン原点を変更する手順 293 ページのも参照してください)
- ハーフトーンのタイプと名前

- トランスファ関数
- ハーフトーンの頻度と角度
- アキュレート スクリーンの使用の有無
- スポット機能

8.38.2. オブジェクトのハーフトーン情報を表示する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [プリプレス] > [ハーフトーン] カテゴリをクリックします。

8.38.3. オブジェクトのハーフトーン原点を変更する手順

ハーフトーン原点（HTO）は、ハーフトーンの原点の位置を示します。この情報は、包装やラベルに重要です（ステップ＆リピート）。デザインのすべてのインスタンスが印刷時に同一に見えるようにするには、すべてのインスタンスのハーフトーン原点が同じである必要があります。

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [プリプレス] > [ハーフトーン] カテゴリをクリックします。
   ハーフトーン原点は、ダイアログの上部に表示されます。

   HTO はページレベルで定義できます（右側に選択されたページの HTO）。この場合、入力される値は、メディアボックスの左下隅を基準とするXおよびYの値になります。

   HTO はフォームレベルでも定義できます（フォーム内の HTO）。この場合、入力される値は、選択された外側の Form XObject のフォーム空間における X および Y の値になります。
4. 必要に応じて、ハーフトーン原点フィールドの値を変更します。
   - 現在の HTO を変更するには、HTO フィールドに新しい値を入力します。

     単位は、*PitStop 環境設定*で選択した単位により決まります。
   - HTO を削除するには、[削除]ボタンをクリックします。これにより、値がデフォルトに設定され、HTOが指定されていないことになります。

8.39. Enfocus テキストの検索と置換

[Enfocus テキストの検索と置換（**Enfocus Find And Replace Text**）**]** 機能を使用すると、現在開かれている PDF 文書でテキストを検索し、指定した別のテキストに置換できます。

8.39.1. テキストを検索および置換するには

1. 次のいずれかを実行します。
   - **PitStop Pro** > オブジェクト > **Enfocus** テキストの検索と置換を選択します。
   - PitStop 編集パネル（ツールの下）で、 をクリックします。
2. ［テキストの検索と置換］ダイアログボックスでは、検索するテキストを［検索］テキストボックスに入力します。
3. 適切なオプションを選択します。
   - （大文字と小文字を区別して）入力したとおりの語句を検索する場合は、［ケースセンシティブ（**Case sensitive**）］を選択します。
   - 検索対象を現在表示されているページのみに制限する場合は、［現在のページのみ（**Current page only**）］を選択します。
   - 検索クエリが語句全体の一部分のみである場合は、［部分的なテキスト オブジェクトを選択（**Select partial text objects**）］を選択します。
4. すべての見つかった（ハイライトされた）検索語句を1つずつ確認するには、次へ（現在のページから開始）または前へ（文書の開始位置に戻る）をクリックします。
5. 任意の別の語で検索語句を置換するには
   a. 置換テキストボックスに単語を入力します。
   b. ［置換（**Replace**）］をクリックして、すでにハイライト表示されている検索語を置換するか、［検索結果を置換（**Replace Find**）］ボタンをクリックして現在ハイライト表示されている検索語を置換し、次のインスタンスを検出します。

8.40. テキストの選択

テキストまたはテキストセグメントを選択するために複数のPitStop Proツールを使うことができます。これは、次のトピックで説明します。

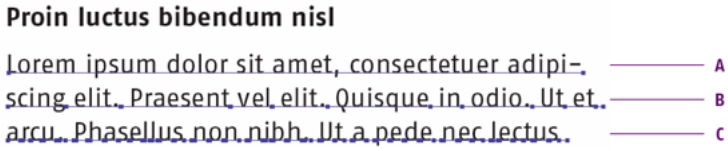
代わりに、オブジェクトブラウザを使用することもできます。例えば、別のオブジェクトでテキストがマスクされている場合など、テキストを選択するのが難しい場合、これはとても便利です。オブジェクトブラウザを使いオブジェクトを選択 208 ページのを参照してください。

8.40.1. テキストまたはテキストセグメント

複数の PitStop Pro ツールを使用して、PDF 文書内でテキストまたはテキストセグメントを選択することができます。テキストセグメントに該当するものには以下のものがあります。

- テキストの行
- 単語
- 文字

次の図は、さまざまなテキストセグメントを示します。線(**A**)、単語(**B**)、および1つの文字(**C**)です。



一般的に、テキストまたはテキストセグメントのどちらを選択するかは、選択したテキストに対して何を行うかによります。通常は、以下の選択方法が使用されます。

- テキスト自体を変更する場合は、テキストを選択します。
- テキストセグメントをページ上で移動したり、フォント プロパティ (フォント サイズ、フォント ファミリ、フォント スタイル、単語または文字の間隔) を変更したりする場合は、テキストセグメントを選択します。

以下の操作を行うことができます。

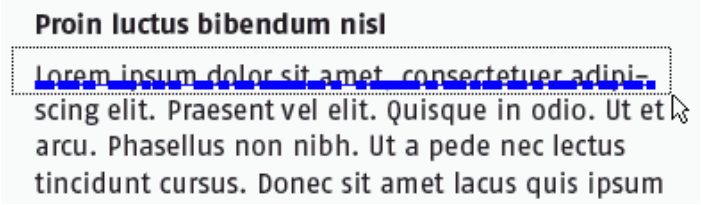
- 単一のテキストセグメントを選択する 295 ページの
- 隣り合っている複数のテキストセグメントを選択する 296 ページの
- 離れている複数のテキスト セグメントを選択する 296 ページの
- プロパティが類似しているテキスト セグメントを選択する 297 ページの
- *1* 行のテキスト行でテキストを選択する 297 ページの
- 段落中の複数行のテキストを選択する 298 ページの

8.40.2. 単一のテキストセグメントを選択する

[オブジェクトの選択] ツール を使用して、変更するテキストをクリックします。

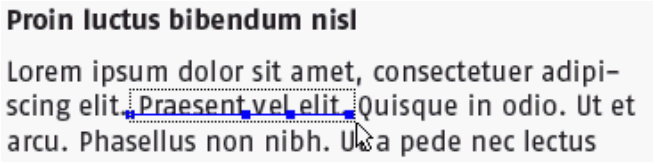
テキスト行は既に単語または文字に分かれている場合があります。テキスト行全体を選択するには、以下のいずれかの手順に従います。

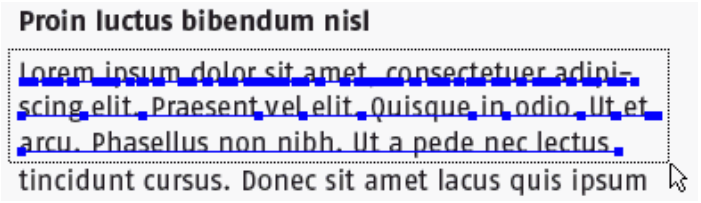
- テキストをダブルクリックします。
- テキスト行全体をドラッグして選択します（以下の例を参照）。



8.40.3. 隣り合っている複数のテキストセグメントを選択する

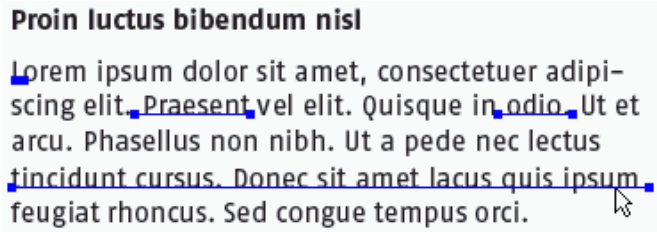
[オブジェクトの選択] ツール を使用して、隣り合っている複数のテキストセグメントをドラッグして選択します。





8.40.4. 離れている複数のテキスト セグメントを選択する

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、単一のテキスト セグメントを選択します。
2. **SHIFT** キーを押したまま他のテキスト セグメントを選択します。



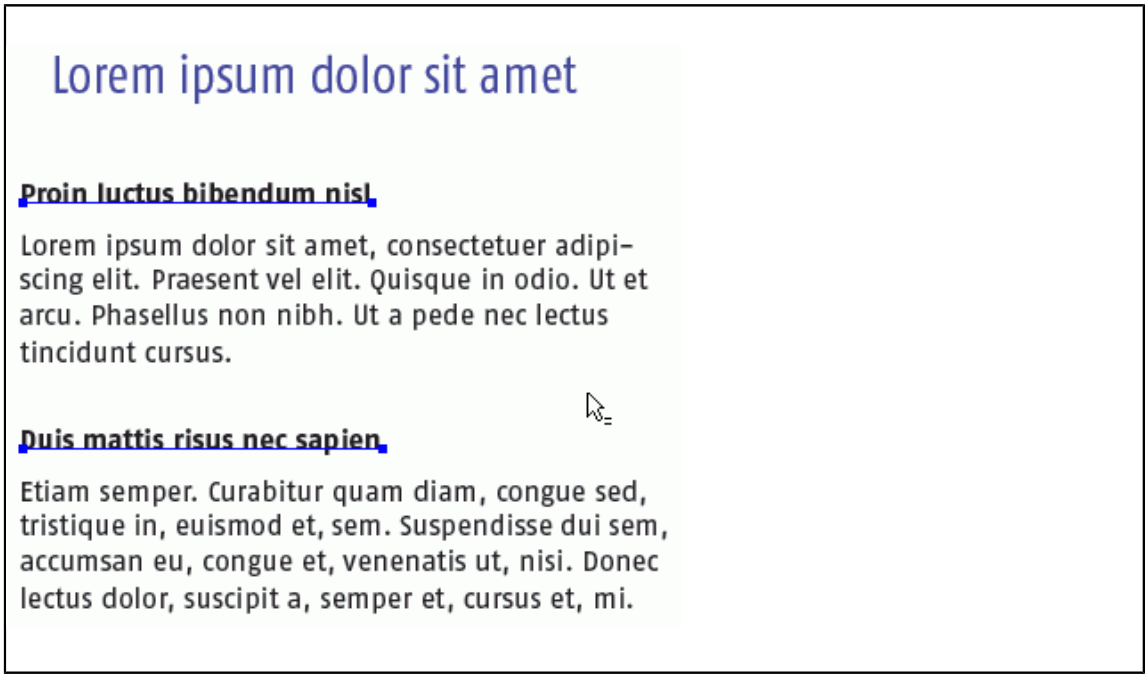
8.40.5. プロパティが類似しているテキスト セグメントを選択する

PDF 文書内には、プロパティが類似しているテキスト セグメントが含まれている場合があります。たとえば、タイトルのフォントおよびフォント サイズが全て同じであることがあります。これらのタイトルを選択し、たとえば、テキストのカラーなどの 1 つまたは複数のプロパティを変更する場合があります。

次の手順に従います。

1. [類似オブジェクトの選択] ツール を使用し、単一のテキスト セグメントを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. Enfocus インスペクタで、フォントやサイズなど (間隔は除く)、他のテキストと同じにする必要のあるプロパティを選択します。
4. [類似オブジェクトの選択] をクリックします。

   こうすると、プロパティが同一の全てのテキストが選択されます。

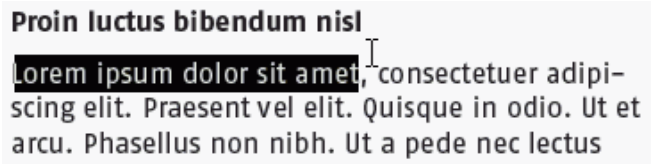


8.40.6. 1 行のテキスト行でテキストを選択する

[テキスト行の編集] ツール を使用して、次のいずれかを実行します。

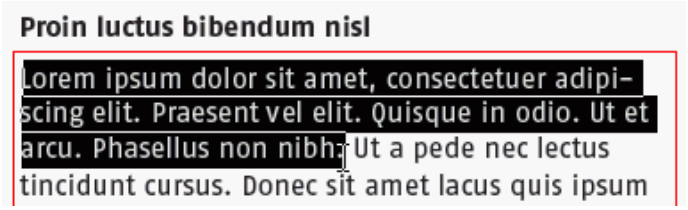
- テキスト行で、テキストをドラッグして選択します。
- 単語を選択するには、単語をダブルクリックします。
- テキスト行全体を選択するには、単語を 3 回クリックします。

- 隣り合っている複数の単語を選択するには、最初の単語をダブルクリックし、**SHIFT** キーを押しながら最後の単語の最後の文字をクリックします。



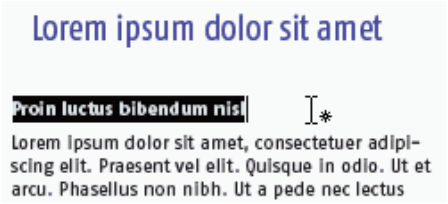
8.40.7. 段落中の複数行のテキストを選択する

[段落の編集] ツール を使用して、複数行にわたるテキストをドラッグして選択します。



8.41. 1行のテキスト行の編集

新規のテキスト行を作成したり、既存のテキスト行を編集したりできます。これは、タイピング エラーの修正など、小さな調整を行う場合に特に便利です。



8.41.1. 1行のテキスト行を編集する手順

1. [テキスト行の編集] ツール をクリックします。

   カーソルが に変わります。

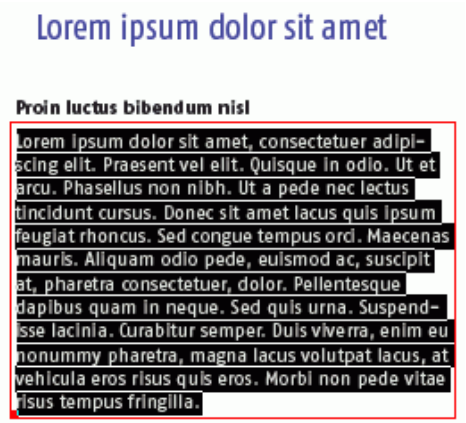
2. 次のいずれかを実行します。
   - 編集するテキスト行をクリックまたは選択し、必要な変更を加えます。

- ページの任意の場所をクリックし、新規のテキスト行を入力します。

8.42. テキスト段落の編集

8.42.1. 論理的なテキスト要素としての段落

複数行にわたるテキストをまとめて変更する場合、[段落の編集] ツール を使用できます。このツールを使用すると、「論理的なテキスト要素」を選択することができます。論理的なテキスト要素とは、通常、2 つの句読点やスペースの間にあるか、またはそれぞれのフォント プロパティを持つテキストの集合のことです。論理的なテキスト要素を使用して、PDF 文書に段落を新規に追加することもできます。



8.42.2. 段落を編集する手順

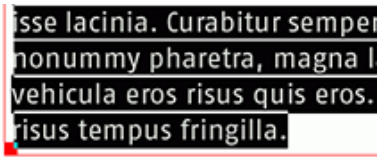
1. [段落の編集] ツール をクリックします。

   カーソルが に変わります。

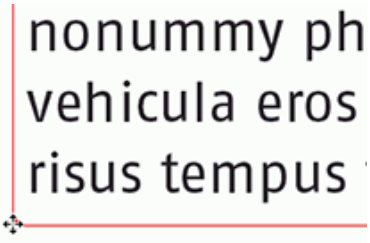
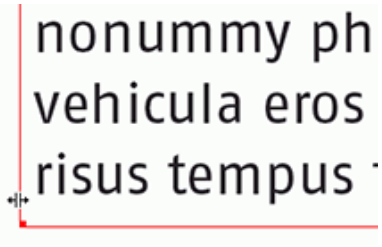
2. 次のいずれかを実行します。

   - 編集する段落をクリックまたは選択し、必要な変更を加えます。
   - ページの任意の場所をクリックし、新規の段落を入力します。

   編集または作成したばかりの段落は、赤いボックスの中に表示されます。このとき、ボックスの左下にアンカー ( ) が表示されます。



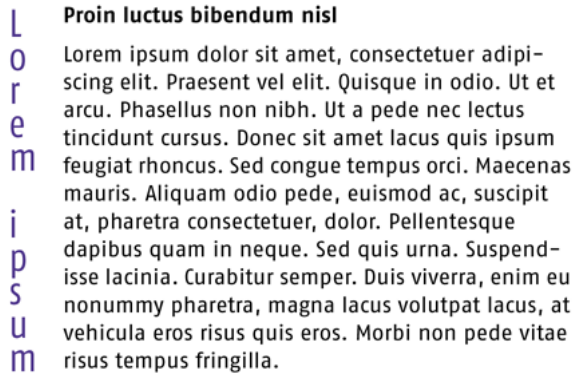
3. 必要に応じて、赤色のボックスをドラッグまたはサイズ変更し、選択した段落の位置を変更します。

アンカーを使用して段落ボックスを別の位置にドラッグ	段落ボックスのサイズ変更
	

8.43. 縦書きテキストの編集

8.43.1. 縦書きテキストについて

[縦書きテキスト行の編集] ツール を使用して、縦書きテキスト行を編集できます。



Lorem ipsum

Proin luctus bibendum nisl

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit. Praesent vel elit. Quisque in odio. Ut et arcu. Phasellus non nibh. Ut a pede nec lectus tincidunt cursus. Donec sit amet lacus quis ipsum feugiat rhoncus. Sed congue tempus orci. Maecenas mauris. Aliquam odio pede, euismod ac, suscipit at, pharetra consectetuer, dolor. Pellentesque dapibus quam in neque. Sed quis urna. Suspendisse lacinia. Curabitur semper. Duis viverra, enim eu nonummy pharetra, magna lacus volutpat lacus, at vehicula eros risus quis eros. Morbi non pede vitae risus tempus fringilla.

8.43.2. 縦書きテキスト行を編集する手順

1. [縦書きテキスト行の編集] ツール を選択します。

   カーソルが に変わります。

2. 次のいずれかを実行します。
   - 編集する縦書きテキスト行を選択またはクリックし、必要な変更を加えます。
   - ページの任意の場所をクリックし、新規の縦書きテキスト行を入力します。

8.44. テキストのフォント プロパティの変更

8.44.1. フォント プロパティとは

フォント プロパティは以下のとおりです。

- フォント ファミリー名: Times-Roman など
- フォント サイズ: 10 ポイント (pt) など
- フォント スタイル: Times-Bold など
- フォント タイプ: Adobe Type 1、TrueType、OpenType など
- 単語と文字の間隔
- 段落の配置

8.44.2. テキストのフォント プロパティを変更する手順

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. [テキスト] カテゴリをクリックします。
3. 以下のいずれかのツールを使用してテキストを選択します。
   - [オブジェクトの選択] ツールまたは [類似オブジェクトの選択] ツール
   - [テキスト行の編集] ツールまたは [段落の編集] ツール

   テキストの選択に使用するツールに応じて、Enfocus インスペクタの表示は変わります。
4. 以下のいずれかを実行します。

- 選択したテキストのフォントを変更するには [フォント ピッカー] をクリックします。次にページ、文書、またはコンピュータ システムのフォントを選択し **[OK]** をクリックします。
- 必要に応じて、フォント サイズ、文字または単語の間隔を調整します。
- テキストの配置を変更するには、[段落の編集] ツール を使用して、テキストをクリックします。Enfocus インスペクタの [段落の配置] を選択します。

段落の配置: 左寄せ	段落の配置: 両端揃え
Proin luctus bibendum nisl Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipi-scing elit. Praesent vel elit. Quisque in odio. Ut et arcu. Phasellus non nibh. Ut a pede nec lectus tincidunt cursus. Donec sit amet lacus quis ipsum feugiat rhoncus. Sed congue tempus orci. Maecenas mauris. Aliquam odio pede, euismod ac, suscipit at, pharetra consectetuer, dolor. Pellentesque dapibus quam in neque. Sed quis urna. Suspend-isse lacinia. Curabitur semper. Duis viverra, enim eu nonummy pharetra, magna lacus volutpat lacus, at vehicula eros risus quis eros. Morbi non pede vitae risus tempus fringilla.	**Proin luctus bibendum nisl** Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipi- scing elit. Praesent vel elit. Quisque in odio. Ut et arcu. Phasellus non nibh. Ut a pede nec lectus tincidunt cursus. Donec sit amet lacus quis ipsum feugiat rhoncus. Sed congue tempus orci. Maecenas mauris. Aliquam odio pede, euismod ac, suscipit at, pharetra consectetuer, dolor. Pellentesque dapibus quam in neque. Sed quis urna. Suspend- isse lacinia. Curabitur semper. Duis viverra, enim eu nonummy pharetra, magna lacus volutpat lacus, at vehicula eros risus quis eros. Morbi non pede vitae risus tempus fringilla.

8.45. テキストのアウトラインへの変更

8.45.1. テキストのアウトラインへの変更について

テキストをアウトラインに変更すると、テキスト文字が一連の複合パスに変換されます。つまり、テキストは True Type ではなくなり、画像に置き換えられて表示されます。

テキスト	アウトラインに変換されたテキスト
Lorem	Lorem

8.45.2. テキストをアウトラインに変更する理由

以下のような場合に、テキストをアウトラインに変更することが必要な場合があります。

- 表示されているテキストとまったく同じように印刷する必要がある場合

- ライセンス制限などにより、フォントの埋め込みができない場合

8.45.3. アウトラインに変換後のテキストの特性

テキストをアウトラインに変換する前に、以下の事項を考慮に入れてください。

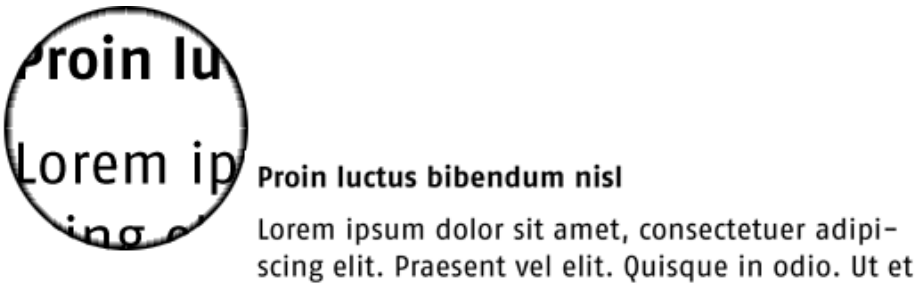
- テキストはパスに変わります。つまり、テキストを編集したりフォント プロパティを変更したりできなくなります。たとえば、タイプミスを訂正したり、別のフォント ファミリを適用したり、フォント サイズを変更したりできなくなります。
- 単にテキストの塗りや線のカラーを変更する場合は、テキストをアウトラインに変換する必要はありません。テキストを選択して Enfocus インスペクタの [塗り / 線] カテゴリをクリックし、[塗り] か [線] のいずれか、またはその両方を選択してそれぞれのカラーを変更してください。

次の図は、塗りと線の色を使用したテキストの例を示します。

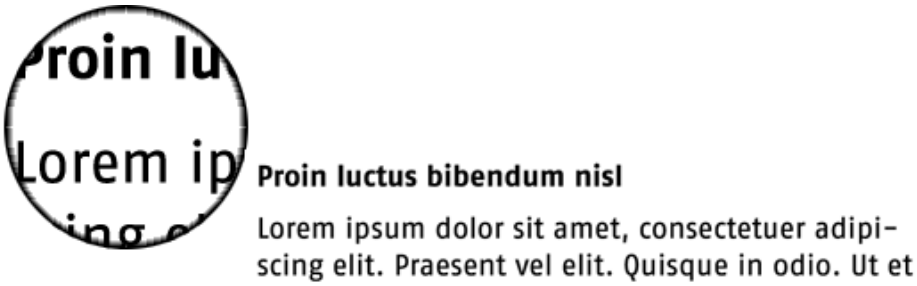


- 一般的に、本文のテキストなど、小さなフォント サイズではなく大きなフォント サイズのテキストをアウトラインに変更します。アウトラインに変換されたテキストは、小さなサイズでレンダリングするときれいに表示したり印刷したりできません。太く印刷されるか画面上にジャギー (ギザギザの状態) で表示される場合があります。

例：テキスト



例：アウトラインに変換されたテキスト



8.45.4. テキストをアウトラインに変更する手順

1. [オブジェクトの選択] ツールまたは [類似オブジェクトの選択] ツールを使用して、PDF 文書のテキストを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [テキスト] カテゴリをクリックします。
4. [アクション]ドロップダウンメニューで[テキストをアウトラインに変換] を選択します。

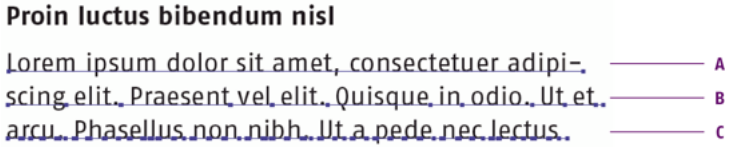
> **注:** グローバル変更またはアクション リストを使用して、PDF 文書内の全てのテキストをアウトラインに変換することもできます。

8.46. テキストセグメントを分割および結合する

8.46.1. テキストセグメントを単語または文字に分割および結合する

テキストセグメントを単語または文字に分割したり結合することができます。

例：テキストセグメント (**A**)、単語に分割 (**B**)、文字に分割 (**C**)。



テキストセグメントを分割または結合して、1 つの単語や文字を移動したり変更 (シアー、回転、スケール) したりする場合があります。

例：上の図は、テキストセグメントを単語に分割して、最初の単語をシアーしている例です。



8.46.2. テキスト セグメントを分割または結合する手順

1. PitStop 検査（ツールの下）を開き、をクリックします。
   Enfocusインスペクタが表示されます。
2. [テキスト] カテゴリをクリックします。
3. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、分割するセグメントを 1 つまたは複数選択します。
4. 次のいずれかのオプションを［アクション］メニューから選択します。
   - 文字への分割
   - 単語への分割
   - テキストをアウトラインに変換
   - テキスト行にマージまたは
   - 語句にマージ

   注: The options listed above are also available in the submenu of **PitStop Pro** > **Object**.

8.47. フォントのタイプとその使用方法

8.47.1. フォントのタイプ

フォントにはさまざまなタイプがあります。

- *PostScript Type 1* フォント 306 ページの「標準の *14* フォント」と呼ばれるサブセットおよび拡張版の「*Multiple Master* フォント 308 ページの」を持つ
- *PostScript Type 3* フォント 307 ページの
- 拡張版の「*OpenType* フォント 309 ページの」を持つ *TrueType* フォント 307 ページの

- コンポジット フォント 310 ページの

8.47.2. 標準の 14 フォント

PostScript および PDF の環境で作業をする場合、「欧文基本 14 フォント」または「ベース 14 フォント」という表記が出てきます。ここでは、この「欧文基本 14 フォント」について以下に説明します。

実際には、この用語は 13 種類の PostScript フォントの標準セットに由来しています。これらのフォントは、全ての PostScript 出力デバイスに内蔵されています。これらのフォントを以下の表に示します。

フォントファミリ	フォント
Times	Times-Roman
	Times-Italic
	Times-Bold
	Times-BoldItalic
Helvetica	Helvetica
	Helvetica-Oblique
	Helvetica-Bold
	Helvetica-BoldOblique
Courier	Courier
	Courier-Oblique
	Courier-Bold
	Courier-BoldOblique
記号	記号 (∞ δ Σ Δ Φ ⊆ λ)

PDF 環境には、この標準フォント セットに ZapfDingbats (✉ ✪ ✔ ❑ ❶) が追加されます。

8.47.3. PostScript Type 1 フォント

本来、PostScript Type 1 フォントは、PostScript プリンタで使用するために Adobe Systems が開発したものです。

PostScript Type 1 フォントは、アウトラインフォントです。このフォントは、直線と 3 次曲線であるベジエ曲線を使用して、文字の形、つまり「グリフ」を定義しています。「グリフ」とは、画面または用紙上で文字コードを表現するのに使用するフォントの形です。グリフの例としては、アルファベットの文字や ITC ZapfDingbats (✉ ✪ ✔ ❑ ❶) のようなフォントの記号があります。

Type 1 フォントには、以下の特徴があります。

- これらのフォントのファイル サイズは、TrueType フォントよりも小さく、システムのハード ディスクで占める容量が少なくて済みます。
- アウトライン フォントであるため、Type 1 フォントは、ほとんど全てのサイズに縮小/拡大できます。これらのフォントは、どのようなプラットフォームや印刷でも、シャープでスムーズな曲線を再現します。
- ほとんどのハイエンド出力装置がページ記述言語に PostScript を使用しているため、PostScript Type 1 フォントは専門的な出版環境で一般的に使用されています。
- PostScript Type 1 フォントは、2 つのファイルに分かれて保存されます。1 つのファイルには、文字のアウトラインが保存され、もう 1 つのファイルには、フォントのメトリックデータが保存されます。Microsoft Windows では、拡張子によりこれらのファイルを識別できます。文字のアウトラインのファイルは *.pfb (Printer Font Binary ファイル) で、メトリック データを含むファイルは *.pfm (Printer Font Metrics ファイル) です。前者 (.pfb) は一般的にプリンタフォントと呼ばれ、後者 (.pfm) は画面フォントとして知られています。これら両方のファイルサイズを足しても、TrueType のフォントよりも容量を小さく抑えられます。PostScript フォントのファイルサイズは、対応する TrueType フォントの半分程度の場合もあります。
- PostScript Type 1 フォントは、以下のアイコンで識別できます。

アイコン	説明
	Microsoft Windows 環境の PostScript Type 1 フォント
	Mac 環境の PostScript Type 1 フォント

8.47.4. PostScript Type 3 フォント

PostScript Type 3 フォントは、主に飾り文字の装飾的なフォントとなっており、同じ文字であっても、トーンのバリエーションが多く、塗りつぶしや斜線が使われています。実際、Type 1 または TrueType フォントは完全な黒だけですが、Type 3 フォントの場合、グレースケールの塗りつぶしや斜線、その他の「特殊効果」もあります。これらの結果として、Type 3 フォントには、以下の特徴があります。

- ファイルサイズが対応する Type 1 または TrueType フォントよりも大きくなります。
- 印刷または出力に時間がかかる場合があります。
- 非常に小さいポイントサイズに設定して低い解像度で印刷すると、Type 1 または TrueType フォントよりも表示品質が低くなります。

8.47.5. TrueType フォント

TrueType フォント形式は、Apple Computer が Adobe Type 1 標準の代替フォントとして開発しました。Macintosh と Windows コンピュータの両方で使用されています。

PostScript Type 1 フォントと同じように、TrueType フォントも文字の描画にアウトラインを使用しています。

TrueType フォントには、以下の特徴があります。

- 広く普及しており、Microsoft Windows または Macintosh システムのほとんど全てのデスクトップオフィスソフトウェアプログラムに統合されています。
- TrueType フォントは、非 PostScript 出力デバイスでも、PostScript 出力デバイスでも正常に印刷できます。ただし、PostScript デバイスで正常に印刷するには、TrueType フォントを PostScript アウトラインに変換する必要があります。この処理は、出力結果のフォントの品質に影響を与える場合があります。したがって、多くのプリプレスサービスビューロは TrueType フォントのサポートに消極的です。
- Windows ベースのシステムでは、TrueType フォントは物理的に 1 つのファイルに保存されます。このファイルの名前には、拡張子の .ttf が付けられます。Macintosh では、1 つのスーツケースとして保存されます。
- TrueType フォントは、以下のアイコンで識別できます。

アイコン	説明
	Microsoft Windows 環境の TrueType フォント
	Mac 環境の TrueType フォント

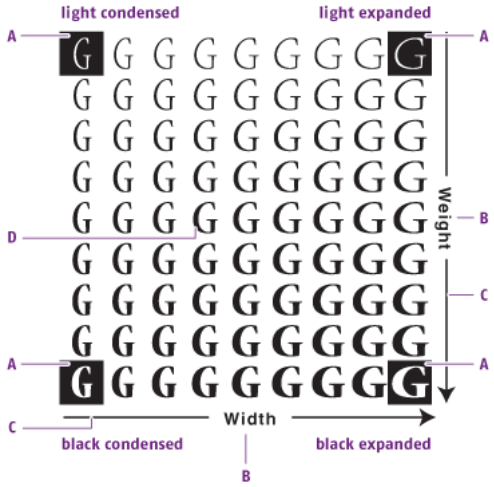
- TrueType フォントを使用する場合、または TrueType と PostScript フォントを 1 つの文書で併用する場合、特にイメージセッターなど、ハイエンドの PostScript デバイスで問題が発生する可能性があります。

8.47.6. Multiple Master フォント

Multiple Master フォントフォーマットは、PostScript Type 1 フォーマットの拡張版です。「Multiple Masters」は、デザイン軸の上下左右の端を基準にして、デザインのバリエーションを提供するフォントです。このデザイン軸によって、以下のようなフォントの可変プロパティを表現します。

- 太さ (標準と ボールド)
- 幅 (縮小と 拡大)
- オプティカルサイズ

Multiple Master フォントの仕組みは、デザイン軸の端にある 2 つのマスターのデザインが固定されており、これらのマスターの間でバリエーションを作成できるということです。一般的に、Multiple Master フォントには 2 つのデザイン軸があり、4 つのマスターが必要です。これらのマスターは、マトリックスの基盤と考えることができます。



A. マスター
B. フォントプロパティ
C. デザイン軸
D. ユーザ定義の「中間的な」バリエーション

中間的なバリエーションを作成するには、Adobe Type Manager が必要です。

8.47.7. OpenType フォント

TrueType形式の拡張子

OpenType は、Adobe Systems Inc. と Microsoft Corporation が共同で開発した新しいフォント ファイル フォーマットです。OpenType は TrueType フォーマットを拡張したフォーマットで、TrueType フォントデータの他に Adobe Type 1 フォント データを格納できます。OpenType フォントとして埋め込む場合、ベースとなるフォントにより、次の2種類があります。

- Adobe Type 1 フォントをベースとするフォント。このフォントのファイル名の拡張子は.otfになります。
- TrueType フォントをベースとするフォント。このフォントのファイル名の拡張子は.ttfになります。

OpenType フォントは、次のアイコンで識別できます。

アイコン	説明
	Microsoft Windows 環境の OpenType フォント
	Mac 環境の OpenType フォント

OpenTypeフォントの埋め込み

PDF ファイルでは、OpenType フォントは埋め込みフォントとしてのみ使用できます。つまり、Type 1ベースの OpenType フォントを使用している場合、Type 1 フォントまたは

OpenType フォントとして埋め込むことができます。同様に、TrueType ベースの OpenType フォントは TrueType または OpenType として埋め込むことができます。

OpenType フォントの埋め込みは PDF 1.6 の新機能です。つまり、それ以外の PDF 文書ではサポートされていない場合があります。たとえば、Adobe Acrobat の旧バージョンでは、OpenType フォントとして埋め込まれたテキストを表示できなかったり、印刷エラーが発生したりする場合があります。

OpenType-SVGフォント

OpenType-SVGフォントは、グリフ（の一部）がSVG（Scalable Vector Graphics）アートワークとして表されるフォントフォーマットです。SVGは1つのグリフで複数の色とグラデーションを持つことができますが、これは従来のフォントでは不可能です。

SVGフォントは、Adobe Indesign、Photoshop、Quark Xpressによりサポートされていますが、PDF 仕様ではサポートされていません。そのため、アートワークをPDFに書き出す場合、こうしたフォントはType 3フォントに変換されます。残念ながら、こうしたType 3フォントは必ずしもPDF仕様に従って作成されていないため、PitStop 2018以前ではエラーが発生します。これはPitStop 2019では解決されています。SVGフォントを表示可能な回避策を実装しました。

PDF/A ファイル構造の問題アクションをチェックを実行すると、こうしたフォントにより警告がトリガーされます。

8.47.7.1. OpenType の詳細

OpenType の詳細については、次のサイトを参照してください。

- *www.adobe.com* (このサイトにアクセスして OpenType を検索)
- *store.adobe.com/type/opentype*

8.47.8. コンポジット フォント

日本語、中国語、韓国語など、アジアの言語を使用する場合、2 バイト文字セット (コンポジット フォント) が必要です。これらの言語には多くの文字があり、2 バイトフォーマットをサポートするハードウェアとソフトウェアが必要です。

コンポジット フォントは、8 ビット (1 バイト) 文字の代わりに、16 ビット (2 バイト) の文字を使用します。

8.48. PDF フォントの置換

8.48.1. フォントの利用形態

複数のコンピュータまたはコンピュータ プラットフォームにわたって PDF 文書を処理する場合、文書内のフォントは 3 つの状態のいずれかになります。この 3 つの状態を以下に示します。

- フォントは、システムフォントとして使用できます。つまり、PDF 文書にあるフォントは、PDF 文書を表示するコンピュータにもインストールされています。
- フォントは、埋め込みフォントとして使用できます。つまり、フォントが PDF 文書に含まれています。
- フォントは、文書でもシステムでも使用できません。

フォントを使用できない場合、文書を受け取ったコンピュータにあるフォントで、このフォントを置換する必要があります。この処理は、「PDF フォントの置換」と呼ばれています。

8.48.2. PostScript フォント名を検索する手順

PitStop Pro では、フォント名の入力が必要な場合があります。

たとえば、名前を指定してフォントを検索したり、他のフォントと交換したりするために、プリフライトプロファイルを作成または変更する場合などです。

1. 任意のアプリケーションを使用して、PostScript フォントを使用する文書を 1 ページ分作成します。
2. この文書から PDF ファイルを作成します。
3. Adobe Acrobat で PDF ファイルを開き、**[ファイル] > [文書のプロパティ] > [フォント]** の順に選択します。
4. スペル、大文字と小文字の区別、ハイフンの有無などに注意しながら、**[文書のプロパティ]** ダイアログ ボックスに表示されているとおりのフォントの名前を書き留めます。
5. **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

8.49. フォントの埋め込みとサブセット

8.49.1. フォントの埋め込み

フォントを埋め込むとは、フォント全体、つまり、フォントの文字を全て PDF 文書にコピーすることを意味します。この処理が特に有効なのは、同じフォントをインストールしていない別のコンピュータで文書を表示および印刷する必要がある場合です。

さらに、フォント全体を埋め込むと、フォントをインストールしていないコンピュータでも、PDF 文書のテキストを編集できます。フォント全体 (標準的な roman フォントは、通常 256 文字) を埋め込むと、PostScript Type 1 フォントの場合、PDF 文書のファイル サイズが 30KB から 40KB 程度増え、TrueType フォントの場合は、それ以上に増えるので、ご注意ください。

フォント ライセンス制限により、埋め込むことができないフォントもあります。

以下へのフォントの埋め込み ***PitStop Pro***

アクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルの一部としてフォントを埋め込むことができます。

- アクション リスト: **Non-Base14** フォントを埋め込み
- アクション：フォントの埋め込み
- グローバル変更：フォントの埋め込み
- プリフライトチェック：フォント > 埋め込まれていない (フォントの埋め込み属性)

8.49.2. フォントのサブセット

フォント全体を埋め込む代わりに、フォントのサブセット (テキストで実際に使用しているフォントの文字) だけを埋め込むことができます。フォントのサブセットを実行すると、ファイルのサイズをできるだけ小さく抑えることができます。ファイルにテキストを追加する予定がない場合 (フォントの文字が増えない場合)、特にこの方法を推奨します。同じフォントサブセットがある 2 つ以上の PDF 文書を結合すると、結合したセットから重複した文字情報が削除されないので、ご注意ください。このような場合、ファイルサイズはかなり大きくなります。

ただし、オリジナルのフォントで読者がファイルを表示することが重要ではない場合、フォントをまったく埋め込まないで、必要に応じて、Acrobat にフォントを置換させてください。これでファイルサイズが最小限に収まります。当然ながら、ファイルサイズを小さくすれば、ファイル転送が容易になります。

8.49.3. 正確なフォント名の確認

フォントには、異なる名前を付けることができます。そして、ソースアプリケーションで表示されるフォントの名前が、「本当の」内的なフォント名と同じとは限りません。

たとえば、ワードプロセッサプログラムまたは DTP プログラムで表示される Adobe Type 1 フォントの「Times」には、「Times-Roman」という PostScript 名があります。TrueType にある対応するフォント「Times New Roman」も同じです。このフォントの名前は、Adobe Acrobat では「TimesNewRoman」(スペースがない) となります。

そのため、PitStop Pro のダイアログボックスでフォント名を手動で入力する場合は、Adobe Acrobat 内で表示されているとおりにフォント名を正しく入力してください。PDF ファイルを使用すると、フォント名の正確なスペルを確認できます。

8.50. PDF 文書の中に PDF 文書を配置

8.50.1. PDF 文書の中に PDF 文書を配置することについて

PDF 文書のページを他の PDF 文書の中に配置することができます。たとえば、手動面付けを実施する場合や、1 つまたは複数の PDF 文書の複数ページを、他の PDF 文書の 1 ページの中に「n 面付け」する場合に、この操作が必要になります。

配置済みの PDF 文書は「フォーム」になり、[フォームの編集] ツールを使用してそれらを操作できます。

8.50.2. PDF 文書を PDF 文書の中に配置する手順

1. PDF 文書を開くか、[ファイル] > [新規] を選択して新しい空白の PDF 文書を作成します。
2. PitStop 編集（ツールの下）を開き、をクリックします。
3. [閲覧] をクリックし、ソース PDF 文書を選択します。

   ソース PDF 文書とは、現在使用中の PDF 文書の中に配置するものを指します。
4. PDF 文書に複数のページがある場合は、[ページを使用] ボックスにページを指定します。

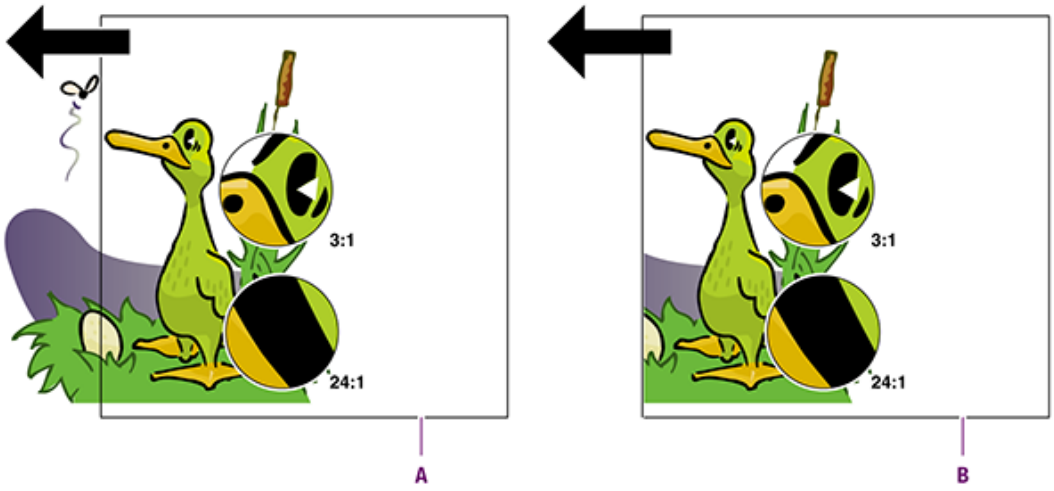
   選択したページのプレビューが表示されます。
5. 使用するソース PDF 文書のページ ボックスを選択します。
6. 以下のいずれかを実行し、PDF の配置場所を指定します。
   - [矩形を追加] ツール または ツール を使用して、PDF を配置するページの矩形を描画し、その後、[選択] ボタンのオプション から [選択範囲から領域を選択] を選択します。
   - [オブジェクトの選択] ツール を使用してPDF 文書の中にあるオブジェクトを選択し、[選択] ボタンのオプション から [選択範囲から領域を選択] を選択します。
   - [選択] ボタンのオプション から [ページ ボックスから領域を選択] を選択します。
   - **[PDF** の配置] ダイアログ ボックスで座標を指定または訂正します。
7. 配置済みの PDF のアンカーポイント の位置を選択します。
8. 必要な場合はスケーリング オプションを選択し、[縦横比率のロック] を使用して、縦横比率を維持しながら配置済みの PDF のページをスケーリングします。
9. 必要な場合は、[選択オブジェクトの削除] オプションを選択します。たとえば、PDF 文書の中にプレースホルダが存在している場合は、この機能を使用することがあります。
10. **[OK]** をクリックします。

8.51. フォームの編集

8.51.1. フォームについて

フォームとは、PDF 文書の中にある矩形の枠のことであり、画像や配置済みの PDF のようなオブジェクトをその中に収容できます。これらのフォームやその中にあるオブジェクトを編集する方法は、PDF 文書の中にある通常のオブジェクトとは異なります。たとえば、通常のオブジェクトの場合は、オブジェクトを選択し、PDF 文書のページ内の任意の場所に移動すること

ができます。フォームの中にあるオブジェクトの場合は、フォームの中でのみ移動できます。したがって、フォームを使用してオブジェクトをクロップすることもできます。



A. 通常の矩形の外側に移動したオブジェクト。
B. フォームの中で移動したオブジェクト (このオブジェクトはクロップされます)。

8.51.2. フォームを編集する手順

フォームを編集するときの手順は以下のとおりです。

- フォームの中にある個別のオブジェクトを編集する手順 314 ページの
- フォーム自体またはフォームの中にある内容全体を編集する手順 314 ページの

8.51.3. フォームの中にある個別のオブジェクトを編集する手順

フォームの中にある個別のオブジェクトを編集することが必要な場合があります。たとえば、ある PDF 文書を他の PDF 文書の中に配置し、その後、配置済みの PDF の中でオブジェクトの移動やテキストの編集を行います。この操作は、通常の PDF 文書を編集する場合と同じ方法で実行できます。

- [オブジェクトの選択] ツール を使用して、フォームの中にある個別のオブジェクトまたはテキストセグメントを選択し、[選択対象の移動] ツール を使用して、黄色い境界線で表現されるフォームの中で選択対象を移動します。
- [テキスト行の編集] または [段落の編集] ツールを使用して、フォーム内のテキストを変更します。

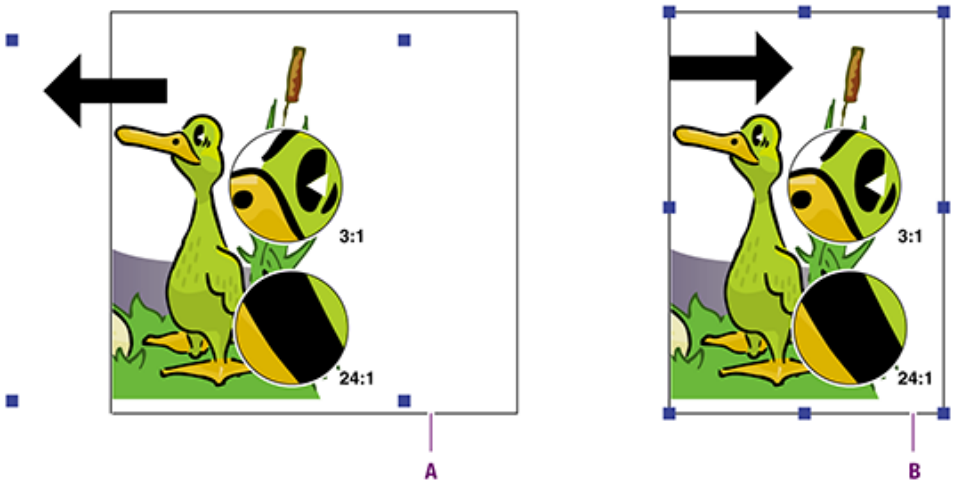
8.51.4. フォーム自体またはフォームの中にある内容全体を編集する手順

[フォームの編集] ツール を使用して、以下のいずれかを実行します。

- 以下の操作手順に従って、フォーム自体、またはフォームの内容を選択します。

クリック操作	次のレンダリングインテントを使用
1 回クリック	フォームのみを選択
CTRL- クリック (Windows) または⌘- クリック (Macintosh)	フォームとその内容を選択
ALT- クリック	内容全体が選択されるが、フォーム自体は選択されない
SHIFT+ 上記のキーの組み合わせ	複数のフォームや複数の内容を選択

- フォームの中で内容を移動するには、その内容をクリックし、**CONTROL (CTRL)** キー (Windows) または **Command (⌘)** キー (Macintosh) を押したまま、目的の場所までドラッグします。
- フォームの中で内容をクロップするには、その内容をクリックし、**CONTROL (CTRL)** キー (Windows) または **Command (⌘)** キー (Macintosh) を押したまま、フォームの境界の外側まで内容をドラッグします。また、内容をそのままにして、フォームのサイズを変更することもできます。



A. フォームの境界の外側まで内容をドラッグしてフォームの内容をクロップ
B. フォームのサイズを変更してフォームの内容をクロップ

- 内容をフォームの外部に移動し、ページ内の他の場所に配置するには、内容を切り取ってから貼り付けます。

8.52. 選択をラスタライズ

8.52.1. 画像のラスタライズについて

オブジェクトをラスタライズするとは、画像に変換することを意味します。一般的には、処理をスピードアップするため、ファイルの複雑さを減らして行います。

複数のオブジェクトを1つの画像に変換することは不可能な場合があります。PitStopはファイルの見え方を変えること無く、できるだけ少ない数の画像を作成しようとします。これを実現するために、レイヤー、カラースペース、オブジェクトの位置などが考慮されます。たとえば、2つのオブジェクトを2つの異なるカラースペースでラスタライズすると、2つの画像が生成されます。異なるレイヤー上のオブジェクトは異なる画像になり、（これによりファイルの見え方が変わるため）重ならないオブジェクトは他のオブジェクトがその間に存在しない場合にのみ1つの画像になります。

8.52.2. 選択をラスタライズするには

このタスクにより、PitStop Proに統合された機能を使用し、選択をラスタライズ方法が説明されます。代わりに、アクションリストに埋め込まれたラスタライズ選択アクションを使用することもできます。

選択をラスタライズするには

1. [オブジェクトの選択]ツールを使用し、選択を作成しいます。

2. 次のいずれかを実行します。
   - メニューバーで、**[PitStop Pro]** > [オブジェクト] > [選択をラスタライズ]をクリックします
   - 文書で右クリックし、コンテキストメニューから［選択をラスタライズ］を選択します。

3. ［選択をラスタライズ］ダイアログで、必要に応じてオプションを設定します。
   既定では、ラスタライズはオブジェクトの見え方に影響しません。しかし、わずかに見え方が違っても構わない場合は、高度なオプション（一部）を有効化できます（たとえば、別のカラースペースへの変換）。これらのオプションは、使用すると文書の外観が変わる可能性があることを示す警告アイコンが付いています。

オプション	選択
生成されたビットマップの解像度(ppi)	任意の値を入力します。 **注:** 画像の解像度を変更するためこのアクションを悪用しないでください。画像のリサンプリングのような

オプション	選択
	専用のアクションを使用すると、結果ははるかに良くなります。
圧縮	選択肢は次のとおりです: • JPEG • JPEG2000 • ZIP • なし
品質	選択肢は次のとおりです: • 最小 • 低 • 中 • 高 • 最大
アンチエイリアスを使用	チェックボックスを選択または、クリアします。 アンチエイリアスをオフにすると、画像をラスタライズした際に現れる細いホワイトラインを防ぐのに役立つことがあります。
結果として生じた新しい画像をインデックスカラースペースに変換	チェックボックスを選択または、クリアします。
ブレンド対象	このオプションにより、選択したオブジェクトでカラースペースを指定することが可能になり、文書の外観がわずかに変わることがあります。選択肢は次のとおりです: • ページ ブレンド スペース • グレー • RGB • CMYK
ブレンドおよびオーバープリント制限を無視	チェックボックスを選択または、クリアします。 普通、単一の結合した画像を作成する場合、オーバープリントとブレンドスペースは尊重されます。しかし、（外観が変更されることがあるため）これが不可能な場合は、エラーが報告されます。その場合、特に値が多く追加されない場合は、ブレンドとオーバープリントの制限を無視することもできます。

オプション	選択
元のレイヤー構造を無視	チェックボックスを選択または、クリアします。 普通、レイヤー構造は維持され、画像はオリジナルのオブジェクトと同じレイヤーに残ります。このオプションを有効化すると、レイヤー構造とレイヤープロパティは無視され、印刷しない非表示レイヤーとレイヤーが新しい画像に含まれることになります。新しい画像はどのレイヤーにも表示されません。レイヤー自体は削除されません。
1 つの画像に強制	チェックボックスを選択または、クリアします。 選択すると、選択したオブジェクトを単一の画像にするため、すべての上のオプションは有効になります。
強制的に個別の画像にする	チェックボックスを選択または、クリアします。 これを選択すると、選択したオブジェクトはラスタライズされ、個別の画像として保存されます。このオプションは、**[**ブレンド対象**(**カラースペース**)]**オプションと互換性があります。
元の内容を維持して、結果として生じる新しい画像を配置	選択肢は次のとおりです: • ページの前 • ページの後 • 元の内容の前 • 元の内容の背後

4. ダイアログの上部で**[**ラスタライズ**]**ボタンをクリックします。
ラスタライズの結果は、たとえばラスタライズが成功した場合は「画像制作済み」、または問題がある場合は、「...のため画像はラスタライズできませんでした」というように、このダイアログの下のレポートセクションに表示されます。関連する画像数は、「カウント」の下の右下隅に表示されます。

9. アクションリスト、グローバル変更、およびQuickRunによる作業の自動化

9.1. アクションリストによる作業の自動化

アクションとアクションリストの概要と、作業を自動化するために使用する方法については、この章をお読みください。

9.1.1. アクションとアクションリストの概要

PitStop Pro を使用する主な理由の 1 つに、PDF 文書の編集機能があります。例えば、テキスト（または書式）またはオブジェクトを変更したり、ページレイアウトを変更したり、印刷または画面表示用に文書を準備したりできます。

このような変更は手動で1つずつできますが、1つのPDFドキュメントの特定文書または複数のPDF文書でこのようなタスクを何回も実行する場合、アクションとアクションリストを使用して自動化することをお勧めします。

アクション

アクションは定義済みのタスクで、PitStop Proによって提供されます。アクションをそのまま使用することも、必要に応じて属性を変更して変更することもできます。また、独自のアクションを記録して後から再利用することもできます。

例：

- フォント色の変更
- 線幅のノーマライズ
- 背景を追加

一覧のアクションは、PDFの変更および編集を実行できるアクションの例ですが、アクションを使用して、選択、情報収集、およびPDFが特定の基準に準拠しているかどうかの確認もできます。

アクションリスト

アクションは常にアクションリストにあります。アクションリストは*1*つ以上のタスクのシーケンスです。多くの場合、複数のタスクを順次実行する必要があり、一般的に固定順序で、これらのアクションリストによってPDFファイルで複雑な処理を実行できます。

例えば、文書のレイアウトを変更する場合、4つの異なるタスク（4アクション）を実行できます。まず、テキストを選択し、フォントを選択します。その後に、フォントサイズを変更し、必要に応じて色を変更します。これらのタスクを1つのアクションリストにグループ化し、アクションリストを1回だけ実行できます。別のPDFなどで後から同じことをする必要がある場合、アクションリストを再利用するだけです。

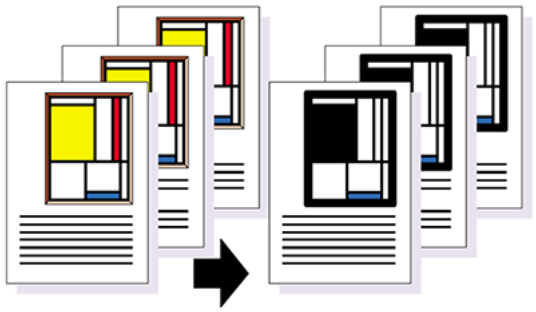
Enfocus Instant PDFのPDF Queue、Enfocus ConnectのConnector、Enfocus PitStop Serverのホットフォルダなど、他のEnfocus製品のアクションリストを使用できます。

9.1.1.1. アクションとアクションリスト：例

ジョブの概要

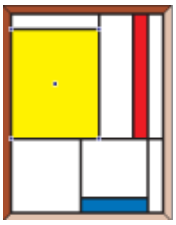
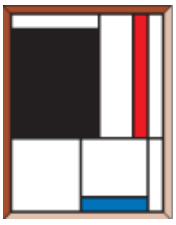
いくつかの PDF 文書に線画オブジェクトがあると仮定します。これらのすべてのPDF文書で次のことができます。

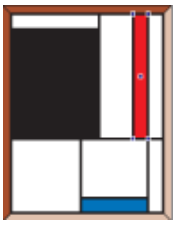
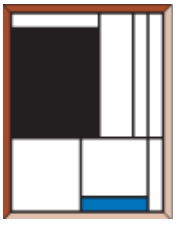
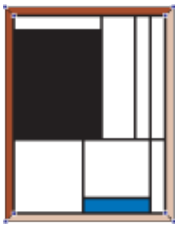
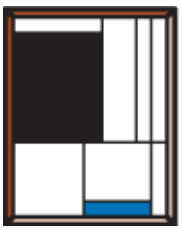
- このオブジェクトのさまざまな領域の塗りつぶしカラーを変更する。
- 特定の線幅よりも細いオブジェクトのすべての線の幅を変更する。



アクションリストを使用したジョブの自動化

このジョブには、さまざまな連続タスクまたは「アクション」（以下の表を参照）があります。個別の作業は、「ラインアートのプロパティの変更」という 1 つのアクション リストにグループ化でき、1 つまたは複数の PDF 文書または PDF 文書全体に適用できます。

工程	アクション	図
1	オブジェクトの塗りのカラーを選択する。	
2	オブジェクトの選択した塗りのカラーを変更する。	

工程	アクション	図
3	オブジェクトの別の塗りのカラーを選択する。	
4	オブジェクトの選択した塗りのカラーを削除する。	
5	特定の線幅を持つオブジェクトの線を選択する。	
6	選択した線幅を変更する。	

9.1.2. アクションとアクションリストの検索方法

アクションとアクションリストは、PitStop Proの[アクションリスト]ダイアログからアクセスできます。場所はAcrobatバージョンによって異なります。

次の表は、[アクションリスト]ダイアログの開き方を説明します。

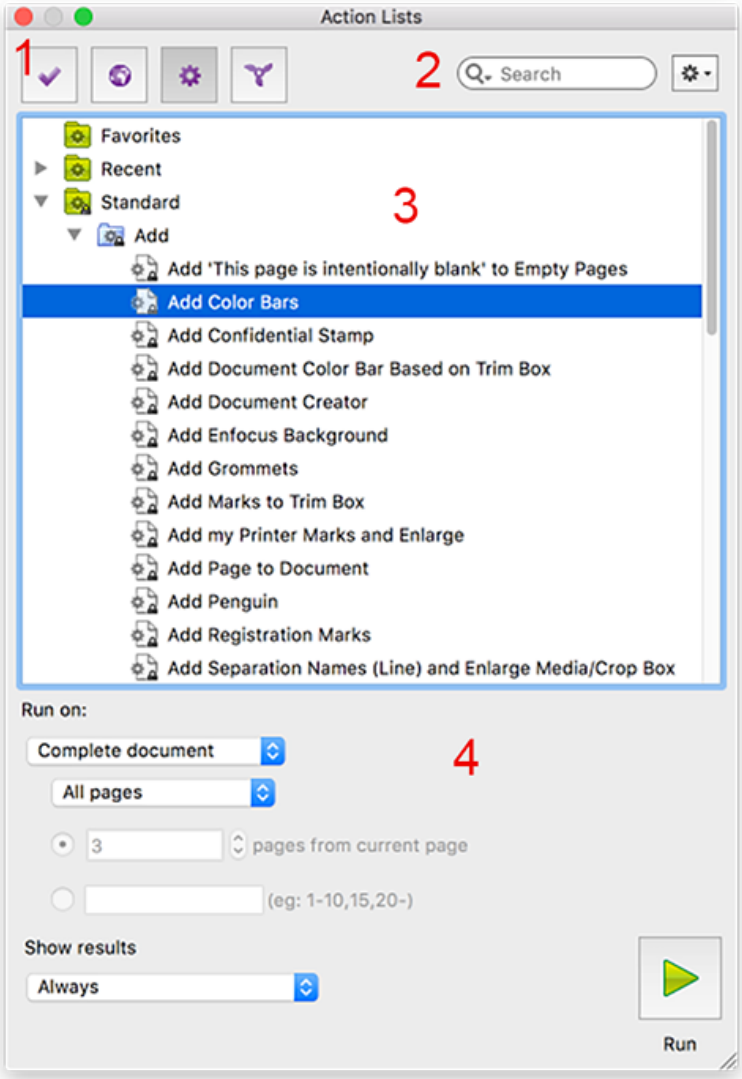
OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**PitStop Pro** > [アクションリスト]をクリックします。 • [ツール] で、[**PitStop** プロセス] > [アクションリスト]の順に選択します。
Windows ショートカット	Alt+Ctrl+Aを押します。

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Mac ショートカット	⌥⌘A キーを押します。

9.1.2.1. アクションリストダイアログ

[アクションリスト]ダイアログでは、アクションリストの整理、表示、および実行ができます。

- 既存のアクションリストまたは空のアクションリスト（新しいリストを作成）を開くことができます。
- アクションリストのインポート、エクスポート、複製、およびグループ化ができます。
- 編集中のPDFの1ページ以上に適用するなど、アクションリストを実行できます。



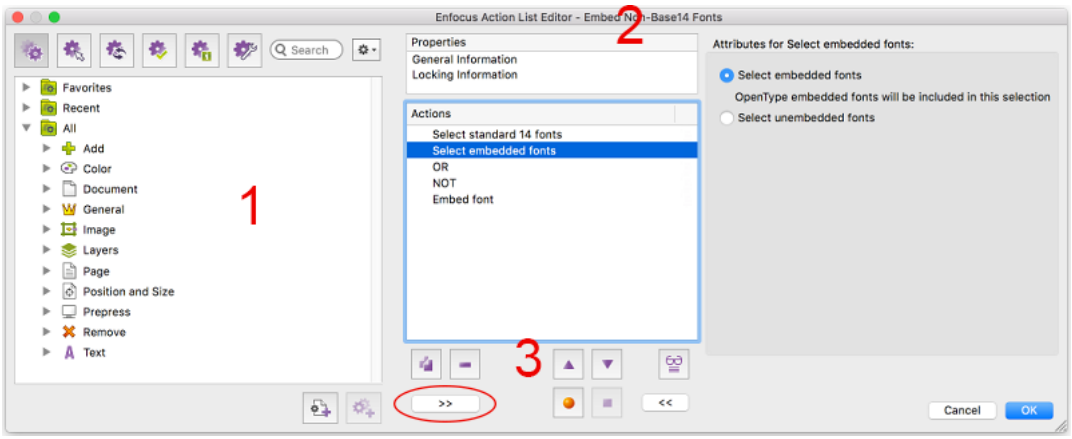
[アクションリスト]ダイアログには次の画面パーツがあります。

#	説明
1	アクションリスト（  ）と他の「Preset」（プリフライトプロファイル  、グローバル変更、  、およびQuickRuns  ）を切り替えるボタン。
2	検索フィールド（特定のアクションリストを検索）とメニュー  （アクションリストの整理）。
3	使用可能なアクションリストが表示されるワークスペース。アクションリストは、「データベース」フォルダで整理されます。既定では、次のフォルダがあります。 • お気に入り：アクションリストはお気に入りに設定されます。これにより、頻繁に必要なアクションリストにすばやくアクセスできます。 • 最近使用した項目：最後に使用した10個のアクションリスト。 • 標準：PitStop Pro（カラー、フォント、イメージなどのサブフォルダでグループ化）でインストールされた既定のアクションリスト。  ヒント: アクションリストで実行できる処理については、アクションリストをダブルクリックし、内容（含まれるアクション）と説明を確認します。 • ローカル：編集および作成したアクションリストはローカルに保存されます。
4	ダイアログの下部では、ダイアログの上部で選択されたアクションリストを実行できます。*Enfocus* ナビゲータ 342 ページのので、アクションリストを実行するページと、結果を表示するかどうかを指定する必要があります。

9.1.2.2. アクションリスト エディタ

アクションリストエディタは[アクションリスト]ダイアログからアクセスできます。アクションをダブルクリックするか、コンテキストメニューの[新規] > [新規]を選択すると、このダイアログが表示されます。アクションリストの内容を変更できます。

- アクションリストの説明を変更するか、パスワードを使用してアクションリストを保護できます。
- アクションリストにアクションを追加するか、削除できます。
- アクションリスト内でアクションを整理できます（グループ化や順序の変更など）。
- アクションリスト内の各アクションの属性を変更できます。



[アクションリストエディタ]には次の画面パーツがあります。

#	説明
1	使用可能なアクションのリスト。既定ではリストは折りたたまれていますが、アクションの表示ボタンをクリックすると簡単に展開できます。 < これらのすべてのアクションはアクションリストで使用できます。
2	ダイアログの中央と右側の部分は、選択された（または新しい）アクションリストに適用されます。次の項目が含まれます。 • 一般情報。アクションリストの名前と説明など。 • ロック情報。アクションリストがパスワード保護されているかどうかを示します。 • アクションリストに含まれるアクションの概要。 注: プロパティまたはアクションの下の項目をクリックすると、ダイアログの右側に対応する情報が表示されます。上記の例では、右側のペインに選択したアクションの属性が表示されます（埋め込まれたフォントの選択）。
3	アクションリストの内容を操作できるさまざまなボタン。これらのボタンの意味は次の表を参照してください。

ボタン

ボタン	クリック
<<	現在のアクションリストに追加できるアクションのリストを表示します。「アクション概要 325 ページの」を参照してください。
	完全なアクション リストを現在のアクション リストにインポートします。「アクションリストでの演算子の使用 333 ページの」を参照してください。
	アクションリストに（使用可能なアクションのリストで選択した）アクションを追加します。

ボタン	クリック
	アクションリストで選択したアクションを複製します。
	アクションリストから選択したアクションを削除します。
	選択したアクションをアクションリスト内で上に移動。
	選択したアクションをアクションリスト内で下に移動。
	記録を開始。
	記録を停止。
	アクションリスト Visualizer を起動。「アクションリスト *Visualizer* を使用したアクションリストのトラブルシューティング 351 ページの」を参照してください。



注: これらの操作のほとんどはコンテキストメニューで実行できます（アクションの複製、アクションの上下への移動など）。

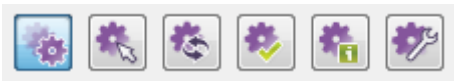
9.1.2.3. アクション概要

アクションリストで使用できるすべてのアクションは、アクションリストエディタの左側のパネルに一覧表示されます。501個以上のアクションがあり、必要なアクションを簡単に見つけられるようにするために、アクションはタイプとカテゴリ別に並べ替えられます。

アクション タイプ



ヒント: ダイアログの上部のボタンを使用して、さまざまなアクションタイプを切り替えることができます。最初のボタンにはすべてのアクションタイプが表示されます。



-  選択対象

  PDF 文書中の対象物および設定を変更するには、事前に変更対象を選択しておく必要があります。PDF 文書中で選択できるすべてのアクションは、論理演算子の「AND」、「NOT」、「OR」などとともに、[選択対象] カテゴリにリストされます。

-  変更

  さまざまなアクションで変更ができます。[変更] のリストには、PitStop Pro のような専門的な PDF 編集ツールのほとんどの機能が備わっています。機能には、次のようなものがあります。

  - オブジェクトまたはページ番号の追加

- ページ ボックスなど、さまざまなプロパティの変更
- カラー変換
- オブジェクトの削除
- ページ内容の回転とスケーリング
- フォントおよびカラー関連の変更



注: 「変更」アクションごとに、レポートに変更を記録するかどうかを決定できます。

-  検証

  アクションリストでは、必ずしも PDF 文書を変更する必要はありません。PDF 文書にあるさまざまなプロパティを検証したり、特定のオブジェクトや要素を検出するときにも、アクション リストを作成できます。たとえばアクションリストは、フォント関連のプロパティを検証したり、PDF 文書にある空白ページを検出したりできます。

  注: 「チェック」アクションごとに、レポートに記録するかどうかを決定できます。記録する場合は、ステータス（「警告」、「サインオフエラー」、または「エラー」）を割り当てることができます。詳細については、*Enfocus* ナビゲータ 342 ページのを参照してください。

-  通知

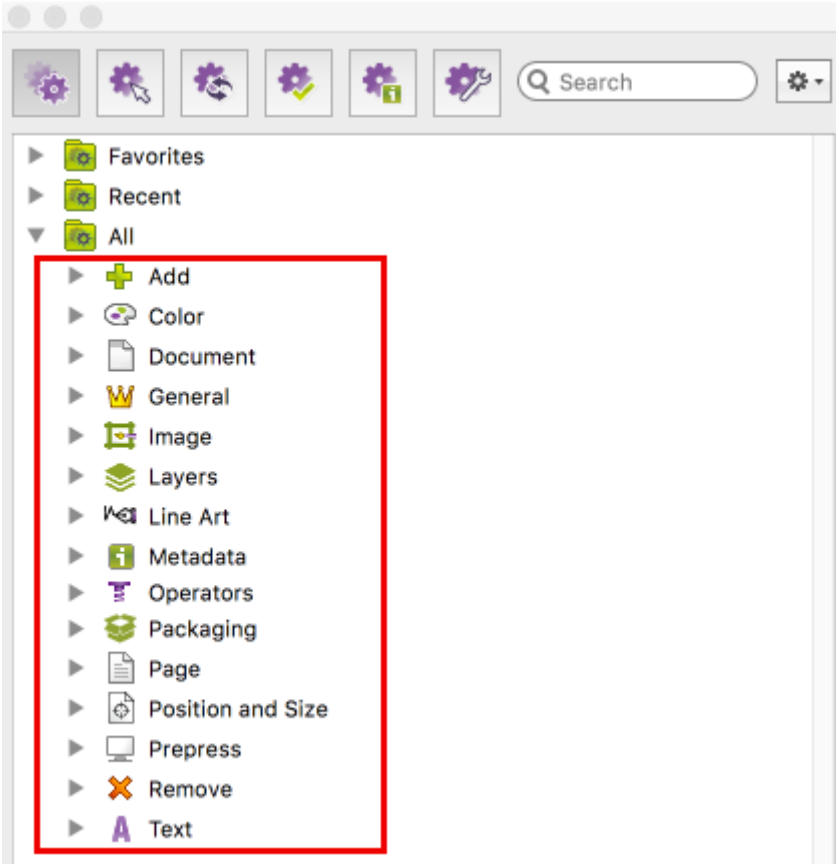
  アクションリストは PDF 文書から情報を収集することもできます。これは、フォント、カラー、OPIなどの情報です。この情報は、Enfocusナビゲータから使用できるレポートに表示されます。*Enfocus* ナビゲータ 342 ページのを参照してください。

-  設定

  アクションリストを使用すると、画像圧縮、ページボックス、管理設定などの特定の既定のPitStop Pro設定を変更したり、値の確認時に考慮される小数点の桁数を変更できます。

アクションカテゴリ

アクションは、さらに、適用される領域（カラー、ページ、プリプレスなど）を参照するさまざまなカテゴリに分類されます。



検索フィールド

必要なアクションを検索するには、ペインの上にある検索フィールドにキーワードを入力します。検索は選択したアクションタイプに制限されます。例えば、ペインの上部で「チェック」アイコンをクリックした場合は、PitStop Proは「チェック」アクションのリストで入力したキーワードのみを検索します。

特定のアクションタイプに絞り込まない場合は、必ずすべてのアクションビュー（  ）に切り替えてください。

9.1.3. アクションリストでの作業

この章では、アクションリストを作成、編集、実行するために理解しておくべきことについて説明します。

9.1.3.1. アクションリストの操作：進める方法

アクションリストの操作には次の手順があります。

1. まず、新しいアクションリストを作成するか、既存のアクションリストを編集する必要があります。「アクション リストの作成と編集 328 ページの」を参照してください。

つまり、既存のアクションリストを選択するか、新しい空のアクションリストを開いて、ニーズに合わせて変更する必要があります。変更せずにアクションリストを使用することはほとんどできません。

次に、アクションリストを設計する必要があります。

- 必要に応じて、アクションを追加または削除します。あるいは、アクションを記録するか、他のアクションリストをインポートできます。必要に応じて、アクションリスト内で（グループ化など）で、アクションを整理します。
- 必ず正しい演算子（AND、OR、NOT）を使用します。
- アクションリストの各アクションの属性を設定します。
  - 任意で変数または正規表現を使用して必要な値を入力します。場合によっては、編集中の文書から値を取得できます。
  - 必要なログレベル（「チェック」アクションのみ）を入力するか、変更を記録する必要があるかどうかを指定（「変更」アクション）します。

2. アクションリストが準備できたら、保存して実行し、想定通り動作しているかどうかを確認します。「アクション リストの実行 341 ページの」を参照してください。



ヒント: 複雑なアクションリストの場合、アクションリスト Visualizer を使用してアクションリストをデバッグすることができます。

3. Enfocusナビゲータを使用してアクションリストの結果を確認し、必要に応じてレポートにエクスポートできます。「アクションリストの結果の確認 342 ページの」を参照してください。
4. 該当する場合、Enfocus ナビゲータまたはプリフライトレポートで報告された問題を修正できます。問題の修正 347 ページの

備考

ほとんどのアクションリストは選択（「すべて選択」アクションなど）から始まり、1つ以上のチェックまたは変更（選択したオブジェクトの色の変更、選択したテキストのフォントの変更など）が続きます。

デフォルトでは、オブジェクトを選択すると、完全にクリップされたオブジェクト（非表示）も選択されます。これを行わない場合は、まず削除することをお勧めします。「完全にクリップされたオブジェクトを選択」アクションと「選択の削除」アクションを使用して、これを実行できます。

9.1.3.2. アクション リストの作成と編集

アクションリストを編集する理由

ほとんどの場合、ニーズに合わせて調整せずに、定義済みアクションリストを使用することはできません。例えば、*Enfocus*背景をPDFに追加（「Enfocus背景の追加」アクションリストの使用）せず、独自の企業背景を追加します。最も簡単な方法は、既存の「Enfocus背景の追加」アクションリストを編集し、Enfocus背景画像を独自の背景画像で置換することです。

新規アクションリストを作成する理由

PitStop Proにはさまざまな既定のアクションリストがありますが、PDFで実行可能な操作は非常に多いため、定義済みのアクション以外に、他のタスクの組み合わせやシーケンスが必要になると考えられます。

アクションリストの作成方法

アクションリストは、さまざまな方法で作成できます。

- 最初からまたは既存のアクションに基づいて「手動」で作成。アクション（選択、変更、演算子）をアクションリストに追加または削除するか、1つずつ変更する。「アクションリストの作成 330 ページの」を参照してください。
- 記録する。これはアクションリストを作成する、非常に直感的な方法です。PDFファイルを開き、さまざまなタスクを実行し、これらのタスクを記録します。記録を停止すると、記録した内容がアクションとしてアクション リストに追加されます。
- Enfocus Webサイト(*www.enfocus.com*)にあるEnfocusアクションリストライブラリからサンプルをダウンロードし、PitStop Proのコピーにインポートします。PitStop Proの既定のアクションのように、編集して変更できます。
- アクションリストとしてグローバル変更を保存する。詳細については、www.enfocus.com>*Enfocus Webサイト*にあるグローバル変更マニュアルを参照してください。

アクションリスト エディタ

アクションリストはアクションリスト エディタで作成および編集できます。このダイアログはさまざまな方法で開けます。

- 新しいアクションリストを開くには、[アクションリスト]ダイアログで、  > [新規] > [新規]をクリックします。
- 既存のアクションリストを開くには、アクションリストダイアログをダブルクリックします。

アクションリストの編集

多くの場合、既存のアクションリストに事前定義の値などの小さな変更を加えるだけで使用することができます。

既存のアクションリストを編集する手順

1. [アクションリスト]ダイアログを開きます。
   アクションとアクションリストの検索方法 321 ページのを参照してください。
2. 関係するアクションリストをダブルクリックします。

   注: または、編集をするアクションリストを選択し、  > [編集]をクリックします。

   アクションリストが完全にロックされている場合、アクションリストのコンテンツを見る前にパスワードを要求されます。

   もし部分的にロックされている場合、アクションリストのコンテンツを見ることはできますが、変更を行う前に[ロック]アイコン  をクリックし、パスワードを入力する必要があrます。アクション リストのロック 350 ページのを参照してください。
3. 必要に応じて[プロパティ]セクションを入力します。
   - [全般情報] を選択し、アクション リストの名前、作成者、会社、アクション リストの説明を設定します。

- [ロック情報]を選択し、適切なオプションを選択してください。アクション リストのロック 350 ページのを参照してください。

4. 必要に応じてアクションを追加、削除、またはアクションの属性の変更を行い、アクションリストをデザインします。
   アクションリストの設計 331 ページのを参照してください。
5. 必要なすべての変更を行った後、**[OK]**をクリックします。

   注: 複数のアクションの属性を変更する場合、すべてのアクションに変更を加えるまで**[OK]**をクリックしないでください。**[OK]**をクリックして、アクションリストエディタを終了します。

   変更されたアクションリストがローカルデータベース（フォルダ）に保存されます。

アクションリストを実行する準備が整いました。

アクションリストの作成

新規アクションリストの作成手順

1. [アクションリスト]ダイアログを開きます。
   アクションとアクションリストの検索方法 321 ページのを参照してください。
2. [アクションリストエディタ]を開きます。
   - 既存のアクションリストから新規に作成するには、> [新規] > [既存から新規作成/ファイルから新規作成]をクリックし、基にするアクションリストを選択します。

     [既存から新規作成]オプションでは、標準データベースの既存のアクションリストを選択することができます。また、[ファイルから新規作成]オプションでは、コンピュータのファイル（*.eal）を選択することができます。
   - 新しいアクションリストを最初から作成するには、> [新規] > [新規]をクリックします。
3. 必要に応じて[プロパティ]セクションを入力します。
   - [全般情報] を選択し、アクション リストの名前、作成者、会社、アクション リストの説明を設定します。
   - [ロック情報]を選択し、適切なオプションを選択してください。アクション リストのロック 350 ページのを参照してください。
4. 必要に応じてアクションを追加、削除、またはアクションの属性の変更を行い、アクションリストをデザインします。
   アクションリストの設計 331 ページのを参照してください。
5. 必要なすべての変更を行った後、**[OK]**をクリックします。

注: 複数のアクションの属性を変更する場合、すべてのアクションに変更を加えるまで**[OK]**をクリックしないでください。**[OK]**をクリックして、アクションリストエディタを終了します。

アクションリストを実行する準備が整いました。

アクションリストの設計

必要に応じて、既存または新しい空のアクションリストを調整できます。

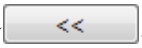
- 必要に応じて、アクションを追加または削除できます。
- アクションのグループ化、順序の変更、または演算子の使用ができます。
- 変数または正規表現などの属性を変更できます。

アクションリストにアクションを追加する

アクションリストにアクションを追加するには3つの方法があります。

- 使用可能なアクションの一覧から選択し、手動でアクションリストに追加することができます（[アクションリストエディタ]の左側）。
- アクションをサンプルPDFで（一度だけ）実行する間し、それを記録することができます。その場合、記録するアクションを実行する PDF文書 (またはサンプル文書) を開いておきます。
- 新しいアクションリストで実行するアクションを含む既存のアクションリストを取り込むことができます。

このトピックではアクションリストを[アクションリストエディタ]で開いていると想定します。

1. アクションを手動で追加
   a. すべてのアクションを見るには、必要に応じて[拡張]ボタン 

をクリックします。
   b. 適当なストロークを検索し、選択します。
   c. 追加したいアクションをダブルクリックします。

      または、  をクリックするか、アクションをアクションリストにドラッグします。
   d. 必要なすべてのアクションで上記の操作を実行します。

      注:

      - 演算子（[選択]の下で[AND]、[OR]、[NOT]が利用可能）は、選択の後に入力しなければならないことに注意してください。アクションリストでの演算子の使用 333 ページのを参照してください。

      - ペインの一番下にあるボタンを使い、アクションの削除または複製、もしくはアクションリストのアクションの順番を変えることができます。または、アクションを新しい場所へドラッグすることもできます。順番を変更することで結果が変わる場合がありますのでご注意下さい。
2. アクションリスト用にアクションを記録する

a. [記録の開始] ボタン  をクリックします。

[記録の開始]ボタンはグレーアウト表示になり、[記録の停止]ボタン  が使用可能になります。この時点から、PitStop Pro のツールを使用して実行する全てのアクションが記録されます。



注: PitStop Pro のツールとコマンドのみを使用してアクションを実行していることを確認してください。Adobe Acrobatのツールやその他のプラグインを使用した操作はいっさい記録されません。

b. コマンドを選択して、記録したいアクションを実行します。

c. [記録の停止] ボタン  をクリックすると、記録は停止します。
これで実行したアクションが[アクション]のセクションの下に追加されました。必要に応じて、これらのアクションの属性を変更することができます。

3. アクションリストを取り込む手順（アクションリストのアクションをお手持ちのアクションリストに追加する）

a.  をクリックします。

b. [データベースから]（アクションリストダイアログから）、または[ファイルから]（コンピュータのファイルから）アクションリストを選択します。

c. [OK] をクリックします。

ロックされたアクションリストを取り込む場合は、取り込み時にパスワードを入力する必要があります。これでアクションリストのロックを解除します。

アクションリストがグループとして（取り込んだアクションリストの名前を使用して）

取り込まれ、アイコンが前に表示されます。取り込みが完了すると、それらのアクションをほかのグループのアクション、またはアクションリストのほかのアクションと同様に変更することができます。

アクションリストからアクションを削除する

間違って追加されたアクション、または必要がないと判断したアクションをアクションリストから削除することができます。

アクションを削除する手順

1. [アクションリストエディタ] で、削除するアクションを選択します。

2. 次のいずれかを実行します。

- 右クリックして、[削除]を選択します。
-  をクリックします。

アクションがアクションリストから削除されます。



注: 削除されたアクションを戻すことが可能です。その場合、利用可能なアクションの一覧から選択してください。ただし属性に変更を加えた場合は、それらは保存されていないため、再度設定する必要があります。

アクションリストのアクションを分類する

アクションリスト内のアクションの分類は、特に精巧なアクションリストにとって重要であり、以下の手順に従うことをお勧めします。

1. 目的のアクションを、できれば「選択」アクション（[すべてのアクションを選択]など）からはじまるように追加します。
2. 必要に応じて、論理演算子 (AND、NOT、OR...) を指定します。「アクションリストでの演算子の使用 333 ページの」を参照してください。
3. [変更]、[チェック]など、選択対象に適用するアクションを追加します。

> **注:** 変更は選択対象のみに適用されます。したがって、まずアクション リストの選択が適切かどうかを確認してください。何も選択しない場合、一部の変更が PDF 文書の全ての要素 (フォントなど) に適用されるか、変更がまったく適用されません。

4. 必要に応じて、アクションを上下に移動します。
5. できるだけアクションをグループ化します（以下の説明を参照して下さい）。

> **注:** グループ化は、アクションリストの結果自体には一切影響しません。

1. アクションを上下に移動するには、次のどれかの手順を実行します。
   - 関係するアクションを右クリックし、[上へ移動]または[下へ移動]を選択します。
   - 関係するアクションを選択し、  または  をクリックします。
   - 関係するアクションを選択し、目的の位置へドラッグします。
2. アクションをグループ化する手順
   a. 関係するアクションを選択します。
   b. 右クリックし、[グループ化]を選択します。
   選択されたアクションは[グループアクション]と呼ばれるフォルダへ移動します。
   c. [グループアクション]を選択し、右側のペインでグループの名前と説明を入力します。

   または、グループアクションのアクションをアクションリストに追加し、適切なアクションをグループにドラッグします。詳細については、「アクションマニュアル」内のこのアクションに関する説明を参照してください。

アクションリストでの演算子の使用

でのオペレーターについて ***PitStop Pro***

PitStop Pro にはさまざまな演算子があり、論理的な方法で複数のアクションを組み合わせることができます。

これらの演算子は、演算子フォルダの  選択の下のアクションリストエディタにあります。

現在、次の演算子を使用できます。

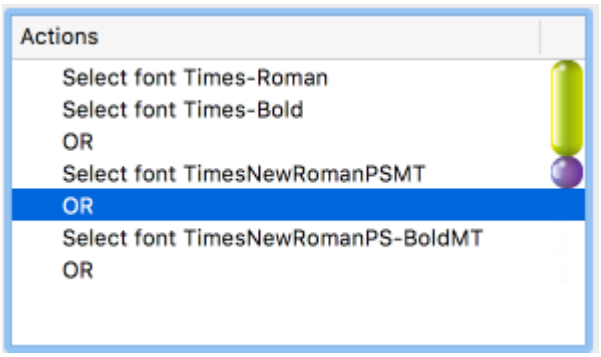
- **AND**、**OR**、**NOT** - 以下で説明。
- すべて選択 - 選択を忘れないように、新しいアクションリストに自動的に追加されます。
- 最後に追加されたオブジェクトの選択 - 前回の「追加」アクションの結果を使用できます。

- ［選択］の前に選択スタックの上部を複製 -主にPitStop Serverによって内部的に使用され、手動でアクションリストを作成するときには使用しないでください。

原則

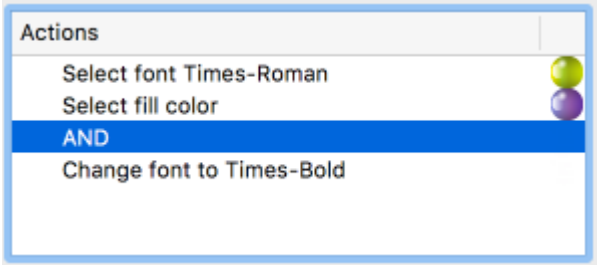
- 演算子（AND、NOT、OR）は複数の選択対象の間ではなく後ろに入力する必要があります(後置記法)。これらの演算子は直前の選択対象に適用されます。

- アクション リスト エディタで演算子が選択されている場合、それによって影響を受けるアクション（アクションのグループ）は緑色および紫色のインジケータで示されます。

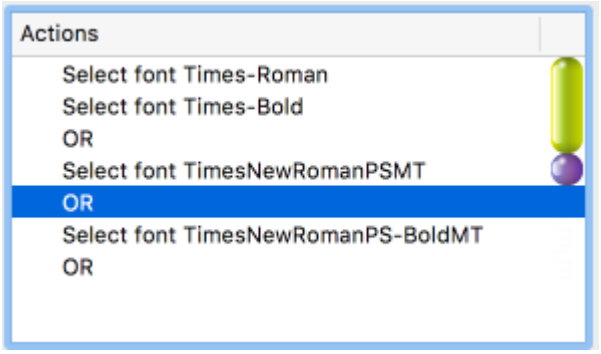


上記の例では、「OR」演算子によって「Select font Times New Roman」というアクション（紫色）、最初の 2 行とそれらの「OR」演算子（緑色）が影響を受けます。

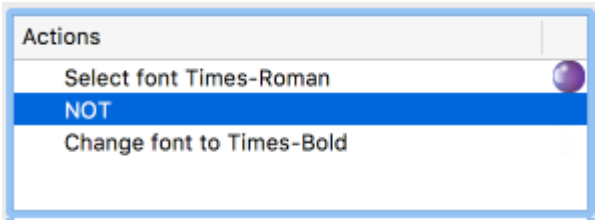
- 演算子 (AND、NOT、OR) は論理演算子なので、厳密に論理的な方法で使用する必要があります。たとえば、フォントとして Times-Roman (Adobe Type 1) と Times New Roman (TrueType) の両方 を選択する場合、AND 演算子ではなく OR 演算子を使用する必要があります (フォントとして Times-Roman と Times New Roman の両方を同時に使用することはできません)。AND 演算子は、たとえば、Times-Roman のテキストであり、かつ カラーが青のテキストを全て選択する場合などに使用します。その場合、アクション リストは次のようになります。



- OR および AND 演算子は直前の **2** つの選択対象のみに適用されます。したがって、2 つ以上の対象を選択したい場合、選択対象の「並び」の適切な位置に複数の演算子を挿入する必要があります。たとえば、フォント Times-Roman （Adobe Type 1）、Times New Roman （TrueType）、およびそれらの太字のフォントを選択したい場合、アクション リストは次のようになります。



- NOT 演算子は直前の **1** つの選択対象のみに適用され、選択対象から除外するものを指定できます。OR および AND 演算子とは異なり、NOT 演算子に必要な選択対象は 1 つのみです。たとえば、PDF 文書で Times-Roman 以外の全てのフォントを Times-Bold に変更したい場合、アクション リストは次のようになります。



この例では、アクション リストにより PDF 文書の全てのフォントが Times-Bold に変更されますが、Times-Roman (標準) はそのまま変更されません。

オブジェクトの属性を設定する

設定できる属性は選択したアクションによって異なります。一部のアクションは属性を必要としません。その他のアクションでは、バージョン番号の長さの指定、色の選択、リストからオプションを選択、チェックボックスを選択するなど、優先する値を入力する必要があります。ほとんどの場合、属性の設定は非常に明瞭です。

注**:** アクションの属性が単位、たとえば長さの指定が必要な場合、PitStop Pro環境設定（単位＆ガイドカテゴリ）で指定されている単位が使用されます。たとえば、サイズの選択アクションを使用している場合、選択するオブジェクトの最小および最大の幅または高さを指定する必要があります。[PitStop Pro環境設定]で「cm」を選択している場合、値は「cm」で指定しなければなりません。

このトピックでは、「特別な例」について説明します。

- 変数を固定値の代わりに使用する手順
- 正規表現を使用する手順
- 「チェック」アクションのログ処理を行う手順
- [ページ回転と倍率を使用]チェックボックス（多くのアクションで使用可能）を使用する手順

1. 変数を固定値の代わりに使用する手順

a. [アクション]リンクをクリックし、[変数の名前を有効化]を選択します。

b. をクリックします。

c. 使用する変数を選択します。
d. 使用する各変数に、手順b～cを繰り返します。
e. **[OK]** をクリックします。

変数セットの定義が必要です。詳細については、「スマートプリフライト」の章、および「PitStop ProReference Guide」のトピック「変数セットの作成」を参照してください。

2. 固定文字列の代りに正規表現を使用する手順
   a. [正規表現を使用する]チェックボックスを有効にします。
   b. 正規表現を使用してルールを作成。最も一般的に使用される記号を使用することができます。

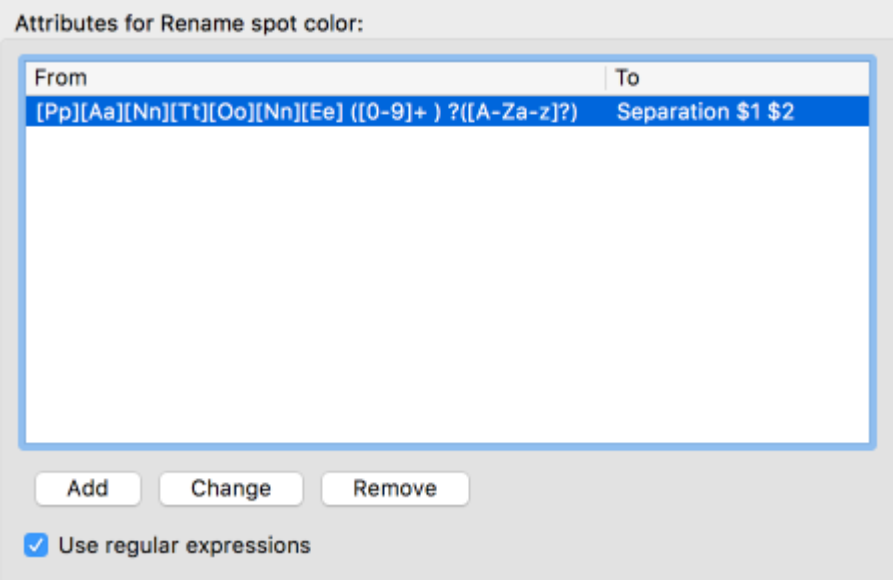
      正規表現は、テキストのパターンを検索する方法の一つです。多くのコンテキストに対して利用できます。たとえば、テキストの一部が一定の条件に当てはまるかどうかをチェックしたり、特定のパターンの文字列を検索および/または置換したりすることができます。PitStop Proでは、特定のアクションの属性を設定するために正規表現が使われています（ただし、一致する/一致しないオペレータとの組み合わせでのみ可能です）。関係するアクションの概要については、Enfocus Webサイトの『アクションマニュアル』を参照してください。

      PitStopでは[強調正規表現]をサポートしています。詳細については、*http://www.boost.org/doc/libs/1_47_0/libs/regex/doc/html/boost_regex/synt ax/perl_syntax.html*を参照してください。

   以下はその例です。

   [特色の名前変更]は、文書に含まれる特色の名前を変更するために使われるアクションです。

   - 同じカラーの変数の名前を変更する場合、たとえば「Varnish0」、「Varnish1」、「Varnish23」（つまり「Varnish」の後に1桁より大きい番号がついている）を「Varnish」（番号がつかない）に名前を変更する場合、「Varnish([0-9])+」 から「Varnish」へ名前を変更するルールを作成することができます。
   - 文書で使われているすべてのスポットカラー名の「Pantone」（大文字/小文字に関係なく）を「Separation」に名前を変更する場合、以下のルールを作成します。



このルールを使用すると、「Pantone 0123 U」から「Separation 0123 U」、「PANTONE 9324 U」から「Separation 9324 U」というように名前が変更されます。

3. 「チェック」タイプのアクションの場合、アクションの結果をログ処理するか、また行う場合どのように行うかを指定する必要があります（[Enfocusナビゲータ]と[レポート]で指定）。
   - ログに記録しない: ログ処理は行われません。
   - 注意としてログに記録: このチェックが選択されている場合、問題は「注意」としてログに記録されます（⚠）。これにより、深刻な問題と、そこまで深刻ではない問題を区別することができます。
   - エラーログを取り、サインオフを許可 (❓):このチェックが選択されている場合、問題は「サインオフ」が可能なエラーとしてログに記録されます。つまりこのエラーは「承認」が可能で、PDF認証に失敗しないマイナーエラーとして評価されます。これは、アクションをCertified PDFのコンテクストで実行する場合にのみ関係します。
   - エラーとしてログに記録: このチェックが選択されている場合、問題は「エラー」としてログに記録されます（✖）。Certified PDFのコンテクストでアクションを実行している場合、このような問題はファイルの認証を妨げます。ファイルの認証前に、問題を修復する必要があります。
4. 設定しているアクションが[ページ回転を使用]または[ページ回転と倍率を使用]チェックボックスを含む場合、以下の手順に従ってください。
   - ページ回転および/または倍率を使用する場合、このチェックボックスを選択します。アクションは、ページコンテンツの実際の位置に適用されます。
   - ページ回転および/または倍率を無視する場合、このチェックボックスを選択解除します。アクションは、ページコンテンツのオリジナルの位置（ページ回転および/または倍率を適用する前の位置）に適用されます。

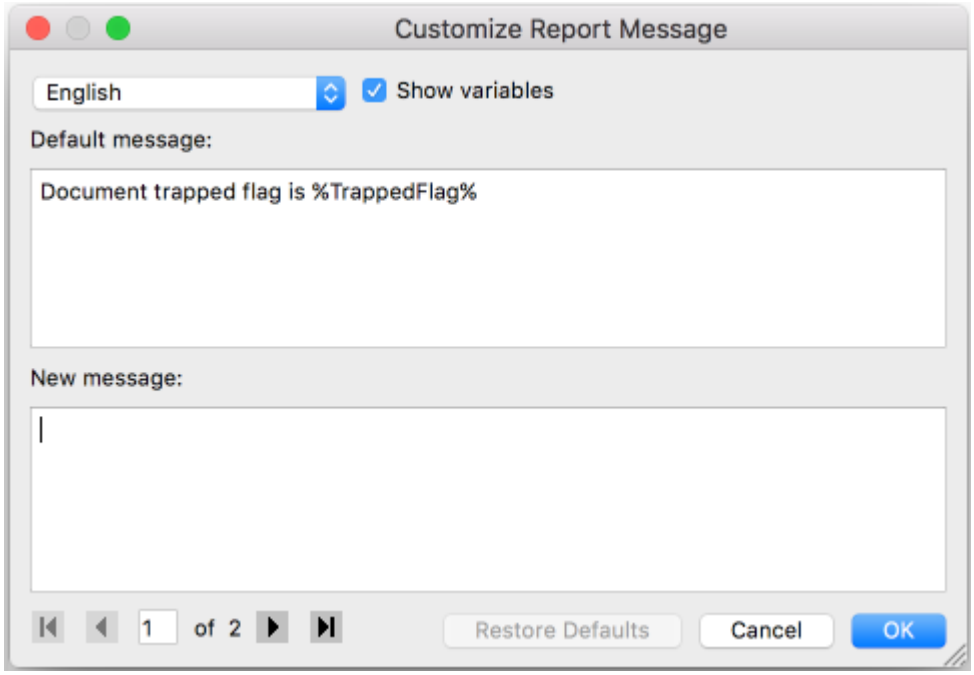
レポートメッセージのカスタマイズ

「チェック」または「変更」アクションの結果、およびプリフライトレポートとEnfocus ナビゲータに表示されるメッセージが複数の方法でカスタマイズできます。例：

- デフォルトテキストを変更し、技術担当者以外にもわかりやすくします。
- その他の情報の追加（問題の場合の対応など）
- 詳細Webページへのリンクの追加

その場合は、次の手順に従います。

1. アクション属性でアクションリンクをクリックします。
2. メニューからレポートメッセージのカスタマイズを選択します。
   [レポートメッセージのカスタマイズ]ダイアログが表示されます。



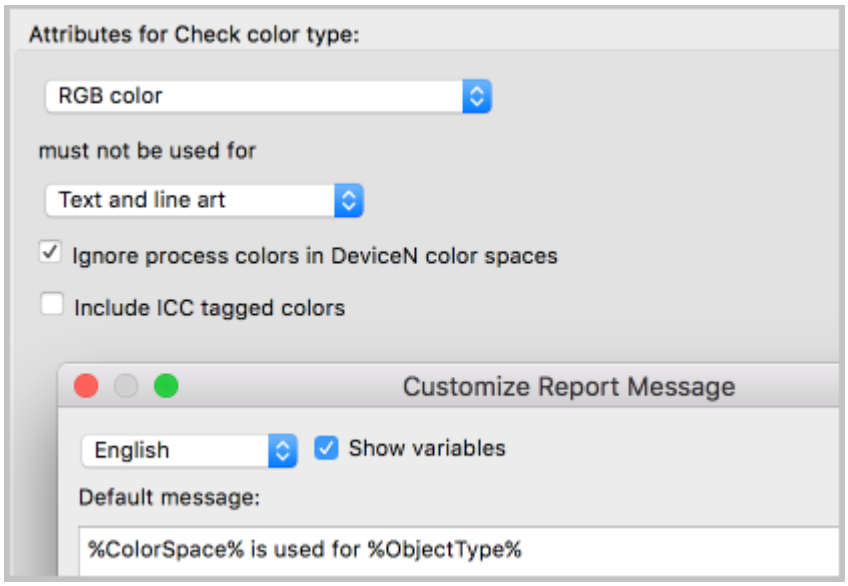
3. 上部のリストから、メッセージを変更する言語を選択します。
   PitStop言語に関係なく、特定のメッセージを表示するには、すべてを選択します。
   デフォルトメッセージは最初のフィールドに表示されます。メッセージに変数が含まれる場合は、変数の表示を選択すると、表示されます。変数は%記号で囲まれています。最終結果（変数が実際の値で置換）をプレビューするには、もう一度チェックボックスをオフにします。
4. 2番目のフィールドに新しいメッセージを入力します。
   入力しない場合、デフォルトメッセージが使用されます。

ヒント: 最初のメッセージの2番目のフィールドにコピーすることをお勧めします（変数の表示がオンになっていることを確認）。この方法で、変数が正しく書き込

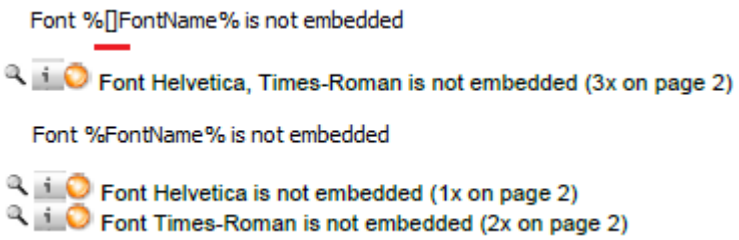
まれます。変数に誤字がある場合は、そのように認識されず、固定文字列と見なされます。

特殊ケース

- ビルトイン設定変数はアクションの属性のオプションを参照します。変数の表示チェックボックスをオフにすると、参照内容を表示できます。次の例では、%ColorSpace%は最初のリスト（RGBカラー）から選択された値、%ObjectType%は2番目のリストから選択された値を参照します。

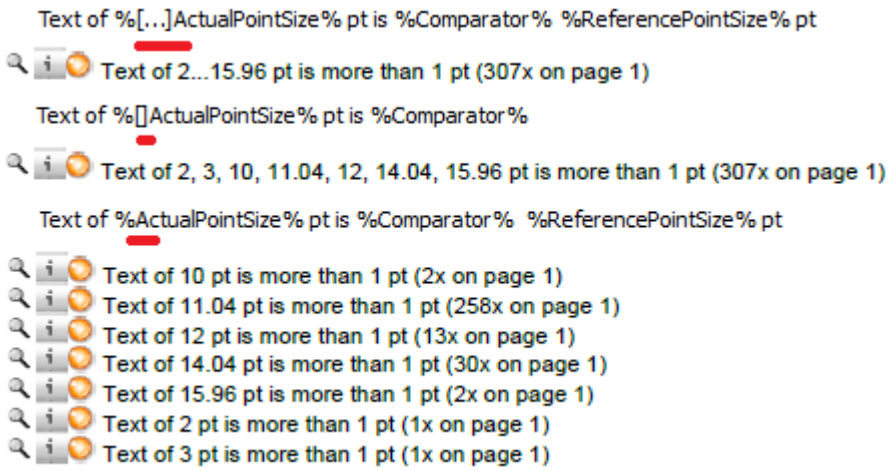


- 変数内の「[]」などの角括弧は、PDFの検出内容に応じて、変数が1つ以上の値で置換されることがあることを示します。例えば、「%[]fontName%」は、メッセージで複数のフォント名が使用できることを意味します。このように書き込まれると、フォント名が次々に一覧表示されます。角括弧が削除されると、各フォント名の個別の行に別のメッセージが表示されます。以下の例を参照してください。



- 変数内に「**[...]**」などの**3**つのドットを囲む角括弧は範囲を表します。例えば、%[...]ActualPointSize%は、文書内で検出された最も小さいポイントサイズと最も大きいポイントサイズが3つのドットで区切られてメッセージで使用されることを意味します。間の値は使用されません。3つのドットを削除すると、文書のすべての値が使用され

ます（カンマ区切り）。あるいは、角括弧を削除すると、ポイントサイズ値ごとに1つの個別のメッセージが作成されます。以下の例を参照してください。



注: 1つのドットを省略するか、4つのドットを書き込む場合、正しい表記を使用してこれが機能することを必ず確認してください。

- レポートメッセージにリンクを表示する場合、URL (e.g. http://www.enfocus.com)を入力します。ユーザーがプリフライトレポートでこのURLをクリックすると、対応するWebページが開きます。

- カスタマイズできないメッセージの数は、別のメカニズムを使用するアクションの結果であるため、「オンザフライ」では生成されません。このようなメッセージの場合、「このアクションにはカスタマイズ可能なメッセージありません」警告が表示されます。

- 多少異なるユーザーインターフェイスのアクションが1つあります。ログ選択です。このアクションでは、デフォルトレポートメッセージがありません。カスタムレポートメッセージを直接属性セクションに入力します。

5. ダイアログ下部のナビゲーションボックスをクリックして、同じアクションから発生する他のメッセージに移動して、同じように構成します。

   これは、アクションが複数の個別のオプション（代替イメージののチェックでは代替付きのすべてのイメージまたは印刷用のデフォルトである代替を検出できるなど）がある場合です。これらのオプションのそれぞれで、個別のメッセージを使用できます。デフォルトの復元はこれらのメッセージをすべてリセットします（表示されていないものも含む）。

6. **[OK]** をクリックします。

文書でアクションを実行すると、デフォルトメッセージの代わりに新しいメッセージが表示されます。

注: アクションの属性でデフォルトメッセージに戻る場合は、アクション > カスタムレポートメッセージのクリアをクリックします。

9.1.3.3. アクション リストの実行

このトピックではアクションリストを実行する手順を説明しています。アクションリストを自分で作成した場合でも、PitStop Proが提供する標準アクションリストや取り込んだアクションリストを使用する場合でも、手順はすべて同じです。

アクション リストを実行する手順

1. [アクションリスト]ダイアログを開きます。
   アクションとアクションリストの検索方法 321 ページのを参照してください。
2. 実行するアクションリストを選択します。
3. 選択したアクションを文書全体に実行するか、またはページ範囲に実行するかを決定します。
   - 文書全体: ドキュメント中にあるすべてのページ。さらに、すべてのページに実行するか、もしくは偶数または偶数ページのみに実行するか設定ができます。
   - 選択対象: PitStop[オブジェクトを選択]ツールを使用して選択したオブジェクトまたはエリア。
   - 現在のページ: 現在表示されているページのみ。
   - ページ: 指定されたすべてのページまたはページ範囲。
4. アクションリストを実行後、アクションリストの結果をEnfocusナビゲータ、またはプリフライトレポートのどちらに表示するかを指定します。

   Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートのどちらが表示されるかは、[PitStop Pro環境設定]に依存します（[編集]（**Windows**）または**[Adobe]**（**Mac**） > **PitStop Pro** [環境設定] > [全般]を参照して下さい）。

   Enfocusナビゲータは、選択されたアクションリストによって行われた変更の概要を説明するダイアログです。これを使い、（プリフライト）レポートを生成することができます。このプリフライトレポートは、一般的なファイルの情報を表示するPDF文書です。「アクションリストの結果の確認 342 ページの」を参照してください。

   適切なオプションを選択します。
   - 常に表示: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは常に表示されます。
   - 表示しない: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは一切表示されません。
   - エラー時: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは、エラーが検出された場合のみ表示されます。

     エラーの検出は、「チェック」タイプのアクションにおいてのみ行われます。「チェック」アクションの属性で、[エラーとしてログに記録]または[エラーログを取り、サインオフを許可]が選択されている必要があります。

「通知」アクションを選択した場合、要求された情報がレポートに含まれるため、[常時]を選択します。

5.  をクリックします。

アクションリストが選択されたオプションで実行されます。アクションリストの結果をEnfocusナビゲータ、プリフライトレポート（そのように設定した場合）、またはPDFそのものから確認できます。

9.1.3.4. アクションリストの結果の確認

アクションリストを実行したら、正確な変更内容またはアクションの結果を確認したい場合があります。この情報は、Enfocusナビゲータからアクセスできます。また、このすべての情報が含まれたレポートを生成できます。



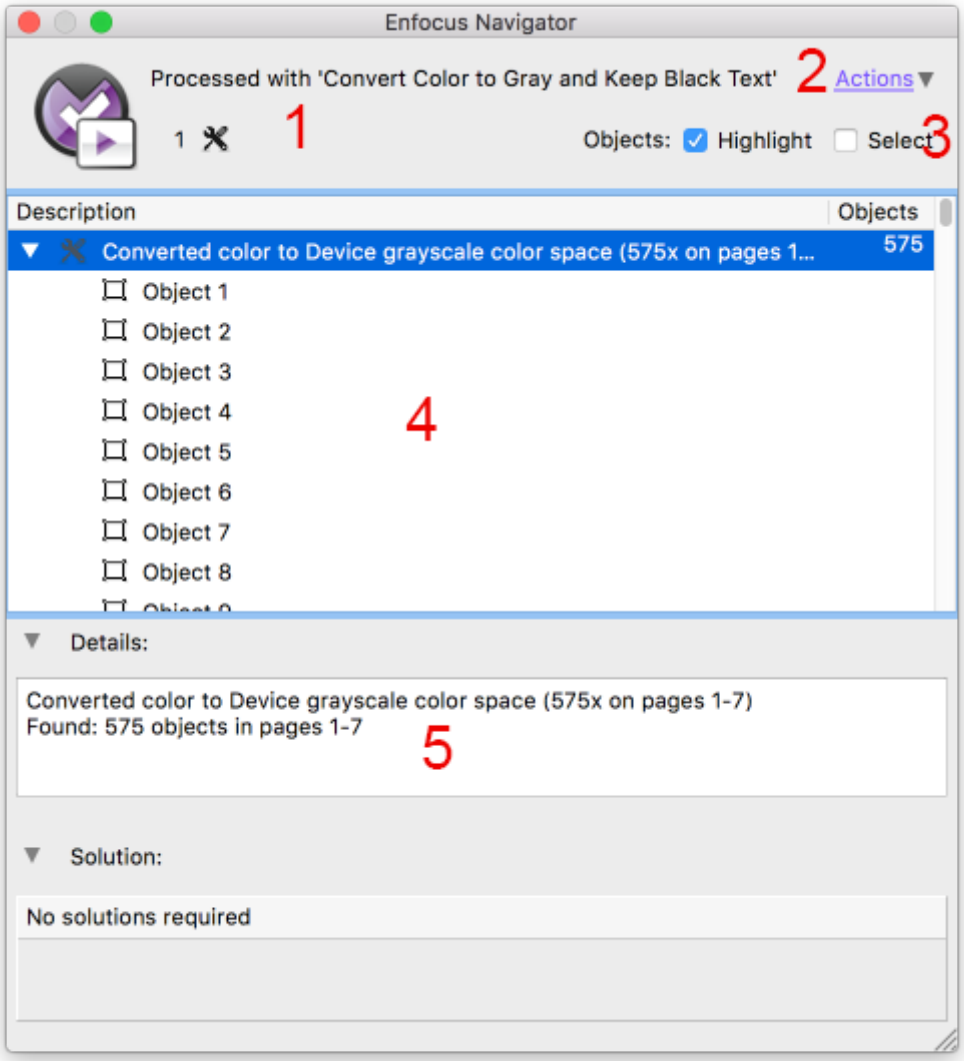
注: Enfocusナビゲータとレポートには、グローバル変更とプリフライトチェックの結果も表示されます。グローバル変更とPDFドキュメントのプリフライトについては、PitStop Proリファレンスガイドの対応する章を参照してください。

Enfocus ナビゲータ

Enfocusナビゲータでは、実行されたアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトチェック（該当する場合）の結果を確認できます。PitStop Pro環境設定（[全般]の下）によっては、Enfocusナビゲータはアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルを実行した直後にポップアップ表示される場合があります。



ヒント: 表示されない場合は、[ツール] > **[PitStop** プロセス >  [ナビゲータ] または **PitStop Pro** > [ナビゲータ]を使用して、Enfocus ナビゲータを開くことができます。



Enfocusナビゲータには次の画面パーツがあります。

#	説明
1	アクションリスト、グローバル変更、プリフライトプロファイルの名前と、変更数。上記の例では、1つの変更だけが実行されています。 アイコンは、変更が成功したことを示します。問題がある場合は、（警告）、（サインオフ可能なエラー）、または（エラー）が表示されることがあります。
2	[アクション]リンクをクリックして[レポートの表示]を選択すると、処理中のPDFに関する情報（文書プロパティ、セキュリティ情報、実行されたアクションなど）が含まれたレポートが表示されます。

#	説明
	注: タイプ「情報」のアクションを使用した場合、アクションリストで収集する情報を見つけるためにレポートを開いてください。
3	実行されたアクション、グローバル変更、またはプリフライトチェックで影響を受けたオブジェクトをハイライト表示または選択する場合は、チェックボックスをオンにします。
4	[説明]セクションは変更されたオブジェクトを示します。行を選択すると、以下の[詳細]セクションの対応する詳細を表示します。このようにして、結果を参照できます。 注: このブラウザを Enfocus インスペクタと併用して、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。詳細については、PitStop Proリファレンスガイドの「結果によって参照」を参照してください。
5	[詳細]セクションには、[説明]の下で選択された項目に関する情報が表示されます。
6	[解決策]セクションでは、警告またはエラーの場合に問題を修正できます。例えば、タイプ「チェック」のアクションがフォントの問題を検出した場合、代替フォントを選択してただちにフォントを変更できます。

レポート

アクションリスト、グローバル変更、プリフライトプロファイルを実行した場合は、変更内容と変更されなかった内容に関する情報が含まれたレポート（PDF形式）を作成できます。タイプ「情報」のアクションの場合、必要な情報を表示するには、このようなレポートを生成する必要があります。

注: レポートを生成する場合、アクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルを実行するときには、「常に結果を表示」を選択します。レポートの生成 346 ページの も参照してください。

レポートの内容

通常レポートには次のセクションがあります。

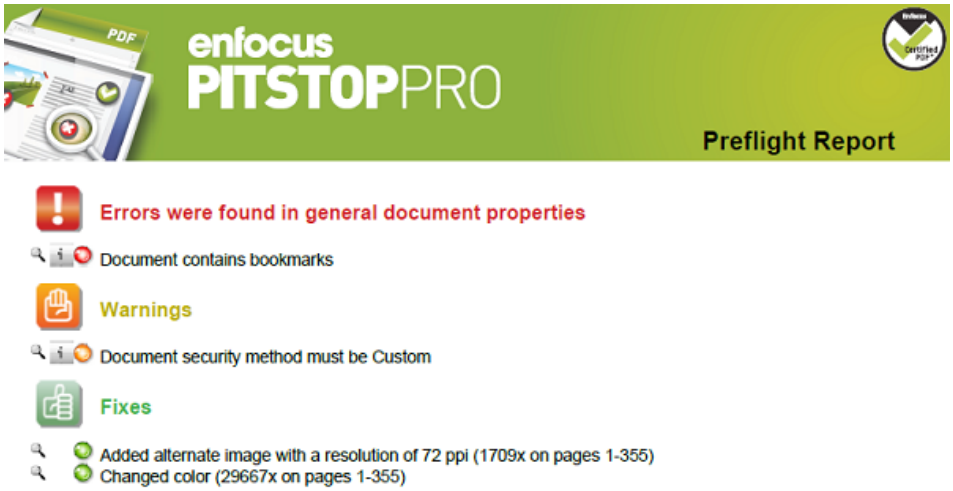
セクション	内容
エラー、警告、および修復	（可能性）問題と変更。エラーまたは警告としてタグ付けされるかどうかは、アクションリストの「チェック」アクションのログレベルによって異なります。
全般ファイル情報	PDF 文書のプロパティ (PDF バージョン、タイトル、作成者など) とセキュリティ情報。
フォント情報	PDF 文書で使用されている全てのフォントとその属性 (フォントのタイプ、埋め込みかサブセットかなど)。

セクション	内容
画像情報	PDF 文書の全ての画像とその他の情報 (物理的な解像度、有効解像度、ページ、角度、カスタム カラー機能など)。
OPI 情報	PDF 文書における OPI の使用方法。
カラー情報	PDF 文書で使用されている全てのカラースペース (RGB、CMYK など) と、その他の情報 (必要に応じて)。
インク情報	文書全体と各ページそれぞれから算出した CMYK インクの最大量。
レイヤー情報	文書内に存在するレイヤーのプロパティ。ツリー表示をクリックするとレイヤーの配列が表示されます。

修正、警告、エラー

アクションリスト、グローバル変更、プリフライトチェックの結果は、プリフライトレポートセクションに表示されます。エラー、警告、修正は先頭に表示されるさまざまなアイコンでグループ化されます。

- 拡大鏡アイコン。このアイコンをクリックすると、Enfocusナビゲータが開き、影響するオブジェクトのリストを参照できます。
- 情報アイコン（警告またはエラーの場合）。このアイコンをクリックすると、関連する問題の情報が記載されたヘルプトピックが開きます。
- 問題のタイプを示す緑、オレンジ、または赤色の点。
  - 緑は修正
  - 警告はオレンジ
  - エラーは赤



レポートスタイル

レポートを生成するときには、ニーズに合ったレポートレイアウトスタイルを選択できます。

4つの注釈付きレポートがあります（最初の4つは次の表を参照）。注釈付きレポートは、オリジナル文書とレポートの組み合わせです。レポート情報はさまざまなメモやブックマークとしてオリジナル文書に統合されているため、Acrobat Readerやブラウザで、Enfocusソフトウェアを使用せずに、簡単にエラーや警告に移動できます。

その他の3つのレポートスタイル（標準、最小、連続）には、オリジナル文書のコピーは含まれません。

レポート スタイル	説明
注釈付きレポート	注釈が付いたレポート。レポートは処理されたPDFのコピーであり、変更と確認に注釈が付きます。
低解像度の注釈付きレポート	低解像度画像を使用した注釈付きレポート。レポートのファイルサイズが小さくなります。
保護された注釈付きレポート	パスワード保護された注釈付きレポート。ユーザーはレポートを編集できません。 注: このレポートスタイルを選択するときには、パスワードを指定する必要があります。このパスワードを使用すると、必要に応じてレポートのセキュリティ設定を変更できます。
スケーリングされた低解像度の注釈付きレポート(最大 A4)	注釈が付いたレポート。文書全体がスケーリングされ、低解像度です。このレポートのページ サイズは A4 サイズを超えず、画像もより小さなサイズに圧縮されます。 注: 電子メールで大きい形式の文書のレポートを送信する場合に有効です。
標準	処理されたPDFを含まないレポート。一般ファイル情報と、修正、失敗、警告、エラーの概要（ある場合）のみが含まれます。
最小	最小情報の標準レポート。
連続	標準レポートのようにトピック間に改ページ（修正と一般ファイルの情報、フォント情報など）を含まない標準レポート。グレースケールで印刷されます。

レポートの生成

このトピックでは、Enfocus Navigatorを使用したレポートの生成方法について説明します。PitStop Pro環境設定（全般の下）を構成し、選択したレポートスタイルを使用してプリフライトレポートを常に表示する場合、結果を表示：常にオプションを使用して、アクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルのみを実行できます。

アクションリスト、グローバル変更、プリフライトチェックの結果の概要を表示するレポートを生成する手順

1. 文書でアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトチェックを実行します。結果を表示リストから常にを選択します。そうでない場合、Enfocusナビゲータがポップアップ表示されません。この操作を忘れた場合は、[ツール] > [**PitStop** プロセス > [ナビ

ゲータ] または **PitStop Pro** > [ナビゲータ]を使用して、Enfocus ナビゲータを開くことができます。

[Enfocus ナビゲータ] が表示されます。ここで、実行したアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトチェックの結果を確認できます。*Enfocus ナビゲータ* 342 ページのを参照してください。

2. Enfocusナビゲータの右上コーナーにある[アクション]リンクをクリックします。
3. リストからレポートを表示を選択します。
4. レポート スタイルを選択して、[レポートの表示] をクリックします。

   レポートスタイルの詳細については、レポート 344 ページのを参照してください。

   レポートが開き、エラー、警告、および修復が最初のページに表示されます。
5. Adobe Acrobat **Hand**ツール を使用して、次のことを実行できます。

   - エラー、警告、または修復の横にある拡大鏡のアイコン をクリックして、PDF 文書内の対応するオブジェクトを選択しハイライトします。必ずEnfocus ナビゲータで影響するオブジェクトを参照します。同時にEnfocus インスペクタを開き、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。

   - エラー、警告、または修復の横にある情報アイコン をクリックして、ヘルプ トピックを参照します。ダイアログ ボックスが表示され、ヘルプ トピック (オープン Web リンク) を表示する場所の選択が要求されます。この場合は、**[Web** ブラウザ] を選択します。
6. ファイル > 保存をクリックして、ファイルを保存します。

9.1.3.5. 問題の修正

問題（警告、エラー）が報告された場合は、解決できます。

- 場合によっては、**Enfocus**ナビゲータに解決策が表示されます。ファイルのすべての問題インスタンスでこの修正を使用するか、特定のオブジェクトを参照し、その問題だけを修正できます。Enfocus インスペクタを使用して、関連する問題の詳細を簡単に確認できる場合があります。

- 解決策が提案されていない場合は、レポート（レポートの生成 346 ページの）を生成し、

  情報アイコン をクリックして、関連する問題のソリューションを検索できます。多くの場合、別のアクションリストを実行して問題を修正できます。以下にその例を挙げます。

  - 「レイヤーの確認」アクションのレイヤーの問題は、「レイヤーの修正」アクションで解決できます。
  - 「破損フォント幅」のフォントの問題は、「破損フォント幅の変更」で解決できます。

問題の修復 - 使用例

ここでは、Enfocusナビゲータから報告された問題を修復する例を説明します。

問題： 解像度をチェックするアクションを含むアクションリストを実行したとします。PDF文書のいくつかの画像の解像度が高すぎることを示すエラーが表示されたとします。

解決策： 必要に応じて画像をチェックし、リサンプリングします。

この使用例をシュミレートするには、次の手順を実行します。

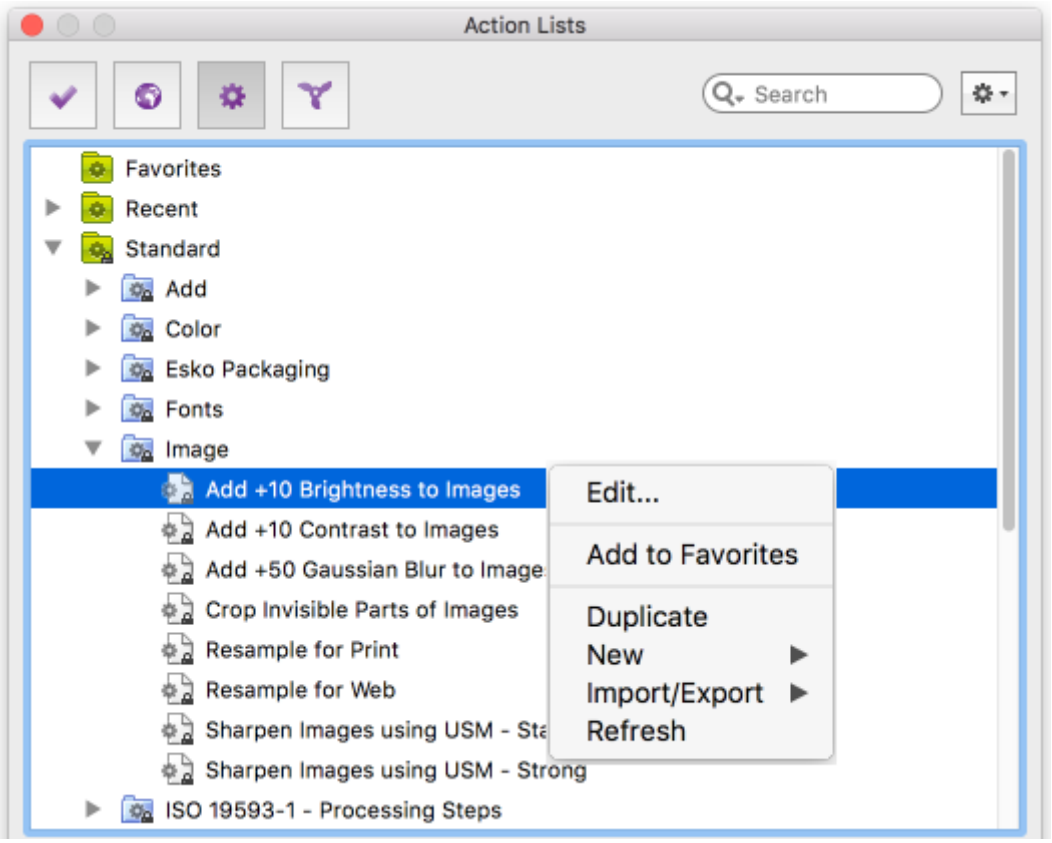
1. （画像を含んだ）PDFを開き、解像度をチェックするアクションを含むアクションリストを作成します。その際、解像度をPDFに含まれている画像の解像度よりも低くし、[エラーとしてログに記録]を選択します。
2. [結果の表示]を[全て]に設定し、アクションリストを実行します。
3. アクションリストを実行した後、何が表示されたか（レポートまたはEnfocusナビゲータ）によって以下のうちどれかの手順に従って下さい。
   - レポートが表示された場合、「カラーまたはグレースケール画像の解像度は X dpiより高い（y-z ページの 3x）」という警告の前にあるアイコン をクリックしてください。
   - Enfocusナビゲータが表示された場合、「カラーまたはグレースケール画像の解像度は X dpiより高い（y-z ページの 3x）」という警告を選択してください。
4. Enfocusナビゲータでは、問題の画像を表示およびハイライトするには、関係するメッセージの前に表示されているアイコン をクリックします。
   問題のオブジェクト（この例の場合は解像度が低すぎる画像）を一覧で見ることができます。
5. 次のいずれかを実行します。
   - 一度に関係するすべての画像をリサンプリングする手順
     1. [解決方法]セクションで、適切な値を入力します。
     2. [修復] をクリックします。
   - 画像を一つずつリサンプリングする場合
     1. 関係するオブジェクトをクリックします。
     2. [解決方法]セクションで、適切な値を入力します。
     3. [修復] をクリックします。
   - 最初に関係する画像の解像度をチェックする手順
     1. 関係するオブジェクトをクリックします。
     2. *Enfocus インスペクタを表示*をご覧ください。
     3. Enfocus インスペクタで [画像] > [プロパティ] カテゴリをクリックし、選択した画像の実際の解像度を確認します。
     4. [リサンプル] タブをクリックし、画像の解像度を必要な値に下げます。
     5. [適用] をクリックします。
6. アクションリストを再度実行します。

すべての問題を修復した後Enfocusナビゲータおよびレポートには、エラーおよび警告は見つかりませんでした、修復は必要ありません、というメッセージが表示されます。

9.1.4. アクションリストの管理

この章では、アクションリストのインポート、エクスポート、およびロック方法について説明します。

注: その次に、[アクションリスト]ダイアログでアクションリストを複製および更新し、コンテキストメニューからお気に入りに追加することもできます。



9.1.4.1. アクションリストの書き出し

他のユーザと共有したり、他のコンピュータで使用するためにアクションリストを書き出すことができます。

アクションリストを書き出す手順

1. [アクションリスト]ダイアログを開きます。
   アクションとアクションリストの検索方法 321 ページのを参照してください。

2. > [読み込み／書き出し] > [書き出し]をクリックします。

   アクションリストがパスワードでロックされていない場合、警告が表示される場合があります。アクションリストをパスワードでロックする場合、アクション リストのロック 350 ページのを参照します。

3. ダウンロード場所を選択します。

4. [保存] をクリックします。

9.1.4.2. アクションリストの取り込み

Enfocusウェブサイト（*www.enfocus.com*）のEnfocusアクションリストライブラリでは、多くのアクションリストがダウンロード可能です。アクションリストのファイル拡張子は.ealです。

アクションリストを取り込む手順

1. [アクションリスト]ダイアログを開きます。

   アクションとアクションリストの検索方法 321 ページのを参照してください。

2. > [読み込み／書き出し] > [取り込み]をクリックします。

   複数のアクションリストを取り込む場合は、それらを1つのフォルダにまとめ、フォルダ全体をアプリケーションに取り込むことをお勧めします。この場合、[グループを取り込む]を選択し、システムにある適切なフォルダを選択します。

3. 適切なアクションリストを選択します。

4. [開く] をクリックします。

取り込まれたアクションリストが [アクションリスト]ダイアログの[ローカル]フォルダに表示されます。アクションリストは、必要に応じて実行および/または編集が可能です。

9.1.4.3. アクション リストのロック

パスワードでアクション リストを保護し、他のユーザーが変更することを防ぐことができます。これは、複数のユーザー間でアクション リストを共有しているときに役に立ちます。アクション リストを作成した時にアクション リストをパスワードで保護することも、後でパスワードを追加することもできます。

アクションリストをロックする手順

1. [アクションリスト]ダイアログを開きます。

   アクションとアクションリストの検索方法 321 ページのを参照してください。

2. アクション リストを選択してダブルクリックします。

3. [プロパティ]の下の[ロック情報]を選択します。

4. 適切なオプションを選択します。

   - すべてのユーザーがアクションリストを実行、表示、および編集できるようにする場合は、[ロックなし]を選択します。

- すべてのユーザーがアクションリストを実行し、アクションリストのアクションを表示できるようにする場合は、[部分的にロック]を選択します。

  ユーザーは、個々のアクションとアクションリストのそれぞれの属性を変更することはできません。ユーザーにアクションリストの処理内容について正確なアイデアを提供する場合に便利です。
- ユーザーがアクションリストの実行のみを行えるようにする場合は、[ロック]を選択します。

  ユーザーは最初にパスワードを入力しないと、アクション リストのアクションの表示や変更ができなくなります。

5. アクションリストを (部分的に) ロックすることを選択した場合は、パスワードを入力し、確認します。

   パスワードには次の文字を含めることができます。

   - 大文字と小文字の英字
   - キーボード上の全文字
   - スペース

6. [適用] をクリックします。

9.1.5. アクションリスト Visualizer を使用したアクションリストのトラブルシューティング

アクションリスト Visualizer は、アクションリスト内のさまざまなアクションが文書内で実際に何をしているかを表示する非常に強力なツールです。これは、複雑なアクションリストを作成するときに役立ちます。また、アクション（または一連のアクション）が期待どおりの動作をしているかどうかを確認するのに役立ちます。

9.1.5.1. アクションリストのトラブルシューティング - 動作手順

アクションリスト Visualizer を使用すると、アクションリスト内の各アクションが処理している動作を確認することができます。これは、各アクションが順番に実行され、各アクションの影響が現在開いているページの文書に表示されることを意味します。フォーカスがどこにあるかを示すために、ポインタが上下に移動します。

アクションリストは明示的に開始する必要があります。「アクションリスト *Visualizer* の起動 354 ページの」を参照してください。

アクションリストを実行するには、2つの方法があります。

- 実行モード：アクションリストは、最初から最後まで設定された速度で実行され、一時停止ボタンをクリックしたり、アクションリストを一時停止する必要があるブレークポイントを設定したりしない限り、停止しません。
- ステップモード：アクションリストは段階的に実行され、一度に1つのアクションが実行されます。次のアクションに進むには、クリックする必要があります。

両方の方法を組み合わせることができます。たとえば、アクションリストの最初の x アクションを段階的に確認し、最後の部分を実行モードで確認することができます。

アクションリストは、ページバイページで実行されます。アクションリストは、（「ページ分割」、「ページの追加」「ページを並べ替え」等のアクションでアクションリストをデバッグするために）1ページだけ（選択したページ）またはドキュメント全体で視覚化できます。

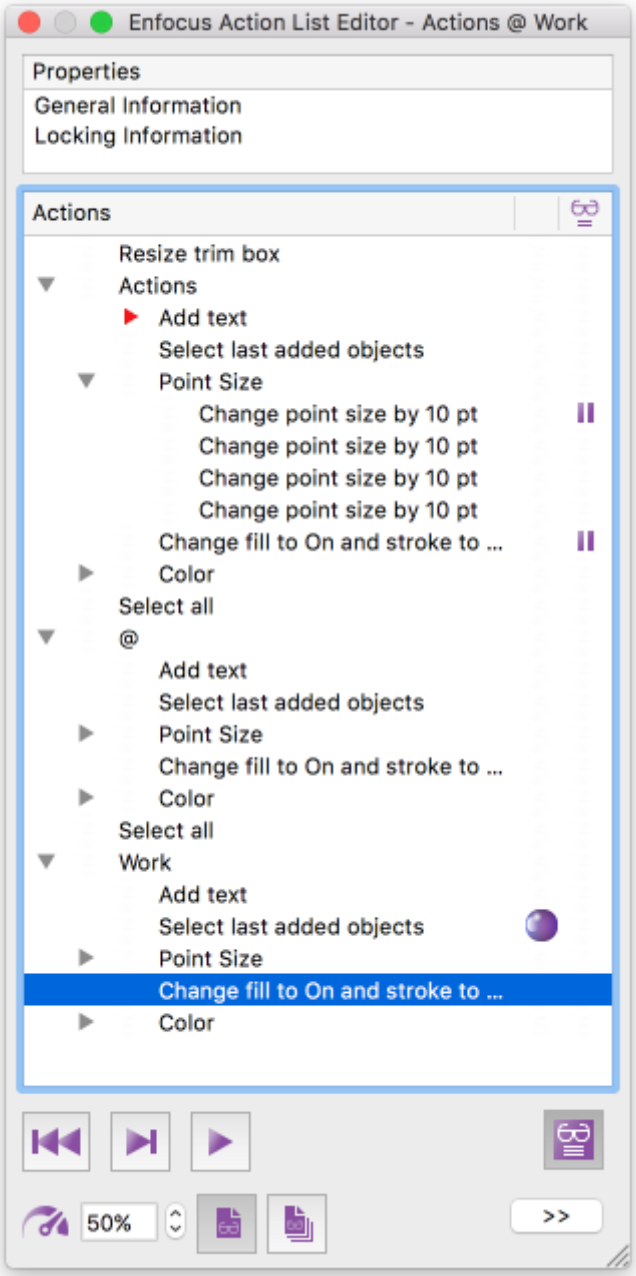
アクションリスト Visualizer をアクティブにしてアクションリストの属性を変更し、変更の影響をすぐに確認することもできます。「視覚化中のアクションリストの変更 357 ページの」を参照してください。

ヒント：

- 複雑なアクションリストの場合は、アクションリストをグループ化し、グループごとにアクショングループをデバッグすると便利です。アクションのグループがOKになると、グループを折りたたむことができ、アクションリスト Visualizer はグループの影響を 1 段階/変更として表示します。
- Enfocus インスペクタは、アクションリスト Visualizer と組み合わせて使用できます。たとえば、アクションリストが特定のオブジェクトに対してどのように動作するかを知りたい場合は、PitStop 選択ツールを使用してこのオブジェクトを選択し、Enfocus インスペクタを開いて、変更するプロパティを表示できます。

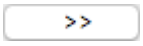
9.1.5.2. アクションリスト Visualizer ユーザインターフェイス

アクションリスト **Visualizer** アクションリストエディタの[アクションリスト **Visualizer** を起動]ボタン  をクリックするとアクティベートされます。アクティベートされると、以下に示すように新しいツールセットが使用可能になります。



ボタン

ボタン	このボタンをクリックすると...
	ツールを終了し、標準のアクションリストエディタに戻ります。これにより、アクションリストのアクションを追加、削除、移動、...するためのボタンが表示されます。
	アクションリスト Visualizer を再起動します。これにより、ポインタ ▶ がアクションリストの上部に再び配置されます。

ボタン	このボタンをクリックすると...
	現在のアクション（=ポインタでのアクション）を実行し、ポインタを次のアクションに移動します。
	アクションリストを実行します（ポインタによるアクションから開始）。アクションリストが実行され、ブレークポイント（存在する場合）で停止するか、[一時停止]ボタン  をクリックすると終了します。そうでない場合は、終了まで実行されます。
	アクションリストを一時停止します（実行中）。
	処理速度を変更します。10%は非常に遅く、100%は非常に速くなります。
	アクションリストを現在のページだけで実行します。現在のページは、Acrobatで現在表示されているページです。
	アクションリストを文書のすべてページで実行します。すべてのアクションは、文書の最後まで1ページずつページごとに順番に実行されます。
	詳細ペインを展開すると、選択したアクションの属性が表示されます。

アイコン

アイコン	意味
	次のアクションが実行されることを示すポインタ。
	ブレークポイント。ここで、アクションリストが実行モードで実行されると処理が停止します。
	列をクリックすると、ブレークポイントを追加または削除できます。

カラーインジケータ

緑色と紫色のインジケータは、通常の作業モードと同様に、選択したアクションにどの選択が含まれているかを示します（アクションリストでの演算子の使用 333 ページのを参照して下さい）。上記の例では、「塗りをONに変更...」が「最後に追加されたオブジェクト」に適用されます。アクションリストの視覚化中に、「最後に追加されたオブジェクトを選択」が実行されると、文書内で紫色で強調表示されます。紫色のインジケータのため紫色です。他の選択肢は青色で表示されています。

9.1.5.3. アクションリスト Visualizer の起動

アクションリスト Visualizer を起動またはアクティベートする

1. Adobe Acrobat でサンプル PDF を開きます。
2. アクションリストエディタで表示するアクションリストを開きます。

3. [アクションリスト **Visualizer** を起動] ボタンをクリックします  。

追加、削除、移動するための標準のボタン...アクションは新しいボタンに置き換えられます。
「アクションリスト *Visualizer* ユーザインターフェイス 352 ページの」を参照してください。

アクションリストを視覚化することができます。

9.1.5.4. アクションリストを一定の速度で視覚化する（実行モード）

PitStop は設定速度でアクションリストを実行します。一方で、文書で何が起こっているかを確認できます。

設定速度でアクションリストを実行する

1. アクションリスト Visualizer がアクティブであることを確認してください。
アクションリスト *Visualizer* の起動 354 ページの

2. 実行速度を確認し、必要に応じてダイアログの下部にある  をクリックして変更します。
10%は非常に遅く、100%は非常に速くなります。

3. 必要に応じて、複数のブレークポイントを設定します。

4. 範囲を決定します。

   - 現在のページのみを処理するには、［現在のページで実行］ボタン  をクリックします。
   - 全体のページを処理するには、［全てのページで実行］ボタン  をクリックします。

   注: すべてのアクションは、文書の最後まで1ページずつページごとに順番に実行されます。

5. 実際に視覚化を開始するには、[実行]ボタン  をクリックします。
アクションリストはアクションが順に最初から最後まで実行されます。同時に、何が起こっているかを確認できます。ポインタは、次にどのアクションが実行されるかを示します。処理は[一時停止]ボタン  をクリックした場合、または文書の最後に達した場合にブレークポイントで停止します。折りたたまれたグループ内のアクション（非表示のアクション）は、1回で実行されます（1つずつではありません）。

6. ブレークポイントまたは一時停止後に処理を再開するには、[実行]ボタン  をクリックします。
処理は次のブレークポイントまで、手動で一時停止するまで、または最後まで継続します。

すべてのアクションが実行されると、サンプル文書でアクションリストの最終結果を確認できます。必要に応じて変更を加え、最初からアクションリストを再度確認できます。これを行うには、[再起動]ボタン  をクリックしてすべての変更を取り消し、ポインタをアクションリストの先頭に移動させます。

注: また、メニューから[編集] > [**Enfocus** アクションリスト視覚化の取り消し]で、変更を取り消すこともできます。

ブレークポイントの追加と削除

ブレークポイントは、アクションリスト Visualizer が処理を一時停止する場所を示します。これは、実行モードでアクションリストを視覚化する場合にのみ関係します。

ブレークポイントは、表示されている場合にのみ考慮されます。これが折りたたまれたグループの一部であるために非表示になっている場合、これらは考慮されません。

重要: 処理はブレークポイントによるアクションの直前で停止します。

続けるには複数の方法があります。

- ブレークポイントを追加には、一時停止するアクションの横にあるブレークポイント列（アイコン の下、アクションの右側にある）をクリックします。
  これによって、ブレークポイントのアイコン が追加されます。
- ブレークポイントを削除には、ブレークポイント アイコンの（アイコン の下、アクションの右側にある）ブレークポイント列をクリックします。
  これによって、ブレークポイントが削除されます。
- 一度にすべてのブレークポイントを削除するには、コンテキストメニューを開き、[すべてのブレークポイントを削除]をクリックします。
- ブレークポイントがない場合はブレークポイントを追加します。ブレークポイントが存在する場合はブレークポイントを削除します。
  1. アクションリストでアクションを選択します。
  2. コンテキストメニューを開きます。
  3. [ブレークポイントを切り替え]をクリックします。

9.1.5.5. 独自のスピードでアクションリストを視覚化する（ステップモード）

独自のスピードでアクションリストを段階的に実行するには、次の手順に従います。

1. アクションリスト Visualizer がアクティブであることを確認してください。
   アクションリスト *Visualizer* の起動 354 ページの
2. 範囲を決定します。
   - 現在のページのみを処理するには、［現在のページで実行］ボタン をクリックします。
   - 全体のページを処理するには、［全てのページで実行］ボタン をクリックします。

     注: すべてのアクションは、文書の最後まで1ページずつページごとに順番に実行されます。

3. 実際に視覚化を開始するには、[ステップ]ボタン をクリックします。

   ポインタ によるアクションのみが実行されます。アクションが実行された直後に、ポインタは次のアクションに移動します。

4. 次のアクションに進むには、[ステップ]ボタン をクリックします。アクションリストの最後に達するまでこれを行います。

   折りたたまれたグループのアクションは実行されますが、表示されません。つまり、アクションリストの次に表示されるアクションにポインタが移動します。

   ブレークポイントは無視されます。これらは実行モードでのみ関係します。

すべてのアクションが実行されると、サンプル文書でアクションリストの最終結果を確認できます。必要に応じて変更を加え、最初からアクションリストを再度確認できます。これを行うには、[再起動]ボタン をクリックしてすべての変更を取り消し、ポインタをアクションリストの先頭に移動させます。

注: また、メニューから[編集] > [**Enfocus** アクションリスト視覚化の取り消し]で、変更を取り消すこともできます。

9.1.5.6. 視覚化中のアクションリストの変更

アクションリスト Visualizer をアクティブにすると、現在チェックしているアクションリストの属性を変更できます。これらはすぐに適用されるため、変更の影響を直ちに確認できます。

アクションリストにアクションを追加、削除、移動することはできません。これを行う場合は、アクションリストVisualizer を停止してボタンを再び使用可能にする必要があります。

アクションの属性を変更する

1. アクションリストVisualizer が実行されていないことを確認してください。
2. 変更するアクションの属性を表示するには、次のいずれかの手順を実行します。
   - >> をクリックし、変更するアクションを選択します。
   - 変更するアクションをダブルクリックします。（もう一度ダブルクリックすると、属性は再び非表示になります）。
3. 属性を変更します。
4. 変更されたアクションリストの影響を確認します。
   - ポインタが現在変更されたアクションの上にある場合は、[再起動]ボタン をクリックしてアクションリストの先頭から開始します。

- ポインタが現在変更されたアクションの下にある場合は、[ステップ] または[実行]ボタン をクリックして続行します。

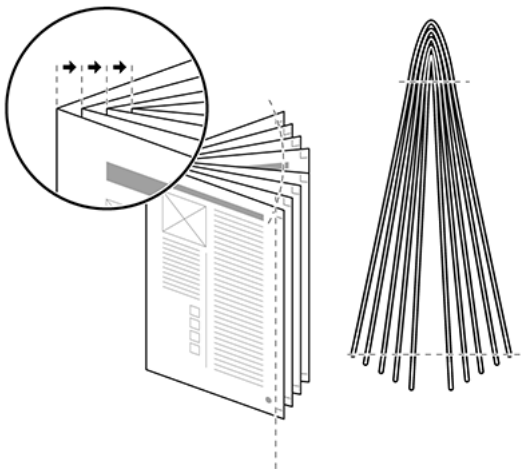
9.1.6. 実際のアクションリスト：使用例

次の実際の例を使用して、アクションリストの作成方法を詳細に説明します。次のことを示します。

- 選択内容。
- 使用する演算子。
- 適用する変更。

9.1.6.1. 前提条件: 小冊子の PDF 文書にクリープがある

小冊子になったPDF文書があり、ほとんど印刷準備が整った状態であるとします。この場合、ページは両面印刷され、折りたたまれて切り揃えられます。ページ番号はページの端に近い場所に印刷されるため、切り揃えるときに切り落とされないようにしなければなりません。しかし実際には、ページを中綴じにする際に印刷部分はわずかに外側にずれます。この現象は出版業界ではクリープ と呼ばれます。小冊子のページ数が多いほど、内側のページにより大きな印刷領域のずれが生じます。

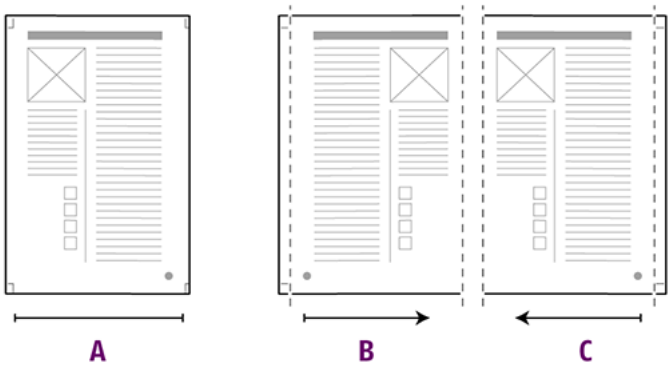


クリープにより内側のページの印刷領域が外側にずれるため、ページの外側の端に近いページ番号が切り落とされる原因になります。

このクリープを補正するには、次のようなアクション リストを作成します。

- 左側 (偶数番号) のページの印刷領域を、5mm 右側へずらす。
- 右側 (奇数番号) のページの印刷領域を、5mm 左側 (綴じ方に近い方) へずらす。
- 最初のページは変更しない (このページにはページ番号を付けないため)。

例：ページレイアウトの変更: クリープの補正のため、内側のページ (**B** および **C**) の印刷領域を綴じ目の方へ移動する。ただし最初のページ (**A**) は変更しない。



9.1.6.2. PDF文書のページレイアウトを変更するアクションリストの作成

1. **Enfocus** アクションリスト エディタを使用して以下のようなアクションリストを作成します。

```
Select all
Select odd pages
Select first page
NOT
AND
Move page content (horizontal: 5.0 mm, vertical: 0.0 mm)
Select all
Select even pages
Select first page
NOT
AND
Move page content (horizontal: - 5.0 mm, vertical: 0.0 mm)
```

2. [表示] > **[Zoom]** > [ページレベルにズーム]をクリックし、ページを用紙サイズ全体で表示します。
3. [アクションリスト]ダイアログを開くには、 **PitStop Pro** > [アクションリスト]をクリックします。
4. 各アクションリストを選択し、[実行]をクリックします。

   PitStop Pro では、次のステップに従ってアクション リストが適用されます。

工程	アクション
1	すべて選択
	アクションリストを*[全て選択]*アクションで開始し、それまでの選択をリセットすることをお勧めします。
2	奇数ページの選択
	奇数ページのコンテンツは左に移動し、偶数ページのコンテンツは右に移動します。最初に奇数ページから処理されます。

工程	アクション
3	最初のページの選択
4	NOT
	最初のページはそのままにしておくため、NOTを使用して選択対象から除外します。
5	AND
	ここでANDを使用することにより、ステップ4を除いて、ステップ1および2の選択対象を組み合わせます。
6	ページ内容の移動 5.0 mm 水平
	この変更で、ページ内容が 5 mm 左へ移動します。
7	すべて選択
	直前の選択をリセットします。
8	偶数ページの選択
9	最初のページの選択
10	NOT
	最初のページはそのままにしておくため、NOTを使用して選択対象から除外します。
11	AND
	ここでANDを使用することにより、ステップ10を除いて、ステップ7および8の選択対象を組み合わせます。
12	ページ内容の移動 -5.0 mm 水平
	この変更で、ページ内容が5 mm右へ移動します。

9.2. グローバル変更の使用

グローバル変更の概要と、作業を自動化するために使用する方法については、この章をお読みください。

9.2.1. グローバル変更について

グローバル変更はPitStop Proによって提供された定義済みのタスクまたは一連のタスクであり、カラー、フォント、イメージなどのPDFドキュメントの特定の要素を変更できます。グローバル変更は、ドキュメント全体、特定のページ、または選択した部分に適用できます。

グローバル変更を使用する理由

グローバル変更は非常に便利です。プログラミング技術は必要ありません。必要なグローバル変更を選択し、環境設定を調整し、実行するだけです。

ただし、アクションリストほど強力ではありません。複雑なタスクを実行する必要がある場合は、アクションリストを使用することをお勧めします。

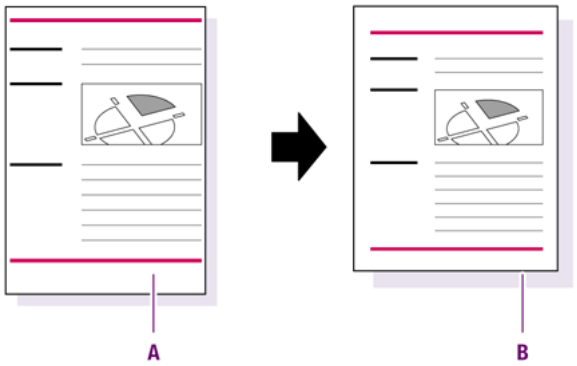
注: アクションやアクションリストとは異なり、独自のグローバル変更を最初から作ることはできません。ただし、既存のグローバル変更を複製して、個人環境設定で保存すると、後から再利用できます。グローバル変更をアクションリストとして保存することもできます。これは、機能を追加する場合に便利です。詳細については、アクションリストとしてグローバル変更を保存する 370 ページのを参照してください。

9.2.1.1. グローバル変更：例

ジョブの概要

A4 サイズの PDF 文書 (210 x 297 mm) が存在し、US レター サイズ (8.5 x 11") に合わせて、ページ ボックスとページ内容をスケーリングする必要があるとします。スケーリングを実行する際に、通常は以下の処理が必要になります。

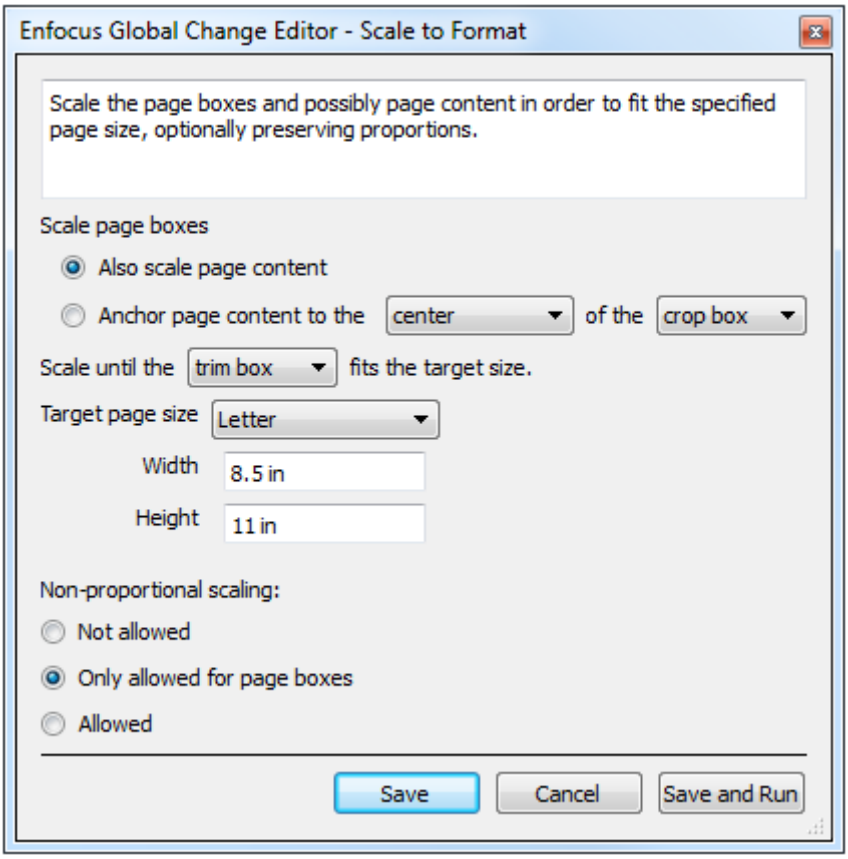
- テキストや他のオブジェクトの歪みを防止するために、ページ内容の縦横比を維持してスケーリングを行う
- A4 用紙と US レター サイズ用紙の縦横比は異なるので、ページ内容の縦横比を維持せずにスケーリングを行う



A4 サイズ (**A**) から US レター サイズ (**B**) にページ全体とページ内容をスケーリング。

グローバル変更を使用したジョブの自動化

PitStop Pro には形式に合わせてスケーリングというグローバル変更があり、これらのタスクを支援します。



該当するオプションだけを設定する必要があります。

1. コンテンツをページに合わせるを選択してください。
2. 任意のページボックスを選択します。この例では、トリムボックス（トリムボックスがターゲットサイズに合うまで調整）を選択します。
3. 任意のターゲットページサイズを選択します。この例では、レターです。対応する幅と高さが下に表示されます。
4. 非比例調整をページボックスにのみ制限してください（非比例調整：ページボックスでのみ許可）。

9.2.2. グローバル変更の場所

グローバル変更はPitStop Proのグローバル変更ダイアログからアクセスできます。場所はAcrobatバージョンによって異なります。

次の表は、[グローバル変更]ダイアログの開き方を説明します。

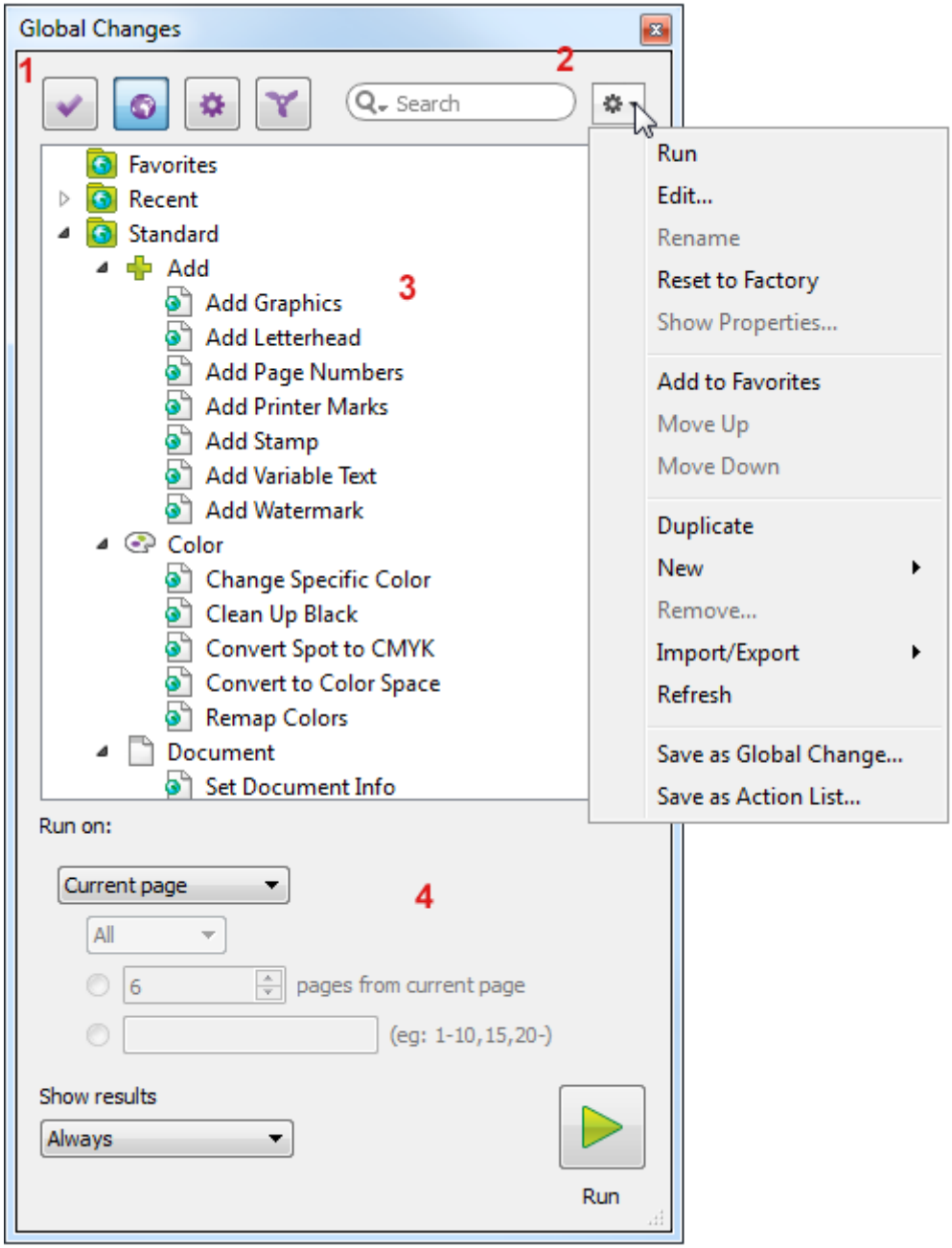
OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**PitStop Pro** > [グローバル変更]をクリックします。

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
	• [ツール]で、[**PitStop** プロセス] >  [グローバル変更] の順に選択します。
Windows ショートカット	Alt+Ctrl+Gを押します。
Mac ショートカット	⌥⌘G キーを押します。

9.2.2.1. グローバル変更ダイアログ

[グローバル変更]ダイアログでは、グローバル変更を編集、整理、および実行できます。

- グローバル変更を開くと、処理内容の確認とコンテンツの編集ができます。
- 必要に応じて、グローバル変更をインポート、エクスポート、複製、およびグループ化できます。
- 編集中のPDFの1ページ以上に適用するなど、グローバル変更を実行できます。



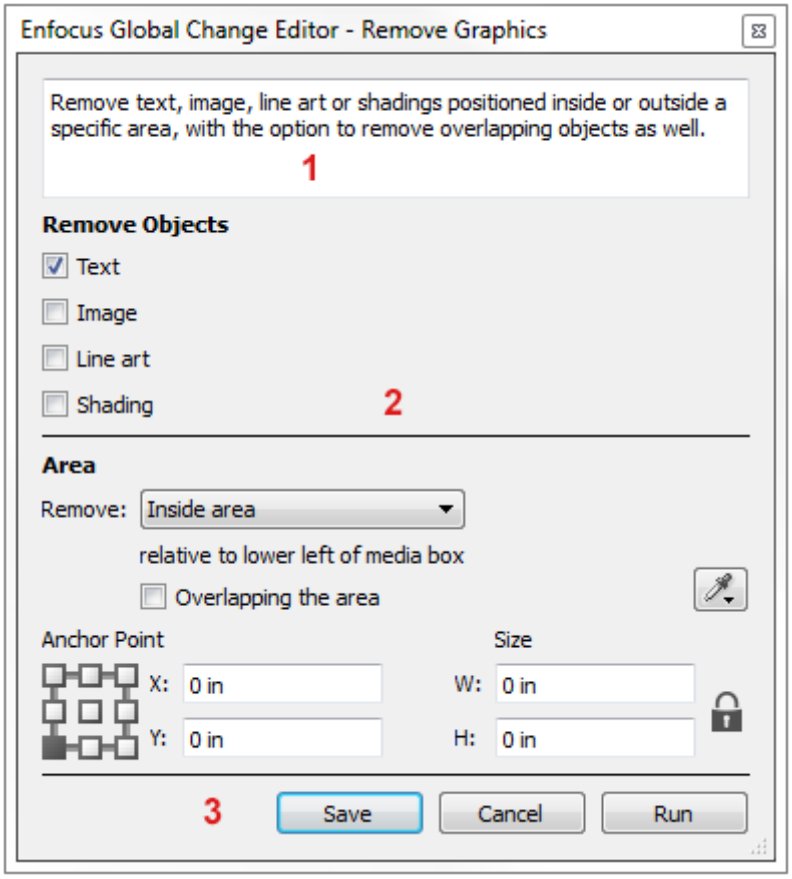
[グローバル変更]ダイアログには次の画面パーツがあります。

#	説明
1	グローバル変更（）と他の「Preset」（プリフライトプロファイル、アクションリスト、およびQuickRuns）を切り替えるボタン。
2	検索フィールド（特定のグローバル変更を検索）とメニュー（グローバル変更の整理）。

#	説明
3	使用可能なグローバル変更が表示されるワークスペース。グローバル変更は、「データベース」フォルダで整理されます。既定では、次のフォルダがあります。 • お気に入り：グローバル変更はお気に入りに設定されます。これにより、頻繁に必要なグローバル変更にすばやくアクセスできます。コンテキストメニューを使用してこのフォルダにグローバル変更を適用できます。 • 最近使用した項目：最後に使用した10個のグローバル変更。 • 標準：PitStop Pro（カラー、フォント、イメージなどのサブフォルダでグループ化）でインストールされた既定のグローバル変更。 ヒント: グローバル変更で実行可能な処理については、グローバル変更をダブルクリックすると、説明が表示されます。 • ローカル：ローカルでインポートまたは保存されたグローバル変更。
4	ダイアログの下部では、ダイアログの上部で選択されたグローバル変更を実行できます。グローバル変更を実行するページと、結果を表示するかどうかを指定する必要があります。

9.2.2.2. グローバル変更エディタ

グローバル変更エディタは[グローバル変更]ダイアログからアクセスできます。グローバル変更をダブルクリックするか、コンテキストメニューの[編集]を選択すると、このダイアログが表示されます。グローバル変更の属性を変更できます。



[グローバル変更エディタ]には次の画面パーツがあります。

#	説明
1	グローバル変更の処理の説明。
2	グローバル変更の属性。必要に応じて変更できる環境設定など。内容は編集中のグローバル変更のタイプによって異なります。
3	各種ボタン： • 保存は、グローバル変更に行った変更で、グローバル変更を保存できます。 注: グローバル変更は同じディレクトリに保存されます。元の既定の設定は上書きされます。元の設定を復元するには、コンテキストメニューの[出荷時の状態にリセット]をクリックします。 • キャンセルは、変更（ある場合）を保存せずにダイアログを終了できます。 • 実行は、現在開いているPDFドキュメントにグローバル変更をただちに適用できます。グローバル変更ダイアログの下部で最初に定義した設定（ページ範囲や、レポートを表示するかどうかなど）を使用します。

#	説明
	注: 変更すると、このボタンがすぐに[保存して実行]に変わります。1回でグローバル変更を保存して実行できます。

9.2.2.3. グローバル変更の概要

グローバル変更カテゴリに一覧表示されるグローバル変更は、さまざまなカテゴリにグループ化され、適用先のドメイン（カラー、ページ、プリプレスなど）を示します。グローバル変更カテゴリは、「標準」フォルダのサブフォルダとして表示されます。

すべてのグローバル変更の詳細については、*Enfocus Webサイト*にあるグローバル変更リファレンスマニュアルを参照してください。

9.2.3. グローバル変更での作業

この章では、グローバル変更を編集して実行するために理解しておくべきことについて説明します。

9.2.3.1. グローバル変更の作成

新しいグローバル変更を最初から作成することはできません。既存のグローバル変更から開始し、ローカルに保存することだけができます。ローカルフォルダに保存される1つのグローバル変更に対して複数の変更を保持する場合に便利です（異なる形式にスケーリングする場合など）。それ以外の場合は、グローバル変更を編集し、標準フォルダに保存できます。「グローバル変更の編集 368 ページの」を参照してください。

グローバル変更を作成する手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。

   グローバル変更の場所 362 ページのを参照してください。

2. > [新規]をクリックし、該当するオプションを選択します。

   - ローカルシステムでグローバル変更（*.egc）から開始する場合は、[ファイルから新規作成]を選択します。手順に従い、ファイルを選択します。
   - [グローバル変更]ダイアログに一覧表示されたグローバル変更から開始する場合は、[既存から新規作成]を選択します。手順に従い、ファイルを選択します。
   - [グローバル変更]ダイアログで既に選択されたグローバル変更から開始する場合は、[選択内容を基に新規作成]を選択します。

   新しいグローバル変更はローカルカテゴリに保存されます。自動的に開きます。

3. [**Enfocus**グローバル変更]ダイアログで、目的のオプションを選択し、グローバル変更の設定を指定します。
   変更すると、[実行]ボタンが[保存して実行]に変わります。

4. 次のいずれかを実行します。

- 変更を保存するだけの場合は、[保存]をクリックします。後からグローバル変更を実行できます。グローバル変更の実行 369 ページのを参照してください。
- 変更を保存し、現在開いているドキュメントですぐにグローバル変更を実行するには、[保存して実行]をクリックします。

注: [グローバル変更]ダイアログの下部にあるオプションを設定したことを確認します。グローバル変更の実行 369 ページのを参照してください。

新しいグローバル変更はローカルフォルダで再利用できます。

ヒント: コンテキストメニューを使用してグローバル変更の名前を変更します。グローバル変更の名前を「形式に合わせてスケーリング」（既定の名前）から「USレターにスケーリング」などのわかりやすい名前に変更します。

9.2.3.2. グローバル変更の編集

グローバル変更を編集する手順（グローバル変更のプロパティの変更など）

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。

   グローバル変更の場所 362 ページのを参照してください。

2. 目的のグローバル変更を検索するには、次のいずれかを実行します。
   - [標準]をクリックして、別のカテゴリを確認します。
   - ダイアログ上部にある[検索]フィールドで、キーワードまたはその一部を入力します。たとえば、「スケーリング」と入力するとスケーリングに関連するグローバル変更が表示されます。
3. 目的のグローバル変更をダブルクリックします。

   注: または、編集をするグローバル変更を選択し、  > [編集]をクリックします。

4. [Enfocusグローバル変更]ダイアログで、目的のオプションを選択し、グローバル変更の設定を指定します。
   変更すると、[実行]ボタンが[保存して実行]に変わります。
5. 次のいずれかを実行します。
   - 変更を保存するだけの場合は、[保存]をクリックします。後からグローバル変更を実行できます。グローバル変更の実行 369 ページのを参照してください。
   - 変更を保存し、現在開いているドキュメントですぐにグローバル変更を実行するには、[保存して実行]をクリックします。

   注: [グローバル変更]ダイアログの下部にあるオプションを設定したことを確認します。グローバル変更の実行 369 ページのを参照してください。

アクションリストとは異なり、グローバル変更は標準フォルダに保存されます。既定値を復元するには、[出荷時の状態にリセット]オプションを選択します。

ヒント: 「形式に合わせてスケーリング」の2つのバージョン（A5に1つ、A4に1つ）など、1つのグローバル変更に複数のバージョンが必要な場合は、コンテキストメニューの[グローバル変更として保存]オプションを使用することをお勧めします。このようにする場合は、わかりやすい名前を選択できます。ローカルカテゴリにローカルで保存されます。

9.2.3.3. グローバル変更の実行

グローバル変更を実行する手順（現在開いている文書に適用するには）

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。

   グローバル変更の場所 362 ページのを参照してください。

2. 目的のグローバル変更を検索するには、次のいずれかを実行します。

   - [標準]をクリックして、別のカテゴリを確認します。
   - ダイアログ上部にある[検索]フィールドで、キーワードまたはその一部を入力します。たとえば、「スケーリング」と入力するとスケーリングに関連するグローバル変更が表示されます。

3. 該当するグローバル変更を選択します。

4. 選択したグローバル変更を文書全体に実行するか、またはページ範囲に実行するかを決定します。

   - 文書全体: ドキュメント中にあるすべてのページ。さらに、すべてのページに実行するか、もしくは偶数または偶数ページのみに実行するか設定ができます。
   - 選択対象: PitStop Pro[オブジェクトを選択]ツールを使用して選択したオブジェクトまたはエリア。
   - 現在のページ: 現在表示されているページのみ。
   - ページ: 指定されたすべてのページまたはページ範囲。

5. グローバル変更を実行後、グローバル変更の結果をEnfocusナビゲータ、またはプリフライトレポートのどちらに表示するかを指定します。

   Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートのどちらが表示されるかは、[PitStop Pro環境設定]に依存します（[編集]（**Windows**）または**[Adobe]**（**Mac**） > **[EnfocusPitStop Pro**環境設定] > [全般]を参照して下さい）。

   Enfocusナビゲータは、選択されたグローバル変更によって行われた変更の概要を説明するダイアログです。これを使い、プリフライトレポートを生成することができます。同様にこのプリフライトレポートは、プリフライトと一般的なファイルの情報が表示されたPDF文書です。

   適切なオプションを選択します。

   - 常に表示: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは常に表示されます。

- 表示しない: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは一切表示されません。

6.  をクリックします。

7. PDF文書内のグローバル変更実行結果を確認します。
   グローバル変更の結果の確認 372 ページの章を参照してください。



ヒント: 結果に問題がある場合は、[編集] > [Enfocusグローバル変更実行の取り消し]の順に選択するか、または[取り消し]ボタン をクリックします。必要に応じてグローバル変更の設定を変更します。「グローバル変更の編集 368 ページの」を参照してください。

9.2.3.4. アクションリストとしてグローバル変更を保存する

グローバル変更をアクションリストとして保存する場合は、構成されているさまざまなアクションが表示され、必要に応じてアクションリスト内のアクションを変更または削除できます。その他のアクションを追加して、機能を追加することもできます。

アクションリストとしてグローバル変更を保存する手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。
   グローバル変更の場所 362 ページのを参照してください。

2. 目的のグローバル変更を検索するには、次のいずれかを実行します。
   - [標準]をクリックして、別のカテゴリを確認します。
   - ダイアログ上部にある[検索]フィールドで、キーワードまたはその一部を入力します。たとえば、「スケーリング」と入力するとスケーリングに関連するグローバル変更が表示されます。

3. アクションリストとして保存するグローバル変更を右クリックします。

4. コンテキストメニューから、[アクションリストとして保存]を選択します。



注: [アクションリストとして保存]がコンテキストメニューにない場合は、グローバル変更の一部の情報がありません。まずグローバル変更を設定（適用するデザインレイアウトを選択するか、PDFで選択）し、再試行します。

5. アクションリストのわかりやすい名前を入力します。

6. [OK] をクリックします。
   [アクションリスト]ダイアログに新しいアクションリストがあります。表示するには、  をクリックし、ローカルフォルダの新しいアクションリストを検索します。アク

ションリストの詳細については、*Enfocus Webサイト*のアクションマニュアルを参照してください。

9.2.3.5. グローバル変更のエクスポート

他のユーザと共有したり、他のコンピュータで使用するためにグローバル変更をエクスポートできます。

グローバル変更をエクスポートする手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。

   グローバル変更の場所 362 ページのを参照してください。

2. エクスポートするグローバル変更を検索するには、次のいずれかを実行します。
   - [標準]をクリックして、別のカテゴリを確認します。
   - ダイアログ上部にある[検索]フィールドで、キーワードまたはその一部を入力します。たとえば、「スケーリング」と入力するとスケーリングに関連するグローバル変更が表示されます。
3. 次のいずれかを実行します。
   -  > [読み込み／書き出し] > [書き出し]をクリックします。
   - 右クリックして、[読み込み／書き出し] > [書き出し]を選択します。
4. ダウンロード場所を選択します。
5. [保存] をクリックします。

9.2.3.6. グローバル変更のインポート

他のユーザーから受信したグローバル変更または別のコンピュータで作成したグローバル変更をインポートできます。

グローバル変更の拡張子は.egcです。

グローバル変更をインポートする手順

1. [グローバル変更] ダイアログ ボックスを開きます。

   グローバル変更の場所 362 ページのを参照してください。

2.  > [読み込み／書き出し] > [取り込み]をクリックします。

   複数のグローバル変更を取り込む場合は、それらを1つのフォルダにまとめ、フォルダ全体をアプリケーションに取り込むことをお勧めします。この場合、[グループを取り込む]を選択し、システムにある適切なフォルダを選択します。
3. 該当するグローバル変更を選択します。
4. [開く] をクリックします。

取り込まれたグローバル変更が [グローバル変更]ダイアログの[ローカル]フォルダに表示されます。グローバル変更は、必要に応じて実行および/または編集が可能です。

9.2.4. グローバル変更の結果の確認

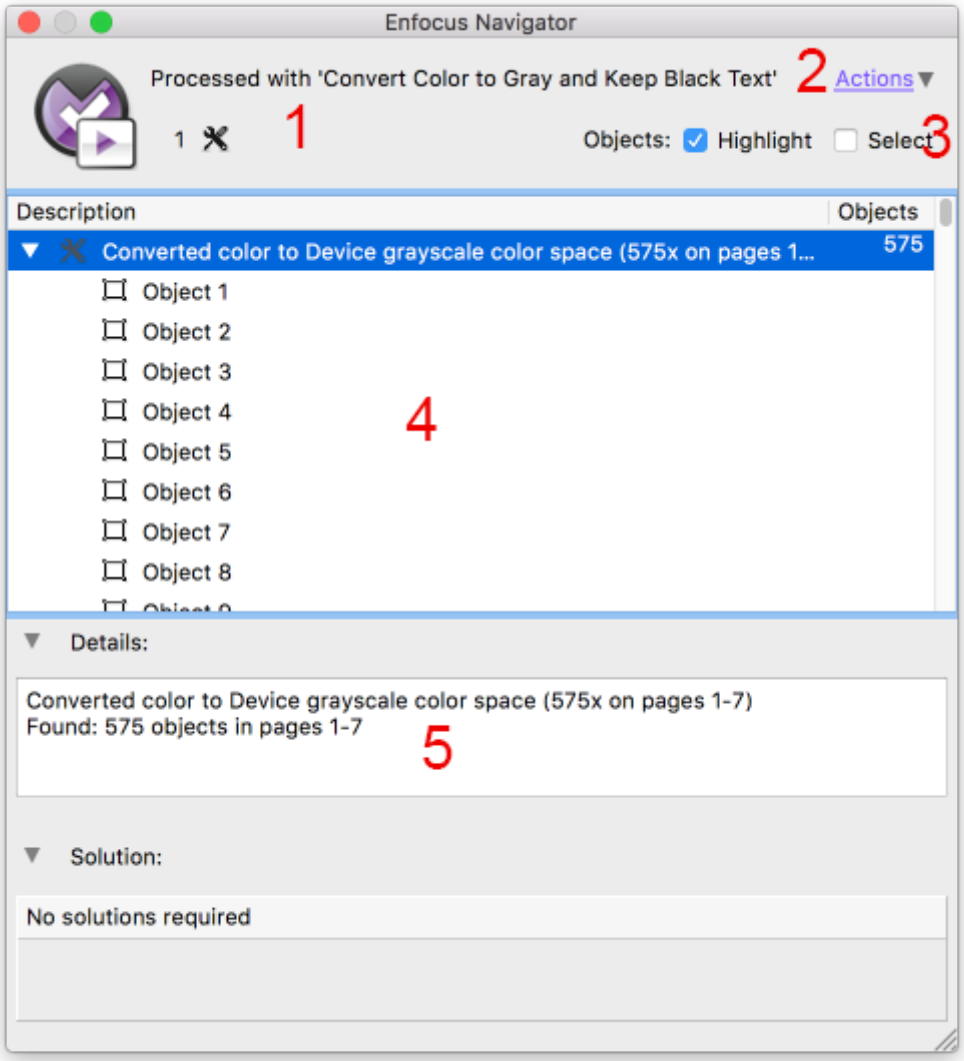
グローバル変更を実行したら、正確な変更内容またはグローバル変更の結果を確認したい場合があります。この情報は、Enfocusナビゲータからアクセスできます。また、このすべての情報が含まれたレポートを生成できます。

注: Enfocusナビゲータとレポートには、アクションリストとプリフライトチェックの結果も表示されます。アクションリストとPDFドキュメントのプリフライトについては、PitStop Proリファレンスガイドの対応する章を参照してください。

9.2.4.1. Enfocus ナビゲータ

Enfocusナビゲータでは、実行されたアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトチェック（該当する場合）の結果を確認できます。PitStop Pro環境設定（[全般]の下）によっては、Enfocusナビゲータはアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルを実行した直後にポップアップ表示される場合があります。

ヒント: 表示されない場合は、[ツール] > **[PitStop** プロセス > [ナビゲータ] または **PitStop Pro** > [ナビゲータ]を使用して、Enfocus ナビゲータを開くことができます。



Enfocusナビゲータには次の画面パーツがあります。

#	説明
1	アクションリスト、グローバル変更、プリフライトプロファイルの名前と、変更数。上記の例では、1つの変更だけが実行されています。 アイコンは、変更が成功したことを示します。問題がある場合は、（警告）、（サインオフ可能なエラー）、または（エラー）が表示されることがあります。
2	[アクション]リンクをクリックして[レポートの表示]を選択すると、処理中のPDFに関する情報（文書プロパティ、セキュリティ情報、実行されたアクションなど）が含まれたレポートが表示されます。

#	説明
	注: タイプ「情報」のアクションを使用した場合、アクションリストで収集する情報を見つけるためにレポートを開いてください。
3	実行されたアクション、グローバル変更、またはプリフライトチェックで影響を受けたオブジェクトをハイライト表示または選択する場合は、チェックボックスをオンにします。
4	[説明]セクションは変更されたオブジェクトを示します。行を選択すると、以下の[詳細]セクションの対応する詳細を表示します。このようにして、結果を参照できます。 注: このブラウザを Enfocus インスペクタと併用して、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。詳細については、PitStop Proリファレンスガイドの「結果によって参照」を参照してください。
5	[詳細]セクションには、[説明]の下で選択された項目に関する情報が表示されます。
6	[解決策]セクションでは、警告またはエラーの場合に問題を修正できます。例えば、タイプ「チェック」のアクションがフォントの問題を検出した場合、代替フォントを選択してただちにフォントを変更できます。

9.2.4.2. レポート

アクションリスト、グローバル変更、プリフライトプロファイルを実行した場合は、変更内容と変更されなかった内容に関する情報が含まれたレポート（PDF形式）を作成できます。タイプ「情報」のアクションの場合、必要な情報を表示するには、このようなレポートを生成する必要があります。

注: レポートを生成する場合、アクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルを実行するときには、「常に結果を表示」を選択します。レポートの生成 346 ページの も参照してください。

レポートの内容

通常レポートには次のセクションがあります。

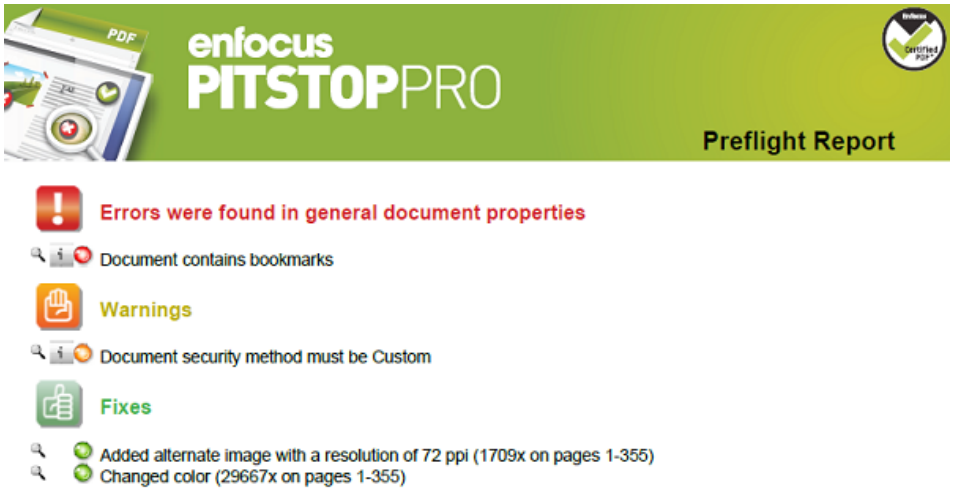
セクション	内容
エラー、警告、および修復	（可能性）問題と変更。エラーまたは警告としてタグ付けされるかどうかは、アクションリストの「チェック」アクションのログレベルによって異なります。
全般ファイル情報	PDF 文書のプロパティ (PDF バージョン、タイトル、作成者など) とセキュリティ情報。
フォント情報	PDF 文書で使用されている全てのフォントとその属性 (フォントのタイプ、埋め込みかサブセットかなど)。

セクション	内容
画像情報	PDF 文書の全ての画像とその他の情報 (物理的な解像度、有効解像度、ページ、角度、カスタム カラー機能など)。
OPI 情報	PDF 文書における OPI の使用方法。
カラー情報	PDF 文書で使用されている全てのカラースペース (RGB、CMYK など) と、その他の情報 (必要に応じて)。
インク情報	文書全体と各ページそれぞれから算出した CMYK インクの最大量。
レイヤー情報	文書内に存在するレイヤーのプロパティ。ツリー表示をクリックするとレイヤーの配列が表示されます。

修正、警告、エラー

アクションリスト、グローバル変更、プリフライトチェックの結果は、プリフライトレポートセクションに表示されます。エラー、警告、修正は先頭に表示されるさまざまなアイコンでグループ化されます。

- 拡大鏡アイコン。このアイコンをクリックすると、Enfocusナビゲータが開き、影響するオブジェクトのリストを参照できます。
- 情報アイコン（警告またはエラーの場合）。このアイコンをクリックすると、関連する問題の情報が記載されたヘルプトピックが開きます。
- 問題のタイプを示す緑、オレンジ、または赤色の点。
  - 緑は修正
  - 警告はオレンジ
  - エラーは赤



レポートスタイル

レポートを生成するときには、ニーズに合ったレポートレイアウトスタイルを選択できます。

4つの注釈付きレポートがあります（最初の4つは次の表を参照）。注釈付きレポートは、オリジナル文書とレポートの組み合わせです。レポート情報はさまざまなメモやブックマークとしてオリジナル文書に統合されているため、Acrobat Readerやブラウザで、Enfocusソフトウェアを使用せずに、簡単にエラーや警告に移動できます。

その他の3つのレポートスタイル（標準、最小、連続）には、オリジナル文書のコピーは含まれません。

レポート スタイル	説明
注釈付きレポート	注釈が付いたレポート。レポートは処理されたPDFのコピーであり、変更と確認に注釈が付きます。
低解像度の注釈付きレポート	低解像度画像を使用した注釈付きレポート。レポートのファイルサイズが小さくなります。
保護された注釈付きレポート	パスワード保護された注釈付きレポート。ユーザーはレポートを編集できません。 注: このレポートスタイルを選択するときには、パスワードを指定する必要があります。このパスワードを使用すると、必要に応じてレポートのセキュリティ設定を変更できます。
スケーリングされた低解像度の注釈付きレポート(最大 A4)	注釈が付いたレポート。文書全体がスケーリングされ、低解像度です。このレポートのページ サイズは A4 サイズを超えず、画像もより小さなサイズに圧縮されます。 注: 電子メールで大きい形式の文書のレポートを送信する場合に有効です。
標準	処理されたPDFを含まないレポート。一般ファイル情報と、修正、失敗、警告、エラーの概要（ある場合）のみが含まれます。
最小	最小情報の標準レポート。
連続	標準レポートのようにトピック間に改ページ（修正と一般ファイルの情報、フォント情報など）を含まない標準レポート。グレースケールで印刷されます。

9.2.4.3. レポートの生成

このトピックでは、Enfocus Navigatorを使用したレポートの生成方法について説明します。PitStop Pro環境設定（全般の下）を構成し、選択したレポートスタイルを使用してプリフライトレポートを常に表示する場合、結果を表示：常にオプションを使用して、アクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトプロファイルのみを実行できます。

アクションリスト、グローバル変更、プリフライトチェックの結果の概要を表示するレポートを生成する手順

1. 文書でアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトチェックを実行します。

結果を表示リストから常にを選択します。そうでない場合、Enfocusナビゲータがポップアップ表示されません。この操作を忘れた場合は、[ツール] > [**PitStop** プロセス > [ナビゲータ] または **PitStop Pro** > [ナビゲータ]を使用して、Enfocus ナビゲータを開くことができます。

[Enfocus ナビゲータ] が表示されます。ここで、実行したアクションリスト、グローバル変更、またはプリフライトチェックの結果を確認できます。*Enfocus ナビゲータ* 342 ページのを参照してください。

2. Enfocusナビゲータの右上コーナーにある[アクション]リンクをクリックします。
3. リストからレポートを表示を選択します。
4. レポート スタイルを選択して、[レポートの表示] をクリックします。

   レポートスタイルの詳細については、レポート 344 ページのを参照してください。

   レポートが開き、エラー、警告、および修復が最初のページに表示されます。
5. Adobe Acrobat **Hand**ツール を使用して、次のことを実行できます。

   - エラー、警告、または修復の横にある拡大鏡のアイコン をクリックして、PDF 文書内の対応するオブジェクトを選択しハイライトします。必ずEnfocus ナビゲータで影響するオブジェクトを参照します。同時にEnfocus インスペクタを開き、特定の問題に関する詳細を確認したり問題をすぐに修正したりすることができます。

   - エラー、警告、または修復の横にある情報アイコン をクリックして、ヘルプ トピックを参照します。ダイアログ ボックスが表示され、ヘルプ トピック (オープン Web リンク) を表示する場所の選択が要求されます。この場合は、[**Web** ブラウザ] を選択します。
6. ファイル > 保存をクリックして、ファイルを保存します。

9.3. QuickRun の使用

9.3.1. QuickRun について

QuickRun とは、一連のアクションリストグローバル変更およびプリフライトプロファイルを単一のコマンドとしてグループ化したものです。これは、他のアプリケーションにおける「マクロ シーケンス」にあたります。

QuickRun には次のものが含まれます。

- 複数のアクションリスト
- 複数のグローバル変更
- 1 つのプリフライトプロファイル

注: Enfocus PitStop Server のホット フォルダでアクションリストとプリフライトプロファイルを組み合わせることができます。

QuickRun を実行する場合

複数のアクションリストまたはグローバル変更を PDF 文書で実行し、PDF 文書のプリフライトのためにプリフライトプロファイルを実行する必要がある状況では、1 つの PDF 文書だけでなく、複数回または複数の PDF 文書でこの操作を繰り返す必要がある場合があります。個別のアクションリストやグローバル変更およびプリフライトプロファイルを順次実行する代わりに、これらの操作を QuickRun にまとめて効率的に作業することができます。

9.3.2. でのQuickRunsの場所 PitStop Pro

QuickRunはPitStop Proの**QuickRun**ダイアログからアクセスできます。場所はAcrobatバージョンによって異なります。

次の表は、[QuickRuns]ダイアログの開き方を説明します。

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、 **PitStop Pro** > **[QuickRun]** をクリックします。 • [ツール] で、**[PitStop** プロセス] > **[QuickRun]**の順に選択します。

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

QuickRun お気に入り

お気に入りに追加されたQuickRunsには次のようにアクセスできます。

OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
Acrobat	• メニューバーで、**PitStop Pro** > **[QuickRun**お気に入り] をクリックし、QuickRunを選択します。 • [ツール] で、**[PitStop** プロセス] > **[QuickRun**お気に入り]の順にクリックし、QuickRunを選択します。
Windows	QuickRunお気に入りのショートカットを使用します。 例: • お気に入り 1: Alt+Shift+Ctrl+A • お気に入り 2: Alt+Shift+Ctrl+B
Mac	QuickRunお気に入りのショートカットを使用します。

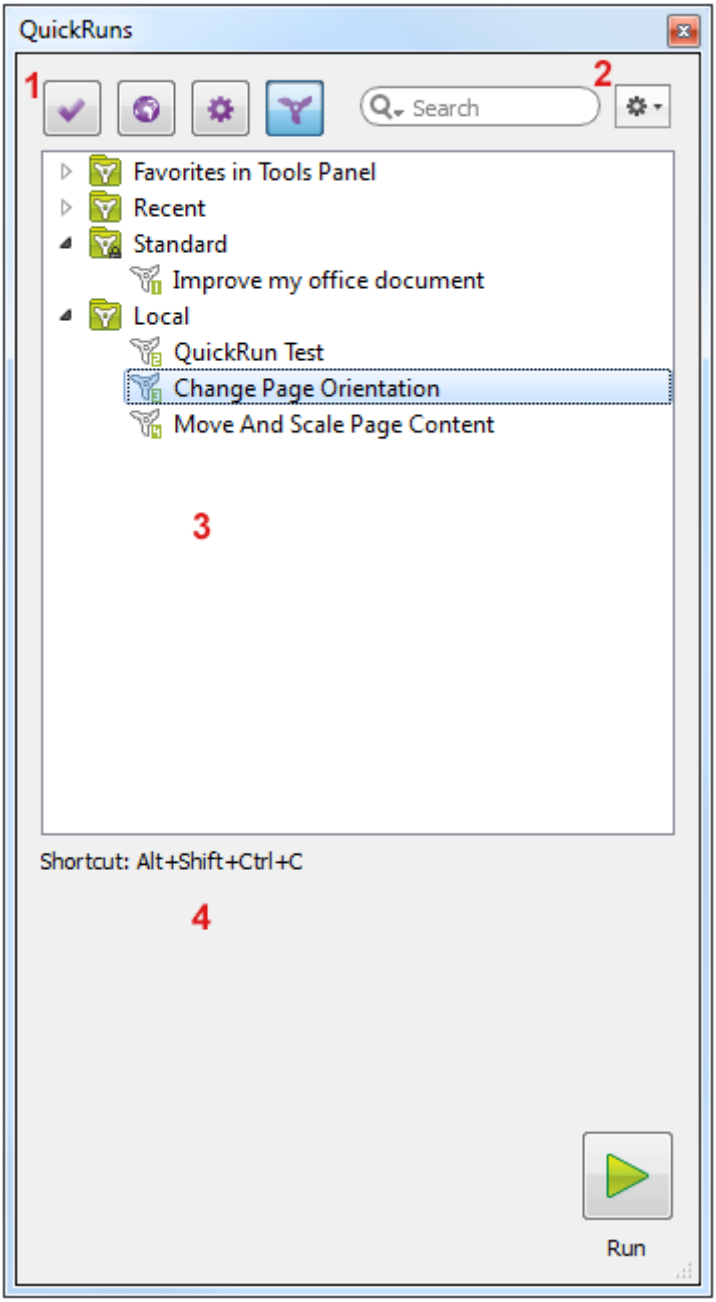
OS/Acrobat	次のいずれかを実行します。
	例: • お気に入り 1: ⌥⇧⌘A • お気に入り 2: ⌥⇧⌘B

注: これらのショートカットは、独自のショートカットを作成することで変更できます。「*[環境設定] > [Enfocus PitStop Pro環境設定] > [ショートカット]* 61 ページの」を参照してください。

9.3.2.1. QuickRunダイアログ

[QuickRun]ダイアログでは、QuickRunの整理、表示、および実行ができます。

- 既存のQuickRunまたは空のQuickRun（新しいQuickRunを作成）を開くことができます。
- QuickRunのインポート、エクスポート、複製、およびグループ化ができます。
- 編集中のPDFの1ページ以上に適用するなど、QuickRunを実行できます。



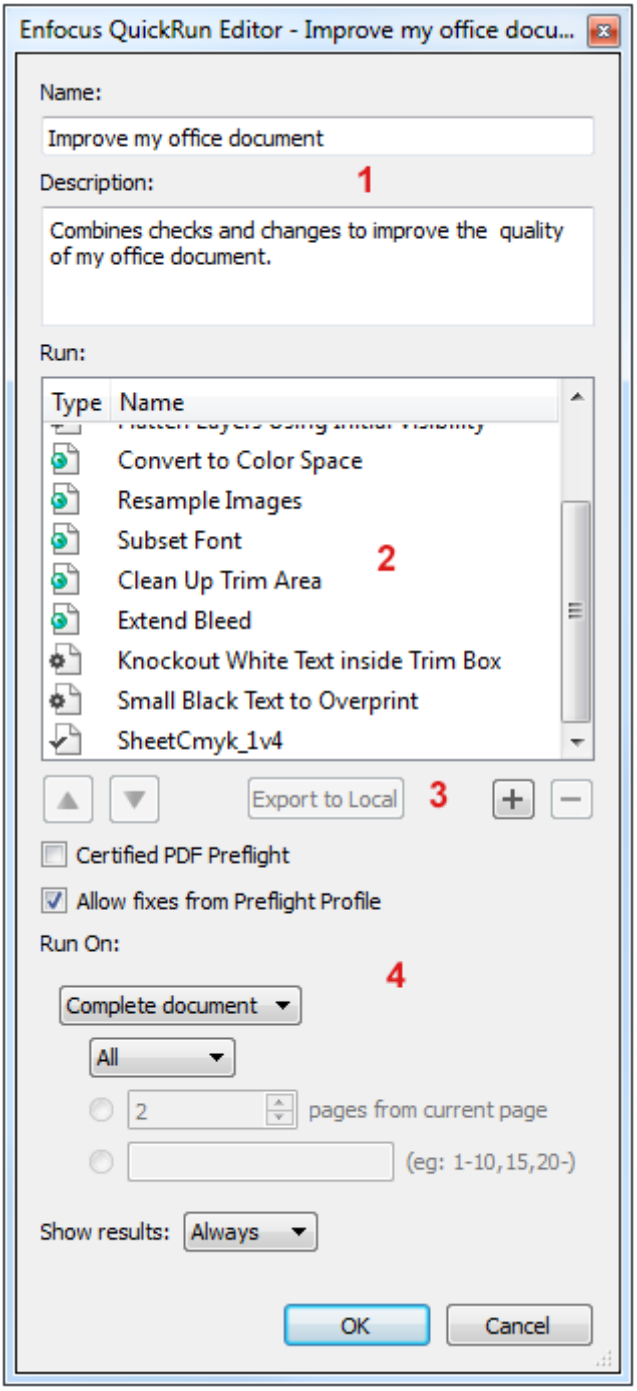
[QuickRun]ダイアログには次の画面パーツがあります。

#	説明
1	QuickRuns（）と他の「Preset」（プリフライトプロファイル、グローバル変更、、およびアクションリスト）を切り替えるボタン。
2	検索フィールド（特定のQuickRunを検索）とメニュー（QuickRunの整理）。
3	使用可能なQuickRunsが表示されるワークスペース。QuickRunsは、「データベース」フォルダで整理されます。既定では、次のフォルダがあります。

#	説明
	• ツール パネルのお気に入り: QuickRunsリストはお気に入りに設定されます。これにより、頻繁に必要なQuickRunsにすばやくアクセスできます。 • 最近使用した項目：最後に使用した10個のQuickRuns。 • 標準: 既定のQuickRunsはPitStop Proとともにインストールされます。 • ローカル：編集および作成したQuickRunsはローカルに保存されます。
4	ダイアログの下部には選択したQuickRunsに関連付けられるショートカットがあります。このショートカットは、コンテキストメニューからQuickRunsをお気に入りに追加すると自動的に割り当てられます。

9.3.2.2. QuickRunエディタ

QuickRunエディタは[QuickRun]ダイアログからアクセスできます。QuickRunをダブルクリックするか、コンテキストメニューの[編集]を選択すると、このダイアログが表示されます。QuickRunの内容を編集できます。



[QuickRunエディタ**]**には次の画面パーツがあります。

#	説明
1	QuickRunの名前と、QuickRunが実行する処理の説明。
2	QuickRunの実行時に適用されるアクションリスト、グローバル変更、およびプリフライトプロファイル。

#	説明
3	QuickRunの内容を設定できるさまざまなボタン。 •  ：これらのボタンを使用して、実行順を変更します。 • ローカルにエクスポート：QuickRunの内容を編集できないため、このボタンを使用して、選択した項目（アクションリストなど）をローカルフォルダに書き出し、対応するプリセットタイプ（アクションリストダイアログなど）に切り替えて編集し、後でもう一度QuickRunにインポートできます。 •  ：これらのボタンを使用して、アクションリスト、グローバル変更、プリフライトプロファイルをQuickRunに追加したり削除したりできます。
4	ダイアログの下部では、一部のプリフライト関連オプションを設定し、QuickRunが適用されるページ範囲と結果が表示されるかどうかを定義できます。

9.3.3. QuickRunsの操作

この章では、QuickRunsを作成、編集、実行するために理解しておくべきことについて説明します。

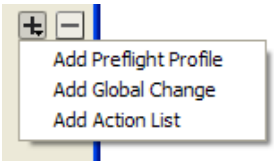
9.3.3.1. QuickRunを作成する

QuickRunを作成する際、現在開いている文書で実行するアクションリスト、グローバル変更およびプリフライトプロファイルを選択する必要があります。QuickRunからアクションリスト、グローバル変更およびプリフライトプロファイルの内容を編集または変更することはできないため、QuickRunを作成する前にこれらの中身を確認および準備することをお勧めします。

QuickRun を作成する手順

1. **[QuickRun]**ダイアログを開きます。
   でのQuickRunsの場所 PitStop Pro 378 ページのを参照してください。
2. 次のいずれかを実行します。
   - 既存のQuickRunから新規QuickRunを作成するには、  > [新規] > [既存から新規作成/ファイルから新規作成]をクリックし、基にするQuickRunを選択します。

     [既存から新規作成]オプションでは、標準データベースの既存のQuickRunを選択することができます。また、[ファイルから新規作成]オプションでは、コンピュータのファイル（*.eqr）を選択することができます。
   - 新しいQuickRunを最初から作成するには、  > [新規] > [新規]をクリックします。
3. 意味のある名前と説明を入力します。
4.  をクリックし、QuickRunに追加する1つまたは複数のアクションリスト、グローバル変更、および/またはプリフライトプロファイルを選択します。



5. 次のいずれかを実行します。
   - データベースからアクションリスト、グローバル変更またはプリフライトプロファイルを追加するには、[データベースから] を選択して、1 つまたは複数のアクションリスト、グローバル変更、または単一のプリフライトプロファイルを選択します。
   - ハード ディスクまたはネットワーク ドライブからアクション リスト、プリフライトプロファイル、グローバル変更を追加する場合は、[ファイルから] を選択して、[参照] をクリックします。適当なファイルを選択して、[開く] をクリックします。
6. **[OK]** をクリックします。

   アクションリスト、グローバル変更、プリフライトプロファイルが[実行] ボックスに表示されます。
7. [上に移動]または[下に移動]ボタンをクリックして、アクションリストおよびグローバル変更の実行順序を設定します。

   注: アクションリストおよびグローバル変更の実行順序を十分に確認してください。同じアクションを別の順序で実行すると、異なる結果が生成されます。事前にテストするには、アクションを個別に実行し、順序が正しいかどうかを確認します。
8. 必要に応じて、**[Certified PDF** プリフライト] を選択して PDF 文書の Certified PDF ワークフローを開始します。
9. プリフライトプロファイルが選択されている場合は、[プリフライトプロファイルからの修復を許可] を有効にするかどうかを指定できます。

   注: プリフライトプロファイル自体で修復が無効に設定されている場合、このオプションは利用できません。
10. QuickRunを文書全体に実行するか、またはページ範囲に実行するかを決定します。
    - 文書全体: ドキュメント中にあるすべてのページ。さらに、すべてのページに実行するか、もしくは偶数または偶数ページのみに実行するか設定ができます。
    - 選択対象: PitStop Pro[オブジェクトを選択]ツールを使用して選択したオブジェクトまたはエリア。
    - 現在のページ: 現在表示されているページのみ。
    - ページ: 指定されたすべてのページまたはページ範囲。

11. QuickRunを実行後、QuickRunの結果をEnfocusナビゲータ、またはプリフライトレポートのどちらに表示するかを指定します。

    Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートのどちらが表示されるかは、[PitStop Pro環境設定]に依存します（[編集]（**Windows**）または**[Adobe]**（**Mac**） > **[EnfocusPitStop Pro**環境設定] > [全般]を参照して下さい）。

    Enfocusナビゲータは、選択されたQuickRunによって行われた変更の概要を説明するダイアログです。これを使い、プリフライトレポートを生成することができます。同様にこのプリフライトレポートは、プリフライトと一般的なファイルの情報が表示されたPDF文書です。

    適切なオプションを選択します。

    - 常に表示: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは常に表示されます。
    - エラー時: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは、エラーが検出された場合のみ表示されます。エラーの検出は、「チェック」タイプのアクションにおいてのみ行われます。「チェック」アクションの属性で、[エラーとしてログに記録]または[エラーログを取り、サインオフを許可]が選択されている必要があります。
    - 表示しない: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは一切表示されません。

12. **[OK]** をクリックします。

9.3.3.2. QuickRunの編集

QuickRunの編集とは、アクションリスト、グローバル変更およびプリフライトプロファイルを追加および削除することや、オプションを変更することを意味します。QuickRunからアクションリスト、グローバル変更およびプリフライトプロファイルの内容を編集または変更することはできないことにご注意ください。

1. **[QuickRun]**ダイアログを開きます。

   でのQuickRunsの場所 PitStop Pro 378 ページのを参照してください。

2. 編集するQuickRunsをダブルクリックします。
3. 必要な変更を行います。
    - 必要に応じて名前および説明を変更します。
    -  をクリックして、1つまたは複数のアクションリスト、グローバル変更およびプリフライトプロファイルを追加するか、または  をクリックして削除します。
    -  または  ボタンをクリックして順序を変更します。

      注: アクションリストおよびグローバル変更の実行順序を十分に確認してください。同じアクションを別の順序で実行すると、異なる結果が生成されます。事前にテストするには、アクションを個別に実行し、順序が正しいかどうかを確認します。

    - QuickRunsがプリフライトプロファイルを含む場合

- PDF文書のCertified PDFプリフライトワークフローを開始するには、**[Certified PDFプリフライト]**を選択します。
- 必要に応じて**[プリフライトプロファイルの修正を許可]**のチェックを選択または選択解除します。

  注**:** プリフライトプロファイル自体で修復が無効に設定されている場合、このオプションは利用できません。

- 必要に応じてQuickRunを適用するページ範囲を変更します。
  - 文書全体: ドキュメント中にあるすべてのページ。さらに、すべてのページに実行するか、もしくは偶数または偶数ページのみに実行するか設定ができます。
  - 選択対象: PitStop Pro[オブジェクトを選択]ツールを使用して選択したオブジェクトまたはエリア。
  - 現在のページ: 現在表示されているページのみ。
  - ページ: 指定されたすべてのページまたはページ範囲。
- 必要に応じて**[結果を表示]**オプションを変更します。

  このオプションは、QuickRunを実行後、QuickRunの結果を表示するかどうかを指定します。

  注**:** Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートのどちらが表示されるかは、[PitStop Pro環境設定]に依存します（**[編集]**（**Windows**）または**[Adobe]**（**Mac**）> **[EnfocusPitStop Pro**環境設定**]** > **[全般]**を参照して下さい）。

  Enfocusナビゲータは、選択されたQuickRunによって行われた変更の概要を説明するダイアログです。これを使い、プリフライトレポートを生成することができます。同様にこのプリフライトレポートは、プリフライトと一般的なファイルの情報が表示されたPDF文書です。

  適切なオプションを選択します。
  - 常に表示: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは常に表示されます。
  - エラー時: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは、エラーが検出された場合のみ表示されます。エラーの検出は、「チェック」タイプのアクションにおいてのみ行われます。「チェック」アクションの属性で、**[エラーとしてログに記録]**または**[エラーログを取り、サインオフを許可]**が選択されている必要があります。
  - 表示しない: [Enfocusナビゲータ]ダイアログまたはレポートは一切表示されません。

4. **[OK]** をクリックします。

9.3.3.3. QuickRunを実行する

QuickRunsを実行する手順（現在開いている文書に適用するには）

1. **[QuickRun]**ダイアログを開きます。
   でのQuickRunsの場所 PitStop Pro 378 ページのを参照してください。
2. 目的のQuickRunsを選択します。
3.  をクリックします。
   QuickRunsが適用されます。使用するシステム構成によっては、Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートが表示されます。詳細については、Enfocus ナビゲータ 342 ページの、レポート 344 ページの、およびレポートの生成 346 ページのを参照してください。
4. PDF文書内のQuickRuns実行結果を確認します。
   結果に問題がある場合は、**[編集] > [Enfocus QuickRunの取り消し]**の順に選択するか、または[取り消し]ボタン をクリックします。必要に応じてQuickRunの内容を変更します。「QuickRunの編集 385 ページの」を参照してください。

9.3.3.4. QuickRunのお気に入りを定義する手順

特定のQuickRunを高い頻度で使用する場合は、QuickRunのお気に入りを定義することを推奨します。お気に入りに追加することで、PitStop Proメニューの[QuickRunお気に入り]オプション、および[PitStop プロセスツール]パネルからアクセス可能となり、ショートカットが割り当てられます。

QuickRunのお気に入りを定義する手順

1. **[QuickRun]**ダイアログを開きます。
   でのQuickRunsの場所 PitStop Pro 378 ページのを参照してください。
2. 目的のQuickRunを右クリックします。
3. コンテクストメニューから[お気に入りに追加]を選択します。
   このオプションが使用できない場合、そのQuickRunはすでにQuickRunのお気に入りとして定義されています。お気に入りのQuickRunは、QuickRunの名前の前にあるアイコンの中に数字が表示されます  。
   QuickRunがお気に入りに追加されました。割り当てられたショートカットがダイアログの下側に表示されます。

9.3.3.5. QuickRunの書き出し

他のユーザと共有したり、他のコンピュータで使用するためにQuickRunを書き出すことができます。

QuickRunを書き出すための手順

1. **[QuickRun]**ダイアログを開きます。
   でのQuickRunsの場所 PitStop Pro 378 ページのを参照してください。
2. 書き出すQuickRunsをダブルクリックします。
3. 次のいずれかを実行します。
   -  > [読み込み／書き出し] > [書き出し]をクリックします。
   - 右クリックして、[読み込み／書き出し] > [書き出し]を選択します。
4. ダウンロード場所を選択します。
5. [保存] をクリックします。

9.3.3.6. QuickRunの取り込み

他のユーザから受け取ったQuickRunや、他のコンピュータで作成されたQuickRunを取り込むことができます。

QuickRunのファイル拡張子は、.eqrです。

QuickRunを取り込むための手順

1. **[QuickRun]**ダイアログを開きます。
   でのQuickRunsの場所 PitStop Pro 378 ページのを参照してください。
2.  > [読み込み／書き出し] > [取り込み]をクリックします。
   複数のQuickRunsを取り込む場合は、それらを1つのフォルダにまとめ、フォルダ全体をアプリケーションに取り込むことをお勧めします。この場合、[グループを取り込む]を選択し、システムにある適切なフォルダを選択します。
3. 適切なQuickRunsを選択します。
4. [開く] をクリックします。

取り込まれたQuickRunsが [QuickRuns]ダイアログのローカルフォルダに表示されます。QuickRunsは、必要に応じて実行および/または編集が可能です。

9.4. より高度な自動化機能。

9.4.1. Enfocus PitStop Server

本章の冒頭で説明したように、アクションリストを使用すると、繰り返しの多い作業を自動化できます。これらのタスクをアクション リスト にグループ化し、1 つまたは複数の PDF 文書にそのアクション リストを適用できます。

しかし、同じアクション リストを適用する PDF 文書が多数ある場合、より高度な自動化機能が必要となります。たとえば、自動化を行わない場合は以下の作業を繰り返し行う必要があります。

- 各 PDF 文書を開く
- アクションリスト (1つまたは複数) を実行する
- PDF 文書を閉じて保存する

この作業自体が繰り返しが多いため自動化に適している場合があります。

PitStop Server を使用すると、PDF を処理する作業の自動化をさらに進めることができます。このアプリケーションはスタンドアロン型であるため、ホット フォルダ の作成に使用できます。ホット フォルダには、1 つまたは複数のアクションリストのほか、必要に応じてプリフライトプロファイルも入れることができます。これらのアクションリストおよびプリフライトプロファイルは、ユーザー定義可能な入力フォルダに PDF 文書が入ると自動的に実行されます。

9.4.2. Enfocus Switch

Enfocus Switch を使用すると、PDF ファイルの自動プリフライト、修正、および証明をひとつのより大きなワークフローへ簡単に統合できます。Enfocus Switch は 電子メールまたは FTP を介したジョブを自動的に受領したり、ファイルタイプやファイル命名規則に基づくジョブのソートとルーティングを行ったり、主要な専門家向け出版関連アプリケーションすべてを自動化することが可能です。これにより、Enfocus のプリフライト技術と、PDF ファイル作成、カラー変換、画像の最適化、面付け、および校正用の諸ツールとのスムーズな統合が実現できます。

10. カラーの管理

この章では、カラーマネージメントとカラーの基本について簡単に説明します。PitStop Pro を使用して、PDF文書で高品質のカラーを正確に再現する方法を説明します。

10.1. カラー マネージメントについて

カラー モニターとカラー プリンタでは、まったく異なる方法でカラーを再現しています。

カラー管理システム (CMS: color management system) は、スキャナ、モニター、プリンタの異なるカラー機能を調整するために設計された一連のツールであり、作成、表示、印刷プロセスを通じて、一貫したカラーを実現します。これにより、最終出力のカラーを正確にモニター上で再現できるようになります。また異なるアプリケーション、モニター、オペレーティング システムでも、一貫して同じカラーが表示されるようになります。

10.2. カラー モデル

10.2.1. RGB カラーモデル

モニターは、カラーを再現するのに、赤、緑、青 (RGB) の光を使用します。3 つのカラーを全て最大の輝度にして重ねると、色は白になります。RGB カラーは、照明、ビデオ、モニターに使用されています。コンピュータ モニターは、赤、緑、青の蛍光体を通して光を照射することで、カラーを再現しています。



10.2.2. CMYK カラーモデル

印刷機では CMYK カラーモデルが使用されています。このカラーモデルは 3 色の透明なインキ (シアン – C、マゼンタ - M、イエロー - Y) をブラック (キーカラーの K) と混ぜ合わせ、その量を調整することで、さまざまなカラーを再現します。CMYK インクは、用紙に反射する白色光を

さえぎり、白色光から赤、緑、青の光を差し引く効果があります。人間の目に見えるのは、残された光です。

理論上、全てのカラーを吸収して、ブラックを再現するには、純粋なシアン、マゼンタ、イエローの色素を混ぜる必要があります。しかし、全ての印刷用インクには、不純物が混入しているので、これらの 3 つのインクを混ぜても、実際には土のような茶色になってしまいます。本格的なブラックを再現するには、ブラックインクを混ぜる必要があります。これらのインクを混ぜて、カラーを再現する方法は、4 色刷印刷と呼ばれています。

理論上、シアン、マゼンタ、イエローを混ぜて完全なブラックになりますが、現実には、キーカラーのブラックを追加する必要があります。



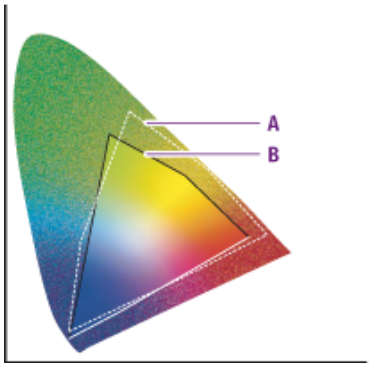
10.2.3. グレースケール モデル

グレースケール モデルは、グレーのシェードを使用して、オブジェクトを表現しています。この場合、グレースケール画像の各ピクセルには、0% (ブラック) から 100% (白) までの明るさの値があります。ほとんどの出力デバイスで再現できるグレーの最大数は 256 色です。

10.3. 色域とカラースペース

10.3.1. 色域: カラー光線のデバイス依存サブセット

可視光線には、数百万のカラーが含まれていますが、スキャナ、モニター、カラー プリンタなどのカラー デバイスでは、この可視光線の特定範囲しか再現できません。この「特定範囲」のことを色域と呼びます。デバイスの色域は、再現できるカラー スペースを定義します。たとえば、モニターでは CMYK カラーを使用したオフセット印刷よりも幅広いカラーを表示できますが、一部の CMYK カラーはモニター上では正確に表示できません。各デバイスには、異なる色域があります。



A. *RGB* の色域
B. *CMYK* の色域

色域およびカラー スペースの詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

10.3.2. 装置依存色

装置依存色は、画像を作成した、または出力したデバイスの設定と関連しています。装置依存色の場合、一貫したカラーの再現を実現するために、ワークフロー中の全装置を「キャリブレーション」する必要があります。つまり、カラーを一致させるために、入力デバイス (スキャナまたはデジタル カメラなど)、モニター、出力デバイス (デジタル カラー プリンタなど) を相互に調整する必要があります。

同じタイプまたはモデルのデバイス間でも、相違が発生する可能性があります。設定が違っている場合があるからです。たとえば、モニターの場合、明るさまたはコントラストが違っている可能性があります。

装置依存色の詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

10.3.3. 装置非依存色

デバイス間にあるカラーの違いを解消する、あるいは最小限に抑えるために、カラー管理システムを使用できます。カラー管理システムは、CIELab など、装置非依存の標準的なカラー モデルを使用しています。画像は、入力デバイスと出力デバイスの両方、あるいは一方の情報を記録したプロファイルと関連付けられています。したがって、画像を特定の装置で出力する場合、画像はこの装置のプロファイルと関連付けられます (「タグ」付け)。

装置非依存色の詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

10.4. レンダリング インテント

10.4.1. カラーをリマッピングするレンダリング インテント

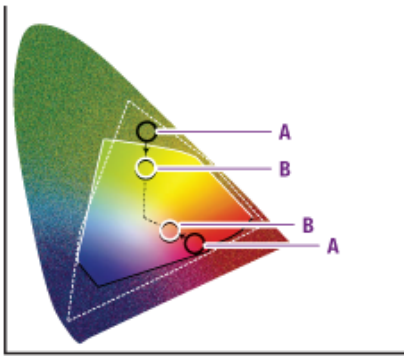
カラー管理システムを使用すると、意図した状況にカラーが最大限に一致するようにカラーをリマップできます。「リマッピング」とは、特定の出力デバイスのカラー スペースに属すカ

ラーを、別のデバイスのカラー スペースにマッピングすることです。このリマッピングは、レンダリング インテントと呼ばれるリマッピング方式に従って実行されます。リマッピング方法、つまり、レンダリング インテントには、以下の 4 つの種類があります。

- 知覚的リマッピング 393 ページの
- 彩度リマッピング 393 ページの
- 相対的な色域を維持するリマッピング 394 ページの
- 絶対的な色域を維持するリマッピング 394 ページの

10.4.2. 知覚的リマッピング

人間の目は、カラー間の関係を認識できます。知覚的マッピングは、カラー間の関係を残したまま、オリジナルのカラー スペースの全カラーを、変更先のカラー スペースの色域に変えます。関係を残しているため、カラーの変更を知覚することは困難です。

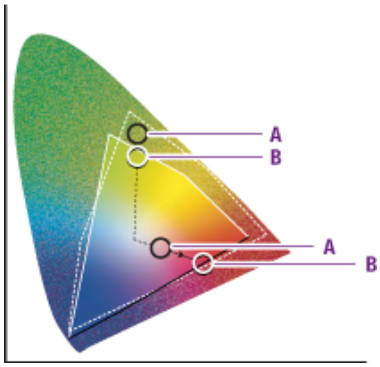


知覚的リマッピングは、変更先のカラー スペースの色域 (**B**) 内で、オリジナルの色域 (**A**) の再スケーリングを行いますが、カラー間の関係は残しています。

10.4.3. 彩度リマッピング

ターゲット デバイスのカラー スペースに変換するとき、オリジナルの画像のカラー彩度 (鮮明さ) を再現します。この方式では、カラーの総体的な彩度は、色域が変わってもそのまま維持されます。このレンダリング インテントは、主に業務用の画像を対象として開発されました。業務用の画像では、明るい彩度のカラーは重要でも、カラー間の厳密な関係 (写真の画像のような) は重要ではありません。

彩度リマッピングは、全てのカラーを最も明るい彩度 (**B**) にスケーリングします。彩度 (色度とも呼ばれる) は同じになりますが、一部のカラーは明るくまたは暗くなります。



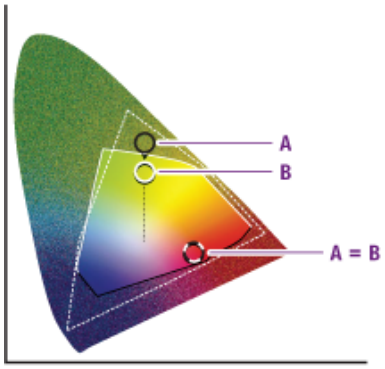
10.4.4. 相対的な色域を維持するリマッピング

入力デバイスと出力デバイスの両方の色域に含まれるカラーは変更されません。出力デバイスの色域に含まれないカラーは、通常、同じ明度で異なる彩度のカラーに変更されます。

この方式では、多くの異なる入力カラーが同じ出力カラーにマッピングされて、画像カラーの総数が大幅に減ってしまう場合があります。

ただし、2 つの出力プロファイルをプルーフィングのために結合する場合、このマッチング方式は便利です。プルーフィング デバイス (2) の色域は、変更先のプロファイル (1) の色域よりも大きいからです。

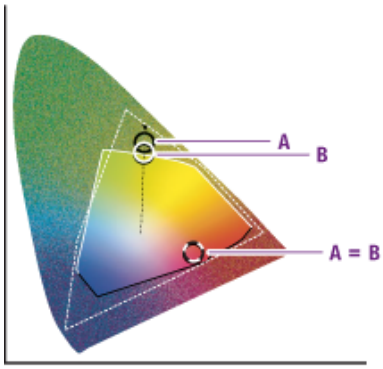
相対的な色域を維持するリマッピングでは、色域に含まれないカラーは、同じ明度で異なる彩度のカラー (**B**) で置き換えられます。



10.4.5. 絶対的な色域を維持するリマッピング

入力デバイスと出力デバイスの両方の色域に含まれるカラーは変更されません。出力デバイスの色域に含まれないカラーは、出力デバイスの色域の境界線にあるカラーに変更されます。この変更により、一部の表示部分で詳細なカラーが失われる可能性があります。ただし、色調のほぼ全範囲のうち、近い色に調整されます。この方式は、特色に適しています。

絶対的な色域を維持するリマッピングでは、色域に含まれないカラーは色域の境界線 (**B**) にあるカラーに変更されます。変更先の色域で表示できないカラーは失われます。



10.4.6. 画像のレンダリング インテントの変更

画像のレンダリング インテントを変更する手順

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、ピクセル画像を選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [塗り / 線] > [塗り] カテゴリの順にクリックします。
4. [カラーレンダリングインテント] を選択します。
5. 必要に応じて、[スムーズネス] を調整します。

注:

- スムーズネスの許容範囲は、スムーズ シェーディングの品質を制御し、これによってレンダリング パフォーマンスを間接的に制御します。
- スムーズネスは、区分的線形補間によって近似されるシェーディングと、(非線形の可能性がある)シェーディング機能の真の値との間で許容されるカラーエラーになります。このエラーは、各エラーコンポーネントに対して測定され、最大エラーが使用されます。

10.5. 特色の使用

10.5.1. 特色の使用

特色は、混合済みの独自のインクで印刷するカラーです。複数の特色システム、数百の特色インクから、適切なものを選択できます。特色オフセット印刷では、それぞれの特色は 1 枚の印刷プレートを使用して再現されます。対照的に、プロセス カラー印刷は、4 色のインク (CMYK: シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック) だけで、全てのカラーを再現しています。

100% で特色を印刷すると、塗りつぶされた (ドット パターンではない) 不透明なカラーがページ上に印刷されます。ティント (明度) の高い特色は、ベース カラーのより小さいハーフトーン ドットを印刷することで再現されます。

オフセット印刷に使用すると、特色は非常に優れた出力結果を実現します。ただし、デジタル出力またはモニター表示には、特色はあまり適しておらず、使用するときには注意が必要です。

PitStop Pro では、特色に関する以下の作業を行うことができます。

- 作成する特色 396 ページの
- 特色の適用 397 ページの
- 特色の編集 397 ページの
- リマッピング特色 398 ページの
- 特色の複製 398 ページの

10.5.2. 作成する特色

PitStop Pro を使用して、Adobe Acrobat で新規特色を作成したり、その名前や CMYK 値を変更したりすることができます。この方法には、ソース ファイルとオーサリングおよび設計のプログラムで特色を管理する場合に比べて、文書全体でカラーの一貫性を維持する方が簡単であるというメリットがあります。たとえば、デスクトップ パブリッシング プログラムにインポートするグラフィックでは、特色定義が互いに異なっている場合があります。または、これらのグラフィックの特色定義が、デスクトップ パブリッシング プログラムで定義したものと異なっている場合もあります。

次の手順に従います。

1. カラー オブジェクトやテキストを含む PDF 文書を作成または開きます。
2. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトまたはテキストを選択します。
3. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
4. [線 / 塗り] カテゴリをクリックします。
5. [アクション]ドロップダウンメニューから[カラーピッカー]を選択します。

6. [カラーピッカー] で、特色を選択します。
   a. 新規をアクションドロップダウンメニューから選択して、まったく新しい特色を作成するか、[選択して新規作成...] を選択してライブラリ内の選択カラーをベースに特色を作成することができます。
   b. この特色の名前を入力してください
   c. [代替特色値として定義] を選択します。これは、カラーが特色であり、次で入力される CMYK/RGB/LAB 値は、表示用にそのカラーを変換する際に使用される「代替値」であることを意味しています。
   d. RGB、CMYK、または LAB の値を入力して、カラーを定義します
   e. **[OK]** をクリックします。
7. 次のいずれかを実行します。
   - 選択したオブジェクトに新規の特色を適用するには、新規の特色を選択し、**[OK]** をクリックします。
   - 選択したオブジェクトに特色を適用しないでカラー ライブラリに特色を保存するには、[キャンセル] をクリックします。

   カラーをカラー ライブラリに保存すると、グローバル カラー変更やアクションリストの作成など、他の PitStop Pro のタスクでカラーが使用可能になります。また、この特色をカラー ライブラリから取り出して、繰り返し使用できます。

10.5.3. 特色の適用

次の手順に従います。

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトまたはテキストを選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [線 / 塗り] カテゴリをクリックします。
4. [アクション]ドロップダウンメニューから[カラーピッカー]を選択します。
5. [特色ピッカー] で、[カラーライブラリ] を選択します。
6. リストの特色を選択し、**[OK]** をクリックします。

10.5.4. 特色の編集

Enfocus インスペクタと [カラーピッカー] を使用して、カラー ライブラリの特色を選択したり、その値を変更したりすることはできません。PDF 文書で同じ特色を使用する他のオブジェクトが存在する可能性があり、それらのオブジェクトを変更する必要はありません。PDF 文書

全体で特色を変更したくない場合は、グローバル変更またはアクション リストを使用できます。

10.5.5. リマッピング特色

PitStop Pro では、ピクセル画像の DeviceN カラー スペースの特色を、PDF 文書またはカラー リポジトリの他のカラーにリマップできます。PDF 文書の色分版を作成する必要がある場合に、特色のリマッピングが役に立つことがあります。この場合、特色のあるオリジナルのピクセル画像は変更しないままにして、特定の特色を CMYK カラースペースの対応するカラーにリマップできます。

次の手順に従います。

1. 特色をリマップする PDF 文書を開きます。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [分版] > [リマップ] カテゴリの順にクリックします。
4. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、DeviceN 特色を含む PDF 文書のピクセル画像を選択します。
5. [特色をリマップする] 領域に表示されている特色のいずれかを選択します。
6. 次のいずれかを実行します。
   - 選択したカラーを CMYK カラーまたは選択したオブジェクト内に存在する他の特色にリマップする場合は、[リマップ先] リストで該当するカラーを選択します。
   - 選択したカラーを他の特色にリマップする場合は、[カラーの選択] をクリックし、[カラーピッカー] の [カラーライブラリ] からカラーを選択します。
7. [適用] をクリックします。



注: 選択した特色をそのままにするには [保持] ボタンをクリックし、全ての特色をそのままにするには [全て保存] ボタンをクリックします。

10.5.6. 特色の複製

特色を含むオブジェクトを複製したり、コピーしたオブジェクトと同じ形状の、ユーザー定義の特色を作成したりできます。この処理は、たとえば、特色の光沢を生成する場合などに実行できます。

次の手順に従います。

1. 選択したオブジェクトの形状に基づく、新規の特色を作成する PDF 文書を開きます。
2. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、形状をコピーするオブジェクトを選択します。
3. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。

4. [分版] > [光沢] カテゴリの順にクリックします。
5. [+] ボタンをクリックします。
6. [編集] 領域に新規特色の名前 (「光沢」など) を入力します。
7. 必要に応じて、[オーバープリント] を選択します。
8. [適用] をクリックします。

10.6. ICC プロファイルの使用方法

10.6.1. ICC プロファイルについて

デバイスの違いによるカラーの違いを解消する、または最小限に抑えるために、ICC (International Color Consortium) カラー プロファイルを使用できます。

ICC カラー プロファイルは、特定のデバイスで使用されるカラー スペースを厳密に記述したものです。PDF 文書のすべての種類のオブジェクトを、特定のカラー スペース (グレースケール、RGB または CMYK) の ICC プロファイルに関連付けまたは「タグ付け」することができます。

- テキストと線画
- 画像

10.6.2. 複数のインスタンスで ICC プロファイルを使用する方法

PitStop Pro には、ICC プロファイルを指定できるさまざまなインスタンスがあります。優先される順にインスタンスを示します。

1. 個別のオブジェクトにタグ付けすることができます。
2. ICC プロファイルをアクションリストおよびプリフライトプロファイル内に作成することができます。そして、アクションリストはプリフライトプロファイル内に埋め込むことができます。
3. ソースおよびターゲット ICC プロファイルを **[Enfocus PitStop 環境設定]** に指定することができます。

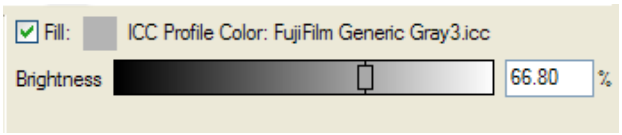
   たとえば、アクション リストまたはプリフライトプロファイルを使用して PDF 文書内にある全ての画像を ICC プロファイル A でタグ付けするとします。これらの画像の一部に ICC

プロファイル B で既に別のタグが付けられている場合、ICC プロファイルは ICC プロファイル B になり、このプロファイルが保持されます。

10.6.3. ICC プロファイルのあるテキストまたは線画のタグ付けまたはタグ付け解除

次の手順に従います。

1. [オブジェクトの選択] ツール を使用して、ICC プロファイルを含んでいるかどうかを確認するテキストや線画を選択します。
2. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
3. [塗り / 線] カテゴリをクリックし、次に [塗りのカラー] または [線のカラー] サブカテゴリをクリックします。
4. 次のいずれかを実行します。
   - リストからプロファイルを選択します。テキストまたは線画が選択したプロファイルでタグ付けされ、ICC プロファイルの名前がカラー スライダ上に表示されます。



   - **(**なし**)** をクリックして、選択したテキストまたは線画から ICC プロファイルを削除します。

10.6.4. 画像を ICC プロファイルでタグ付けまたはタグを解除する手順

次の手順に従います。

1. ツールの下で**PitStop** カラーパネルを開きます。
   Acrobatでは、Enfocus PitStopパネルを自分で追加する必要があります。ツールペインへの*PitStop Pro*パネルの追加 36 ページのを参照してください。
2. イメージマッチングボタンをクリックします。
   PDF 文書内の全ての画像がリストされ、画像のカラー スペースとカラー プロファイル (ある場合) が表示されます。リストの画像をクリックして、画像を表示したり選択したりできます。
3. 画像にタグ付けする **[ICC** プロファイル] を選択します。

4. 必要に応じて、同じカラー スペースと同じプロファイルを持つ全ての画像に、この変更を適用するオプションを選択します。

10.7. 出力インテント パネルの使用

Enfocus 出力インテント パネルでは、出力インテントの選択と適用ができます。デフォルトの出力インテント テンプレートはアプリケーションと一緒にインストールされ、変更することができません。ローカルの出力インテント テンプレートは現在のユーザーのみが使用できます。

10.7.1. 出力インテントを適用

出力インテントは、PDF ドキュメントが描画される出力デバイスのカラー特性を記述します。出力インテントは、ドキュメントやページレベルで適用されることもあります。

次の手順に従います。

次のいずれかを実行します。

- **PitStop** カラーツールパネルを使用する：
  1. [ツール] > [**PitStop** カラー] > [出力インテントを適用]を選択します。
  2. 使用する出力インテントを選択します。
  3. [文書に適用]または[ページに適用]をクリックします。
  4. 出力インテントパネルを閉じます。
- **Enfocus** インスペクタを使用する：
  1. Enfocus インスペクタを表示します。「*Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く* 97 ページの」を参照してください。
  2. [プリプレス] > [出力インテント] カテゴリを選択します。
  3. [アクション]ドロップダウンメニューで**PDF/X** 出力インテントの設定を選択します。
  4. 必要に応じて、[文書に設定] または [ページに設定] を選択します。
  5. 使用する出力インテントを選択します。
  6. **[OK]** をクリックします。

選択した出力インテントに関する情報が、該当するタブ（文書出力インテントまたはページ出力インテント）の [Enfocus 出力インテント] パネルに表示されます。



注: ページのレンダリングの際に、最も具体的な出力インテントが考慮されます。つまり、文書レベルとページレベルで異なる出力インテントが指定されている場合は、ページレベルの出力インテントを使用してページがレンダリングされます。一方、ページ出力インテントが指定されていない場合は、文書出力インテントが使用されます。

10.7.2. 出力インテント テンプレートを編集する手順

次の手順に従います。

1. [ツール] > [**PitStop** カラー] > [出力インテントを適用]を選択します。
2. 編集する出力インテントをダブルクリックするか、アクションドロップダウンメニューから編集を選択します。
3. **Enfocus** 出力インテント エディタで、出力条件名、プロファイル、識別子、レジストリ、および説明を定義します。
4. ICC プロファイルを埋め込む必要があるかどうか、定義します。
5. **[OK]** をクリックします。

10.7.3. 新しい出力インテントを作成する手順

次の手順に従います。

1. [ツール] > [**PitStop** カラー] > [出力インテントを適用]を選択します。
2. 新しい出力インテントを作成するカテゴリを選択します。
3. [アクション]ドロップダウンメニューで目的のオプションをクリックします。
   - [新規作成] を選択して、新規に出力インテントを作成します。
   - [次を基に新規作成] を選択して、既存のものを基に新しい出力インテントを作成します。
   - [取り込み] を選択して、以前エクスポートされた出力インテントをインポートします。
4. [**Enfocus** 出力インテント エディタ]で、出力インテントの設定を定義または変更します。
5. **[OK]** をクリックします。

10.7.4. どの出力インテントが現在適用されているかの確認

次の手順に従います。

1. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
2. [プリプレス] > [出力インテント] カテゴリを選択します。
   [文書出力インテント] タブに、文書全体に適用されている出力インテントが表示されます。
   [ページ出力インテント] タブに、現在のページに適用されている出力インテントが表示されます。

10.7.5. 出力インテントを削除する

次の手順に従います。

1. Enfocus インスペクタを表示します。

Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。

2. [プリプレス] > [出力インテント] カテゴリを選択します。
3. [アクション] ドロップダウンメニューで **[PDF/X** 出力インテントを削除] を選択します。
4. 次のいずれかを実行します。
   - 文書から削除
   - ページから削除（現在のページから出力インテントを削除する）

10.7.6. ICC プロファイルを抽出する

ICC プロファイルが出力インテントに埋め込まれている場合は、ダウンロードできます。

次のいずれかを実行します。

- **PitStop** メニューを使用する：
  1. **[PitStop Pro]** > [オブジェクト] > **[ICC** プロファイルを抽出]をクリックします。

     注**:** ICC プロファイルが出力インテントに埋め込まれていない場合、このオプションはグレー表示されます。
  2. 必要に応じて、ドキュメント**: <type>** または ページ**:<type>** を選択します。

     注**:** <type> が空の場合、選択されたタイプのICC プロファイルは選択された出力インテントに埋め込まれていません。
  3. ICC プロファイルを任意の場所に保存します。
- **PitStop** インスペクタを使用する：
  1. Enfocus インスペクタを表示します。「*Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く* 97 ページの」を参照してください。
  2. [プリプレス] > [出力インテント] カテゴリを選択します。
  3. [アクション]ドロップダウンメニューで**[ICC** プロファイルを抽出]をクリックします。

     注**:** ICC プロファイルが出力インテントに埋め込まれていない場合、このオプションはグレー表示されます。
  4. 必要に応じて、ドキュメント**: <type>** または ページ**:<type>** を選択します。

     注**:** <type> が空の場合、選択されたタイプのICC プロファイルは選択された出力インテントに埋め込まれていません。
  5. ICC プロファイルを任意の場所に保存します。

10.8. カラー変換

[グローバル変更] で次の利用可能なオプションのいずれかを使用すると、スポットするカラーを変換することができます。

1. カラースペースを変換
2. カラーをリマッピング

Enfocus インスペクタで利用可能な[分版] - [特色をリマップする]を使用してカラーをスワップすることもできます。

10.8.1. カラースペースを変換

画像または文書のすべてのカラーを特定のカラー スペースに変換するには

1. [グローバル変更] > [標準] > [カラー] > [カラー スペースに変換] に移動します。
2. 画像/ファイルを選択します。
3. [カラースペースに変換] をダブルクリックします。



4. このダイアログ ボックスでは、画像/ファイルに含まれているすべてのカラーを変換できます。
   - [デバイスグレー]
   - [デバイス **RGB**]
   - [デバイス **CMYK**]
   - 分版。

     例えば、画像がデバイス RGB である場合、画像のすべてのカラーをデバイス CMYK に変換できます。
5. [分版] を選択すると、カラー データベースが読み込まれ、[特色ピッカー] ダイアログ ボックスから任意のカラーを選択できます。

6. 必要な場合は、[同じ輝度を保つためにグレーを強制]チェック ボックスを選択します。PitStop Pro では、CMYK への変換前に混色のグレーおよびブラックがブラックにリマッピングされます。これによって、例えば RGB ブラックのテキストは、すべてのプロセス カラーの混色ではなく、純色 100% K に変換されます。
7. 変更すると、[実行] ボタンの文字列が [保存して実行] に切り替わります。
8. [保存] ボタンをクリックして設定を保存するか、[保存して実行] ボタンをクリックして、設定を保存し、さらにその設定を選択した画像/文書に適用します。

   備考：

   次の 2 つの方法のいずれかを使用して、オブジェクトをスポットに変換することを選択できます。

方法:	説明
カラースペースを変換	画像詳細を保持しますが、カラーの輝度が失われるおそれがあります。 異なるカラーのピクセルには、変換後も異なるカラーが割り当てられます。したがって、オブジェクトは、最初にグレースペースに変換され、次に分版カラー スペースに変換されます。 このアクションでは、コントラストは保持されます。
[カラーセットへの色のスナップ]	カラーの輝度を保持するように選択できます。ただし、画像のディテールが失われる危険性があります (ターゲットカラーに薄い影がつく場合があるため、ソース カラーの大量のティントが全く同じターゲットカラーにマッピングされます)。 このアクションでは、コントラストは保持されません。

10.8.2. カラーをリマッピング

指定済みのオーバープリント設定を保持しながら、不要なオリジナルカラーを必要なカラーにリマッピングできます。リマッピングは、一度に個別のチャンネル、カラースペース、またはカラーに対して実行できます。

次の手順に従います。

1. [グローバル変更] > [標準] > [カラー] > [カラーのリマッピング] に移動します。
2. [カラーのリマッピング]をダブルクリックします。



3. このダイアログ ボックスを使用すると、次の操作を実行できます。

   a. カラースペースを他のカラースペース または カラー にリマッピングできます。

      例えば、デバイス CMYK のすべてのカラーを含む PDF ファイルがある場合に、それらのカラーをデバイス RGB に変換したい場合、[リマップ:] ドロップダウン メニューで [カラースペース] および [デバイス **CMYK**] を選択します。次に、[リマップ先:] ドロップダウン メニューで [カラースペース] および [デバイス **RGB**] を選択します。

   b. 同様に、カラーを他のカラースペースまたはカラーにリマッピングできます。

   c. カラー範囲を他のカラースペースまたはカラーにリマッピングすることもできます。

   d. チャンネルをシアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、CMYK または特色にリマッピングできます。

      例えば、CMYK と特色の赤で構成されるオブジェクトを含むファイルがあるとします。特色の赤を削除して、チャンネル特色の赤を別の特色または CMYK チャンネルにリマッピングしたいと想定します。

      チャンネルは、乗算ブレンドでブレンドされます。各チャンネルのカラー情報に基づき、ベースカラーは、ブレンドカラーによって乗算されます (すなわち、結果のカラーを取得するために必要なカラーの割合のみがブレンドされます)。

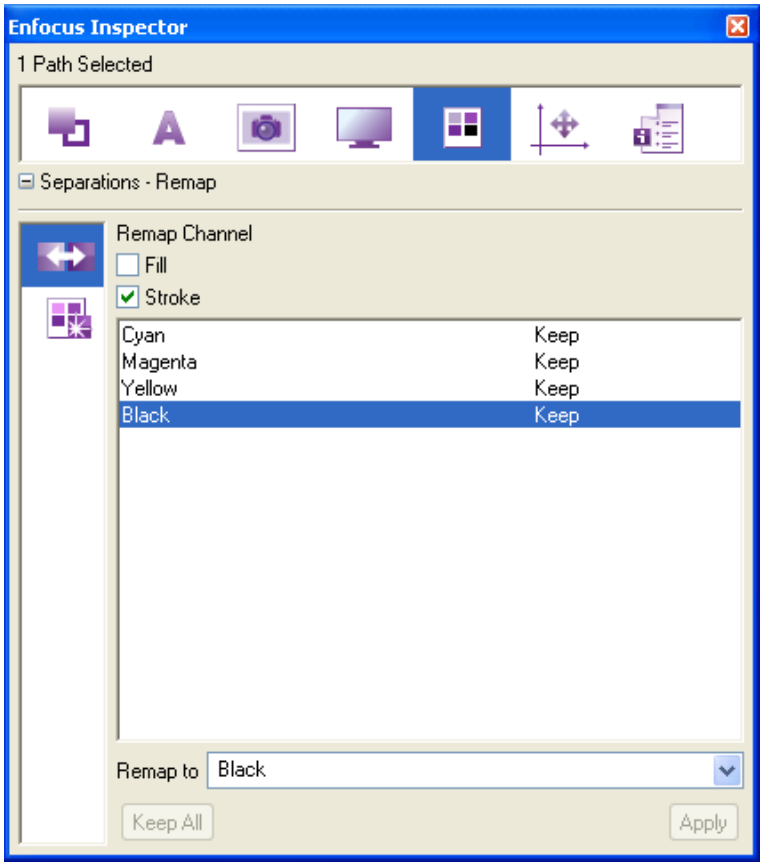
複数のチャンネルを単一のチャンネルにリマッピングする場合に、それらのチャンネルに 100% より大きい組み合わせのインク適用量が元々含まれていた場合、リマップの結果は 100% より大きくなりません。

4. 変更すると、[実行] ボタンの文字列が [保存して実行] に切り替わります。
5. [保存] ボタンをクリックして設定を保存するか、[保存して実行] ボタンをクリックして、設定を保存し、さらにその設定を選択した画像/ファイルに適用します。

10.8.3. Enfocus インスペクタを用いたカラー変換

1. Enfocus インスペクタを表示します。「*Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く* 97 ページの」を参照してください。
2. **[Enfocus** インスペクタ] ダイアログ ボックスで、分版 > リマップをクリックします。

   ここでは、CMYK、特色、DeviceN、N チャンネル、グレーを PANTONE カラーにスワップできます。
3. [シアン]、[マゼンタ]、[イエロー] または [ブラック] を選択します。
4. [リマップ先] ドロップダウン メニューで、リマップ先のカラーを選択します。



5. [リマップ先] ドロップダウン メニューは、[シアン]、[マゼンタ]、[イエロー]、[ブラック] および [カラーの選択] といったオプションで構成されています。[カラーの選択] オプションを

選択すると、[特色ピッカー] ダイアログ ボックスが表示されます。これを使用して任意の PANTONE カラーを選択します。

6. [塗り] と [線] の両方を設定したオブジェクトを選択すると、[塗り] と [線] チェックボックスがアクティブになります。目的のチャンネルに対して、塗りカラーまたは線カラーのいずれか、またはそれら両方をリマッピングすることを選択できます。
7. **[Enfocus** インスペクタ] ダイアログ ボックスの [適用] ボタンをクリックして、変更を保存します。

11. オーバープリント

11.1. オーバープリントとノック アウトの概要

11.1.1. 基本的な規則

PDF 文書では、複数のカラー オブジェクトを重ねることができます。たとえば、色の付いた背景上にテキストやイメージを重ねることができます。この場合、印刷時にこれらのカラーの処理方法を指定できます。

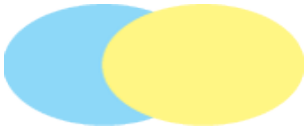
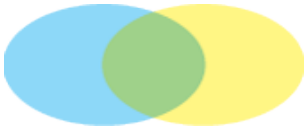
- ノック アウト。前景にあるオブジェクトのカラーで、その下にある領域が切り出されます。つまり、背景のカラーは消去され、前景のカラーが使用されます。
- オーバープリント。オブジェクトのカラーは、背景色の上に印刷されます。この結果、前景のカラーと背景のカラーを組み合わせたカラーになります。

11.1.2. 理論上の簡単な例

簡単な例について説明します (複雑な例については後述します。「オーバープリントとノック アウトの細部に存在する難題 412 ページの」を参照してください)。ある PDF ファイルに、互いに重なり合う 2 つのオブジェクトがあるとします。これらのオブジェクトは次のカラーで塗りつぶされています。

インキ	背景オブジェクト	前景オブジェクト
シアン	40 %	0 %
マゼンタ	0 %	0 %
イエロー	0 %	60 %
ブラック	0 %	0 %

下の表は、この PDF ファイルを色分けされた状態で印刷した場合に「通常」発生する状態を示します。

	ノックアウト	オーバープリント
プレビュー		

	ノックアウト	オーバープリント
シアン プレート		
イエロー プレート		
交差部分のカラー	 **C: 0%** M: 0 % Y: 60% K: 0%	 **C: 40%** M: 0 % Y: 60% K: 0%

11.1.3. 異なるカラー、共通するインク

オーバープリントを説明するときに重要なことは、「共通インク」の概念、つまり、前景オブジェクトと背景オブジェクトに「共通する」インクを理解することです。これは、オーバープリントやノック アウトは印刷にのみ関連する概念であり、画面上に PDF 文書を表示する場合には関係ないからです。

ここでの原則は、前景のティント値が背景のティント値よりも低い場合でも、「共通インクがある場合、前景のインクが優先される」ということです。

たとえば、特色背景上にオーバープリントされる CMYK オブジェクトがあるとします。これらのオブジェクトでは次のインクが使用されています。

インキ	背景オブジェクト	前景オブジェクト
シアン		100%
マゼンタ		0 %
イエロー		0 %
ブラック		0 %
レッド	100%	

共通インクはありません。これは、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックが特色背景で指定されていないからです。また、オブジェクトのどちらかでカラーが指定されていない場合、共通にはなりません。ただし、カラーが指定されていない ということと、0%であるということは異なります。したがって、前景のシアン インクは、特色背景の赤の上に印刷されます。結果として、交差部分の色は次のようになります。

	**C: 100%** M: 0 % Y: 0% K: 0% 特色**:** 赤

それでは、背景の特色である赤を、次のティント値を持つ CMYK に変えてみましょう。

インキ	背景オブジェクト
シアン	0 %
マゼンタ	100%
イエロー	100%
ブラック	0 %

結果として、交差部分の色は次のようになります。

	C: 100% **M: 0 %** **Y: 0%** K: 0%

シアンの前景オブジェクトはオーバープリントするように設定されていますが、それでも、背景のマゼンタとイエローがノック アウトされます。複雑になってきた場合は、 基本原則を思い出してください。つまり、前景のティント値が背景のティント値よりも低くても、また、このティント値が 0 であっても「共通インクがある場合、前景のインクが優先される」ということです。

下の表に、前述の例で使用したティント値をまとめています。

インキ	背景オブジェクト	前景オブジェクト	交差部分のカラー
シアン	0 %	100%	100%
マゼンタ	**100%**	**0 %**	**0 %**
イエロー	**100%**	**0 %**	**0 %**

インキ	背景オブジェクト	前景オブジェクト	交差部分のカラー
ブラック	0 %	0 %	0 %

この表から、次のことがわかります。ティント値が 0% であっても、全てのインクが共通になっています。したがって、前景インクが優先され、前景オブジェクトの 0% マゼンタとイエローが使用されます。背景の 100% ではありません。

- オーバープリントとノック アウトの細部に存在する難題 412 ページの
- オーバープリントの動作によくある問題 415 ページの

11.2. オーバープリントとノック アウトの細部に存在する難題

11.2.1. 決定要因

オーバープリントの理論的な規則はシンプルです。

- オーバーラップする色は混合され、互いの「上に」印刷されます。
- 共通インクがある場合、前景インクが優先されます。

しかし、難題は実際の作業時の細部に存在します。オーバープリントの適用方法は次の要因により決定されるため、さまざまな点が複雑になる可能性があります。

- カラースペース 412 ページの
- オーバープリント モードとオブジェクト タイプ 414 ページの

技術的な詳細説明 (正確でわかりやすい図解入り) を読み飛ばしたい場合は、次の項目も参照してください。

- オーバープリントとノック アウトの概要 409 ページの
- オーバープリントの動作によくある問題 415 ページの

11.2.2. カラースペース

分版、DeviceN、CMYK、グレー、キャリブレーション済みグレーまたは RGB、Lab カラーや ICC に基づくカラーなど、PDF 文書にはさまざまなカラー スペースを持つオブジェクトが含まれます。オブジェクトのカラー スペースは、オブジェクトのオーバープリント動作に影響します。ここでは、次の規則が当てはまります。

カラースペース	オブジェクト タイプ	オーバープリント モード	規則
分版 DeviceN	関連なし	関連なし	それぞれのカラー スペースにリストされているインクのみが指定されます。

カラースペース	オブジェクト タイプ	オーバープリント モード	規則
			たとえば、分版のブラックは、指定されたブラック インクだけを持ちます。シアンやマゼンタ、イエローは持ちません。
グレー RGB Lab ICC に基づくカラー キャリブレーション済みグレーまたは RGB	関連なし	関連なし	シアン、マゼンタ、イエロー、およびブラックのインクが指定されています。CMYK 以外のオブジェクトにおけるインクの割合を決定するために、これらのオブジェクトのカラーは、通常のカラー変換規則に従って、CMYK に変換されます。 たとえば、グレーのオブジェクトでは、次のインクが指定されている可能性があります。 C: 0% M: 0 % Y: 0% K: 60% したがって、オブジェクト タイプやオーバープリント モードに関係なく、グレーのオブジェクトは、その下にあるシアンやマゼンタ、イエローを常にノック アウトします。
CMYK	画像 シェーディング	関連なし	
	テキスト 線画 イメージ マスク	標準（OPM 0）	
		Illustrator（OPM 1）	ティント値が 0 以外のインクのみが指定されます。

この概要から次のことがわかります。

- CMYK テキスト、線画、イメージ マスクのみ、オーバープリント モード (OPM 0 または OPM 1) によって、オーバープリントの動作が変わります。
- ブラックは常にブラックです。「ブラック」が指定された特色のオブジェクト、グレー カラースペースのオブジェクト、CMYK の K プレートのレンダリングに使用される「ブラック」インキのオブジェクトは、全て同じオーバープリント動作をします。また、CMYK ブラックは、オーバープリントモード (OPM 0 または OPM 1) の影響を受けます。ただし、分版ブラック、またはグレーのオブジェクトのオーバープリントは動作が異なります。

インキ	ブラックの特色、グレー、または **100% K** のオブジェクト	分版ブラックのオブジェクト
シアン	0 %	
マゼンタ	0 %	

インキ	ブラックの特色、グレー、または **100% K** のオブジェクト	分版ブラックのオブジェクト
イエロー	0 %	
ブラック	100%	100%

- オーバープリント動作が予測できなくなる可能性があるため、カラー変換には注意が必要です。カラー変換を行う場合は、プルーフィングを必ず行ってください。PDF 文書をプルーフするには、複合出力装置で印刷するか、または Adobe Acrobat のオーバープリント プレビュー機能と分版プレビュー機能を使用して画面上に表示します。

11.2.3. オーバープリント モードとオブジェクト タイプ

PDF ファイルには、テキストや線画、画像など、さまざまなタイプのオブジェクトが含まれる可能性があります。一部のオブジェクト タイプは、オーバープリント モードによってオーバープリントの動作が異なります。これらは次のように区別できます。

オーバープリント モードに依存するオブジェクト タイプ	オーバープリント モードに依存しないオブジェクト タイプ
CMYK テキスト	CMYK 画像
CMYK 線画	CMYK シェーディング
CMYK イメージ マスク	

つまり、オーバープリント モードの影響を受けるのは CMYK テキスト、線画、およびイメージ マスクだけです。

「オーバープリント モード」には次の 2 種類があります。

- 標準のオーバープリント モード。「**OPM0**」とも呼ばれます。
- **Illustrator** のオーバープリント モード。「**OPM 1**」または「ノンゼロ オーバープリント モード」とも呼ばれます。

これらのモードの違いは、CMYK インクの 1 つにおけるティント値 0 の効果にあります。

- 標準のオーバープリント モード (**OPM** 0) では、前景オブジェクトで使用されている CMYK インクの 1 つのティント値が 0 である場合、その下にあるオブジェクトはカラー レンダリングの際、ノック アウトされます。つまり、前景インクの C、M、Y、または K 値が 0% の場合、対応する背景インクは消去されます。ここで、「前景インクの優先」原則が当てはまります。
- **Illustrator** のオーバープリント モード (**OPM1**) では、ティント値 0 は「指定されていない」かのように無視されます。したがって、その下にあるオブジェクトのカラー レンダリングには影響を与えません。

11.2.3.1. 例

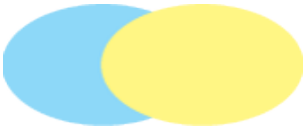
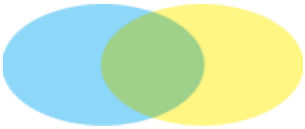
次のカラーで塗りつぶされた、2つの重なり合う円があるとします。

インキ	背景の円	前景の円
シアン	40 %	0 %
マゼンタ	0 %	0 %
イエロー	0 %	60 %
ブラック	0 %	0 %

単純に考えると、インクは混合されるため、次のような結果になると予想されます。

インキ	背景の円	前景の円	結果
シアン	40 %	0 %	**40 %**
マゼンタ	0 %	0 %	0 %
イエロー	0 %	60 %	60 %
ブラック	0 %	0 %	0 %

しかし実際は、選択されているオーバープリント モードによって結果が変わります。

	標準 オーバープリントモード**(OPM 0)**	**Illustrator** オーバープリントモード**(OPM 1)**
プレビュー		
交差部分のカラー	 **C: 0%** M: 0 % Y: 60% K: 0%	 **C: 40%** M: 0 % Y: 60% K: 0%

11.3. オーバープリントの動作によくある問題

オーバープリントの動作は、オブジェクト タイプ (テキスト、線画、画像など) の組み合わせ、カラー スペース (CMYK、RGB、グレーなど) およびオーバープリント モード (OPM 0 または

OPM 1) によって変わります。したがって、オーバープリントにおけるインクの動作に関連して、よくある問題があります。次の例は、このような問題について説明しています。

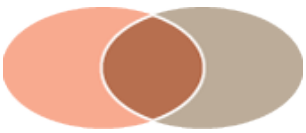
11.3.1. 例 1: 標準のオーバープリント モードで特色背景上にレンダリングされる CMYK オブジェクト

標準のオーバープリント モード (OPM 0) で、背景上に特色の赤でレンダリングされる CMYK オブジェクトがあるとします。

	背景オブジェクト	前景オブジェクト
		
オブジェクト タイプ	無指定	無指定
オーバープリント モード		OPM 0
カラースペース	特色の赤:40%	C: 0% M: 10% Y: 20% K: 30%

背景オブジェクトは特色を持たず、前景オブジェクトは CMYK カラーなので、共通インクはありません。

結果として、オブジェクトの重なり合う部分 (交差部分) の色は次のようになります。

	C: 0% M: 10% Y: 20% K: 30% 特色の赤:40%

11.3.2. 例 2: ICC タグ付き CMYK 背景上にオーバープリントでレンダリングされるダブルトーン オブジェクト

ICC タグ付き CMYK カラーで、背景の上にオーバープリントでレンダリングされる赤 70%、ブラック 30% のダブルトーン オブジェクトがあるとします。

このダブルトーン オブジェクトは赤とブラックのインクを使用します。背景はインクとして識別される必要があるため、ICC タグ付きの CMYK 背景は、通常の CMYK に変換されます。この変換は、環境設定で指定されている ICC プロファイルに従って行われます。背景が、シアン 20%、マゼンタ 21%、イエロー 22%、ブラック 23% に変換されたとします。この操作は、オーバープリント モードの影響を受けません。

	背景オブジェクト	前景オブジェクト
		
オブジェクト タイプ	無指定	無指定
オーバープリント モード		OPM 0 または OPM 1 (差異なし)
カラースペース	ICC タグ付き CMYK は次のように変換されます。 C: 20% M: 21% Y: 22% K: 23%	ダブルトーン: 赤: 70% ブラック: 30%

共通カラーはブラックだけです。「ブラック」が指定された特色と、CMYK の K プレートのレンダリングに使用されている「ブラック」インクには、オーバープリントの動作に違いはありません。その他のカラーは、前景オブジェクト、または背景オブジェクトのどちらかにより使用されます。

結果として、オブジェクトの重なり合う部分 (交差部分) の色は次のようになります。

	C: 20% M: 21% Y: 22% **K: 30%** 特色の赤 70%

11.3.3. 例 3: CMYK テキスト:CMYK 背景上

CMYK 背景上にオーバープリントでレンダリングされる CMYK テキストがあるとします。

	背景オブジェクト	前景オブジェクト
		
オブジェクト タイプ	無指定	テキスト
オーバープリント モード		
カラースペース	C: 10% M: 20% Y: 30% K: 40%	C: 0% M: 0 % Y: 0% K: 50 %

CMYK テキストを処理しているため、オブジェクトの重なり合う部分 (交差部分) のカラーは、オーバープリント モードによって次のように変わります。

- 標準のオーバープリント モード (OPM 0) では、前景オブジェクトで使用されている CMYK インクの 1 つまたは複数のティント値が 0% である場合、その下にあるオブジェクトはノック アウトされます。

- **Illustrator** のオーバープリント モード (OPM 1) では、前景オブジェクトで使用されている CMYK インクの 1 つまたは複数のティント値が 0% である場合、この値は無視されます。

オーバープリント モードによって、結果は次のように変わります。

標準 オーバープリントモード**(OPM 0)**	**Illustrator** オーバープリントモード**(OPM 1)**
	
C: 0% **M: 0 %** **Y: 0%** K: 50 %	**C: 10%** **M: 20%** **Y: 30%** K: 50 %

ここで、このテキストを、全てのピクセルが同じカラー、すなわち、シアン 0%、マゼンタ 0%、イエロー 0%、ブラック 50% の画像に変換するとします。

前景オブジェクトと背景オブジェクトは同じカラー スペース (CMYK) にあります。つまり、前景画像オブジェクトによって割合が決まります。

結果として、オブジェクトの重なり合う部分 (交差部分) の色は次のようになります。

	**C: 0%** **M: 0 %** **Y: 0%** **K: 50 %**

画像はオーバープリント モードに影響されないため、この場合、オーバープリント モードは関係ありません。

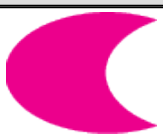
11.3.4. 例 4: CMYK 背景上のグレー オブジェクト

CMYK 背景上にグレー オブジェクトがあるとします。

	背景オブジェクト	前景オブジェクト
		
オブジェクト タイプ	無指定	無指定
オーバープリント モード		無指定
カラースペース	C: 0% M: 100% Y: 100% K: 0%	グレー: 60% の明るさ

グレー オブジェクトの種類や OPM モードに関係なく、グレーには、常にその下にあるインクに対するノック アウト効果があります。結果として、オブジェクトの重なり合う部分 (交差部分) の色は次のようになります。

	標準 オーバープリントモード**(OPM 0)**	**Illustrator** オーバープリント モード**(OPM 1)**
プレビュー		
マゼンタ プレート		

	標準 オーバープリントモード**(OPM 0)**	**Illustrator** オーバープリントモード**(OPM 1)**
		
イエロー プレート		
ブラック プレート		
交差部分のカラー	 C: 0% **M: 0 %** **Y: 0%** K: 60%	 C: 0% **M: 0 %** **Y: 0%** K: 60%

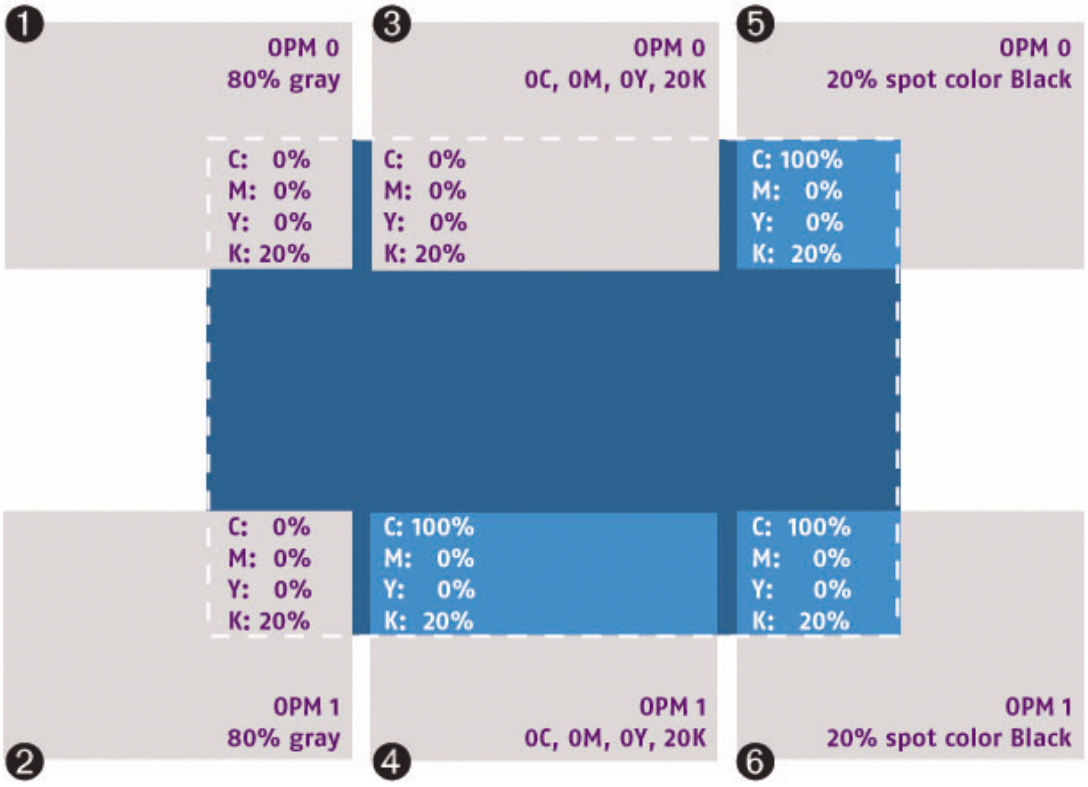
11.3.5. 例 5: カラー スペースの効果

シアン 100%、マゼンタ 0%、イエロー 0%、ブラック 50% の CMYK 背景があるとします。この背景上に、次のオブジェクトを重なり合わないように配置します。

オブジェクト	カラー スペースと値	オーバープリント モード
1	グレー: 80%	OPM 0
2	グレー: 80%	OPM 1
3	C: 0% M: 0 % Y: 0%	OPM 0

オブジェクト	カラー スペースと値	オーバープリント モード
	K: 20%	
4	C: 0% M: 0 % Y: 0% K: 20%	OPM 1
5	ブラックの特色: 20%	OPM 0
6	ブラックの特色: 20%	OPM 1

結果は次のようになります。



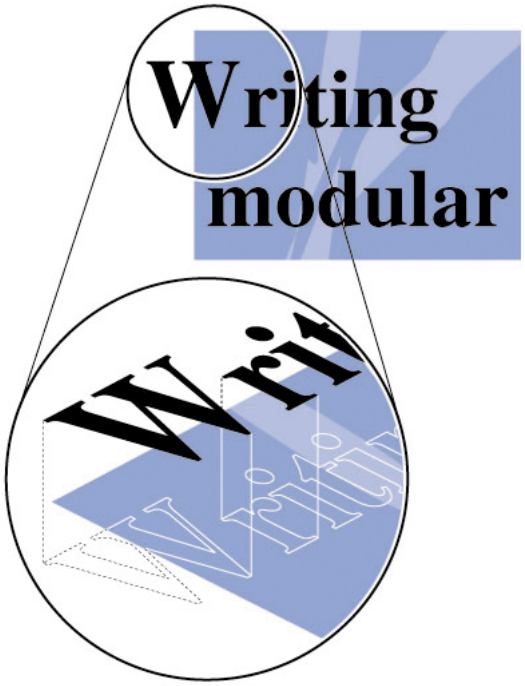
11.4. オブジェクトのオーバープリント設定を変更する

11.4.1. 墨文字をオーバープリントする

色の付いた背景の上に印刷するテキスト (特に細かい文字または小さなポイント サイズに設定された文字) がある場合、位置を合わせて印刷するのは非常に困難です。位置合わせがわずかにずれただけであっても、テキストと背景の色要素の間に見て分かる程度の小さなずれが現れます。

この問題を回避するには、墨文字全てが背景色の上から印刷されるように設定します。この手法をオーバープリントといいます。オーバープリントすると、テキストの可読性を保持できます。

次の図は、オーバープリント黒文字がずれを補正するところを示しています。



オーバープリントを指定できるのは、100% の黒文字のみです。これは、純粋な黒以外の色の文字を他の色の背景上に印刷すると、インクの混合が発生し、予期しない色になる可能性があるためです。

オーバープリントとノック アウトの概要 409 ページの

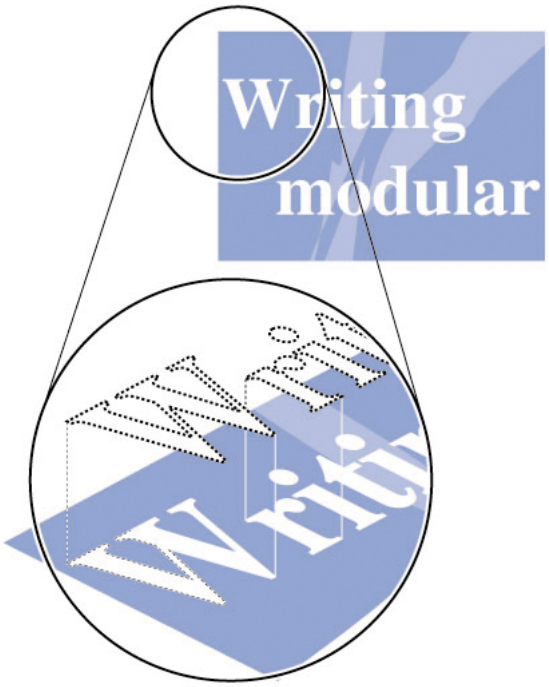
オーバープリントとノック アウトの細部に存在する難題 412 ページの

オーバープリントの動作によくある問題 415 ページの

11.4.2. 白抜き文字をノック アウトする

白抜き文字を印刷するときは、テキストの背景の色は印刷されません。つまり、白抜き文字を印刷するときは、その他の分版のインクをノック アウトする、つまり「切り出し」する必要があります。

次の図は、白抜き文字をノック アウトして、その下にある分版のインクが切り出されたところを示します。



11.4.3. オブジェクトのオーバープリント設定を変更する手順

1. Adobe Acrobat でオーバープリントのプレビューがオンになっていることを確認します ([アドバンスト] > [オーバープリント プレビュー])。
2. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトを選択します。
3. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
4. [塗り / 線] > [オーバープリント] カテゴリをクリックします。
5. オーバープリント設定の [塗り] または [線] を変更します。
   - = オン

-  = オフ

6. 必要に応じて、[オーバープリント モード] (OPM 0 または OPM 1) を選択します。

> 注: オーバープリントモードの違いは、この手順の手順1で説明したようにAdobe Acrobatのオーバープリントのプレビューをオンにすると表示されます。

11.4.4. すべての分版にオーバープリントを強制

オーバープリントの結果を定義する規則により、オーバープリントの結果が影響を受けることがあります。この場合、[すべての分版でオーバープリントを強制] を使用すると問題を解決できます。

この機能を使用すると、オーバープリントがオンになるだけではなく、[塗りのカラー] とオーバープリント モードでオーバープリントが強制されるように変更されます。

11.4.4.1. オーバープリントを強制するには:

1. Adobe Acrobat でオーバープリントのプレビューがオンになっていることを確認します ([アドバンスト] > [印刷用マーク] > [オーバープリント プレビュー])。
2. [オブジェクトの選択] ツール を使用し、オブジェクトを選択します。
3. Enfocus インスペクタを表示します。
   Enfocus インスペクタダイアログボックスを開く 97 ページの を参照してください。
4. [塗り / 線] > [オーバープリント] カテゴリをクリックします。
5. [アクション]ドロップダウンメニューから[すべての分版にオーバープリントを強制]を選択します。

11.4.4.2. グレー オブジェクトにオーバープリントを強制

通常、グレーには、グレー オブジェクトの種類や OPM モードに関係なく、常にその下にあるインクに対するノック アウト効果があります。

このため、[すべての分版にオーバープリントを強制] を使用すると、カラー スペースがブラックの分版に変更され、[オーバープリント モード OPM 1] を使用して [塗りのオーバープリント] がオンになります。

この結果、グレー オブジェクトにより背景色がノック アウトされなくなります。

	通常のオーバープリント	すべての分版にオーバープリントを強制
プレビュー		
マゼンタ プレート		
イエロー プレート		
ブラック プレート		
交差部分のカラー	 C: 0% **M: 0 %** **Y: 0%** K: 60%	 C: 0% **M: 100%** **Y: 100%** K: 60%

11.4.4.3. CMYK オブジェクトにオーバープリントを強制

CMYK オブジェクトに [すべての分版にオーバープリントを強制] を適用すると、オーバープリント モードが OPM 1 に変更されます。0% の値を持つ分版に対して、オブジェクトが OPM 1 でオーバープリントされます。

オーバープリント モードとオブジェクト タイプ 414 ページの も参照してください。

12. サードパーティのライセンス情報

This product includes lzw-ab.

    Copyright (c) David Bryant
    All rights reserved.

    Redistribution and use in source and binary forms, with or without
    modification, are permitted provided that the following conditions are met:

    * Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
      this list of conditions and the following disclaimer.
    * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
      this list of conditions and the following disclaimer in the
      documentation and/or other materials provided with the distribution.
    * Neither the name of Conifer Software nor the names of its contributors
      may be used to endorse or promote products derived from this software
      without specific prior written permission.

    THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
    AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
    IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
    ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR
    ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
    DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR
    SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
    CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY,
    OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
    OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes Botan.

      Copyright (C) 1999-2019 The Botan Authors
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions are met:

      1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
         this list of conditions, and the following disclaimer.

      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
         notice, this list of conditions, and the following disclaimer in the
         documentation and/or other materials provided with the distribution.

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
      AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
      ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE
      LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR
      CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF
      SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS
      INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN
      CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
      ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE
      POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC Profiles were created by FFEI Ltd. (www.ffei.co.uk) using Fujifilm
    ColourKit Profiler Suite (www.colourprofiling.com)

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) by European Color Initiative, www.eci.org

```
------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) of WAN-IFRA, www.wan-ifra.org

------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) IDEAlliance(R). G7(R), GRACol(R) and
    SWOP(R) are all registered trademarks of IDEAlliance(C).

------------------------------------------------------------

This product includes PANTONE Color Libraries.

    PANTONE® and other Pantone trademarks are the property of Pantone LLC.
    Pantone is a wholly owned subsidiary of X-Rite, Incorporated.

------------------------------------------------------------

This product includes curl.

      COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

      Copyright (c) 1996 - 2020, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>, and many
      contributors, see the THANKS file.

      All rights reserved.

      Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose
      with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright
      notice and this permission notice appear in all copies.

      THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
      IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,
      FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN
      NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
      DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
      OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE
      OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

      Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not
      be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings
      in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

------------------------------------------------------------

This product includes LibTIFF.

      Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
      Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

      Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and
      its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided
      that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in
      all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of
      Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or
      publicity relating to the software without the specific, prior written
      permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

      THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
      EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY
      WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

      IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR
      ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND,
      OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS,
      WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF
      LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE
      OF THIS SOFTWARE.

------------------------------------------------------------

This product includes FreeType.
```

Portions of this software are copyright (C) 2014 The FreeType
Project (www.freetype.org) licensed under the Freetype License.
All rights reserved.

This product includes Google Breakpad.

Copyright (c) 2006, Google Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are
met:
* Redistributions in binary form must reproduce the above
copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
in the documentation and/or other materials provided with the
distribution.
* Neither the name of Google Inc. nor the names of its
contributors may be used to endorse or promote products derived from
this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
"AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes curl.

Copyright (c) 1996 - 2011, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.
All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose
with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright
notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,
FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN
NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE
OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

This product includes Google Logging Library (glog).

Copyright (c) 2008, Google Inc.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are
met:
* Redistributions of source code must retain the above copyright
notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* Redistributions in binary form must reproduce the above
copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
in the documentation and/or other materials provided with the
distribution.
* Neither the name of Google Inc. nor the names of its
contributors may be used to endorse or promote products derived from
this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
"AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,

SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes Protocol Buffers.

Copyright (c) 2008, Google Inc.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are
met:

* Redistributions in binary form must reproduce the above
copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
in the documentation and/or other materials provided with the
distribution.
* Neither the name of Google Inc. nor the names of its
contributors may be used to endorse or promote products derived from
this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
"AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes gSOAP.

EXHIBIT B.

Part of the software embedded in this product is gSOAP software.
Portions created by gSOAP are Copyright (C) 2001-2007 Robert A. van Engelen,
Genivia inc. All Rights Reserved.

THE SOFTWARE IN THIS PRODUCT WAS IN PART PROVIDED BY GENIVIA INC AND ANY EXPRESS
OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF
MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT
SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY,
OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE
GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR
TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS
SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes ICU.

Copyright (c) 1995-2014 International Business Machines Corporation and others
All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of
this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in
the
Software without restriction, including without limitation the rights to use,
copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software,
and
to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the
above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the
Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice
appear in supporting documentation.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR

IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

This product includes iODBC.

Copyright (C) 1995-2006, OpenLink Software Inc and Ke Jin.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of OpenLink Software Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL OPENLINK OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes JBIG2Lib.

Portions of this product copyrights (C) 2002 Glyph & Cog, LLC.

This product includes JPEGLib.
This software is copyright (C) 1991-2016, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding.
All Rights Reserved.

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

This product includes Little CMS.

Little CMS
Copyright (c) 1998-2011 Marti Maria Saguer

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

This product includes libpng.

      Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson

      The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors
      and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied,
      including, without limitation, the warranties of merchantability and of
      fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc.
      assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary,
      or consequential damages, which may result from the use of the PNG
      Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.
      There is no warranty against interference with your enjoyment of the
      library or against infringement. There is no warranty that our
      efforts or the library will fulfill any of your particular purposes
      or needs. This library is provided with all faults, and the entire
      risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with
      the user.

This product includes libxml2.

    Copyright (C) 1998-2012 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

    Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy
    of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal
    in the Software without restriction, including without limitation the rights
    to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell
    copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is fur-
    nished to do so, subject to the following conditions:

    The above copyright notice and this permission notice shall be included in
    all copies or substantial portions of the Software.

    THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
    IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FIT-
    NESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE
    AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER
    LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM,
    OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN
    THE SOFTWARE.

This product includes IP*Works!.

      Copyright (c) 2017 /n software inc. - All rights reserved.

      DISCLAIMER OF WARRANTY. THE LICENSED SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT
 WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF
 MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, /N SOFTWARE
 SPECIFICALLY DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE
 USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE LICENSED SOFTWARE OR DOCUMENTATION IN TERMS
 OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS, OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS
 TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE LICENSED SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. NO ORAL
 OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY /N SOFTWARE OR ITS EMPLOYEES SHALL CREATE
 A WARRANTY OR IN ANY WAY INCREASE THE SCOPE OF THIS WARRANTY, AND YOU MAY NOT RELY
 ON ANY SUCH INFORMATION OR ADVICE. FURTHER, THE LICENSED SOFTWARE IS NOT FAULT-
TOLERANT AND IS NOT DESIGNED, MANUFACTURED OR INTENDED FOR USE OR RESALE AS ON-LINE
 CONTROL EQUIPMENT IN HAZARDOUS ENVIRONMENTS REQUIRING FAIL-SAFE PERFORMANCE, SUCH AS
 IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS,
 AIR TRAFFIC CONTROL, DIRECT LIFE SUPPORT MACHINES, OR WEAPONS SYSTEMS, IN WHICH THE
 FAILURE OF THE LICENSED SOFTWARE COULD LEAD DIRECTLY TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR
 SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE ("HIGH RISK ACTIVITIES"). /N SOFTWARE AND ITS
 SUPPLIERS SPECIFICALLY DISCLAIM ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY OF FITNESS FOR HIGH
 RISK ACTIVITIES.
      LIMITATION ON LIABILITY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW,
 IN NO EVENT WILL /N SOFTWARE'S TOTAL AGGREGATE AND CUMULATIVE LIABILITY TO YOU FOR
 ANY AND ALL CLAIMS OF ANY KIND ARISING HEREUNDER EXCEED THE AMOUNT OF LICENSE FEES
 ACTUALLY PAID BY YOU FOR THE LICENSED SOFTWARE GIVING RISE TO THE CLAIM IN THE TWELVE
 MONTHS PRECEDING THE CLAIM. /N SOFTWARE'S LICENSORS AND THEIR SUPPLIERS SHALL HAVE NO
 LIABILITY TO YOU FOR ANY DAMAGES SUFFERED BY YOU OR ANY THIRD PARTY AS A RESULT OF
 USING THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF. NOTWITHSTANDING THE FOREGOING,
 IN NO EVENT SHALL /N SOFTWARE, ITS LICENSORS, OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS

BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE, PROFIT OR DATA, OR FOR INDIRECT, PUNITIVE, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY CHARACTER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF, EVEN IF /N SOFTWARE, ITS LICENSORS AND/OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS HAVE BEEN INFORMED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME STATES DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY. EACH EXCLUSION OF LIMITATION IS INTENDED TO BE SEPARATE AND THEREFORE SEVERABLE.

This product includes IP*Works! SSH.

Copyright (c) 2017 /n software inc. - All rights reserved.

DISCLAIMER OF WARRANTY. THE LICENSED SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, /N SOFTWARE SPECIFICALLY DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE LICENSED SOFTWARE OR DOCUMENTATION IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS, OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE LICENSED SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. NO ORAL OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY /N SOFTWARE OR ITS EMPLOYEES SHALL CREATE A WARRANTY OR IN ANY WAY INCREASE THE SCOPE OF THIS WARRANTY, AND YOU MAY NOT RELY ON ANY SUCH INFORMATION OR ADVICE. FURTHER, THE LICENSED SOFTWARE IS NOT FAULT-TOLERANT AND IS NOT DESIGNED, MANUFACTURED OR INTENDED FOR USE OR RESALE AS ON-LINE CONTROL EQUIPMENT IN HAZARDOUS ENVIRONMENTS REQUIRING FAIL-SAFE PERFORMANCE, SUCH AS IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS, AIR TRAFFIC CONTROL, DIRECT LIFE SUPPORT MACHINES, OR WEAPONS SYSTEMS, IN WHICH THE FAILURE OF THE LICENSED SOFTWARE COULD LEAD DIRECTLY TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE ("HIGH RISK ACTIVITIES"). /N SOFTWARE AND ITS SUPPLIERS SPECIFICALLY DISCLAIM ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY OF FITNESS FOR HIGH RISK ACTIVITIES.

LIMITATION ON LIABILITY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, IN NO EVENT WILL /N SOFTWARE'S TOTAL AGGREGATE AND CUMULATIVE LIABILITY TO YOU FOR ANY AND ALL CLAIMS OF ANY KIND ARISING HEREUNDER EXCEED THE AMOUNT OF LICENSE FEES ACTUALLY PAID BY YOU FOR THE LICENSED SOFTWARE GIVING RISE TO THE CLAIM IN THE TWELVE MONTHS PRECEDING THE CLAIM. /N SOFTWARE'S LICENSORS AND THEIR SUPPLIERS SHALL HAVE NO LIABILITY TO YOU FOR ANY DAMAGES SUFFERED BY YOU OR ANY THIRD PARTY AS A RESULT OF USING THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF. NOTWITHSTANDING THE FOREGOING, IN NO EVENT SHALL /N SOFTWARE, ITS LICENSORS, OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE, PROFIT OR DATA, OR FOR INDIRECT, PUNITIVE, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY CHARACTER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF, EVEN IF /N SOFTWARE, ITS LICENSORS AND/OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS HAVE BEEN INFORMED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME STATES DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY. EACH EXCLUSION OF LIMITATION IS INTENDED TO BE SEPARATE AND THEREFORE SEVERABLE.

This product includes Open Source Computer Vision Library.

By downloading, copying, installing or using the software you agree to this license.
If you do not agree to this license, do not download, install,
copy or use the software.

License Agreement
For Open Source Computer Vision Library
(3-clause BSD License)

Copyright (C) 2000-2018, Intel Corporation, all rights reserved.
Copyright (C) 2009-2011, Willow Garage Inc., all rights reserved.
Copyright (C) 2009-2016, NVIDIA Corporation, all rights reserved.
Copyright (C) 2010-2013, Advanced Micro Devices, Inc., all rights reserved.
Copyright (C) 2015-2016, OpenCV Foundation, all rights reserved.
Copyright (C) 2015-2016, Itseez Inc., all rights reserved.
Third party copyrights are property of their respective owners.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
this list of conditions and the following disclaimer in the documentation
and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the names of the copyright holders nor the names of the contributors
may be used to endorse or promote products derived from this software
without specific prior written permission.

This software is provided by the copyright holders and contributors "as is" and
any express or implied warranties, including, but not limited to, the implied
warranties of merchantability and fitness for a particular purpose are disclaimed.
In no event shall copyright holders or contributors be liable for any direct,
indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages
(including, but not limited to, procurement of substitute goods or services;
loss of use, data, or profits; or business interruption) however caused
and on any theory of liability, whether in contract, strict liability,
or tort (including negligence or otherwise) arising in any way out of
the use of this software, even if advised of the possibility of such damage.

This product includes OpenJPEG.

The copyright in this software is being made available under the 2-clauses
BSD License, included below. This software may be subject to other third
party and contributor rights, including patent rights, and no such rights
are granted under this license.

Copyright (c) 2002-2014, Universite catholique de Louvain (UCL), Belgium
Copyright (c) 2002-2014, Professor Benoit Macq
Copyright (c) 2003-2014, Antonin Descampe
Copyright (c) 2003-2009, Francois-Olivier Devaux
Copyright (c) 2005, Herve Drolon, FreeImage Team
Copyright (c) 2002-2003, Yannick Verschueren
Copyright (c) 2001-2003, David Janssens
Copyright (c) 2011-2012, Centre National d'Etudes Spatiales (CNES), France
Copyright (c) 2012, CS Systemes d'Information, France

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions
are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright
notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS `AS IS'
AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE
LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR
CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF
SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS
INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN
CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE
POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes OpenSSL.

Copyright (c) 1998-2017 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions
are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright
notice, this list of conditions and the following disclaimer.

```
      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer in
         the documentation and/or other materials provided with the
         distribution.

      3. All advertising materials mentioning features or use of this
         software must display the following acknowledgment:
         "This product includes software developed by the OpenSSL Project
         for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

      4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to
         endorse or promote products derived from this software without
         prior written permission. For written permission, please contact
         openssl-core@openssl.org.

      5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"
         nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written
         permission of the OpenSSL Project.

      6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
         acknowledgment:
         "This product includes software developed by the OpenSSL Project
         for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
      EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
      ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
      SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
      NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
      LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
      HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
      STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
      ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
      OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-----------------------------------------------------------

This product includes OpenSSL.

      Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions
      are met:
      1. Redistributions of source code must retain the copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer.
      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
         documentation and/or other materials provided with the distribution.
      3. All advertising materials mentioning features or use of this software
         must display the following acknowledgement:
         "This product includes cryptographic software written by
         Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
         The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
         being used are not cryptographic related :-).
      4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
         the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
         "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND
      ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
      ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
      FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
      DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
      OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
      HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
      LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
      OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
      SUCH DAMAGE.

-----------------------------------------------------------

This product includes patented technology.
```

```
      This product and use of this product is under license from Markzware
      under U.S. Patent No. 5,963,641.

------------------------------------------------------------

This product includes Potrace.

      Copyright (c) 2001-2019 Icosasoft Software Inc. All rights reserved.

------------------------------------------------------------

This product includes Qt.

      The software uses Qt, licensed under LGPL v3. The Qt Toolkit is Copyright (C)
 2019 The Qt Company Ltd.

      Portions of this software are copyright (C) 2006-2015 The FreeType Project
 (www.freetype.org). All rights reserved.

      Copyright (C) 1991-2011, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding.
      This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

      Secure Hash Algorithm SHA-3 - brg_endian
      Copyright (c) 1998-2013, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

      LICENSE TERMS

      The redistribution and use of this software (with or without changes)
      is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

       1. source code distributions include the above copyright notice, this
          list of conditions and the following disclaimer;

       2. binary distributions include the above copyright notice, this list
          of conditions and the following disclaimer in their documentation;

       3. the name of the copyright holder is not used to endorse products
          built using this software without specific written permission.

      DISCLAIMER

      This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties
      in respect of its properties, including, but not limited to, correctness
      and/or fitness for purpose.

------------------------------------------------------------

This product includes QtCopyDialog.

      Copyright (c) 2009 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies).
      All rights reserved.

      BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO
      WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW.
      EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR
      OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY
      KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE.  THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE
      LIBRARY IS WITH YOU.  SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME
      THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

------------------------------------------------------------

This product includes QtMigration.

        Copyright (C) 2013 Digia Plc and/or its subsidiary(-ies).

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
```

```
            distribution.
          * Neither the name of Digia Plc and its Subsidiary(-ies) nor the names
            of its contributors may be used to endorse or promote products derived
            from this software without specific prior written permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE."

-------------------------------------------------------------

This product includes QtService.

        Copyright (C) 2010 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies).

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
            distribution.
          * Neither the name of Nokia Corporation and its Subsidiary(-ies) nor
            the names of its contributors may be used to endorse or promote
            products derived from this software without specific prior written
            permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes QtSingleApplication.

        Copyright (C) 2010 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies). All rights
 reserved.

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
            distribution.
          * Neither the name of Nokia Corporation and its Subsidiary(-ies) nor
            the names of its contributors may be used to endorse or promote
            products derived from this software without specific prior written
            permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
```

DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes Qt SQL driver plugin (qsqlodbc).

Copyright (C) 1992-2008 Trolltech ASA. All rights reserved.

Warranty Disclaimer: The Licensed Software is licensed to Licensee
"as is". To the maximum extent permitted by applicable law, Trolltech on
behalf of itself and its suppliers, disclaims all warranties and
conditions, either express or implied, including, but not limited to,
implied warranties of merchantability, fitness for a particular purpose,
title and non-infringement with regard to the Licensed Software.

Limitation of Liability: If, Trolltech's warranty disclaimer
notwithstanding, Trolltech is held liable to Licensee, whether in
contract, tort or any other legal theory, based on the Licensed
Software, Trolltech's entire liability to Licensee and Licensee's
exclusive remedy shall be, at Trolltech's option, either (A) return of
the price Licensee paid for the Licensed Software, or (B) repair or
replacement of the Licensed Software, provided Licensee returns to
Trolltech all copies of the Licensed Software as originally delivered to
Licensee. Trolltech shall not under any circumstances be liable to
Licensee based on failure of the Licensed Software if the failure
resulted from accident, abuse or misapplication, nor shall Trolltech
under any circumstances be liable for special damages, punitive or
exemplary damages, damages for loss of profits or interruption of
business or for loss or corruption of data. Any award of damages from
Trolltech to Licensee shall not exceed the total amount Licensee has
paid to Trolltech in connection with this Agreement.

This product includes QtSql.

Copyright (c) 2009 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies).

BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO
WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW.
EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR
OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY
KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE
LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME
THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

This product includes XMP Toolkit.
Copyright (c) 2020, Adobe
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this
   list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
   this list of conditions and the following disclaimer in the documentation
   and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the copyright holder nor the names of its
   contributors may be used to endorse or promote products derived from
   this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE
DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL

```
DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR
SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY,
OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
-----------------------------------------------------------

This product includes zlib.

 (C) 1995-2017 Jean-loup Gailly and Mark Adler

  This software is provided 'as-is', without any express or implied
  warranty.  In no event will the authors be held liable for any damages
  arising from the use of this software.

  Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
  including commercial applications, and to alter it and redistribute it
  freely, subject to the following restrictions:

  1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
     claim that you wrote the original software. If you use this software
     in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
     appreciated but is not required.
  2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
     misrepresented as being the original software.
  3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

  Jean-loup Gailly        Mark Adler
  jloup@gzip.org          madler@alumni.caltech.edu

-----------------------------------------------------------

This product includes ZXing C++ Library.

      ------------------------------------------------------------------------------
      NOTICES FOR C++ Big Integer Library
      ------------------------------------------------------------------------------

      I, Matt McCutchen, the sole author of the original Big Integer
      Library, waive my copyright to it, placing it in the public domain.
      The library comes with absolutely no warranty.

-----------------------------------------------------------------
```

13. 著作権

© 2022 Enfocus BV all rights reserved. Enfocus は、Esko の子会社です。

Certified PDF は Enfocus BV の登録商標です。

Enfocus PitStop Pro、Enfocus PitStop Workgroup Manager、Enfocus PitStop Server、Enfocus BoardingPass、Enfocus Connect YOU、Enfocus Connect ALL、Enfocus Connect SEND、Enfocus StatusCheck、Enfocus CertifiedPDF.net、Enfocus PDF Workflow Suite、Enfocus Switch、Enfocus SwitchClient、Enfocus SwitchScripter、Enfocus TestDrive、Enfocus SwitchScriptTool、Enfocus Browser、および Enfocus Appstoreは、Enfocus BV の製品名です。

Acrobat、Acrobat、Distiller、InDesign、Illustrator、Photoshop、FrameMaker、PDFWriter、PageMaker、Ado PDF Library™、Adobe ロゴ、Acrobat ロゴ、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Datalogics、Datalogics ロゴ、PDF2IMG™、および DLE™ は Datalogics, Inc. の商標です。

Apple、Mac、MacOS、Macintosh、iPad および ColorSync は、米国およびその他の国における Apple Computer, Inc. の商標です。Windows、および Windows Server は Microsoft Corporation の登録商標です。

ここで表示されるPANTONE® カラーはPANTONE認定基準に沿わない場合があります。正確なカラーについては最新の PANTONE カラー パブリケーションをご覧ください。PANTONE® およびその他の Pantone, Inc. の商標は Pantone, Inc. の所有物です。©Pantone, Inc., 2006。

OPI は Aldus Corporation の商標です。

Quark、QuarkXPress、QuarkXTensions、XTensionsおよびその他に使用されるXTensionsロゴはQuark, Inc.とQuark関連会社の商標です（Reg. U.S. Pat.& Tm.Off.）。

本製品およびその使用に関しては Markzware より米国特許第 5,963,641 号に基づく許諾を受けております。

その他のブランド名や製品名も、各所有権者の商標または登録商標である可能性があります。製品やサービスの全ての仕様、用語および説明は、事前の通知や助言なしに変更される場合があります。